



文部科学省 研究拠点形成費等補助金(先進的医療イノベーション人材養成事業)
「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

九州がんプロ養成基盤推進プラン 実績報告書 (平成24~28年度)

九州がんプロ養成基盤推進協議会 加盟大学

九州大学・久留米大学・産業医科大学・福岡大学・福岡県立大学・佐賀大学
長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学

九州がんプロ養成基盤推進プラン
(平成 24 年度～平成 28 年度)

実績報告書

目 次

はじめに	2
参画大学（計12大学）	2
ご挨拶	3
九州がんプロ養成基盤推進プラン全体の取り組み	
事業の目的	4
実施体制	5
がんに特化した講座	9
達成目標	9
事業実施スケジュール	10
これまでの主な取り組み	11
総括	17
eラーニングにおける取り組み	19
各大学における取り組み	
九州大学	29
久留米大学	55
産業医科大学	63
福岡大学	71
福岡県立大学	79
佐賀大学	87
長崎大学	93
熊本大学	105
大分大学	113
宮崎大学	125
鹿児島大学	135
琉球大学	151
巻末：参考データ	163

はじめに

がんは日本における死因第一位の疾患であり、重大な問題となっている現状を受けて「がん対策基本法」が制定されました。

この基本法の中では、手術、放射線療法、化学療法その他のがん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他の医療従事者の育成が求められており、そのため、文部科学省により、複数の大学がそれぞれの個性や特色、得意分野を活かしながら相互に連携・補完して教育を活性化し、がん専門医療人養成のための教育拠点を構築することを目的として、平成24年度から「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」が実施されました。

本拠点では、「九州がんプロ養成基盤推進プラン」と題し、九州大学、久留米大学、産業医科大学、福岡大学、福岡県立大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学の12大学が連携して、がん専門医療人養成のための教育・研究基盤の構築を進めて参りました。

本報告書は、平成24年度から平成28年度までの5年間にわたる事業を総括するために作成したものです。一人でも多くの関係者の皆様に手にとっていただき、本拠点の活動をご覧いただければ幸いです。

参画大学 (計12大学)

- ・九州大学
- ・久留米大学
- ・産業医科大学
- ・福岡大学
- ・福岡県立大学
- ・佐賀大学
- ・長崎大学
- ・熊本大学
- ・大分大学
- ・宮崎大学
- ・鹿児島大学
- ・琉球大学

ご挨拶

平成24年度に5年間のプログラムとして開始した「九州がんプロ養成基盤推進プラン」は、九州内の医療系大学院を持つ12大学（九州大学、久留米大学、産業医科大学、福岡大学、福岡県立大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）が連携して、がん専門医療人養成のための教育・研究基盤を構築し、国際的な視野を持った指導者や優れたがん専門医療人を養成することで、がん医療現場や教育現場で抱える課題の解決を目指す取り組みです。

『指導者養成に係る課題』、『国際連携に係る課題』、『がん医療の均てん化に係る課題』、『教育改革に係る課題』といった4つの課題を立て、これらを解決すべく、これまでに「九州がんプロ全体研修会」の開催、「韓国アサン医療センター」への訪問研修をはじめとした海外の機関との連携、僻地・離島実習やeラーニング、「研究課題発表会」等を積極的に実施して参りました。

このたび、この5年間の事業を総括することで今後の各大学の活動を更により良いものとするべく、事業報告書を発行いたしました。ご高覧いただければ幸いです。

この5年間には、「全国がんプロ協議会」をはじめ、ご関係の皆様にも多大なご指導ならびにご協力をいただきましたこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。また、本拠点に参画いただき、ともに基盤を築き上げてきた各大学の関係者の皆様にも心から感謝を申し上げます。

本事業は今年度が最終年度となりますが、これまでに築き上げた連携体制を活かし、今後も大学の枠を越えて積極的な活動を行っていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成29年2月



事業推進責任者 九州がんプロ養成基盤推進協議会 会長
九州大学大学院医学研究院長

住 本 英 樹

九州がんプロ養成基盤推進プラン全体の取り組み

事業の目的

本事業の目的は、がんの医療現場や教育現場で抱えている下記の課題を解決し、九州において、継続的に専門医等が養成できる基盤を構築し、がん医療の均てん化を図ることである。

1. 指導者養成に係る課題：がん専門医療人やがん医療研究者を養成する指導者の不足

がん専門医療人やがん研究者を指導する指導者が不足しているため、継続的に専門医等を養成していく仕組みを整備することができない。優秀な指導者に負荷がかかっている状況に加えて、今後も増加するがん患者数に応じた専門医等を輩出していくことが難しい。

2. 国際連携に係る課題：がん医療に関する海外医療機関等との連携体制の未整備

がん医療に関する海外医療機関との体系的な連携体制が未整備であるため、海外の最先端のがん治療方法を即座に取り入れることが難しい。また、がん専門医療人やがん研究者ががん医療に関する国際的な視野を持つための研修先が未開拓であり、体系的な海外実習ができていない。

3. がん医療の均てん化に係る課題：九州内におけるがん専門医療人の偏在

がん医療はチーム医療である。チーム医療は、施設内で完結するものではなく、大学病院や周辺あるいは遠方の医療機関と連携して、がん患者の診断・治療を行うことにより、患者のQOLを維持しながら高度ながん医療を展開することができる。しかし、現状は、連携してがん患者をケアするには、地域の医療機関等のがんの専門医や医師以外のがんに精通する医療人が不足しており、安全で効果的ながん医療を実施する障壁となっている。

4. 教育改革に係る課題：eラーニングシステムや多職種連携教育における体制の継続

本事業に先行して実施された「九州がんプロフェッショナル養成プラン」（平成19年度～平成23年度）において、九州全域一律で高度な教育を受講することができるeラーニングシステムを開発し、多職種合同による研究課題発表の実施や医療現場における連携能力を培う取り組みなどがん教育改革を進めながら、がん専門医療人の養成をしてきたが、その仕組みを定着させ、継続的な、がんに関する臨床現場におけるリーダー養成基盤へと発展させるため、更なるがん教育改革が必要である。

実施体制

本拠点は、各大学にコーディネーター教員を置き、九州大学大学院医学研究院長が幹事コーディネーターとなり統括する体制を取った。また、「九州がんプロ養成基盤推進協議会」を設置し、各大学のコーディネーターが構成員となることで、事業運営の意思統一を行い、プログラムの円滑な運営を図った。

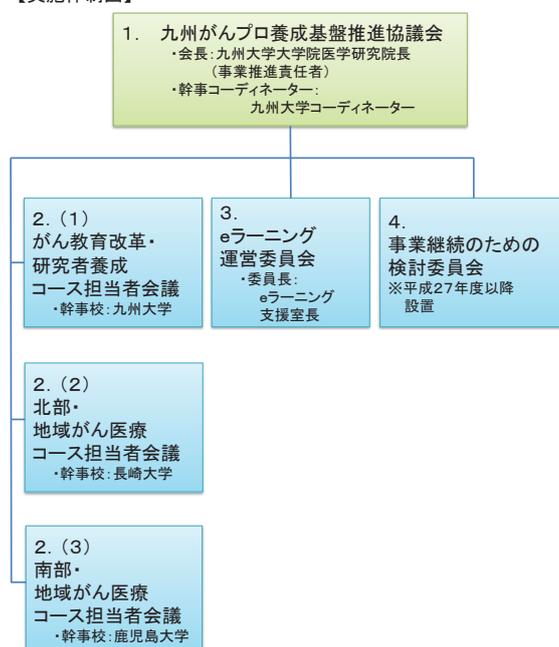
また、推進協議会の下には「コース担当者会議」や「eラーニング運営委員会」を置き、各大学のがんプロコースの実務を担当する教員が構成員となって各大学の活動等を情報共有することにより、大学の枠を超えた幅広い取り組みを行った

加えて、平成27年度からは「事業継続のための検討委員会」を置き、事業終了後の活動の在り方について具体的な協議・検討を行った。

「九州がんプロ養成基盤推進プランにおける実施体制(委員会・会議について)」

平成24年5月21日
九州がんプロ養成基盤推進協議会承認

【実施体制図】



九州がんプロ養成基盤推進協議会 構成員一覧 (平成29年1月1日現在)

大学名	氏名	所属	役職	備考
九州大学	住本 英樹	大学院医学研究院生化学分野	医学研究院長、教授	養成協議会長、幹事コーディネーター(九州大学コーディネーター)
九州大学	菊川 誠	大学院医学研究院医学教育学講座	講師	eラーニング運営委員会の長
九州大学	馬場 英司	大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座	教授	がん教育改革・研究者養成コース担当者会議の長、事業継続のための検討委員会の長
久留米大学	赤木 由人	医学部外科学講座	教授	コーディネーター
産業医科大学	興梠 征典	放射線科学	教授	コーディネーター

大学名	氏名	所属	役職	備考
福岡大学	高松 泰	医学部腫瘍・血液・感染症内科学	教授	コーディネーター
福岡県立大学	村田 節子	大学院看護学研究科	教授	コーディネーター
佐賀大学	小島 研介	医学部内科学講座	准教授	コーディネーター
長崎大学	芦澤 和人	大学院医歯薬総合研究科 医療科学専攻展開医療科学 講座臨床腫瘍学	教授	コーディネーター
熊本大学	馬場 秀夫	大学院生命科学研究部 消化器外科学分野	教授	コーディネーター
大分大学	宮崎 英士	医学部地域医療学センター	教授	コーディネーター
宮崎大学	下田 和哉	医学部内科学講座	教授	コーディネーター
鹿児島大学	上野 真一	大学院医歯学総合研究科 先進治療科学専攻臨床腫瘍 学講座	特任教授	コーディネーター
琉球大学	戸板 孝文	放射線診断治療学講座	准教授、 放射線科副科長	コーディネーター

「九州がんプロ養成基盤推進協議会」開催実績（平成29年1月1日現在）

平成24年度

回数	開催日	会場	議題等
第1回	5月21日（月）	九州大学医学部 百年講堂	議題 <ul style="list-style-type: none"> ・実施体制について ・目標について ・平成24年度から平成28年度までの実施計画について ・九州がんプロ養成基盤推進プランの実施に関する協定書について ・九州がんプロ養成基盤推進協議会参加大学間における単位互換に関する覚書について ・eラーニング支援室関連審議事項 報告 <ul style="list-style-type: none"> ・九州大学医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座の教授の公募について ・その他
第2回	6月13日（水）	書面	九州がんプロ養成基盤推進プラン及び九州がんプロフェッショナル養成プランにおける学務事務の取扱について
第3回	12月18日（火）	書面	達成目標・評価指標の設定について
第4回	12月21日（金）	書面	達成目標・評価指標の修正について
第5回	2月18日（月）	テレビ会議	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度計画案について ・平成25年度予算案について ・その他

平成25年度

回数	開催日	会場	議題等
第1回	5月14日（火）	テレビ会議	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 九州がんプロ養成基盤推進プラン英語表記（案）について その他 <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度実績報告について 平成25年度実施計画について 第1回九州がんプロ全体研修会の開催について その他
第2回	9月12日（木）	書面	内部評価及び外部評価の実施について
第3回	11月1日（金）	書面	市民公開講座～がん治療を考える～
第4回	11月25日（月）	書面	<ul style="list-style-type: none"> 学生アンケート 修了証の様式について
第5回	2月3日（月）	テレビ会議	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度計画案 <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度各大学活動報告 平成26年度予算案
第6回	3月4日（火）	書面	平成25年度内部評価報告書

平成26年度

回数	開催日	会場	議題等
第1回	4月25日（金）	書面	日本臨床腫瘍学会学術集会主催「医学生・研修医のための腫瘍内科セミナー」に係る、共催名義使用の許可について
第2回	5月27日（火）	テレビ会議	<p>講題</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年度予算配分修正案 <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年度 実績報告 外部評価結果について 平成26年度 各大学活動計画 第2回九州がんプロ全体研修会の開催について 西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム その他
第3回	11月27日（金）	書面	中間外部評価シンポジウムについて
第4回	2月2日（月）	九州大学医学部 百年講堂	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度予算案 平成27年度計画案 事業継続の検討委員会の設置について

平成27年度

回数	開催日	会場	議題等
第1回	5月25日（月）	テレビ会議	<p>講題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間外部評価結果への対応について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の中間評価結果について ・ 全国がんプロ協議会総会について ・ eポートフォリオの導入について ・ 研修について ・ 平成27年度各大学活動計画
第2回	6月16日（火）		<ul style="list-style-type: none"> ・ がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン中間評価後の改善計画書について ・ 九州がんプロ養成基盤推進プランにおける実施体制（委員会・会議）について
第3回	12月8日（火）	書面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度学生アンケート ・ 平成27年度内部評価及び外部評価
第4回	2月8日（月）	テレビ会議	<p>審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度予算案 ・ 平成28年度計画案 ・ eラーニングクラウド利用の継続・中止について <p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度全国がんプロ協議会 市民公開シンポジウム（6月11日 東京） ・ 平成27年度各大学活動報告 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価後の改善計画の進捗状況報告書の作成について
第5回	3月4日（金）	書面	平成27年度内部評価報告書

平成28年度

回数	開催日	会場	議題等
第1回	5月9日（月）	テレビ会議	<p>報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成27年度外部評価結果について ・ 全国がんプロ協議会幹事会について ・ 平成28年度における研修について ・ 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書の作成支援について ・ 平成28年度における各大学の活動計画について
第2回	12月20日（火）	書面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成28年度における学生アンケートの実施について ・ 平成28年度最終外部評価シンポジウムについて

がんの特化した講座

本事業では、九州大学大学院医学研究院内に「九州連携臨床腫瘍学講座」を新設した。当該講座が九州の全医療系大学院や関連病院、九州地方知事会等と連携を行いながら、がん専門医療人養成のための教育・研究基盤がスムーズに構築できるよう、中心的な存在として運営を行った。

また、九州内の地域貢献の拠点として、九州北部に1拠点（長崎大学）、南部に1拠点（鹿児島大学）を新たに設置し、医師不足地域での研修、がん在宅医療研修等を実施した。

本事業により新たに設置した講座（平成29年1月1日現在）

①九州大学：九州連携臨床腫瘍学講座（平成24年10月設置）

大学院医学研究院に設置。プログラムの実務運営および九州大学ならびに連携大学の講座等を担当し、他拠点や海外医療機関等と連携を行いながら、がん医療に関する指導者を養成し、継続的な人材養成基盤を構築。

専任教員：教授 馬場 英司
講師 吉武 忠正
助教 在田 修二、田中 謙太郎、山下 奈真

②長崎大学：展開医療科学講座臨床腫瘍学分野（平成24年10月設置）

大学院医歯薬学総合研究科に設置。長崎大学における大学院教育コースの運営を担当し、また、地域に貢献するがん診療における高度の能力を兼ね備えた専門医療人を育成するための事業等を実施。

専任教員：教授 芦澤 和人
助教 西田 暁史

③鹿児島大学：臨床腫瘍学講座（平成24年10月設置）

大学院医歯学総合研究科に設置。地域貢献を目指し、卓越したがん研究遂行能力とともに、鹿児島県特有の離島を含む地域医療における高度がん治療能力を兼ね備えた医療人を養成。

専任教員：教授 上野 真一
助教 鈴木 紳介

達成目標

「がん対策基本法」「がん対策推進基本計画」に従い全グループ（全拠点）に共通する達成目標

- ・放射線療法、化学療法、手術療法、緩和ケア、小児がん、がん研究等のがん医療に携わる専門的な医療従事者の育成
- ・チーム医療、がん登録、がんの普及啓発等の推進

「九州がんプロ養成基盤推進プラン」固有の達成目標

①がん教育改革

九州全域一律で高度な教育、多職種連携教育等を受けることができるシステムを整備し、がん専門医療人を指導する指導者を養成することで、継続的に専門医等を養成できる基盤を構築する。

②地域がん医療貢献

がん医療の均てん化のための研究を行い、がん医療の過疎地域の実態が理解でき、僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人を養成する。

③がん研究

がん研究者を指導する指導者を養成し、がん医療に関する海外医療機関等との連携体制を確立して、継続的にがん研究におけるリーダーを養成できる基盤を構築する。

事業実施スケジュール

平成24年度

- 事務局・eラーニング支援室の設立、ホームページ開設
- 全国 e-learning クラウドの検討開始
- 『九州がんプロ養成基盤推進協議会』の開催（以降、原則毎年5月、2月開催）
- 連携大学との協定締結
- テレビ会議システムの整備
- がん診療連携拠点病院を中心とする関連医療機関との連携構築
- 九州大学、長崎大学、鹿児島大学に講座設置

平成25年度

- 新しい教育コースを開始
- 海外医療機関等調査
- 「九州がんプロ全体研修会」の開催（以降、毎年開催）
- 研究者等養成のための海外医療機関等との交流事業開始
- プログラムの評価のための内部評価・外部評価の実施

平成26年度

- 「西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム」の開催
- 「中間外部評価シンポジウム」の開催

平成27年度

- 『事業継続のための検討委員会』設置。事業終了後の体制等を検討開始
- 患者団体や一般参加者を交えた、がんボードカンファレンスの実施（国民に対する成果発表・報告）

平成28年度

- 『事業継続のための検討委員会』による継続体制の整備開始
- 「最終外部評価シンポジウム」の開催

これまでの主な取り組み

九州がんプロ全体研修会

九州がんプロに所属する各大学の学生や教員が集い、症例検討やワークショップを通じて互いの教育、臨床、研究についての意見を交換することで、より良いがん医療の理解を深めることを目的として、平成25年度以降、毎年開催した。

なお、九州大学・鹿児島大学・長崎大学で持ち回りを行うことで、内容にバラエティを持たせるとともに、運営のノウハウを複数の大学で共有することができた。

開催回	開催日	開催地	参加者数
第1回	平成25年7月13日～14日	福岡	教員17名、学生18名
第2回	平成26年12月20日～21日	福岡	教員16名、学生16名
第3回	平成28年1月30日～31日	鹿児島	教員14名、学生11名
第4回	平成29年1月21日～22日	長崎	教員18名、学生13名、薬剤師2名

■これまでに取り上げた主な内容：

- ・ 症例検討：妊娠期乳癌／骨髄癌腫症を伴った進行胃癌／乳癌症例／呼吸器癌症例
- ・ 課題検討：Oncologist とは／地域医療について
- ・ 講演：medical oncologist の役割／がん診療の現状と医療政策／陽子線によるがん治療／消化器癌化学療法の現況と展望



韓国アサン医療センター・がんセンター訪問研修

本プランの目標である「国際的な視野を持った指導者や優れたがん専門医療人」のための活動の一環として、韓国アサン医療センター・がんセンターへの訪問研修を実施した。参加者は、日本と韓国の臨床研究や実臨床の違いを学び、日本に取り入れることができる臨床試験やトランスレーショナルリサーチについて検討することができた。

また、参加学生が、日本臨床腫瘍学会や日本癌治療学会にて、本研修の結果について報告を行った。

韓国アサン医療センター・がんセンター訪問研修実績

開催回	開催日	参加者数
第1回	平成25年11月4日～5日	教員6名、学生3名
第2回	平成26年11月3日～4日	教員5名、学生3名
第3回	平成28年1月11日～12日	教員4名、学生3名
第4回	平成29年1月9日～10日	教員3名、学生3名

■研修先でこれまでに取り組んだ主な内容：

- ・腫瘍内科消化管グループ臨床試験報告会議見学
- ・PET 診断部門、放射線治療部門見学
- ・臨床試験センター、Phase I センター、通院治療センター見学
- ・腫瘍内科消化器グループの臨床試験会議出席
- ・トランスレーショナル研究の主体となる病理学部門および臨床研究情報サービス部門との会議、実地見学
- ・米国ダナ・ファーマーがん研究所と共同で推進している、新規診断薬・治療薬開発のためのプラットフォームについての会議、実地見学



欧州腫瘍研究治療機構（EORTC）、ルーヴェン大学（ベルギー）訪問研修

本プランの目標である「国際的な視野を持った指導者や優れたがん専門医療人」のための活動の一環として、欧州におけるがん治療及びがん研究の最先端の機関の一つである欧州腫瘍研究・治療機構（EORTC）の主要施設である UZ Leuven 大学（ベルギー）との連携体制を構築した。

UZ Leuven 大学の受け入れ可能な人数が少数であったため、平成26年度は試行的に九州大学のみの参加とし、平成26年11月30日～12月6日の期間、九州連携臨床腫瘍学講座の教員1名、九州大学の学生1名が訪問した。この期間、Leuven 大学腫瘍内科学部門を中心として、Louvain Catholique 大学消化器内科（ベルギー）での会議参加、EORTC の諮問会議（ベルギー）での講演と質疑応答、さらにローザンヌ大学生物学・医学部（スイス）にて欧州各国からの研究者を交えた消化器癌の基礎・臨床研究についての会議参加などを行った。参加者は、がん医療に携わる欧州各国の医療者、研究者と実地で議論する機会があり貴重な経験が得られた。

なお、次年度以降も継続して実施する予定としていたが、欧州の情勢の悪化等によりその後の実施は見送ることとなった。事業終了後も継続して交流が続けられるよう現在検討を行っている。



研究課題発表会

九州がんプロ各大学の学生が取り組んでいる研究の進捗等について共有を図るため、がんプロ学生による研究課題発表会を平成25年度以降に開催した。実施に当たっては、本事業にて導入した「テレビ会議システム」を活用することで、より効率的・効果的な開催に努めた。

■これまでの発表内容（平成29年1月1日時点。平成28年度においても3月に実施予定）

【平成25年度】

No	演題・発表者
1	演 題：「卵巣癌に対する創薬開発と医療イノベーション」 発表者：宮原大輔（福岡大学大学院医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻がん専門医療人指導者コース）
2	演 題：「Y-box 結合タンパク（YB-1）はヒト胃癌の HER2/ErbB2発現とラパチニブの感受性を制御する」 発表者：柴田智博（九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻がん研究薬剤師コース博士課程博士課程）
3	演 題：「大腸癌 stageIV curB 症例における術後補助化学療法効果予測因子としての Amphiregulin」 発表者：大地貴史（久留米大学大学院医学研究科個別最適医療系専攻博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「化学・薬物療法専門医養成コース」）
4	演 題：「治療が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と支援に影響している要因の検討」 発表者：岩崎玲奈（福岡県立大学大学院看護学研究科 臨床看護学領域 がん看護専門看護師コース）
5	演 題：「肺癌葉切除例の年齢の差異による術後身体機能とQOL変化の関係」 発表者：市丸勝昭（佐賀大学大学院医学系研究科修士課程医科学専攻がん地域医療人養成コースインテンシブコース）
6	演 題：「モンテカルロコード PHITS を用いた192Ir 密封小線源の線量分布計算」 発表者：福本早紀人（熊本大学大学院保健学教育部医学物理教育コース大学院前期課程）
7	演 題：「膵神経内分泌腫瘍における mTOR および関連因子発現の臨床病理学的検討」 発表者：小森陽子（大分大学大学院医学系研究科医学専攻地域貢献がん専門医療人養成コース）
8	演 題：「膵癌術後薬物療法における hENT-1（Human Equilibrative Nucleoside Transporter 1）発現と予後の関連」 発表者：柴田伸弘（宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科医学獣医学専攻 地域がん治療専門医育成コース）
9	演 題：「食道癌における DLL4の発現」 発表者：野田昌宏（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科健康科学専攻、先進治療科学専攻僻地・離島医療専門医療人養成コース）
10	演 題：「閉経期の子宮頸癌患者に対するエストロゲン製剤の効果」 発表者：粕谷吾朗（琉球大学大学院医学研究科医科学専攻放射線腫瘍専門医養成プログラム）
11	演 題：「塵肺患者における Progressive massive fibrosis: 肺癌との鑑別における MRI の有用性」 発表者：荻原幸宏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科放射線診断治療学分野博士課程）
12	演 題：「長崎大学がんプロ地域貢献医師・歯科医師養成コース離島・僻地病院実習」 発表者：林田咲（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔腫瘍治療学分野博士課程）
13	演 題：「平戸市民病院での研修を終えて」 発表者：船原まどか（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔腫瘍治療学分野）

【平成26年度】

No	演題・発表者
1	演 題：「アミノ酸関連因子 (ARF: Amino acid Regulatory Factor) を標的としたがん細胞増殖抑制機構の解析」 発表者：白水翔也（九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻薬剤学分野）
2	演 題：「胃癌患者における血中循環癌細胞の HER2発現と FISH 法での評価」 発表者：大久保啓史（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻）
3	演 題：「癌関連線維芽細胞による CXCL12/CXCR4シグナル活性化を介した胃癌浸潤メカニズムの解明」 発表者：泉大輔（熊本大学医学教育部）

【平成27年度】

No	演題・発表者
1	演 題：「Reduced mTORC1 activity is associated with responsiveness to MEK inhibition in gastric cancer cells」 発表者：平下有香（大分大学地域貢献がん専門医療人養成コース）
2	演 題：「卵巣癌予後予測因子としての microRNA の検索」 発表者：深川怜史（福岡大学がん専門医療人指導者コース）
3	演 題：「訪問看護ステーションに勤務する熟練の看護師が、困難を乗り越え、がん看護を継続する要因」 発表者：中村久美（宮崎大学地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース）
4	演 題：「がん性疼痛の概日リズム制御機構を基盤にした鎮痛標的分子の探索」 発表者：赤嶺孝祐（九州大学がん研究薬剤師コース）
5	演 題：「Detection of EML4-ALK Fusion Gene by Using Nested Long-Ranged Polymerase Chain Reaction」 発表者：竹本真之輔（長崎大学がん専門医師・薬剤師養成コース）
6	演 題：「肝細胞癌における TAZ の制御機構」 発表者：東孝暁（熊本大学研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース）



在宅・地域医療実習／僻地・離島病院実習

本実習については、長崎大学が主となり実施した。幅広いがん診療能力、また、地域医療におけるがん診療能力を備えたがん専門医療人を養成することが目的である。

これまで、在宅・地域医療実習に15名、離島・僻地病院実習に19名の大学院生が参加した。在宅・地域医療実習は、計1週間の実習であり、日頃の勤務状況を考慮して、長崎市医師会のDr ネットの先生方に柔軟に対応して頂いた。実習では、がん患者のみならず慢性疾患の患者を含めて在宅医療の現状を学んだ。

離島・僻地病院実習は、離島・僻地のがん中核病院での1ヶ月の実習であり、チーム医療等の有用性や施設によっては離島での在宅医療の現状を学んだ。歯科医師は、実習を通してがん医療を幅広く学ぶと同時に、

口腔ケア等で病院の医療に貢献した。

大分大学九州大学合同カンファレンス

本カンファレンスは、両大学の腫瘍内科学部門所属医師らの相互研鑽および人的交流を目的として平成25年度より年1回実施した。毎回、両大学所属医師および両大学出身医師らを中心に北部九州全域より多くの医師が出席し、症例検討および臨床研究発表等に対して活発な討議を行った。

この活動を通して、地理的な問題から常時の交流を持たない両グループ医師らの相互理解と信頼関係構築がすすみ、平成28年度以降は共同研究計画の協議を行う関係に発展した。また、核となる両大学グループを中心に近隣医師らとの連携もより実質的なものとなり、患者紹介やコンサルテーションなどの臨床活動に反映することとなるなど、共同研究や地域医療連携の構築に貢献した。

大学間連携共通教育プログラム（九州大学・琉球大学）

本プログラムについては、放射線治療の施設毎の特性を活かした教育を目的とし、九州大学と琉球大学による大学間連携共通教育プログラムとして、平成25、27年度、九州大学・琉球大学間で、それぞれ年各1人の大学院生を相互に派遣し、2日間の実習を行った。九州大学においては、高精度照射（脳腫瘍に対する定位照射、肺癌に対する定位放射線治療、前立腺癌に対する強度変調放射線治療）の講義、治療計画実習、病棟回診や入退院カンファレンスなどの日常診療業務の見学を行った。琉球大学においては、子宮頸癌を中心とした講義、画像誘導腔内照射（Image-guided brachytherapy: IGBT）の研修、頭頸部腫瘍カンファレンスや放射線治療部内のミーティング、病棟回診、外部照射治療計画の検討会、外来診察の見学を行った。参加したがんプロ学生からは概ね有意義との意見を頂き、平成28年度も各1名、同プログラムでも研修を予定している。



【参加者からのコメント】

- 同じ放射線治療でも施設ごとに長所や短所があり、やり方にも微妙な違いがある。たとえ短期間でもこのような外部施設での研修は、自施設の足りない部分を認識し、改善につなげるきっかけとなる。2日間の研修により得られた知識や経験を自大学に持ち帰り、今後の日常臨床の改善につなげていきたいと思う。今後も他大学との活発な人材交流により、お互いを活性化できる関係が築ければよいと思う。
- 今回の研修を通して他大学の放射線治療医と、「実際の治療の現場で」意見交換ができること、これは議論が深まりとても貴重な経験だと感じた。同年代の知り合いができ、今後も相互に刺激し合いながら日常臨床の改善やモチベーションを高めることができると思う。このような機会が今後さらに増えることを期待したい。
- 子宮頸癌全般について2回にわたりスライドを使用して概説していただいた。1対1の対話形式でディスカッションしていただいたため、ただ最新の知見に触れるだけでなく疑問点に対してさらに議論を深めることができ、臨床試験を進めていく必要性を理解し意欲をかき立てられるような貴重な経験となった。
- 自施設と同じ点や異なる点を体感できた。また、同年代の先生方と知り合う機会にもなり大変有意義であった。今回の経験を活かし、今後も自分自身の診療や研究の向上とともに、他施設の先生方との交流をより一層深めて行きたいと思う。

「九州がんプロ養成基盤推進プラン」学生アンケートの実施

本プラン参加大学の全がんプロ学生を対象にアンケートを平成25、27、28年度に実施した。

調査内容は、「セミナー」、「カンファレンス」、「実習」、「研究」等に参加してがんに対する理解が深まったかを確認する項目、「指導的役割を担う人材」、「地域医療に貢献できる人材」、「国際的な視野を持った人材」として成長できていると実感できているか等を確認する項目を設定した。評価に当たっては、5段階評価（そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない）を設けた。

例年、回答の大部分が『そう思う』、『ややそう思う』といった高い評価を得ることができた。調査結果は全大学にフィードバックし、次年度の事業に反映させることで、がんプロ事業に求められているPDCAサイクルの確立に努めた。

日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書の作成支援

日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の取得に求められる研修要件が厳しく、症例実績報告書等による書類審査、面接・口頭試問を通過する必要があるため、その数が非常に少ないのが現状である。

がん薬物療法専門医の増加は、がんプロにおける重要な目的の一つとされており、その申請の際に必要な症例実績報告書の作成支援を平成28年度に実施した。支援の対象は、九州がんプロ大学院生およびその修了生で、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医に申請予定の者とした。

作成支援に当たってはメールベースで受付を行い、九州がんプロ大学内の医師に協力を依頼し、申請者から寄せられた報告書の内容について添削等を実施した。

申請者および添削担当医師の感想は以下のとおりである。おおむね好意的な印象であり、事業終了後も継続してこのような支援が実施できないか、引き続き検討を行う。

【申請者からのコメント】

- ・面接時予想される質問も添削内容に含まれており、特に参考になった。
- ・面接時にどのような質問をされるのか、自分で考えていたものとは違う視点の内容であり、作成支援をお願いして良かった。
- ・添削内容も的確で、また、参考文献や見直すべき点が詳細に記載されており、修正がしやすかった。

【添削担当医師からのコメント】

- ・自身の診療の見直しにもなった。施設による違いもあるのだという印象も受け、参考になった。
- ・専門医を増やすためには、このような支援は有用だと思った。
- ・大変素晴らしい企画と思う。今後も支援に協力させていただきたい。

「九州がんプロ養成基盤推進プラン」市民公開講座

がんを巡る環境は日々大きく変貌を遂げており、患者さんの身体への負担の少ない新しい手術法や放射線治療法、そして新たな治療薬などが次々に誕生している今、がん医療はどのような状況にあるのかを、患者さんやご家族、市民の方々にお伝えしご理解いただく事を目的とし、九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座が主体となって、例年市民公開講座を実施した。講演の後の質疑応答ではたくさんのご質問をいただき、参加者のアンケートでは「分かりやすく役に立った」とのご意見が8割を占めた。

【第1回市民公開講座】

- 演題1：肺がん治療の真髄に迫る～日進月歩する抗がん剤治療～
(九州大学 九州連携臨床腫瘍学講座 助教 岩間 映二)
- 演題2：最新の放射線治療のここがスゴイ！
(九州大学 九州連携臨床腫瘍学講座 講師 吉武 忠正)



演題3：チームで立ち向かうがん医療～あなたも家族もその一員～
 (鹿児島大学 臨床腫瘍学講座 教授 上野 真一)

【第2回市民公開講座】

演題1：乳がんのおはなし

(九州がんセンター 乳腺科 部長 徳永 えり子)

演題2：もっと知ろうがんのことー押さえておきたいがんの豆知識ー

(長崎大学医歯薬総合研究科 臨床腫瘍学 教授 芦澤 和人)

【第3回市民公開講座】

演題1：進歩する肺がん治療ーがん免疫療法の幕開けー

(北九州市立医療センター 呼吸器内科 部長 竹下 正文)

演題2：免疫チェックポイント阻害剤を安全に使用するために

(九州大学病院薬剤部 副部長 渡邊 裕之)

開催回	開催日	開催地	参加者数
第1回	平成25年12月7日(土)	福岡	55名
第2回	平成28年3月12日(土)	福岡	94名
第3回	平成29年3月12日(日)	福岡	ー

西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム

がん専門医療養成の重要性およびがん医療の現状について市民の方々にご理解いただくことを目的として、平成26年10月18日に西日本のがんプロ7拠点53大学が合同で「西日本がんプロ合同市民公開シンポジウムーがんと向きあって生きるー」を開催した。このシンポジウムの企画・運営を、本拠点にて担当した。

事前の広報活動としては、本シンポジウムの特設サイトを設けることで、広範にわたって周知を行った。また、平成26年10月11日の読売新聞に、本シンポジウムの開催と「がんプロ」について、記事としてご紹介をいただいた。

シンポジウムには、一般市民155名、関係者91名の合計246名が参加した。当日の内容は、まず、全国がんプロ協議会の松浦成昭会長に「がんプロ」の目的と取組についてご講演をいただき、各大学の「がんプロ」の教育に携わる教員による臓器別の分科会(胃・大腸がん、肝・胆・膵がん、乳がん、肺がん、前立腺がん、子宮・卵巣がん、中高生のためのセミナー)を実施した。また、特別講演では、(独)国立病院機構九州がんセンターの杉本理恵先生にご講演をいただいた。

当日、来場者アンケートを実施したところ、約75%の参加者から回答を得られ、8割以上の回答において、がんプロの重要性について理解をいただき、今後も定期的な開催を望むとの声が多数寄せられた。



総括

九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランは、九州内の12医系大学が参画する拠点として事業を実施した。事業開始時点での九州におけるがん医療、がん教育は、専門家を育成する指導者が不足し、がん医

療の均てん化や国際化が強く望まれる状況など、様々な課題を内包していた。この九州がんプログラムの5年間の事業は、これらの課題を解決すべく、それぞれの特色を持った12大学が緊密に連携して取り組んだものである。大学院コースは約300名、インテンシブコースは約930名が履修し、九州の各大学において多数の専門資格の取得者を生み出した。この教育成果は各大学のコース担当教員はもとより、地域の医療機関や他大学との共同の講義、実習、そしてeラーニングシステムの活用などによって支えられてきた。

本プランの柱としてがんに特化した講座が、九州大学（九州連携臨床腫瘍学講座）、長崎大学（展開医療科学講座臨床腫瘍学分野）、鹿児島大学（臨床腫瘍学講座）に設置されたことは、事業の推進に貢献できたと考えられる。九州大学の講座は九州がんプロの活動のまとめ役を担い、長崎大学、鹿児島大学の講座は特に地域医療に特化したがん医療人の育成に大きな成果を上げた。そして、本プラン参加12大学による推進協議会を設置し、テレビ会議システムを活用して定期的に効率よく会議を行った。これによって、様々な事業推進の為の意思統一が可能となった。

平成28年度をもって本事業は終了であるが、現在教育課程の途中の履修生に対しては、各大学において継続して講義、実習を行い単位取得可能になるよう準備を行う。平成29年度以降の活動については、「事業継続のための検討委員会」において議論されたように、推進協議会の枠組みは維持し、テレビ会議システムを利用した大学間の会議やカンファレンスを継続する。合同研修、大学間研修、海外連携拠点研修などは事業規模を見直した上で実施を検討する予定である。

更に平成29年度以降には文部科学省の新規事業として、がん専門医療人材養成プランが開始される見通しであり、この際にはこれまでに構築されてきた「がん医療人材養成拠点」における人材養成機能を活用することが見込まれている。過去10年間にわたって蓄積された九州がんプログラムの連携基盤を新たな事業でも活用できることが望まれる。

eラーニングにおける取り組み

概要

九州がんプロ養成基盤推進プラン（以下、本プラン）では、平成19年度～23年度の九州がんプロフェッショナル養成プラン（以下、第1期がんプロ）に引き続き、平成24年度に採択された本プランにおいても、eラーニングシステムの管理を支援する組織として「九州がんプロeラーニング支援室」（以下、支援室）を九州大学に設置している。支援室は室長1名（教員、兼任）、室員4名（テクニカルスタッフ、専任）で構成され、養成協議会およびその下部組織であるeラーニング運営委員会による意思決定の下、システム・教材・受講管理の実務を支援している。平成28年度より室員3名で支援を行ってきた。



本プランの参加大学においては、従来の対面講義に代えて、eラーニング教材の活用に積極的な利用者と、原則的に対面講義を実施し、eラーニング教材の活用に消極的な利用者とが混在しており、両者間でeラーニングの整備と活用に関する理解、協力の姿勢について大きな隔りがある。その中で、支援室は自拠点だけでなく他拠点からも積極的に活用されるeラーニング教材を地道に整備し、ニーズの把握に努めてきた。自拠点内でも恒常的かつ積極的な利用者がある大学では、引き続きeラーニングの必要性は高い。

プラン終了後の体制が不透明であるため、最終年度は、プラン終了後支援室がなくなる場合に備えて、各大学の方針をきき、各大学が必要に応じeラーニングを利用できる体制づくりを促し、支援室の業務を各大学に伝達するため、ホームページ作成や訪問ファシリテーションを実施した。

主な取り組みと成果

eラーニングシステムの管理

本プランに参加する大学は、第1期がんプロで九州大学に整備したeラーニングシステム（以下、九州サーバ：平成27年3月末終了）と、筑波大学が管理運営している、がんプロ全国e-learningクラウド（以下、全国クラウド）の2つのeラーニングシステムを利用してきた。これらのeラーニングシステムにおける教材・受講管理および利用状況について以下に示す。

(1) 教材管理

平成26年12月時点では10大学から全国クラウドに198件、九州サーバにもほぼ同等の件数のeラーニング教材を整備し管理してきた。平成27年4月より全国クラウドに一本化し、平成28年12月現在、10大学から223件全国クラウドに公開している。なお、支援室による全国クラウドへの教材アップロード数について筑波大学がんプロ事務局発行のニュースレターで以下のように紹介された。

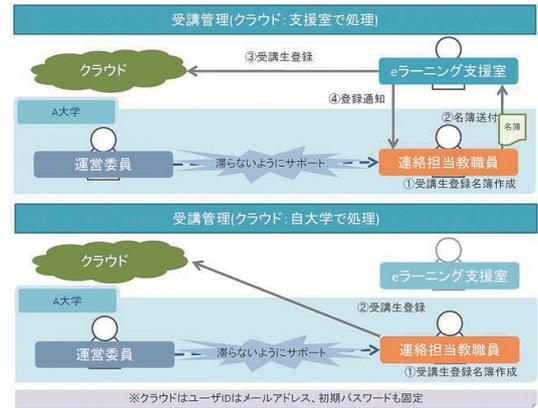
- 平成25年3月 34大学中1位（60件、関東国際がんプロ除く）
- 平成25年10月 50大学中4位（76件）

各年度の教材作成コマ数	
平成24年度	46
平成25年度	53
平成26年度	80
平成27年度	83
平成28年度	53
合計	315

- ・平成28年12月 68大学中4位（113件）
九州拠点は15拠点中2位（223件）

(2) 受講管理

平成26年12月時点では九州サーバに最大830名（学生547名、教職員283名）の利用者を登録し管理している。一方、全国クラウドへの利用者登録は本プラン参加大学の教職員が自ら行うか、支援室に依頼するかを任意としており、現在4大学から依頼を受けている。なお、本プラン参加大学の学生登録数は全国クラウドの画面上で確認でき、計619名が登録されている。



(3) 利用状況

中間外部評価シンポジウム（平成27年2月）で報告した、全国クラウドに公開された本プラン参加大学の教材視聴数（利用者所属別、平成25年10月集計）および参加大学の学生による履修状況（ミニテスト提出者、平成26年12月集計）と、平成29年1月時点の同内容を以下に示す。

がんプロ全国 e-learning クラウド教材視聴数 (各大学が提供したコンテンツがどれだけ視聴されているかを表したもの ※平成25年10月)

	熊本大学	佐賀大学	琉球大学	福岡大学	久留米大学	鹿児島大学	長崎大学	九州大学	産業医科大学	宮崎大学	大分大学	福岡県立大学	計
公開コンテンツ数	4	0	8	7	3	4	5	7	3	4	3	3	51
自大学	0	0	8	0	0	0	9	1	0	0	0	0	18
自拠点	3	0	1	4	1	0	1	43	2	2	2	0	59
他拠点	6	0	4	13	3	2	0	59	2	10	2	0	101
合計	9	0	13	17	4	2	10	103	4	12	4	0	178

がんプロ全国 e-learning クラウド履修状況 (学生が最後まで聴講したコンテンツ数 ※平成26年12月19日)

	熊本大学	佐賀大学	琉球大学	福岡大学	久留米大学	鹿児島大学	長崎大学	九州大学	産業医科大学	宮崎大学	大分大学	福岡県立大学	計
登録学生数	37	15	27	8	18	55	61	152	10	0	107	5	495
履修済科目数	0	23	45	1	6	8	599	0	0	0	1	6	689



がんプロ全国 e-learning クラウド教材視聴数 (各大学が提供したコンテンツがどれだけ視聴されているかを表したもの ※平成29年1月)

	熊本大学	佐賀大学	琉球大学	福岡大学	久留米大学	鹿児島大学	長崎大学	九州大学	産業医科大学	宮崎大学	大分大学	福岡県立大学	計
公開コンテンツ数	20	0	16	17	5	16	11	111	11	7	8	0	222
自大学	0	0	19	2	6	19	73	125	0	2	0	0	246
自拠点	67	0	88	42	28	61	6	642	57	72	24	0	1,087
他拠点	63	0	40	56	24	48	8	468	13	63	13	0	796
合計	130	0	147	100	58	128	87	1,235	70	137	37	0	2,129

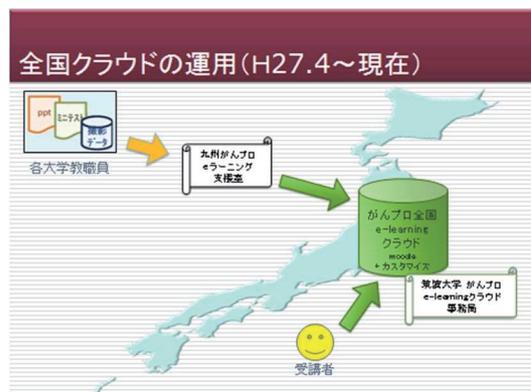
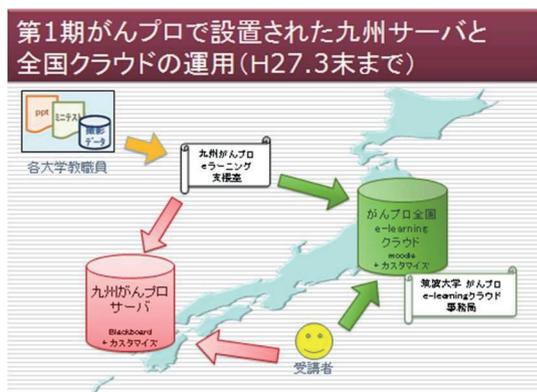
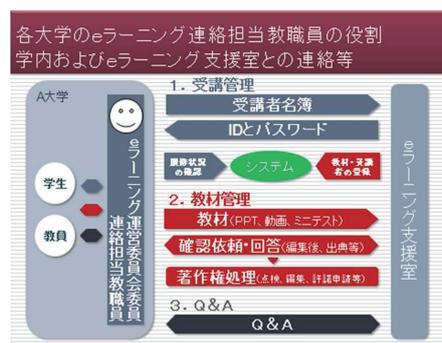
がんプロ全国 e-learning クラウド履修状況 (学生が最後まで聴講したコンテンツ数 ※平成29年1月) *登録学生数:テスト用アカウント登録を除く

	熊本大学	佐賀大学	琉球大学	福岡大学	久留米大学	鹿児島大学	長崎大学	九州大学	産業医科大学	宮崎大学	大分大学	福岡県立大学	計
登録学生数	52	29	35	8	7	82	78	169	14	3	135	7	619
履修済科目数	0	64	137	3	88	188	1,698	159	0	2	1	13	2,353

eラーニングシステムを管理するための体制の整備・維持・向上

(1) 本プラン参加大学および支援室の体制と業務

参加大学は、eラーニング連絡担当教職員およびeラーニング運営委員会委員を置き、各大学の講義・セミナー等の日程を把握し、教材作成に協力する教員を選定する。連絡担当教職員は教員が作成した講義スライド、対面講義あるいは講義とは別に撮影した動画（音声を含む）、およびミニテストの各電子ファイルを支援室に送付する。支援室は動画と音声の編集作業および著作権処理を行い、ミニテストとともに上記2か所のサーバにアップロードし利用者に公開している。（平成27年4月より全国クラウドのみに公開）



(2) eラーニング運営委員会

九州がんプロ養成基盤推進協議会の下に、eラーニング運営委員会が置かれ、以下の活動を報告した。

【平成24年度】

- 平成24年12月21日 委員会を開催。委員会の任務および全参加大学に運営委員および九州がんプロeラーニング連絡担当教職員を配置することを決定した。

【平成25年度】

- 平成25年5月14日 委員会を開催。平成24年度の状況を報告し、平成25年度の教材作成計画を決定した。
- 平成26年2月3日 推進協議会で報告。平成25年度の訪問ファシリテーション（後述）について報告し、各大学に各コースのeラーニングの利用レベルに関する文書提出を要請した。

【平成26年度】

- 平成26年5月27日 推進協議会で報告。各大学・各コースのeラーニングの利用レベルに関する一覧表を作成し報告した。平成26年度も訪問ファシリテーションを行うことについて提案し了承を得た。
- 平成27年2月2日 中間外部評価シンポジウムで報告。取組の成果と課題を報告した。

【平成27年度】

- 平成27年5月25日 推進協議会で報告。推進協議会で平成27年度活動計画、eラーニングコンテンツの利用状況、教材作成者へのフィードバック、利用拡大及びコンテンツの更新について報告をした。
- 平成27年10月13日 事業継続の検討委員会で報告。eラーニングクラウド利用の継続・中止について報告をし、この時点でファシリテーションが終了していない大学に、訪問の要・不要の確認をした。

- ・平成28年1月25日 事業継続の検討委員会で報告。eラーニングクラウド利用の継続・中止について報告をした。
- ・平成28年2月8日 推進協議会と事業継続の検討委員会で報告。推進協議会ではeラーニングクラウド利用の継続・中止について、平成29年4月以降のコンテンツ取扱いについて教員に確認することを審議し了承を得た。平成27度活動報告、支援室ホームページ作成予定であることを報告した。事業継続の検討委員会でも同内容を報告した。

【平成28年度】

- ・平成28年5月9日 事業継続の検討委員会（資料のみ提出）
- ・平成28年11月21日 事業継続の検討委員会で報告。eラーニングクラウド利用の継続・中止について報告、業務伝達を目的とした支援室のホームページ開設したことを報告し、利用を呼び掛けた。

(3) 各大学への訪問ファシリテーション

eラーニングに関する各大学の取組における課題を抽出し解決を促進するために、拠点内の各大学を訪問し、関係教職員と意見交換を行った。

期間：平成25年10月30日～平成26年2月20日

- 内容：1. eラーニング単位化関係（申請書と現状との整合性：履修要項、大学院の委員会・教授会での承認、学生への説明、学期末の成績評価等）
2. 教材作成関係（作成状況）

期間：平成26年9月4日～平成26年12月25日

- 内容：1. 教材作成のための現状把握
2. がんプロ全国 e-learning クラウドへの一本化について (H27.11)
3. 養成基盤推進プラン終了後のeラーニングについて

期間：平成27年9月15日～平成27年12月10日（10大学実施）

- 内容：1. 各大学のコンテンツ提供と利用状況、更新状況の現状把握
2. 今後の方針について

期間：平成28年12月5日・平成28年12月15日（2大学実施）

- 内容：1. 来年度からのeラーニングの管理・運営の方針について
2. 業務伝達（全体的に概要説明を行う）
・学生・教職員のアカウント登録・管理
・公開中のコンテンツの管理について
・がんプロeラーニング教材の作成・公開について

大学間交流およびセミナー、講演会の開催、学会発表等

支援室の特に電子教材著作権に関する取組については、拠点内や他拠点あるいは異分野の学術領域からも注目されており、以下の大学間交流およびセミナー、講演会、学会発表、権利者団体や官庁との協議等を実施した。

【平成24年度】

- ・平成24年7月13日 筑波大学東京キャンパスでeラーニングにおける著作権に関するワークショップを開催（参加者41大学から84名余り）

- ・平成24年7月27-28日 第44回日本医学教育学会大会「他人の著作物を含むeラーニング教材の作成における課題と対策～取組開始9年目の経過報告」
- ・平成24年9月15日 第104回日本医学物理学術大会で講演「著作権を知らう：電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について」
- ・平成24年10月31日 鹿児島大学FDで講演「医療系教育におけるeラーニングと電子教材：その有用性および課題と対策」
- ・平成24年11月17-18日 第60回日本図書館情報学会研究大会で学会発表「電子教材作成支援は図書館情報学の範疇か？」
- ・平成24年12月14日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年1月23日 九州大学「ライブラリーサイエンスの現在」第14回講演会「高等教育の電子教材における他人の著作物の利用と問題点」
- ・平成25年2月6日 琉球大学FDで講演「高等教育の電子教材における他人の著作物の利用と問題点」
- ・平成25年2月18日 九州がんプロ養成基盤推進協議会後eラーニングについて講演
- ・平成25年2月20日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年3月25日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」

【平成25年度】

- ・平成25年5月15日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年6月10日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年7月8日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年8月19日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年9月9日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年10月10日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年11月7日 第20回医学図書館研究会・継続教育コースで講演「医学・医療系の電子教材作成支援活動における課題と対策～他人の著作物を含む電子教材の作成支援における大学図書館の役割～」
- ・平成25年11月14日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成25年12月5日 千葉大学アカデミック・リンク・セミナーで講演「九州大学附属図書館付設教材開発センター活動内容紹介」
- ・平成25年12月16日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成26年1月16日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成26年2月5日 北海道大学がんプロ関連特別講演会「e-learning教材における著作権」
- ・平成26年2月6日 北海道大学工学系教育研究センター（CEED）を見学、CEEDの組織、設備、活動などの概要、e-learningの利用状況と普及への工夫、著作権処理の手続きなどについて意見交換

- ・平成26年2月18日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成26年3月 著作権に関するFD、授業用テキストとして「大学教育における他人の著作物を含む電子・オンライン教材の作成と利用に関するQ&A」を公開
- ・平成26年3月13日 放送大学を訪問し、電子教材著作権に関する意見交換

【平成26年度】

- ・平成26年5月21日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成26年12月3日 北海道大学工学系教育研究センター（CEED）の職員が、電子教材・eラーニングコンテンツの作成及び著作権処理の情報収集のために九州大学を訪問
- ・平成27年2月12日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成27年3月13日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」

【平成27年度】

- ・平成27年4月24日 国立大学協会で、大学の電子教材における著作物利用の在り方に関する意見交換
- ・平成27年5月18日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成27年6月30日 第11回学術情報ソリューションセミナー2015 in 大阪で講演「大学での教材作成における著作権処理について」
- ・平成27年7月31日 第11回学術情報ソリューションセミナー2015 in 福岡で講演「大学での教材作成における著作権処理について」
- ・平成27年9月16日 文化庁著作権課で、教育の情報化の推進に関する当事者間協議に関する意見交換
- ・平成27年10月6日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成27年12月24日 筑波大学を訪問し、九州がんプロのeラーニングに関する現状報告とクラウドに関する今後について相談した。
- ・平成28年2月3日 文化庁「第1回教育の情報化の推進に関する当事者間協議」で、権利者側も含む参加者に大学の電子教材における著作物の利用状況について説明
- ・平成28年2月16日 九州大学全学FDで講演「電子教材 著作権講習会－電子・オンライン教材における論文や教科書の複製物等の利用について－」
- ・平成28年3月6日 日本図書館協会図書館情報学教育部会2015年度第2回研究集会で講演「電子教材の活用事例と教材に含まれる著作物への配慮」
- ・平成28年3月9日 平成27年度九州大学教室系技術職員研修で講演「電子教材の活用事例と教材に含まれる著作物への配慮」
- ・平成28年3月25日 久留米大学FDで講演「電子教材の活用事例と教材に含まれる著作物への配慮」

課題と今後の予定

本プランの開始直後、全国クラウドの利用者は授業料を支払う大学院生等に制限される可能性が示唆され、九州サーバのみを利用する一定の受講者が存在していた。しかし、その後全国クラウドの利用条件は各大学で判断することとなり、2つのシステムを利用するメリットは減少した。一方、九州サーバの耐用年数は平成27年10月末までとされていたが、平成26年10月にハードウェアの挙動が不安定となったため、平成27年3月までで運用停止とし、今後のeラーニングの利用は全国クラウドに一本化した。以上について、平成26年度の訪問ファシリテーションを通じて各大学に伝えてきた。その他に浮かび上がった課題と対策につ

いて行ったことを以下に述べる。

教材管理

(1) 教材作成の依頼について

各大学では、教材作成に協力する教員を選定し依頼している。依頼を受けた教員は応じる場合もあるが断る場合もある。断る理由としては、①演習形式のためビデオ教材に相応しくない、②ミニテスト作成や著作権処理などが面倒、③提供してもメリットがないなどである。①は仕方がない、②については次項に述べるとして、③については、本来対面講義を行っていない大学であれば、一度撮影すれば3年前後は更新しなくてよいというメリットが考えられる。対面講義を行っている場合は、提供した相手、つまり受講者からのフィードバックが得られれば、幾分かの解決になる可能性があると考えられる。大学あるいは支援室が全国クラウドで閲覧可能な受講者の感想を、教材を提供した教員にフィードバックしていくこととしたい。

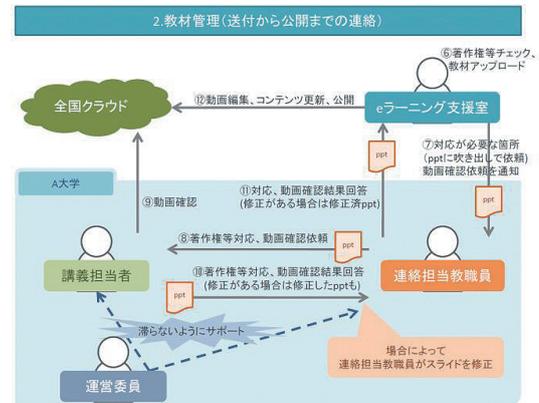
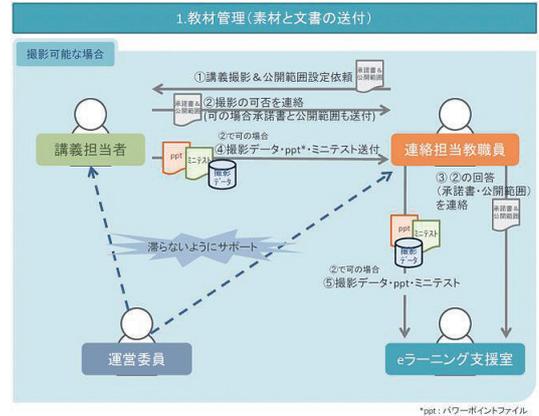
一部の大学では、平成27年度より、教員へ教材作成を依頼する際に受講生のフィードバックやミニテストの結果等を添付して送付している。これにより提供を断られていた教員から承諾を得られた事例もある。

(2) 著作権処理について

著作権処理については、各大学から送付される講義スライドの電子ファイルを支援室の専門スタッフが閲覧し、出典の情報追加など推奨する著作権処理方法をスライド上に追加した上で、各大学に返送している。各大学では、教材を提供した教員あるいは事務職員が推奨に沿ってスライドを編集し、支援室に送付する。最後に、支援室で編集後のスライドと動画を合成することで処理済の教材を作成している。この処理過程については、教員の確認を挟むよりも、支援室と各大学の事務職員に任せることを教員が事前に承諾しておく方が、早く著作権処理が進むことが多い。(一部の大学では、平成25年度より撮影時に、教員本人が行うか事務職員に一任するかを確認することにより処理日数が大幅に短縮され、平均処理日数は15日となった。一方、連絡教職員を通じ、教員本人が作業をした大学はそれぞれのやり取りに日数を要し、平均処理日数は36日であった。)しかし、一方では教員が行う方が望ましいとの意見もあり、また、教員を介さずに処理を進めると、著作権処理に対する教員の理解が進まないという短所もある。どのように処理を進めるかを大学、教員が選択できる方法で運用していくこととしたい。

(3) 教材の更新について

一般的には、医学の進展あるいはその他の理由により、教材の更新が必要な場合が生じる。更新の要不要は教材の内容に依存し、作成した教員自身が判断する必要がある。一方、人事異動などにより、更新の要不要を判断できる教員が大学を離れてしまうこともある。このような場合、更新されずに5年を経た教材は取り下げるのが妥当であるとの意見もある。教材の更新について全国クラウドで共通の取り決めはないため、大学ごとに状況は異なる。一部の大学では、プラン当初より毎年教材作成依頼時に、更新の希望を教員に確認し、希望があれば講義を撮影し、教材を更新している。



各年度の教材更新数	
平成25年度	9
平成26年度	37
平成27年度	48
平成28年度	41

(4) 動画の撮影と電子化の方法について

各大学で講義の様子を撮影した動画を電子ファイルとし支援室に送付している。撮影と電子ファイル化については、アルバイト、事務職員、業者に依頼する場合があります。音声は明瞭に記録されているかどうか、送付される電子ファイルの形式などが課題として抽出されている。平成26年度の訪問ファシリテーションでは必要に応じて、支援室が九州大学で行っている撮影方法について情報提供を行った。また、対面講義の撮影でなく個室等で別撮りするるのであれば、業者から提供されるソフトウェアを利用することで、従来のような高価な装置は必要でなく、カメラ付きノート PC 等で教材作成が可能である。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン終了後の e ラーニングについて

平成29年度以降もがんプロの e ラーニングが必要かどうかについて訪問ファシリテーションの際に意見交換を行い、以下の意見が抽出された。

- ・すでに対面講義がなく e ラーニングを単位化している必要である。
- ・離島の学生が利用しており使えなくなると困る。
- ・地域の看護師を対象とする50名前後の勉強会を開催しており、そこで利用したい。
- ・周囲にへき地が多く、社会人学生や地域の医療従事者にニーズを広げていきたい。
- ・最新のコンテンツに更新されて行くのであれば存続を希望する。
- ・地域の医療従事者に視聴を促すことができれば患者獲得にもなる。
- ・予算があれば存続を希望する。
- ・これまでの方法で教材管理を行うなら支援室は必須である。

全国クラウドを立ち上げた拠点の大学では、学内の大学院生に対面講義をせず e ラーニングを単位化している。本プランの拠点内で全く同じ状況にあるのは1大学のみであるが、へき地、離島の学生、地域の医療従事者に利用がすでに広がっている大学では、今後 e ラーニングがなくなるとは困る状況である。その他、e ラーニング維持のため、教材管理における支援室の必要性、予算獲得の必要性などについて意見が抽出された。一方、現在 e ラーニングの必要性が低い大学、コースにおいても、一部の大学が試みているように、今後、地域へとニーズを広げていくことで、本プラン全体での必要性が高まっていくと考えられる。

平成27年12月から3回にわたり、拠点内の各大学にプラン終了後 e ラーニング支援室がなくなった場合を前提として、プラン終了後のがんプロ全国 e-learning クラウドの利用や教材の提供・継続公開等についてアンケートを実施し、各大学の意向・問題点等の共有しつつ、各大学の方針をとりまとめた。

がんプロ全国 e-learning クラウド利用に関する各大学の方針（調査まとめ）

プラン終了後 【A】 e-learning を利用する・公開中教材を継続公開する 【B】 e-learning を利用する・公開中教材を継続公開しない 【C】 e-learning を利用しない・公開中教材を継続公開する 【D】 e-learning を利用しない・公開中教材を継続公開しない	
平成27年12月実施	
【A】 1 大学	・サーバー管理費等各大学で負担する金額が不明である。
【D】 5 大学	・公開中教材のうち、維持費が不要で、自動的に5年後に教材削除等ができるのであれば、継続公開は可能。 ・大学の軽費が削減される中で、今後経費負担を求められた場合に対応できない可能性が高い。 ・学生の利用が無く、予算の確保が困難なため。

【検討中】 6大学	<ul style="list-style-type: none"> 教材提供に負担金が発生せず、担当者不在でも残せる場合は承諾を得た公開中教材の継続公開が可能。 利用については、聴講生にヒアリングを行い決定する。 利用したいが、分担金が発生する場合難しい。 他大学の状況も踏まえながら慎重に検討したい。 教材提供・管理に係る業務を現状の事務の人員体制で行えるかどうかという点を懸念している。 予算の兼ね合いもあるので、方針が変更される（BかD）可能性もある。 クラウド自体の今後が不透明である。
---------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成28年1月実施	
【A】 2大学	—
【B】 2大学	<ul style="list-style-type: none"> 学内でeラーニングに対するコンセンサスや理解が不十分。 eラーニングの単位化がなされていない。 がんプロメンバーのみが対応しており、現在のマンパワーで教材提供は難しい。 予算的な問題から、がんプロ関連の活動が低調。
【C】 3大学	<ul style="list-style-type: none"> 現時点で学生の利用がなく、今後も利用の見込がない。 公開中の教材については、承諾を得たものについて継続公開が可能。
【検討中】 5大学	<ul style="list-style-type: none"> 公開中教材については、承諾を得たものについて継続公開が可能。 利用者が極めて少ない。 教材作成時の著作権処理・撮影・アップロード等の作業が困難である。 教材提供・管理に係る業務を現状の事務の人員体制で行えるかどうかという点を懸念している。

平成28年3月実施	
【A】 5大学	<ul style="list-style-type: none"> 継続利用希望・継続公開の許可が得られた教材について提供。 今後新たにコンテンツを提供予定。 eラーニング支援室がなくなった後、当大学の事務で管理等の業務が可能かどうかの懸念がある。
【B】 1大学	<ul style="list-style-type: none"> 継続利用希望。
【C】 6大学	<ul style="list-style-type: none"> 継続公開の許可が得られた教材について提供。

並行して、現在公開中の教材について、更新をしない状態でプラン終了後も継続して公開することについて、できるだけ承諾の方向での検討を各大学に依頼し、回答をとりまとめた。

九州全体で公開中の教材のうち、85%の承諾が得られた。（公開中教材216件中、継続公開183件、取下げ33件、公開範囲の変更19件 平成28年12月16日）

内容が古くなってもアーカイブ的に残しておく価値はあるとの意見もある一方、更新せず内容や情報が古くなっていくならば公開を取り下げたいとの意見もあった。内容が急速に変遷している分野では古い内容の継続公開に関して、聴講生の誤解を生む、診断名・治療法・診断体系なども変わっていて現状にそぐわない、などの懸念を持つ教員も多く、更新の必要性は高いと思われる。

教材の取下げや公開範囲変更に関して今年度中に支援室で対応できるものは対応し、プラン終了時以後のものはがんプロ全国 e-learning クラウド事務局に対応を依頼している。

以上の調査実施後、各大学の方針に応じ、eラーニングの利用や教材管理等が各大学で円滑に行えるよう、これまで支援室で行ってきた業務の伝達を目的としたホームページを作成（平成28年公開）し、拠点内の担当者へ周知した。また別途、希望大学への訪問ファシリテーションを実施し、現場での業務伝達等を行った。

総括

以上、5年間の取り組みについて報告を行った。eラーニングは、インターネット環境があれば学習者が場所や時間を選ばず自学学習できるという大きなメリットがある。九州がんプロeラーニング支援室は、全国の履修生ができるだけ学習しやすい環境で履修ができるよう、関係各部署と連携しながら、eラーニング管理、大学間交流、セミナー、動画編集、著作権処理などさまざまな活動を行ってきた。この取り組みが今後更に発展していくことを切に願う。最後に、当支援室でこれまで活動してもらったスタッフ全員、並びに活動にご支援いただいた全ての方に感謝の意を表す。履修された先生方が、患者や社会の期待に応えて全国でご活躍されることを祈り総括とする。

九州大学

概要

九州大学は、「がん教育改革によるがん専門医療人に重点を置くコース」として、「高度先端臨床腫瘍学コース」、「医学物理士養成コース博士後期課程」、「がん専門臨床検査技師博士後期課程」の3つのコースと、「がん研究者養成に重点を置くコース」として「高度先端がん放射線治療医師養成コース」、「がん研究薬剤師養成コース博士課程」、「がん看護研究者養成コース博士後期課程」の3つのコース、計6コースを設けている。

各コースの内容

1. 高度先端臨床腫瘍学コース（大学院医学系学府医学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	臨床腫瘍学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学系学府医学専攻 大学院生		
養成する人材像	がん医療におけるアジアを中心とした海外との連携を推進し、国内のがんの教育・研究をリードする指導者又は九州内のがん医療の均てん化を推進するリーダー。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	・がん専門医やがん研究者を養成する指導者の養成。 ・国際的視野を持つ専門医によるがんの新しい治療方法の開発。 ・がん医療に関するアジアとの連携体制の構築。		
教育内容の特色等	アジアと隣接する地域の特色を生かして、アジアを中心とした海外の大学、学会へ学生を派遣し、国際的な視野を持った指導者を養成する。また、海外の学生を含めた多職種・連携大学合同カンファレンスをカリキュラムに組み込み、臨床現場等におけるリーダーを養成する。		

2. 医学物理士養成コース博士後期課程（大学院医学系学府保健学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	医学物理学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	3年
コースの履修対象者	医学系学府保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	臨床現場で指導的役割を果たす医学物理士を養成する。また、医学物理の研究者として、自立し独創的研究活動を行い、かつ高度に専門的な業務に従事するために必要な柔軟な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材を養成する。		

当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> 放射線治療、診断、核医学において高度な物理工学的知識を有し医学物理士として指導的立場で臨床業務に従事することができる。 医学物理における多様な知識創造活動が進み、先進的な医学物理学の学問体系の構築に寄与できる。 放射線治療と診断に関する医学物理領域において国際競争力のある最先端・次世代の医療機器の開発が期待される。 アジアを中心として、世界レベルで活躍できる国際感覚にすぐれた医学物理士、及び医学物理研究者を養成できる。
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> 臨床における医学物理に関する問題を実践的に研究する。医学物理士認定に必要とされる2年間の臨床研修を必修とする。 保健学系に限らず工学・理学系出身者にも医学物理教育を提供する。 がんプロ全国 e-learning クラウドによりコンテンツの相互利用ならびに単位認定を行う。 留学生も積極的に受け入れ、英語による医学物理教育を行う。

3. がん専門臨床検査技師コース博士後期課程（大学院医学系学府保健学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	病理細胞学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	3年
コースの履修対象者	大学院医学系学府保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> 臨床現場での指導者及び研究教育者。 国際的に活躍できる人材の育成。 		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> がん研究に対する形態検査領域における新しい方法の開発。 がんの早期発見に有用な検査法の開発。 		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> 修士課程での教育を基礎として、がん細胞に対する実践的な研究を行っていく。 		

4. 高度先端がん放射線治療医師養成コース（大学院医学系学府医学専攻）

コースの重点区分	③研究者	養成する専門分野	放射線治療医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学系学府医学専攻 大学院生		
養成する人材像	がん専門医としての基本的な素養を持ち、高精度放射線治療や重粒子線治療といった最先端の放射線治療の知識や経験をも兼ね備えがん放射線治療の教育・研究をリードする指導者として国際的にも活躍できる放射線治療医師。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	単に放射線治療専門医の資格を持った人材の育成ではなく、高精度放射線治療（定位照射・強度変調放射線治療等）及び重粒子線治療といった高度先端的な放射線治療をも習得し、放射線腫瘍学領域の更なる発展にも寄与できる指導的立場の専門医の養成が可能。		
教育内容の特色等	系統的・標準的な放射線治療の講義や実習だけでなく、高精度X線治療や重粒子線治療といった先端放射線治療分野の実習及び研究を大学・専門医療機関との連携や国際学会派遣を通じて実施する。		

5. がん研究薬剤師養成コース博士課程（大学院薬学府臨床薬学専攻）

コースの重点区分	③研究者	養成する専門分野	がん研究薬剤師
コースの開始時期	平成24年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	薬学府臨床薬学専攻博士課程 大学院生		
養成する人材像	がん領域における創薬から育薬までを担う研究者及び指導者を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	医療現場・企業のがん領域で即戦力となる研究者及び指導者を養成できる。それによりがん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献できる。		
教育内容の特色等	平成24年度設置の薬学府臨床薬学専攻博士課程（4年間）においてがんの基礎・臨床に関する研究、講義、演習及び実習を行う。		

6. がん看護研究者養成コース博士後期課程（大学院医学系学府保健学専攻）

コースの重点区分	③研究者	養成する専門分野	がん看護研究分野
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	3年
コースの履修対象者	大学院医学系学府保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護の国際的な研究を推進できる研究者 ・先端医療に対応できるがん看護の研究者 ・臨床で高度ながん看護を実践する人材育成のための教育研究者 		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的研究の取り組みによるがん看護に関する最新のケアや情報の提供。 ・グローバルな視点からがん治療に伴う問題や課題をとらえ、起こりうる問題に迅速かつ適切に対応する新しい看護ケア法の開発。 ・高度な知識技術を備えた指導的ながん看護実践家の育成。 		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・国際研修や派遣を基盤として国際基準の測定尺度を活用した研究を行い、がん看護ケア研究のグローバル化と一般化を図る研究方法を身につける。 ・がん専門看護師修士課程での教育を基盤にし、がん看護の研究を通して、高度な知識技術を身につける。 		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
高度先端臨床腫瘍学コース	—	14	15	12	15
医学物理士養成コース博士後期課程	—	1	3	3	2
がん専門臨床検査技師コース博士後期課程	—	0	1	0	0
高度先端がん放射線治療医師養成コース	—	1	0	1	0
がん研究薬剤師養成コース博士課程	2	2	1	1	1
がん看護研究者養成コース博士後期課程	—	2	1	0	0

大学全体としての取り組み

九州連携臨床腫瘍学講座について

本学の特色の一つとして、本事業の採択に伴い新設された「九州連携臨床腫瘍学講座」が挙げられる。本講座には、専任の教員5名（教授1、講師1、助教3（H29.1.1現在））がおり、これらの教員が主体となり、九州がんプロ事業全体の運営・管理を行い、事業推進のため、本拠点に参画する全12大学との各種連絡・調整を行っている。

また、本講座では、本学に設置したコースの教育も担当しており、内科・外科・放射線科の専門を持つ教員が、大学院生の診療実習の協力・指導を行っている。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の取得を目指す大学院生は、前述の複数の診療科をローテーションして臨床実習することで、専門医申請時に必要な多種の腫瘍に対する診断治療の経験を積んでいる。

また、同講座教員は、九州大学病院で開催される20余りの臓器毎のキャンサーボード（がん部会）および緩和ケアチーム回診に出席し、大学院生の指導に努めている。さらに、臨床・基礎研究についても同講座教員が分野横断的に協力して学会、論文発表を指導している。

教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施

九州連携臨床腫瘍学講座では、教員相互による1時間のカンファレンス・専門分野セミナーを週2回開催し、教員の指導能力向上に努めている。平成29年1月までに、下記など多岐にわたる内容で計280回を実施した。

- ・第3回（2012年10月15日）：内分泌療法抵抗性のメカニズムとその克服戦略
＜担当＞徳永えり子
- ・第51回（2013年8月12日）：進行胃癌に対する初回治療としてのS-1+シスプラチン併用療法の3週サイクルと5週サイクルを比較する国際第Ⅲ相比較試験（SOS試験）における日本と韓国の違い
＜担当＞馬場英司
- ・第56回（2013年9月12日）：「医薬経済学的手法による医療技術評価を考える」鎌江伊三夫
＜担当＞在田修二
- ・第126回（2014年9月4日）：複数回SBRT施行した肺癌患者における放射線肺炎の発生率について
＜担当＞吉武忠正
- ・第170回（2015年4月13日）：トリプルネガティブ乳癌のheterogeneity
＜担当＞山下奈真
- ・第171回（2015年4月23日）：EGFR-TKIの使い分け
＜担当＞岩間映二
- ・第258回（2016年9月8日）：高齢者肺扁平上皮癌に対する初回治療としてのニボルマブ単剤療法第2相試験
＜担当＞田中謙太郎

社会への情報発信

九州連携臨床腫瘍学講座では独自にホームページを開設し、講座が主催・共催する講演会、研修会などの内容、および講座内で実施している教員相互の専門分野セミナーの要旨を積極的に発信した。



その他

九州連携臨床腫瘍学講座に所属する教員は、本研究院の複数の講座と連携して、大学院教育に資する臨床研究活動を実施した。日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）、西日本がん研究機構（WJOG）、九州消化器癌化学療法研究会（KSCC）、九州腫瘍内科グループ（KMOG）、九州肺癌機構（LOGiK）、北部九州放射線治療研究グループなどの臨床研究グループのメンバーとして積極的に臨床研究への参画、立案を行った。これらの研究を通じて、履修生に臨床研究の実践を指導した。また本講座教員は、履修生が参加する学術集会、講演会、研究会や、地域医療連携を目的とした研究会、社会への情報発信を目的とする市民向けセミナーなど多数の会において演者を務めた。

本プランの重要な目標の一つである、履修生の日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医取得を支援する目的で、本講座が事務局を務め、九州各大学の多数の教員の協力を得て、専門医受験に提出する症例要旨の査読体制を確立し、指導を行った。この支援活動は、受験した履修生から高い評価を得た。

また、本講座教員ががん医療および教育の専門家として、福岡市健康福祉審議会委員あるいは福岡市がんの教育連絡協議会委員などに就任し、地方自治体のがん医療行政および小中高生へのがん教育事業に貢献した。

各コースの取り組み

1. 高度先端臨床腫瘍学コース（大学院医学系学府医学専攻）

概要

高度先端臨床腫瘍学コースでは、悪性腫瘍に対して包括的に診療を推進できる専門的な知識、技術を有する専門医であり、より優れたがん医療の確立に資する基礎・臨床研究を推進できる人材の育成を目指している。これまでに56名の学生が本コースに在籍して学んだ。

本コース履修生は臨床実習期間に、九州大学病院や関連施設の外科、血液・腫瘍内科、呼吸器科など複数の診療科をローテーションしながら様々な臓器の悪性腫瘍患者の診療に携わっており、九州連携臨床腫瘍学講座の教員が中心となって幅広い知識と経験が身につくよう指導している。この実習期間には、院内の緩和ケアチームカンファレンス・回診、都道府県・地域がん診療連携拠点病院との合同カンファレンスへの参加、さらに市内の緩和ケア専門病院への訪問実習を単位認定項目としており、履修生が特に緩和ケアを含むチーム医療の重要性について深く理解することを求めている。

腫瘍学に関する研究については、本講座教員に加え、本学医学研究院各講座の協力を得て、履修生の研究指導を実施している。難治がんに対する新規治療プロトコルによる介入などの臨床研究に加えて、ヒト腫瘍細胞遺伝子の網羅的解析やヒトがん幹細胞の解析などの基礎研究も推進しており、人材育成と共に、研究成果ががん医療の進歩に寄与することも期待される。

本コース履修生の研究成果

本コース履修生が実施した腫瘍学に関する臨床・基礎研究の成果を積極的に論文として発表し、国内外の学術集会、研究会などで報告した。平成24年度から平成28年度にかけて、履修生の発表論文数は英文70件、和文22件（原著、症例、総説の共著を含む）であった。また学会・研究会発表は420件（共同演者含む）、そのうち海外学会での発表は49件であった。本コースでは国際的な視野を有する人材育成のため海外での研究発表を推進しており、いずれの口演、ポスター発表そして質疑応答は満足できるものであった。

※ P52以降に別途、英文誌リストを掲載。

社会に対する情報発信

「九州がんプロ基盤養成推進プラン」の意義を広く市民の方々に理解していただき、さらにはがん医療分野を目指す学部生、研修医への情報提供のため、九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座ではホームページ (<http://www.c-oncology.med.kyushu-u.ac.jp>) を開設し、本学が関連する九州がんプロプランの活動を紹介した。また本講座で毎週実施される研究カンファレンスの概要も掲示した。

平成25年12月7日、平成28年3月12日には本学で市民公開講座を開催し、各回50名を超える市民を対象に九州がんプロが取り組むがん専門家の育成やがん医療の進歩についての情報提供を行った。平成25年10月19日には本学形態機能病理学との共催で青少年・市民公開講座「がん研究の最前線」を開催し、343名の高校生を対象に内科・外科・婦人科・病理学分野のがん研究の魅力とその重要性を伝えた。また、平成26年10月18日には西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム（福岡市）において開催事務局を務め、市民155名を対象に6つの癌種の分科会や中高生対象のセミナー、特別講演を企画運営した。これらの参加者へのアンケートではいずれも高い評価を受け継続的な実施が望まれた。



図1. 市民公開講座

国際的視野を持つがん医療の人材育成

九州がんプロプランの目標である国際的視野を持つがん医療人の育成のため、平成25～28年度の4度にわたり韓国アサン医療センター訪問研修を九州連携臨床腫瘍学講座が発案・実施し、本学からも多数の教員、履修生が参加して見聞を深めた。この成果は26年度の日本臨床腫瘍学会、日本癌治療学会の一般演題として報告を行い、29年度の日本臨床腫瘍学会でも発表予定である。各回の研修は、韓国における医療事情や社会制度を調査する事前研修と実際の訪問研修、訪問後の報告書作成で計画し実施した。年次ごとに報告書集を刊行した。同センターの規模の大きさ・医療集約化の現状やそれによって可能となる顕著な臨床研究業績について触れ、日本の医療システムとの差異を感じることで日本の医療均てん化モデルについても理解を深める機会となった。

また欧州でがん臨床研究推進の中心的な役割を担っている欧州腫瘍研究・治療機構（EORTC）との連携を構築する目的で、その主要な施設であるUZ Leuven大学（ベルギー）を訪問し、同学では基礎・臨床研究について、EORTC 諮問会議では日欧のがん網羅的解析研究のプラットフォームなどについて議論した。

更には日本癌治療学会と米国腫瘍学会の連携により平成27（2015）年からASCO/JSCOフェロウシッププログラムが開始された。同プログラムにより九州がんプロ履修生（本学）からも2名の外科医が渡米、メンターシップの構築を行い、今後の国際的活動の基盤となりうる実習を行った。



図2. EORTC 諮問会議

今後の予定

本コースの履修途中の学生に対しては、単位取得が可能となるよう、本学医学研究院において平成29年度以降も継続して講義および臨床実習を継続する。九州連携臨床腫瘍学講座が中心となって実施してきた、履修生を対象とした九州全体の研修会や海外医療機関への訪問研修は、これまで築いてきた他機関との関係を維持して、規模を検討した上で継続実施を目指す。さらに、本がんプロプランによって各大学に整備されたテレビ会議システムを活用して、今後も九州におけるがんの教育や研究について大学間の会議、カンファレンスなどを定期的にも実施する予定である。

2. 医学物理士養成コース博士後期課程（大学院医学系学府保健学専攻）

概要

医学物理士は、放射線を用いた医療が適切に実施されるよう、医学物理学の専門家としての観点から貢献する。世界的には、医学物理士は、がんの放射線治療のためにはなくてはならない人材とされている。診断分野では、CT、MRI、PET、超音波、マンモグラフィなどの診断装置および診断画像の品質管理・保証を実施する。治療分野においては、医師と連携を取り、治療計画の最適化を行い、診療放射線技師および放射線治療品質管理士と協力し、治療装置の品質管理・保証を行う。さらに、患者体内での吸収線量に関する位置的精度と量的精度が临床上必要な範囲に収まっていることを確認し、医師の処方通り治療が行われていることを担保する。

保健学部門医用量子線科学分野は、高精度画像診断・放射線治療に必要な医学物理士を養成するために「医学物理士養成コース（博士後期課程）」を設置し、幅広い知識と高度な技術を身に着けた医療人の育成を推進している。養成する人材は次の通りである。：(1) 臨床現場で指導的役割を果たす医学物理士を養成する。(2) 医学物理の研究者として、自立し独創的研究活動を行い、かつ高度に専門的な業務に従事するために必要な柔軟な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材を養成する。

これまでに9名の学生が本コースに在籍して学んだ。

がんプロ講演会の開催

開催日時	講演者・テーマ
平成24年度 平成25年3月6日 15:30-17:30 参加者：38名	がんプロ講演会：各大学における医学物理士について～その役割と展望～ 東京大学 芳賀昭弘 先生「東京大学における医学物理士」 広島大学 小澤修一 先生「広島大学における医学物理士養成～県との共同プロジェクト～」 久留米大学 川田秀道 先生「放射線治療品質管理を主体とした当院の医学物理士の活動」
平成25年度 平成26年1月28日 15:00-17:30 参加者：42名	がんプロ講演会：次世代医学物理の将来展望 筑波大学 栄武二先生「筑波大学における医学物理学教育の現状」 九州国際重粒子線がん治療センター（佐賀 HIMAT）篠藤誠 先生「重粒子線治療の実際と新たな展開」 大阪大学 隅田伊織 先生「大阪大学における医学物理活動～臨床と研究の相互フィードバック～」 東北大学 角谷倫之 先生「臨床研究型医学物理士の魅力ー「Made in Japan」を世界へー」
平成26年度 平成27年1月29日 14:00-17:00 参加者：62名	がんプロ講演会：臨床応用を目指した最先端医学物理技術 名古屋大学 山本誠一 先生「陽子線治療に関連したイメージング法の開発」 近畿大学 門前一 先生「医学物理士に求められる臨床、研究、国際支援」 北海道大学 石川正純 先生「臨床で役立つ研究開発をめざして」
平成26年度第2回 平成27年2月26日 14:00-16:00 参加者：31名	がんプロ講演会：「インドネシアにおける医学物理研究」 Institute of Technology Bandun (Indonesia) Dr. Freddy Haryanto "Applications of Monte Carlo Simulation in Radiotherapy"
平成27年度 平成27年12月4日 14:00-17:10 参加者：36名	がんプロ講演会：「大学での医学物理教育・研究の話題」 広島大学 西尾禎治 先生「大学における医学物理研究の展開」 山口大学 椎木健裕 先生「若手医学物理士の臨床と研究」 九州大学 納富昭弘 先生「保健学科における中性子関連の教育・研究」

開催日時	講演者・テーマ
平成28年度 平成28年12月16日 13:30-17:30 参加者:36名	がんプロ講演会 熊本大学 内山良一 先生「遺伝子と画像情報による診断支援、予後予測、放射線感受性の判別」 駒沢大学 馬込大貴 先生「次世代型全骨髄照射の実現に向けた国際共同研究」 九州大学 藤淵俊王 先生「診断参考レベルの概要と医療現場での活用」 九州大学 有村 秀孝 「画像支援放射線治療の新技術」



平成25年度 がんプロ講演会



平成26年度 第二回がんプロ講演会



平成27年度 がんプロ講演会

情報発信

九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野の医学物理士養成コースの取り組みとしてホームページを開設した（画像のとおり）。
<http://web.shs.kyushu-u.ac.jp/~mp/index.html>

医学物理士養成コースの概要を掲載しているが、今後がんプロ講演会のお知らせや活動報告などを掲載する予定である。本専攻の学生だけでなく広く一般市民に対しても情報を発信し、啓もう活動を推進する。



西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム参加

平成26年10月18日福岡国際会議場での西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム「がんと向きあって生きる」に前立腺がん分科会の医学物理士パネリストとして有村秀孝が出席した。

院内合同カンファレンスの取り組み

九州大学病院放射線部の協力を得て、週1回程度放射線技師免許を持つ大学院生がカンファレンスに参加し、がんの医療現場において多くの知見を得ている。

e-learning 教材作成

九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野の4名の教員により医学物理に関する科目のe-learning教材を作成した。前述のがんプロ講演会の講義の一部もe-learning教材として作成した。

大学院生によるがん医療に関する研究発表

○英文誌・和文誌

1	Jin Z, Arimura H, et al. Computer-Assisted Delineation of Lung Tumor Regions in Treatment Planning CT Images with PET/CT Image Sets Based on an Optimum Contour Selection Method, Journal of Radiation Research 2014, 55(6):1153-62.
2	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Yoshiyuki Shioyama, Asumi Mizoguchi, Taka-aki Hirose, Hiroshi Honda, Yoshiyuki Umedu, Yasuhiko Nakamura, Hideki Hirata: A computerized framework for monitoring four-dimensional dose distributions during stereotactic body radiation therapy using a portal dose image-based 2D/3D registration approach, Computerized Medical Imaging and Graphics, March 2015 Volume 40, Pages 1-12, 2015.03.
3	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Shingo Kakeda, Fumio Yamashita, Makoto Sasaki, Yukunori Korogi, An Ellipsoid Convex Enhancement Filter for Detection of Asymptomatic Intracranial Aneurysm Candidates in CAD Frameworks, Medical Physics Vol.43, No.2, 951 (2016); http://dx.doi.org/10.1118/1.4940349 (Jan. 28, 2016), 2016.01.
4	Yongsu Yoon, Junji Morishita, MinSeok Park, Hyunji Kim, Kihyun Kim, Jungmin Kim, Monte Carlo simulation-based feasibility study of novel indirect flat panel detector system for removing scatter radiation, Physica Medica: European Journal of Medical Physics, 32, 1, 182-187, 2016.01.
5	Yoichiro Shimizu, Yusuke Matsunobu, Junji Morishita, Evaluation of the usefulness of modified biological fingerprints in chest radiographs for patient recognition and identification, Radiological Physics and Technology, Online first, 2016.04.
6	Mazen Soufi, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Fauzia P. Lestari, Freddy Haryanto, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umedu, Yoshiyuki Shioyama, Fukai Toyofuku, Feasibility of Differential Geometry-Based Features in Detection of Anatomical Feature Points on Patient Surfaces in Range Image-Guided Radiation Therapy, International Journal of Computer Assisted Radiology and Surgery, 2016 Jun 13, DOI:10.1007/s11548-016-1436-x, 2016.06.
7	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, KENICHI MOROOKA, Yasuhiko Nakamura, Tomonari Sasaki, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umedu, Hiroshi Honda, Hideki Hirata, A framework for estimating four-dimensional dose distributions during stereotactic body radiation therapy based on a 2D/3D registration technique with an adaptive transformation parameter approach, Medical Imaging and Information Sciences, Vol. 33(2016) No. 3, p.48-56, 2016.10

1	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Yoshiyuki Shioyama, Jumpei Kuwazuru, Taiki Magome, Katsumasa Nakamura, Hidetake Yabuuchi, Hiroshi Honda, Fukai Toyofuku, Hideki Hirata, Masayuki Sasaki, Computer-aided Delineation of Tumour Regions for Lung Cancer in Multimodality Images by Localized Level Set Method, International Conference on the Use of Computers in Radiation Therapy (ICCR2013 Melbourne), 2013.05.06.
2	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Yoshiyuki Shioyama, Asumi Mizoguchi, Taka-aki Hirose, Hiroshi Honda, Yoshiyuki Umedu, Yasuhiko Nakamura, Hideki Hirata : Automated estimation of four-dimensional dose distributions in stereotactic body radiotherapy based on a 2D/3D registration between EPID dynamic images and planning CT images.(oral), Computer Assisted Radiology and Surgery (CARS2014 in Fukuoka), 2014.06. 27, Japan.
3	Nakamoto T, Arimura H, Nakamura K, Shioyama Y, Mizoguchi A, Honda H, Hirata H, Computerized framework for monitoring four-dimensional tumor dose distributions during stereotactic body radiation therapy (Oral), The 2nd International Conference on Radiological Science and Technology 2014, (Sapporo), 2014.10.10.
4	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Yukunori Korogi, Shingo Kakeda, Fumio Yamashita, Makoto Sasaki, Impact of inhomogeneity correction on a computer-aided diagnostic framework for asymptomatic unruptured intracranial aneurysms using magnetic resonance angiography, International Forum on Medical Imaging in Asia (IFMIA in Tainan), 2015.01.11.
5	Yusuke Matsunobu, Junji Morishita, Yosuke Usumoto, Miki Okumura, Masayuki Sasaki, NORIAKI IKEDA, Development of a personal identification method by using computed tomography images: A preliminary study using anthropomorphic chest phantoms, 2015 Annual spring scientific congress of Korean Society of Radiological Science (KSRS), 2015.05.23.
6	Yongsu Yoon, MinSeok Park, Hyunji Kim, Jungmin Kim, Junji Morishita, Performance evaluation of novel indirect flat panel detector for removing scatter radiation by Monte Carlo simulation, 2015 Annual spring scientific congress of Korean Society of Radiological Science (KSRS), 2015.05.23.
7	Tran Thi Thao Nguyen, Hidetaka Arimura, Yoshifumi Oku, Fujibuchi Toshioh, Takahiro Nakamoto, Yusuke Shibayama, Hideki Hirata, Impact of tissue inhomogeneity on dose distributions in CT-image-based brachytherapy for cervical cancer using Monte Carlo simulation (Poster), The 15th International Congress of Radiation Research (ICRR 2015) in Kyoto, 2015.05.26
8	Mazen Soufi, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umezu, Yoshiyuki Shioyama, Fukai Toyofuku, Development of Automated Framework for Detection of Intra-fractional Setup Errors in Radiation Therapy of Head and Neck Cancer Patients Based on Anatomical Feature Points on Range Images Acquired by a Time-of-Flight Camera (Poster) (Page number in proceedings: 862), The 15th International Congress of Radiation Research (ICRR 2015) in Kyoto, 2015.05.28.
9	Yusuke Matsunobu, Junji Morishita, Kenshi Shiotsuki, Image-matching technique of computed tomography images for personal identification: A preliminary study using anthropomorphic chest phantoms, American Association of Physicists in Medicine (AAPM2015) the 57th Annual Meeting, 2015.07.
10	Yongsu Yoon, MinSeok Park, Hyunji Kim, Kihyun Kim, Jungmin Kim, Junji Morishita, Simulation study for removing scatter radiation in cesium-iodine based flat panel detector system, American Association of Physicists in Medicine (AAPM) the 57th Annual Meeting, 2015.07.
11	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Yoshiyuki Shioyama, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umezu, Yasuhiko Nakamura, Hiroshi Honda, Hideki Hirata, Computational monitoring framework of four-dimensional dose distributions during treatment time based on a 2D/3D registration with adaptive transformation parameters in lung stereotactic body radiotherapy (Oral), The American Association of Physicists in Medicine 57th Annual meeting (AAPM 2015 in Anaheim), 2015.07.15.
12	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Shingo Kakeda, Fumio Yamashita, Makoto Sasaki, Yukunori Korogi, Impact of a novel enhancement filter for various ellipsoid convex shapes on CAD frameworks of asymptomatic unruptured intracranial aneurysms, 13th South East Asia Congress of Medical Physics (SEACOMP 2015, Yogyakarta, Indonesia), 2015.12.11.
13	Yongsu Yoon, Junji Morishita, Yusuke Matsunobu, Yoichiro Shimizu, Keishin Kawamoto, Jungmin Kim, Angular performance of novel indirect flat panel detector system for removing scatter radiation: Monte Carlo simulation study, 28th European Congress of Radiology (ECR 2016), 2016.03.
14	Yusuke Matsunobu, Junji Morishita, Yosuke Usumoto, Miki Okumura, Masayuki Sasaki, NORIAKI IKEDA, Feasibility study of the effective utilization of image features from X-ray computed tomography imaging for personal identification in forensic cases, 2016 Intersocietal Symposium of the International Academy of Legal Medicine P5 Medicine & Justice (IALM 2016), 2016.06.
15	Tran Thi Thao Nguyen, Hidetaka Arimura, Yoshifumi Oku, Takahiro Nakamoto, Yusuke Shibayama, Takashi Yoshiura, ThreeDimensional Dosimetric Gamma Analysis for Impacts of Tissue Inhomogeneity Using Monte Carlo Simulation in Intracavitary Brachytherapy for Cervix Carcinoma (Poster), The American Association of Physicists in Medicine (AAPM) 2016 (Washington, DC), 2016.07.31
16	Mazen Soufi, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umezu, Yoshiyuki Shioyama, Fukai Toyofuku, Computerized Framework for Marker-less Localization of Anatomical Feature Points in Range Images Based on Differential Geometry Features for Image-Guided Radiation Therapy (Oral), The American Association of Physicists in Medicine (AAPM) 2016 (Washington, DC), 2016.07.31.

17	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Shingo Kakeda, Fumio Yamashita, Makoto Sasaki, Yukunori Korogi, An ellipsoid convex enhancement filter based computer-aided diagnostic framework of intracranial aneurysms in MRA images (Oral), The American Association of Physicists in Medicine (AAPM) 2016 (Washington, DC), 2016.08.04.
18	Tran Thi Thao Nguyen, Hidetaka Arimura, Yoshifumi Oku, Takahiro Iwasaki, Takahiro Nakamoto, Takashi Yoshiura, Brachytherapy for Treatment of Cervical Cancer (Oral), Vietnamese-Japanese Students' Scientific Exchange Meeting VJSE 2016 (Fukuoka), 2016.09.17.
19	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Shingo Kakeda, Kazuya Hirakawa, Fumio Yamashita, Makoto Sasaki, Yukunori Korogi, Impact of asymptomatic intracranial aneurysms probabilistic atlas model on a computer-aided framework for detecting small aneurysms (Oral), Radiological Society of North America (RSNA) 2016 (Chicago, IL), 2016.11.27.
20	Tran Thi Thao Nguyen, Hidetaka Arimura, Yoshifumi Oku, Takashi Yoshiura, Monte Carlo-based Assessment of Impacts of Heterogeneous Materials on Dose Distributions using Three-dimensional Gamma Analysis in Intracavitary Brachytherapy for Cervical Cancer(Oral), International Conference On Medical Physics 2016 (ICMP2016) (Thailand), 2016.12.10
21	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Taka-aki Hirose, Ken'ichi Morooka, Saiji Ohga, Yoshiyuki Umezu, Yasuhiko Nakamura, Hiroshi Honda, Tomonari Sasaki, 2D/3D registration-based framework for estimating 4D dose distributions according to dynamic images of an EPID during SBRT for lung cancer (Oral), International Conference On Medical Physics 2016 (ICMP2016) (Thailand), 2016.12.10
22	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Taka-aki Hirose, Saiji Ohga, Yoshiyuki Umezu, Yasuhiko Nakamura, Hiroshi Honda, Tomonari Sasaki. Reconstruction of four-dimensional computed tomography images during treatment time using electronic portal imaging device images based on a dynamic 2D/3D registration (Poster) SPIE medical imaging 2017 (Orlando, FL, US) 2017.2.11~16

○国内学会

1	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Yukunori Korogi, Fumio Yamashita, Makoto Sasaki, Evaluation of an automated identification system of unruptured intracranial aneurysm candidates based on a blob structure enhancement filter at 3.0 T magnetic resonance angiography (MI2013-102, pp.249-253)、電子情報通信学会医用画像研究会 MI (沖縄)、2014.01.27.
2	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Yoshiyuki Shioyama, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umezu, Yasuhiko Nakamura, Hiroshi Honda, Fukai Toyofuku, Improvement of automated monitoring approach of 4D dose distributions during SBRT based on 2D/3D registration with adaptive transformation parameters (Oral)、第109回日本医学物理学会学術大会 (横浜)、2015.04.17
3	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Shingo Kakeda, Yukunori Korogi, Fumio Yamashita, Makoto Sasaki, 3.0 T MRA 画像における未破裂脳動脈瘤支援診断に対する選択的凸領域強調フィルタ、第43回日本磁気共鳴医学会大会 (東京)、2015.09.10.
4	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Tomonari Sasaki, KEN'ICHI MOROOKA, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umezu, Yasuhiko Nakamura, Hiroshi Honda, Hideki Hirata, Automated monitoring system of four-dimensional dose distributions using a portal dose image-based 2D/3D registration with adaptive transformation parameters in stereotactic body radiation therapy (Oral)、日本放射線腫瘍学会 (JASTRO) 第28回学術大会 (群馬県前橋市、11月19日~21日)、2015.11.20.
5	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Tomonari Sasaki, KEN'ICHI MOROOKA, Taka-aki Hirose, Yasuhiko Nakamura, Yoshiyuki Umezu, Hiroshi Honda, Hideki Hirata, Development of a framework for estimating four-dimensional dose distributions during treatment time in stereotactic body radiation therapy for lung cancer based on therapeutic x-ray dynamic portal images (Poster) (IEICE Technical Report, vol.115, no.401, MI2015-86, pp.69-73, 2016.01.)、電子情報通信学会医用画像研究会 MI (沖縄1月19日~20日)、2016.01.19.
6	Mazen Soufi, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umezu, Yoshiyuki Shioyama, Fukai Toyofuku, Differential geometry based localization of anatomical feature points in range images of patient surfaces acquired by time-of-flight camera, IEICE (MI2015-137) Technical Report, Vol.115, No.401, pp.315-319、電子情報通信学会医用画像研究会 MI (沖縄)、2016.01.20.
7	Ze Jin, Hidetaka Arimura, Shingo Kakeda, Fumio Yamashita, Makoto Sasaki, Yukunori Korogi, A novel ellipsoid convex enhancement filter for boosting the performance in detection of asymptomatic intracranial aneurysms at 3.0 T magnetic resonance angiography (IEICE Tech. Rep. (信学技報)、vol. 115, no. 401, MI2015-126, pp. 257-261)、電子情報通信学会医用画像研究会 MI (沖縄)、2016.01.20.
8	Mazen Soufi, Hidetaka Arimura, Katsumasa Nakamura, Taka-aki Hirose, Yoshiyuki Umezu, Yoshiyuki Shioyama, Fukai Toyofuku, Automated localization of anatomical feature points in infrared ray-based range images of patient surfaces by using differential geometry (Oral)、第111回日本医学物理学会学術大会 (横浜)、2016.04.14
9	Mohammad Haekal, Freddy Haryanto, Zamzam Ibnu Sina, Hidetaka Arimura, Algorithm Performance Evaluation: Gradient-descent, Simulated Annealing, and Hybrid Method for Finding an Optimum of a Function (Oral)、第111回日本医学物理学会学術大会 (横浜)、2016.04.15.

○国内学会（つづき）

10	Takahiro Nakamoto, Hidetaka Arimura, Tomonari Sasaki, KEN'ICHI MOROOKA, Taka-aki Hirose, Yasuhiko Nakamura, Yoshiyuki Umezu, Hiroshi Honda, Hideki Hirata, Systematic Framework for Estimating In-vivo Four-Dimensional Dose Distributions during Treatment Delivery in Stereotactic Body Radiotherapy Based on a 2D/3D Registration with an Adaptive Transformation Parameters Approach (Oral)、第72回日本放射線技術学会総会学術大会（横浜 4月14日～17日）、2016.04.16.
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○受賞

1	仲本宗泰：第109回日本医学物理学会学術大会 大会長賞 2015.04
2	Mazen Souf: 第111回日本医学物理学会学術大会大会長賞、第111回日本医学物理学会学術大会（横浜）、2016.04
3	Yusuke Matsunobu: Best Oral Presentation, IALM Scientific Committee, 2016.06
4	Tran Thi Thao Nguyen: Best Presentation Award, Vietnamese-Japanese Students' Scientific Exchange Meeting(VJSE 2016) Fukuoka, Sep. 17, 2016, 2016.09
5	Takahiro Nakamoto: Best Presentation Silver Award of IOMP, The 22nd International conference on Medical Physics (ICMP2016, Bangkok, Thailand) 2016.12.10

今後の予定

実践的な医学物理士を養成するために、臨床研修確立に向けて放射線部との連携を推進する。また、多様な人材育成のために、保健学系に限らず工学・理学系出身者の入学を促す活動を計画する。本コースには4名の留学生を受け入れており、英語による医学物理教育を実践できている。今後、さらにアジア諸国の医学物理教育と研究の向上のために留学生獲得を推進する。

昨年度、医学物理士認定機構の教育コースガイドラインが従来の放射線治療に加えて放射線診断・核医学も含めたものに改訂され、本学の医学物理士養成コース（修士課程）は、医学物理士認定機構により「医学物理士・放射線治療品質管理士養成コース」（すべての領域）として平成28年度に認定された。さらに平成29年度以降も医学物理教育コースの認定を受けることができた。今後は、博士後期課程における診断、核医学、放射線治療の医学物理士養成のための大学院教育の向上を図る。また、医学物理に関する体系的なe-learning教材を増やし、現役大学院生だけでなく既卒者の卒後教育を支援したいと考えている。

国際化に関してはアジア諸国の医学物理教育を推進するために、英語教材も増やす予定である。また、アジア諸国へ講師として出向き、日本の医学物理教育を輸出する。さらに、アジア諸国の医学物理の研究者と国際共同研究を推進し、開かれた医学物理教育と研究ネットワークを開発する。

3. がん専門臨床検査技師コース博士後期課程（大学院医学系学府保健学専攻）

大学院生の研究テーマ

「がん専門臨床検査技師博士後期課程」では、2年生1名を受け入れており、以下のテーマで研究を開始している。

対象学生	テ - マ
西村和徳 (博士後期課程2年生)	The analysis of characteristics of binucleated cells (日本語テーマ：2核細胞の特徴に関する検討)
	内 容
	2核細胞は細胞培養や臨床標本上でしばしば観察される。細胞診断では2核細胞の出現が悪性病変の副所見とされることもあり、出現意義は高いと考えられる。当研究室のこれまでの検討により2核細胞は低栄養状態（serum free）で出現しやすいこと、

対象学生	内 容
西村和徳 (博士後期課程2年生) ※前頁のつづき	また細胞質分裂異常により形成される可能性が高いことがわかっている。しかし、培養細胞を用いた2核細胞に関する報告はほとんどなく、出現機序や出現環境、分子生物学的特徴やその後の発育については未だ不明な点が多い。そこで、本研究では、2核細胞の細胞周期解析や環境の変化による発育に関する検討を行い、2核細胞の分子生物学的特徴を明らかにすることを目的とする。

大学院生によるがん医療に関する研究発表

○和文誌

1	西村和徳、田中祐也、舛田昭三、古賀隆、高木久子、勝又百合子、太田りか、本下潤一、樋口和行、原発性肺癌における気管支擦過細胞診と気管支洗浄細胞診の有用性に関する検討－当院の成績、細胞検査士の取り組みを含めて－、共済医報 vol.63、2014。
---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○英文誌

1	Kazunori Nishimura, Sumiko Watanabe, Ryo Hayashida, Setsuo Sugishima, Tsuyoshi Iwasaka, Tsunehisa Kaku. Binucleated HeLa cells are formed by cytokinesis failure in starvation and keep the potential of proliferation, Cytotechnology 2016, 68:1123-1130
---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○国際学会・国内学会

1	古賀隆、舛田昭三、田中祐也、西村和徳、本下潤一、気管支擦過細胞診にて腺癌を疑った同時性三重多発肺癌の一例、第54回日本臨床細胞学会春期大会（東京）2013年5月31日－6月2日
2	軍馬麻紀、渡邊壽美子、林田涼、西村和徳、仲正喜、杉島節夫、岩坂剛、加来恒壽：二核細胞の検討II－出現機序および細胞周期との関連性について－、第55回日本臨床細胞学会春期大会（横浜）2014年6月6－7日
3	高木久子、古賀隆、舛田昭三、田中祐也、西野彩、西村和徳、本下潤一：嗅神経芽細胞腫の2例、第55回日本臨床細胞学会春期大会（横浜）2014年6月6－7日
4	Watanabe S, Kaku T, Kusaba M, Eguchi N, Nishimura K, Murata S, Sugishima S, Iwasaka T, Formation Mechanism of Binucleated HeLa Cells, 38th European Congress of Cytology (Geneva, Switzerland) 2014.9.27-30
5	西村和徳、三ヶ尻ゆかり、石川陽子、打越友香、太田りか、衛藤徹也、高橋和弘：骨髓塗抹標本における悪性リンパ腫の骨髓浸潤判定－精度評価及び指標となる検査項目を含めて－、第65回共済医学会（横浜）2016年10月19－20日

4. 高度先端がん放射線治療医師養成コース（大学院医学系学府医学専攻）

概要

本コースでは、悪性腫瘍に対する放射線治療全般について臓器横断的な専門的な知識、技術を有し、将来の放射線治療のリーダー的役割を担える専門医の養成を目標としている。本コース履修生は臨床実習期間に、九州大学病院において悪性腫瘍患者の診療に携わり、幅広い知識と経験が身につく様指導している。指導は本講座の九州連携臨床腫瘍学講座教員に加え、臨床放射線科学講座の教員も当たっている。この実習期間には、実際の入院患者の担当となって、各種がん患者の病棟管理や放射線治療計画を行っており、院内の他科とのカンファレンス、カンサーボードへも積極的に参加している。

本コース履修生の研究成果

本コース履修生は、本コースにおいて放射線治療に関する臨床・基礎研究を行い、その成果を積極的に国内外の学術集会、研究会にて発表し、論文として報告した。平成24年度から平成28年度に、本コース履修

生が筆頭著者として発表した原著論文数は英文9件であった。また筆頭演者としての学会・研究会発表は19件、そのうち海外学会での発表は3件であった。また同期間において、大学院生3名が医学博士号を取得した。

大学間交流

当コースにおける大学間交流として、平成25（2013）年10月30-31日、平成28（2016）年1月14-15日2日間、琉球大学の本コース履修生各1名が九州大学において高精度放射線治療や病棟業務等についての研修を行った。また、平成26（2014）年3月3-4日、平成28（2016）年2月1-2日の2日間、九州大学の本コース履修生各1名が、琉球大学病院放射線科放射線治療部門で子宮頸癌治療などの研修を行った。短期間の研修ではあったが、他施設での研修を行うことで、自施設の改善すべき点を再認識することができ、有用であった。平成28年度も2-3月に、九州大学、琉球大学の本コース履修生各1名の研修を予定している。



また年1回、九州各大学の放射線治療医、大学院生や放射線治療に興味を持つレジデント・研修医が集まる研修会を開催しており、臨床・研究について活発な意見交換を行っている。

大学院生の研究業績について

○英文誌

1	Terashima K, Nakamura K, Shioyama Y, Sasaki T, Ohga S, Nonoshita T, Yoshitake T, Atsumi K, Asai K, Hirakawa M, Anai S, Yoshikawa H, Honda H. Can a belly board reduce respiratory-induced prostate motion in the prone position? - assessed by cine-magnetic resonance imaging. <i>Technol Cancer Res Treat.</i> 2013 Oct;12(5):447-53.
2	Terashima K, Nakamura K, Sasaki T, Ohga S, Yoshitake T, Atsumi K, Shinoto M, Asai K, Matsumoto K, Hirata H, Shioyama Y, Nishie A, Honda H. The Effect of Treatment Position on Rectal and Bladder Dose-Volume Histograms for Prostate Radiotherapy Planned with 3-Dimensional Conformal Radiotherapy, Intensity-Modulated Radiotherapy and Volumetric Modulated Arc Therapy. <i>International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiation Oncology.</i> 2014, 3, 88-97.
3	Asai K, Shioyama Y, Nakamura K, Sasaki T, Ohga S, Nonoshita T, Yoshitake T, Ohnishi K, Terashima K, Matsumoto K, Hirata H, Honda H. Radiation-induced rib fractures after hypofractionated stereotactic body radiation therapy: risk factors and dose-volume relationship. <i>Int J Radiat Oncol Biol Phys.</i> 2012 Nov 1;84(3):768-73.
4	Matsumoto K, Imai R, Kamada T, Maruyama K, Tsuji H, Tsujii H, Shioyama Y, Honda H, Isu K; Working Group for Bone and Soft Tissue Sarcomas. Impact of carbon ion radiotherapy for primary spinal sarcoma. <i>Cancer.</i> 2013 Oct 1;119(19):3496-503.
5	Matsumoto K, Sasaki T, Shioyama Y, Nakamura K, Atsumi K, Nonoshita T, Ooga S, Yoshitake T, Uehara S, Hirata H, Honda H. Treatment outcome of high-dose-rate interstitial radiation therapy for patients with stage I and II mobile tongue cancer. <i>Jpn J Clin Oncol.</i> 2013 Oct;43(10):1012-7.
6	Matsumoto K, Nakamura K, Shioyama Y, Sasaki T, Ohga S, Yamaguchi T, Yoshitake T, Asai K, Kakiuchi G, Honda H. Treatment Planning Comparison for Carbon Ion Radiotherapy, Proton Therapy and Intensity-modulated Radiotherapy for Spinal Sarcoma. <i>Anticancer Res.</i> 2015 Jul;35(7):4083-9.
7	Hirata H, Hiwatashi A, Yoshiura T, Togao O, Yamashita K, Kamano H, Kikuchi K, Honda H. Resolution of epidural hematoma related to osteoporotic fracture after percutaneous vertebroplasty. <i>World J Radiol.</i> 2013 Aug 28;5(8):325-7.
8	Hirata H, Sugimachi K, Takahashi Y, Ueda M, Sakimura S, Uchi R, Kurashige J, Takano Y, Nanbara S, Komatsu H, Saito T, Shinden Y, Iguchi T, Eguchi H, Atsumi K, Sakamoto K, Doi T, Hirakawa M, Honda H, Mimori K. Downregulation of PRRX1 Confers Cancer Stem Cell-Like Properties and Predicts Poor Prognosis in Hepatocellular Carcinoma. <i>Ann Surg Oncol. Suppl</i> 3,1402-9,2015
9	Hirata H, Sugimachi K, Komatsu H, Ueda M, Masuda T, Uchi R, Sakimura S, Nambara S, Saito T, Shinden Y, Iguchi T, Eguchi H, Ito S, Terashima K, Sakamoto K, Hirakawa M, Honda H, Mimori K. Decreased Expression of Fructose-1,6-bisphosphatase Associates with Glucose Metabolism and Tumor Progression in Hepatocellular Carcinoma. <i>Cancer Res.</i> 2016 Jun 1;76(11):3265-76.

○海外学会

1	Terashima K, Yamada S, Shinoto M, Yasuda S, Imada H, Kamada T, Tsujii H. Carbon-ion Radiotherapy for Patients With Isolated Local Recurrence of Primary Resected Pancreatic Cancer. ASTRO's 55th Annual Meeting. Atlanta, Sep 22-25, 2013
2	Hirata H, Nakamura K, Kunitake N, Shioyama Y, Sasaki T, Nonoshita T, Inoue K, Nagashima A, Ono M, Honda H. Acquired Resistance to EGFR Tyrosine Kinase Inhibitors is Associated with Low Efficacy of Radiotherapy for Brain Metastases from EGFR-mutant Lung Adenocarcinoma 54th American Society for Radiation Oncology Annual Meeting. Boston, October 28 - 31, 2012
3	Hirata H, Sugimachi K, Uchi R, Kurashige J, Matsumura T, Ueo H, Takano Y, Ueda M, Sakimura S, Shinden Y, Eguchi H, Sudo T, Hirakawa M, Honda H, Mimori M. Down-regulation of PRRX1 confers cancer stem cell-like properties and poor prognosis in hepatocellular carcinoma 105th Annual Meeting of the American Association for Cancer Research. San Diego, April 5-9, 2014

○国内学会

1	寺嶋広太郎、中村和正、佐々木智成、大賀才路、吉武忠正、浅井佳央里、松本圭司、稲盛真人、西江昭弘、本田浩 前立腺癌に対する放射線治療時の体位による計画標的体積、直腸、膀胱線量の比較、第178回日本医学放射線学会九州地方会、2014年2月8-9日、北九州市
2	寺嶋広太郎、中村和正、佐々木智成、大賀才路、吉武忠正、渥美和重、浅井佳央里、松本圭司、平田秀成、稲盛真人、平川雅和、西江昭弘、本田浩 前立腺に対する放射線治療時に体位が直腸膀胱線量に与える影響について 2014 Varian Seminar、2014年2月23日、東京都
3	松本圭司、中村和正、佐々木智成、大賀才路、吉武忠正、篠藤誠、寺嶋広太郎、浅井佳央里、塩山善之、本田浩 脂腺癌に対する術後放射線治療の成績、第177回日本医学放射線学会九州地方会、2013年6月15-16日、長崎市
4	松本圭司、中村和正、佐々木智成、大賀才路、吉武忠正、寺嶋広太郎、稲盛真人、塩山善之、篠藤誠、本田浩 腰椎腫瘍における重粒子線治療、陽子線治療、IMRT の線量分布の比較検討、第179回日本医学放射線学会九州地方会、2014年6月14-15日、佐賀市
5	平田秀成、中村和正、國武直信、塩山善之、佐々木智成、野々下豪、本田浩 肺腺癌の脳転移における EGFR-TKI 耐性獲得と放射線感受性について、日本放射線腫瘍学会第25回学術大会、2012年11月23-25日、東京
6	平田秀成 放射線腫瘍医として知っておきたい分子標的治療 -放射線治療との併用を中心に- 第26回 九州放射線治療セミナー、2014年8月9-10日、福岡市
7	平田秀成、杉町圭史、内龍太郎、藏重淳二、上田正射、崎村正太郎、高野裕樹、新田吉陽、江口英利、平川雅和、本田浩、三森功士 肝細胞癌における PRRX1 の発現異常とがん幹細胞性・治療抵抗性獲得に関する検討 第52回 日本癌治療学会学術集会、2014年8月28-30日、横浜市
8	Hirata H, Kurashige J, Sugimachi K, Uchi R, Ueda M, Sakimura S, Takano Y, Shinden Y, Iguchi T, Eguchi H, Hirakawa H, Honda H, Mimori M Mutational Analysis of Peritoneal Disseminated Model in Gastric Adenocarcinoma、第73回日本癌学会学術総会 2014年9月25-27日、横浜市
9	平田秀成、内龍太郎、上田正射、崎村正太郎、小松久晃、南原翔、齋藤衆子、新田吉陽、井口友宏、江口英利、杉町圭史、渥美和重、坂本一美、平川雅和、本田浩、三森功士、エキソームシーケンスによる食道癌化学放射線感受性の多様性を規定する網羅的変異解析、第17回癌治療増感研究シンポジウム、2015年2月6-7日、奈良市
10	Hirata H, Uchi R, Ueda M, Sakimura S, Shinden Y, Iguchi T, Eguchi H, Atsumi A, Tsurumaru D, Sakamoto K, Sugimachi K, Hirakawa M, Sasaki T, Nakamura K, Honda H, Mimori K, Comprehensive Mutational Analysis of Response to Chemoradiotherapy in Esophageal Squamous Cell Carcinoma, 15th International Congress of Radiation Research. May 25-29, 2015、京都市
11	平田秀成、上田正射、崎村正太郎、内龍太郎、増田隆明、新田吉陽、井口友宏、江口英利、伊藤修平、平川雅和、本田浩、三森功士、臨床医からトランスレーショナルリサーチの世界に来て感じたこと、第20回癌と遺伝子・大分外科フォーラム、2015年6月29日、大分市
12	Hirata H, Sugimachi K, Komatsu H, Ueda M, Uchi R, Sakimura S, Masuda T, Iguchi T, Eguchi H, Ito S, Hirakawa M, Honda H, Mimori K, FBP1 suppresses tumor progression and retrieves altered glucose metabolism in Hepatocellular carcinoma、第74回日本癌学会学術総会、2015年10月8-10日、名古屋市
13	平田秀成、澤田元太、新井田厚司、三森功士、食道発癌・癌進展の宿主側・腫瘍側・疫学環境要因からの三位一体の解明、がんゲノム・エピゲノムセミナー、2015年10月27日、花巻市
14	平田秀成、杉町圭史、増田隆明、林直樹、井口友宏、江口英利、伊藤修平、寺嶋広太郎、坂本勝美、平川雅和、本田浩、三森功士、Fructose-1,6-biphosphatase 発現異常は肝癌の腫瘍進展・糖代謝異常に寄与する、第18回癌治療増感研究シンポジウム、2016年2月5-6日、奈良市
15	脇山浩明、吉武忠正、山口俊博、大賀才路、浅井佳央里、松本圭司、佐々木智成、中村和正、馬場英司、本田浩、放射線治療後にニボルマブが使用され局所病変の著明な縮小を認めた食道原発悪性黒色腫の1例、第181回日本医学放射線学会九州地方会、2015年7月11-12日、別府市

○国内学会（つづき）

16	脇山浩明、吉武忠正、佐々木智成、大賀才路、山口俊博、浅井佳央里、松本圭司、吉川真由美、川波哲、神谷武志、塩山善之、中村和正、本田浩、肺癌に対する体幹部定位放射線治療において間質性変化の放射線肺炎発症に及ぼす影響、九州肺癌カンファレンス、2015年7月25日 福岡市
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

今後の予定

引き続き、充実した臨床実習と、医学博士号の取得を目的とした研究を行い、学会発表、論文作成を進めていく。九州内の他大学とも活発な人材交流を行い、お互いを活性化できる関係を目指す。また小児や高齢者のがんにおいて患者とその家族のニーズに応じ、負担を軽減した低侵襲で苦痛を軽減するための放射線治療法の改善に取り組む。その他、各施設と協力し難治性がん・希少がん等の放射線治療に関する研究を進める。

5. がん研究薬剤師養成コース博士課程（大学院薬学府臨床薬学専攻）

概要

がん研究薬剤師養成コース博士課程の特徴として、がん領域における創薬から育薬までを見渡せる教育・研究環境を整備することが挙げられる。現状の課題としては、がん領域における創薬科学と臨床薬学の研究指向が分離（基礎・応用）していることが挙げられる。その対応策として、本プログラムではがん領域における創薬から育薬までを担う研究者および指導者を養成している。

がん研究薬剤師養成コース博士課程について

本課程の達成目標として、医療現場・企業のがん領域で即戦力となる研究者および指導者の養成を目指す。それによりがん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献する。また大学間連携により、がんの多様性（個体間変動、個体内変動など）を理解した研究者および指導者の養成を目指す。

本コースは、九州大学大学院薬学府臨床薬学専攻博士課程に設置し、履修対象者を薬学府臨床薬学専攻博士課程大学院生とし、がん研究に特化した「がん研究薬剤師」を養成する。養成する人材像として、がん領域における創薬から育薬までを担う研究者および指導者を養成する。当該人材養成により期待される成果として、医療現場・企業のがん領域で即戦力となる研究者および指導者を養成し、それによりがん領域における医療の質の向上や産業・経済の発展に貢献する。教育内容の特色として、がんの基礎・臨床に関する研究、講義、演習および実習を行う。

修了要件・履修上の留意点・進め方として、「先端医療薬学研究実験（がん研究）」の必修科目32単位、「先端医療薬学研究演習Ⅰ」（4単位）、「先端医療薬学研究演習Ⅱ」（4単位）、「先端医療薬学研究演習Ⅲ」（4単位）、「腫瘍治療学Ⅰ」（2単位）、「腫瘍治療学Ⅱ」（2単位）、「腫瘍治療学実習」（4単位）、「創薬・臨床コラボ実習」（4単位）、「臨床研究演習」（2単位）、「臨床試験演習」（1単位）の選択科目から8単位以上、計40単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとしている。

この5年間にわたり、博士課程に計7名が在籍した。

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」主催の研修会および講演会について

①「第1回九州がんプロ全体研修会」

日程：平成25年7月13日、14日

参加者：原 幸稔 「骨髄癌腫症を伴った進行胃癌」の症例検討グループに参加
「Oncologist とは」をテーマにグループ討論を実施

② 「研究課題発表会」

日 程：平成26年 2月 3日

発表者：柴田 智博

演題名：「Y-box 結合タンパク (YB-1) はヒト胃癌の HER2/ErbB2発現とラパニチブの感受性を制御する」

③ 「研究課題発表会」 (中間外部評価シンポジウムと同日に開催)

日 程：平成27年 2月 2日

発表者：白水 翔也

演題名：「アミノ酸関連因子 (ARF: Amino acid Regulatory Factor) を標的としたがん細胞増殖抑制機構の解析」



④ 「研究課題発表会」

日 程：平成28年 2月 8日

発表者：赤嶺 孝祐

演 題：「がん性疼痛の概日リズム制御機構を基盤にした鎮痛標的分子の探索」

大学院生の研究業績について

○英文誌

1	Watari K*, Shibata T*, Kawahara A, Sata K, Nabeshima H, Shinoda A, Abe H, Azuma K, Murakami Y, Izumi H, Takahashi T, Kage M, Kuwano M, Ono M. Tumor-derived interleukin-1 promotes lymphangiogenesis and lymph node metastasis through M2-type macrophages, PLoS ONE, 9(6), e99568, 2014 (*Contributed equally to this study)
2	Murakami Y, Watari K, Shibata T, Uba M, Ureshino H, Kawahara A, Abe H, Izumi H, Mukaida N, Kuwano M, Ono M. N-myc downstream-regulated gene 1 promotes tumor inflammatory angiogenesis through JNK activation and autocrine loop of interleukin-1 α by human gastric cancer cells, J Biol Chem, 288, 25025-25037, 2013
3	Watari K*, Nakamura M*, Fukunaga Y, Furuno A, Shibata T, Kawahara A, Hosoi F, Kuwano T, Kuwano M, Ono M. The antitumor effect of a novel angiogenesis inhibitor (an octahydronaphthalene derivative) targeting both VEGF receptor and NF- κ B pathway, Int J Cancer, 131, 310-321, 2012 (*Contributed equally to this study)
4	Azuma K, Kawahara A, Hattori S, Taira T, Tsurutani J, Watari K, Shibata T, Murakami Y, Takamori S, Ono M, Izumi H, Kage M, Yanagawa T, Nakagawa K, Hoshino T, Kuwano M. NDRG1/Cap43/Drg-1 may predict tumor angiogenesis and poor outcome in patients with lung cancer, J Thorac Oncol, 7, 779-789; 2012
5	Shibata T, Kan H, Murakami Y, Ureshino H, Watari K, Kawahara A, Kage M, Hattori S, Ono M, Kuwano M, Y-box binding protein-1 contributes to both HER2/ErbB2 expression and lapatinib sensitivity in human gastric cancer cells, Mol Cancer Ther, 12, 737-746, 2013
6	Sugimoto N, Maehara K, Yoshida K, Yasukouchi S, Osano S, Watanabe S, Aizawa M, Yugawa T, Kiyono T, Kurumizaka H, Ohkawa Y, Fujita M. Cdt1-binding protein GRWD1 is a novel histone-binding proteins that facilitates MCM loading through its influence on chromatin architecture. Nucleic Acids Res, 43, 5898-5911, 2015
7	Takahiro Akamine, Satoru Koyanagi, Naoki Kusunose, Hana Hashimoto, Marie Taniguchi, Naoya Matsunaga, Shigehiro Ohdo, Dosing Time-Dependent Changes in the Analgesic Effect of Pregabalin on Diabetic Neuropathy in Mice, J Pharmacol Exp Ther, 354:65-72, 2015
8	Erika Wada, Satoru Koyanagi, Naoki Kusunose, Takahiro Akamine, Hiroaki Masui, Hana Hashimoto, Naoya Matsunaga, Shigehiro Ohdo, Modulation of Peroxisome Proliferator-Activated Receptor- α Activity by Bile Acids Causes Circadian Changes in the Intestinal Expression of Octn1/Slc22a4 in Mice, Mol Pharmacol., 87:314-322, 2015
9	Naoki Kusunose, Naoya Matsunaga, Kenichi Kimoto, Takahiro Akamine, Kengo Hamamura, Satoru Koyanagi, Shigehiro Ohdo, Toshiaki Kubota, Mitomycin C modulates the circadian oscillation of clock gene period 2 expression through attenuating the glucocorticoid signaling in mouse fibroblasts, Biochemical and Biophysical Research Communications, 467:157-163, 2015
10	Watari K, Shibata T, Nabeshima H, Shinoda A, Fukunaga Y, Kawahara A, Karasuyama K, Fukushi J, Iwamoto Y, Kuwano M, Ono M. Impaired differentiation of macrophage lineage cells attenuates bone remodeling and inflammatory angiogenesis in Ndr1 deficient mice, Sci Rep, 6, 19470, 2016

○英文誌（つづき）

11	Aizawa M, Sugimoto N, Watanabe S, Yoshida K, Fujita M. Nucleosome assembly and disassembly activity of GRWD1, a novel Cdt1-binding protein that promotes pre-replication complex formation. <i>Biochim. Biophys. Acta</i> 1863, 2739-2748, 2016.
12	Satoru Koyanagi, Naoki Kusunose, Marie Taniguchi, Takahiro Akamine, Yuki Kanado, Yui Ozono, Takahiro Masuda, Yuta Kohro, Naoya Matsunaga, Makoto Tsuda, Michael W. Salter, Kazuhide Inoue, Shigehiro Ohdo, Glucocorticoid regulation of ATP release from spinal astrocytes underlies diurnal exacerbation of neuropathic mechanical allodynia, <i>Nat Commun</i> , 7:13102, 2016
13	Fumiyasu Okazaki, Naoya Matsunaga, Hiroyuki Okazaki, Hiroki Azuma, Kengo Hamamura, Akito Tsuruta, Yuya Tsurudome, Takashi Ogino, Yukinori Hara, Takuya Suzuki, Kenji Hyodo, Hiroshi Ishihara, Hiroshi Kikuchi, Hideto To, Hironori Aramaki, Satoru Koyanagi, Shigehiro Ohdo, Circadian Clock in a Mouse Colon Tumor Regulates Intracellular Iron Levels to Promote Tumor Progression, <i>J Biol Chem</i> , 291:7017-7028, 2016

○和文誌

1	赤嶺孝祐、若松菜摘、横山絵里、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、ゲムシタピン注射用製剤 後発医薬品の溶解性に関する検討、 <i>医療薬学</i> 39,4,220-224,2013.4月
---	--------------------------------------------------------------------------------------------

○国際学会

1	Akamine T, Kusunose N, Taniguchi M, Matsunaga N, Koyanagi S, Ohdo S, Chronopharmacological study of pregabalin for diabetic peripheral neuropathic pain, International Symposium by Japanese Society for Chronobiology in 2014 (Fukuoka) 2014.11.7
2	Watari K, Shinoda A, Shibata T, Kawahara A, Nakama T, Yoshida S, Kage M, Kuwano M, Ono M, N-myc downstream regulated gene 1 (NDRG1) as a novel anti-angiogenic and therapeutic target for VEGF/VEGF receptor signaling by vascular endothelial cells, 26th EORTC-NCI-AACR Symposium on Molecular Targets and Cancer Therapeutics (Barcelona) 2014.11.21.
3	Shibata T, Izumi H, Kawahara A, Hattori S, Fukumitsu C, Takahashi R, Watari K, Murakami Y, Kohno K, Ito K, Kage M, Kuwano M, Ono M. Y-box binding protein-1 YB-1 negatively regulates ER α expression accompanying by enhanced HER2/ErbB2 expression in breast cancer, AACR Annual Meeting 2014, LB-183, (San Diego, California) 2014.4.5-9
4	Watari K, Shibata T, Kawahara A, Murakami Y, Nabeshima H, Shinoda A, Azuma K, Izumi H, Kage M, Kuwano M, Ono M. Tumor-derived interleukin-1 promotes lymphangiogenesis and lymph node metastasis through activation of M2-type macrophages by lung cancer cells, AACR Annual Meeting 2014, 3662, (San Diego, California) 2014.4.5-9
5	Shibata T, Watari K, Izumi H, Kawahara A, Hattori S, Fukumitsu C, Murakami Y, Takahashi R, Toh U, Ito K, Tanaka M, Kage M, Kuwano M, Ono M, Direct binding of ER α to YB-1 suppresses HER2 expression in human breast cancer, 27th AACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeutics (Boston) 2015.11.08.
6	Watari K, Shibata T, Nabeshima H, Shinoda A, Fukunaga Y, Kawahara A, Karasuyama K, Fukushi J, Murakami Y, Kuwano M, Ono M, Novel anti-angiogenic cancer therapeutic strategy by targeting differentiated macrophage lineage cells through N-myc downstream regulated gene 1 (NDRG1), 27th AACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeutics (Boston) 2015.11.07.
7	Sugimoto N, Aizawa M, Yoshida K, Maehara K, Ohkawa Y, Fujita M. Genome-scale analysis for spatiotemporal regulation of the pre-RC formation and firing in human cells. International Symposium on Non-coding DNA and Chromosomal Integrity (Awaji) 2015. 8. 7.

○国内学会

1	會澤誠大、Cdt1結合性クロマチン制御因子によるクロマチン構造変換の試験管内再構成系を用いた解析、第37回日本分子生物学会年会（横浜）2014年11月26日
2	赤嶺孝祐、楠瀬直喜、谷口真理恵、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、糖尿病性末梢神経障害痛に対するプレガバリンの時間薬理学的研究、第21回日本時間生物学会学術大会（福岡）2014年11月8-9日
3	赤嶺孝祐、楠瀬直喜、和田恵里香、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、糖尿病性末梢神経障害痛に対するプレガバリンの至適投薬タイミングに関する検討、第3回日本くすりと糖尿病学会学術集会（福岡）2014年11月2-3日
4	柴田智博、和泉弘人、河原明彦、渡公佑、村上雄一、伊藤研一、鹿毛政義、桑野信彦、小野真弓、ヒト乳癌細胞において ER α は Y-box binding protein (YB-1) 依存性 HER2 発現に影響し、分子標的薬の感受性を変化させる、第73回日本癌学会学術総会（横浜）2014年9月26日

5	渡公佑、篠田あい、鍋島弘嗣、柴田智博、河原明彦、村上雄一、鹿毛政義、桑野信彦、小野眞弓、NDRG1 欠失変異は血管内皮細胞の機能と VEGF 依存性血管新生を特異的に抑制する、第73回日本癌学会学術総会（横浜）2014年9月25日
6	桑野信彦、柴田智博、河原明彦、服部聡、福満千容、高橋龍司、渡公佑、村上雄一、和泉弘人、河野公俊、伊藤研一、田中眞紀、鹿毛政義、小野眞弓、Y-box binding protein-1 activation may modify the responses to endocrine and HER2-targeted therapeutics in breast cancer – ヒト乳癌の YB-1 活性化は HER2 を正に ER α を負に制御し治療適正化に貢献する、第12回日本臨床腫瘍学会学術大会（福岡）2014年7月18日
7	渡公佑、柴田智博、村上雄一、桑野信彦、小野眞弓、宿主 NDRG1 はマクロファージの分化と成熟を制御し、がん血管新生と転移の鍵をにぎる、第23回日本がん転移学会芸術集会・総会（金沢）2014年7月10日
8	白水翔也、小柳悟、片宗千春、松永直哉、大戸茂弘、ヒト正常細胞の悪性形質転換法の構築と転写因子 ATF4 の治療標的分子としての評価、医療薬学フォーラム2014（東京）2014年6月28-29日
9	柴田智博、和泉弘人、河原明彦、村上雄一、渡公佑、鹿毛政義、桑野信彦、小野眞弓、ヒト乳癌において ER α は Y-box binding protein (YB-1) 誘導の HER2 発現を制御し、分子標的治療の適正化に貢献する、第18回日本がん分子標的治療学会学術集会（仙台）2014年6月26日
10	渡公佑、中村真美代、古野綾奈、柴田智博、村上雄一、桑野信彦、小野眞弓、オクタヒドロナフタレン誘導体 AMF-26 は VEGF 受容体の膜発現と NF- κ B シグナルを阻害することによりがん血管新生を抑制する、化学療法基盤支援活動第3回シンポジウム（名護）2014年5月12日
11	赤嶺孝祐、楠瀬直喜、増井裕亮、和田恵里香、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、糖尿病性末梢神経障害に対するプレガバリンの時間薬物動態学的研究、日本薬学会第134年会（熊本）2014年3月27-30日
12	篠田あい、渡公佑、鍋島弘嗣、柴田智博、小野眞弓、N-myc downstream regulated gene-1 (NDRG1) は血管内皮細胞の機能に関与し、がん血管新生に重要な役割を果たす、第30回日本薬学会九州支部大会（長崎）2013年12月8日
13	鍋島弘嗣、渡公佑、篠田あい、柴田智博、小野眞弓、N-myc Downstream Regulated Gene-1 (NDRG1) はマクロファージの機能化と成熟化に関与し腫瘍血管新生に影響する、第30回日本薬学会九州支部大会（長崎）2013年12月8日
14	柴田智博、渡公佑、鍋島弘嗣、篠田あい、小野眞弓、がん細胞由来インターロイキン -1 はマクロファージの活性化と腫瘍リンパ管新生とリンパ節転移を促進する、第30回日本薬学会九州支部大会（長崎）2013年12月8日
15	會澤誠大1、杉本のみぞみ1、渡邊心也1、吉田和真1、胡桃坂仁志2、藤田雅俊1（九大・院薬・医薬細胞生化学1、早稲田大・先進理工/理工研2）、複製開始複合体形成におけるクロマチン制御の試験管内再構成系を用いた解析、第22回 DNA 複製・組換え・修復ワークショップ（仙台）2013年11月20-22日
16	赤嶺孝祐、楠瀬直喜、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、糖尿病性の末梢神経障害性疼痛に対するプレガバリンの時間薬理学的研究、第20回日本時間生物学会学術大会（大阪）2013年11月9-10日
17	村上雄一、渡公佑、柴田智博、嬉野浩樹、河原明彦、鹿毛政義、和泉弘人、桑野信彦、小野眞弓、胃癌の NDRG1 高発現は IL-1 α /AP-1 (Jun/Fos) を介して血管新生を誘導する。- IL-1 α -driven AP-1 (Jun/Fos) activation plays a key role in inflammatory angiogenesis by NDRG1 in gastric cancer、第72回日本癌学会学術総会（横浜）2013年10月3日
18	渡公佑、鍋島弘嗣、福永裕一、柴田智博、篠田あい、河原明彦、村上雄一、鹿毛政義、桑野信彦、小野眞弓、NDRG1 はマクロファージの修飾を介してがん血管新生を誘導する - NDRG1 deficiency suppresses tumor angiogenesis through interference of macrophage activation、第72回日本癌学会学術総会（横浜）2013年10月3日
19	柴田智博、渡公佑、村上雄一、桑野信彦、小野眞弓、肺癌のリンパ節転移機序—マクロファージのリンパ管新生への関与、第22回日本がん転移学会学術集会・総会（松本）2013年7月11日
20	渡公佑、柴田智博、村上雄一、桑野信彦、小野眞弓、がん血管新生は N-myc downstream regulated gene-1 (NDRG1) によって特異的に制御される、第22回日本がん転移学会学術集会・総会（松本）2013年7月11日
21	柴田智博、管仁史、村上雄一、渡公佑、河原明彦、鹿毛政義、和泉弘人、桑野信彦、小野眞弓、Y-box 結合タンパク -1 (YB-1) はヒト胃癌において HER2/ErbB2 発現とラパチニブの感受性を制御する、第17回日本がん分子標的治療学会（京都）2013年6月14日
22	柴田智博、渡公佑、河原明彦、村上雄一、鍋島弘嗣、東公一、鹿毛政義、向田直史、桑野信彦、高橋隆、小野眞弓、Interleukin-1 (IL-1) と下流シグナル活性化による肺癌のリンパ節転移亢進の機序と制御—Interleukin 1 promotes lymph node metastasis by lung cancer cells through modification of tumor stromal cells、第71回日本癌学会学術総会（札幌）2012年9月21日
23	渡公佑、鍋島弘嗣、福永裕一、柴田智博、河原明彦、村上雄一、鹿毛政義、桑野信彦、小野眞弓、N-myc downstream regulated gene 1 (NDRG1) はがん血管新生に重要な役割を果たす—Suppression of tumor angiogenesis and macrophage infiltration in N-myc downstream regulated gene-1 (NDRG1)-deficient mice、第71回日本癌学会学術総会（札幌）2012年9月20日
24	柴田智博、渡公佑、村上雄一、向田直史、小野眞弓、Interleukin-1 (IL-1) とその下流シグナルはヒト肺癌のリンパ管新生とリンパ節転移を促進する—Interleukin 1 promotes lymphangiogenesis and lymph node metastasis by lung cancer cells、第21回日本がん転移学会学術集会・総会（広島）2012年7月12日

○国内学会（つづき）

25	渡公佑、柴田智博、村上雄一、桑野信彦、小野眞弓、N-myc downstream regulated gene-1 (NDRG1) はがん血管新生に重要な役割をはたす—NDRG1-deficient mice exhibit suppression of tumor angiogenesis and macrophage infiltration、第21回日本がん転移学会学術集会・総会（広島）2012年7月12日
26	渡公佑、柴田智博、河原明彦、村上雄一、鹿毛政義、桑野信彦、小野眞弓、N-myc downstream regulated gene-1 (NDRG1) はがん血管新生に重要な役割をはたす、第16回（平成24年度）日本がん分子標的治療学会学術集会（北九州）2012年6月28日
27	柴田智博、渡公佑、河原明彦、村上雄一、鹿毛政義、向田直史、小野眞弓、Interleukin-1 (IL-1) とその下流シグナルはヒト肺癌のリンパ管新生とリンパ節転移を促進する、第16回（平成24年度）日本がん分子標的治療学会学術集会（北九州）2012年6月28日
28	白水翔也、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、Identification of amino acid metabolism regulatory factor responsible for abnormal proliferation of cancer cells、2015年度第1回日本薬剤学会英語セミナー（熊本）2015年9月12日
29	赤嶺孝祐、和田恵里香、楠瀬直喜、橋本華、谷口真理恵、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、Circadian oscillation in the intestinal expression of Octn1/Slc22a4 underlies the dosing time-dependent changes in the absorption of pregabalin and its analgesic effects on diabetic neuropathy、第9回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム（千葉）2015年11月7-8日
30	會澤誠大、杉本のぞみ、渡邊心也、吉田和真、胡桃坂仁志、藤田雅俊、新規 Cdt1結合蛋白質 GRWD1のヌクレオソーム形成活性及び崩壊活性の解析、第23回 DNA複製・組換え・修復ワークショップ（焼津）2015年10月19-21日
31	柴田智博、渡公佑、和泉弘人、河原明彦、村上雄一、鹿毛政義、桑野信彦、小野眞弓、ヒト乳癌の Y-box binding protein-1 (YB-1) 発現は ER α と HER2発現を負と正に制御し治療適正化に貢献する、第19回日本がん分子標的治療学会学術集会（松山）、2015年6月12日
32	渡公佑、柴田智博、村上雄一、河原明彦、鹿毛政義、小野眞弓、進行性ヒト肝細胞癌の mTOR Ser2481の自己リン酸化は rapamycin の治療感受性の予測バイオマーカーとなる、第19回日本がん分子標的治療学会学術集会（松山）、2015年6月12日
33	渡公佑、柴田智博、村上雄一、桑野信彦、小野眞弓、NDRG1 は血管内皮細胞 VEGF-A/VEGFR2 シグナルを介してがん血管新生と転移を促進する、第24回日本がん転移学会学術集会・総会（大阪）、2015年7月23日
34	柴田智博、和泉弘人、河原明彦、渡公佑、村上雄一、伊藤研一、鹿毛政義、桑野信彦、小野眞弓、Y-box binding protein-1 (YB-1) によるヒト乳癌の ER α と HER2の発現制御と治療適正化、第74回日本癌学会学術総会（名古屋）、2015年10月10日
35	渡公佑、柴田智博、鍋島弘嗣、篠田あい、河原明彦、福士純一、村上雄一、桑野信彦、小野眞弓、NDRG1はマクロファージの成熟と活性化を介してがん血管新生の重要な鍵をにぎる、第74回日本癌学会学術総会（名古屋）、2015年10月9日
36	村上雄一、渡公佑、柴田智博、河原明彦、鹿毛政義、桑野信彦、小野眞弓、ゲムシタピンと mTOR 阻害剤の併用による相乗的な膵癌の増殖抑制効果のメカニズム、第74回日本癌学会学術総会（名古屋）、2015年10月9日
37	白水翔也、山口悠太、片宗千春、橋川健一、村上千帆、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、Identification of the Required Amino Acid for Abnormal Growth Ability of Oncogene-Transformed Cancer Cells、第29回日本動物実験代替法学会（福岡）2016年11月16-18日
38	白水翔也、山口悠太、松永直哉、小柳悟、大戸茂弘、がん細胞の異常増殖能獲得に寄与するアミノ酸の同定およびアミノ酸取込み阻害剤による細胞増殖抑制効果の検討、第33回日本薬学会九州支部大会（鹿児島）2016年12月3-4日
39	原幸稔、松永直哉、荻野敬史、田仲孝広、岩本真由香、楠瀬直喜、小柳悟、大戸茂弘、Aldehyde dehydrogenase 活性を指標としたトリプルネガティブ乳がんの時間薬理学的研究、第33回日本薬学会九州支部大会（鹿児島）2016年12月3-4日

○受賞

1	赤嶺孝祐：第3回日本くすりと糖尿病学会学術集会 優秀ポスター賞
2	白水翔也：2015年度第1回日本薬剤学会英語セミナー 優秀発表賞
3	柴田智博：公益財団法人福岡県すこやか健康事業団 平成27年度がん研究助成金 優秀賞
4	白水翔也：第29回日本動物実験代替法学会 優秀ポスター賞

今後の予定

現状の課題としては、がん領域における創薬科学と臨床薬学の研究指向が分離（基礎・応用）していることが挙げられる。今後、がん領域における創薬から育薬までを見渡せる教育・研究環境を一層強化していく

ことが重要と考えられる。その対応策の一つとして、新研究棟「グリーンファルマ研究所」を平成27年に竣工し、これを基盤に、がん領域における創薬から育薬までを担う研究者および指導者を養成する。本研究所では、長年薬学を牽引してきた「システム創薬リサーチ構想」（独自に進められてきた創薬・育薬に関する研究単位を束ね、基礎から臨床まで見渡せる研究環境の構築）の実現を目指している。

6. がん看護研究者養成コース博士後期課程（大学院医学系学府保健学専攻）

概要

「がん看護研究者コース」では、定期的な NY 市立大学（CUNY）大学院センターへの大学院生派遣を通して、海外研究機関における国際的な評価に足る研究者育成を計画している。平成26年2月には、博士後期課程2年生を1名派遣し、CUNY 大学院センターにおける看護研究の専門的な手法を学んできた。また、同年6月には、CUNY から看護研究指導教授を招聘し、講演会を開催した。講演者の Dr. Kathleen Nokes は、平成25年、平成26年に来日し、学生の看護研究指導も実施している。現在、本コースの対象学生は大学院博士後期課程3名であり、国際的視野を持ったがん看護研究者育成を継続して行えるシステムを構築しつつある。

国際的な視野を持ったがん看護研究のための海外講師招聘による教育講演

「がん看護研究者コース」では、平成25年度に「チーム医療の中で看護職に期待されるもの」、平成26年度に「専門職連携教育“Interprofessional Education(IPE)”」というタイトルで、がん看護に焦点を当てた講演を開催した（図1）。講演者は、Dr. Kathleen Nokes（専門分野：公衆衛生看護。1993年からアメリカンアカデミーオブナーシング、ニューヨーク医学アカデミーフェロー）。講演は、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」で新設した『国際医療システム論』の学生を主な対象とし、将来のがん医療を担う学生にとって有意義な体験となった。



図1. Dr.Nokes 来日講演

米国 NY 市立大学（CUNY）大学院センターへの大学院生派遣および研修

「がん看護研究者コース」では、CUNY および Dr.Nokes との協力体制の下で国際的な視野での優れた研究を推進するために、大学院生を平成25年2月4日～8日と平成26年2月19日～3月1日の2回、NY に派遣し研修を行った。主な内容は、上記 CUNY の看護学部において上部消化器がん看護専門研究者との面接、研究の動向や方法についてのディスカッション、CUNY 大学院センターでの講義参加およびがん看護研究に関するディスカッションであった（図2）。日本と海外のがん看護に対する捉え方の相違を学び、独自のがん看護研究を進めるにあたって有意義な研修となった。



図2. CUNY 大学院センター
ディスカッション風景

米国がん拠点病院における看護研究者コース教員研修

平成25年9月1日～12日に、がん看護研究者コース教員は、MD アンダーソンがんセンターおよびメモリアルスローンケタリングがんセンターで施設見学および意見交換を行い、最先端のがん看護研究および教育に関する実りある情報収集を行った。

大学院生の臨床研究

対象学生2名はそれぞれ、「胃切除術後患者へのICT（情報通信技術）を活用した食生活自己管理支援ツール開発に向けた基礎的研究（仮）」Relationship among gastric cancer patients' postoperative symptoms, eating behavior, and self-care agencies -For development of self-management application for gastric cancer patients-、「経口抗がん剤治療を受ける大腸がん術後患者の服薬アドヒアランス（仮）」Assessing adherence and self-management in cancer patients under oral chemotherapy について研究を開始している。2名とも本学の倫理審査を経て、Dr.Nokes にアドバイスを受けながら、調査を開始し、現在データ解析途中である。対象学生1名は、「がんの温熱療法（ハイパーサーミア）を受療するがん患者に対する安全性強化を目指す看護の構築に向けた基礎的研究」Physiological and subjective changes throughout deep regional hyperthermia について研究を実施し、調査結果を国際誌に投稿した。

がん看護研究養成コース博士後期課程学生のテーマ

対象学生	テ - マ
豊福佳代	Relationship among gastric cancer patients' postoperative symptoms, eating behavior, and self-care agencies -For development of self-management application for gastric cancer patients-
永松有紀	Factors affecting medication adherence in colorectal cancer patients under oral chemotherapy
伊豆倉理江子	The physiological and subjective effects in patients with cancer throughout hyperthermia

大学院生の研究業績について

○和文誌

1	永松有紀、柴田喜幸、立石清一郎、交流集会 がん就労者支援、日本看護福祉学会誌、31-41、2015.10月
2	永松有紀、佐藤実、樗木晶子、経口抗がん剤治療の服薬アドヒアランス評価に関する研究の動向と課題、国際ナース研究誌、43-53、2016、5月

○国際誌

1	Rieko Izukura, Hajime Imada, Nobuko Hashiguchi, Hiroyuki Sawatari, Takayuki Ohguri, Mami Miyazono, Shin Ohta, Chiduko Takakura, Keiko Yamasaki, Chie Magota, Kanae Fujita, Hiromi Kuroda, Hideki Hirata, Tomoko Ohkusa, Akiko Chishaki. Cardiac and respiratory effects of deep regional hyperthermia using an 8MHz radiofrequency capacitive device on patients with cancer, Int J Hyperthermia. (accepted in Jan 2017)
---	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○国際学会

1	Toyofuku K, Clinical Nurses' Perceptions of the Usage of the Electronic Medical Record and the Significance of the Overall Nursing Record, 3rd World Academy of Nursing Science (Seoul, Korea) 2013.10.8
2	Nagamatsu Y, The role of employment status in changes in quality of life of laryngectomized patients before surgery and 3 months after discharge, 24th International Nursing research congress Horner Society of Nursing (Prague, Czech Republic) 2013.7.22-26
3	Iwanaga K, Kotake K, Suzukamo Y, Kai I, Haba K, Takahashi A, Nagamatsu Y, Kawamoto R : The Association between Laryngectomized Patients' Psychological Adjustment and Their Medical Treatment, 17th East Asian Forum of Nursing Scholars (Manila, Philippines) 2014.2.20-21

4	Izukura R, Imada H, Takakura C, Ohta S, Miyazono M, Hashiguchi N, Sawatari H, Hirata H, Ohkusa T, Chishaki A. SUBJECTIVE AND OBJECTIVE CHANGES OF HYPERTHERMIA THERAPY IN CANCER PATIENTS, 19th International Society of Nurses in Cancer care(ISNCC) (Canada) 2015.7.10
5	Toyofuku K, Izukura R, Nagamatsu Y, Miyazono M, Chishaki A, Eating behaviors are important in post-gastrectomy patients in gastric cancer, 19th EAFONS(East Asia Forum of Nursing Scholars) (Chiba) 2016.3.14-15
6	Izukura R, Imada H, Takakura C, Ohta S, Toyofuku K, Miyazono M, Hashiguchi N, Sawatari H, Hirata H, Ohkusa T, Chishaki A. The effects of physiological responses throughout hyperthermia in cancer patients, 19th EAFONS(East Asia Forum of Nursing Scholars) (Chiba) 2016.3.14-15
7	Toyofuku K, Nagamatsu Y, Miyazono M, Chishaki A, CHANGES OF EATING BEHAVIOR, PHYSICAL SYMPTOM, AND SELF-CARE ABILITY IN POSTGASTRECTOMY PATIENTS, 20th International Society of Nurses in Cancer care(ISNCC) (Hong Kong) 2016.9.4-7
8	Nagamatsu Y, Toyofuku K, Chishaki A, MEDICATION ADHERENCE IN THE INITIAL STAGES OF ADJUVANT CHEMOTHERAPY WITH CAPECITABINE, 20th International Society of Nurses in Cancer care(ISNCC) (Hong Kong) 2016.9.4-7
9	Izukura R, Imada H, Takakura C, Ohta S, Hashiguchi N, Miyazono M, Sawatari H, Toyofuku K, Yamasaki K, Hirata H, Ohkusa T, Chishaki A. EFFECTS OF HYPERTHERMIA ON PHYSIOLOGICAL AND SUBJECTIVE RESPONSES IN CANCER PATIENTS, 20th International Society of Nurses in Cancer care (ISNCC), 2016.9.4-7, Hong Kong, China.

○国内学会

1	永松有紀、診断から初回治療後における肝がん患者家族の治療や療養に関する意思決定の様相、第28回日本看護福祉学会学術大会（福岡）2015年7月4－5日
2	永松有紀、鍋島直美、中山善文、皆川紀剛、菊田志保、篠原義剛、豊福佳代、宮園真美、佐藤実、樺木晶子、経口抗がん剤治療中の大腸がん患者における服薬アドヒアランスとセルフケア能力の関連、第30回日本がん看護学会学術集会（千葉）2016年2月20－21日
3	伊豆倉理江子、今田肇、大田真、高倉千津子、宮園真美、橋口暢子、澤渡浩之、平田秀紀、大草知子、樺木晶子、がん治療におけるハイパーサーミアが身体的・主観的変化に及ぼす影響－ハイパーサーミア受療患者への看護の構築に向けた基礎的研究－、第28回九州・山口ハイパーサーミア研究会（熊本）、教育口演セッション、2015年8月2日
4	伊豆倉理江子、今田肇、大田真、高倉千津子、宮園真美、橋口暢子、澤渡浩之、平田秀紀、大草知子、樺木晶子、癌治療におけるハイパーサーミアが生理的・主観的変化に及ぼす影響－ハイパーサーミア受療患者への看護の構築に向けた基礎的研究－、第32回日本ハイパーサーミア学会（大阪）2015年9月4－5日
5	豊福佳代、永松有紀、宮園真美、樺木晶子、胃切除後2週間のセルフケア能力と身体的・心理的状態の実態調査、第30回日本がん看護学会学術集会（千葉）2016年2月20－21日

総括

九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目標である、がん専門医療人やがん医療研究者を育成する指導者の養成、海外医療機関との国際連携体制の構築、そして多職種連携の能力を培う教育改革、の実現を目指して、九州大学では6つのコースを設けた。この5年間の事業期間に高度先端臨床腫瘍学コースをはじめとして多くの履修生を受け入れ、がん医療の専門家を育成することができた。履修生はがんという疾患についての総論、各論を学ぶだけでなく、診療科横断的ながん医療の考え方や、地域・国際連携、特に緩和医療などにおける多職種連携についての講義、実習を通じて、本プランが目指すがん専門医療人に必要な知識、経験を得た。さらにより高度ながんの基礎・臨床研究の実施、全体研修会での研修、そして海外医療機関への訪問研修での研究者との意見情報交換などを通じて、がんの教育、研究をリードする指導者としての資質を高めることができたと考えられる。

このような履修生への教育は、本学の多くの講座、そして九州がんプランの各大学の教員の方々の協力があって初めて実現できたものである。同時に、本学に設置された九州連携臨床腫瘍学講座が、本学内そして大学間の連携の要となって事業を立案、推進した点で、その果たした役割も小さくないと考える。

九州がんプランによって本学にもたらされたがん教育の基盤は、今後も継続的な人材育成に大きく役立つものである。そして「連携」のマインドを持った九州がんプランの修了生が、様々な医療・研究機関でがん専門医療人のリーダーとして活躍することが期待される。

※ P33 補足データ：「高度先端臨床腫瘍学コース」における履修生の研究成果（英文誌）

1	Matono R, Yoshiya S, Motomura T, Toshima T, Kayashima H, Masuda T, Yoshizumi T, Taketomi A, Shirabe K, Maehara Y., Factors linked to longterm survival of patients with hepatocellular carcinoma accompanied by tumour thrombus in the major portal vein after surgical resection., <i>HPB (Oxford)</i> , 14(4), 247-253, 2012
2	Muto J, Mano Y, Harada N, Uchiyama H, Yoshizumi T, Taketomi A, Shirabe K, Maehara Y., Additional resection of the pancreas body prevents post-operative pancreas fistula in patients with portal annular pancreas who undergo pancreaticoduodenectomy., <i>Case Rep Gastroenterol</i> , 6(1), 131-134, 2012
3	Yoshiya S, Shirabe K, Kimura K, Yoshizumi T, Ikegami T, Kayashima H, Toshima T, Uchiyama H, Soejima Y, Maehara Y., The causes, risk factors, and outcomes of early relaparotomy after living-donor liver transplantation., <i>Transplantation</i> , 94(9), 947-952, 2012
4	Yoshiya S, Maruyama R, Koga T, Shikada Y, Yano T, Maehara Y., Localized pleural amyloidosis: report of a case., <i>Surg Today</i> , 42(6), 597-600, 2012
5	Zaitu Y, Ikegami T, Masuda T, Yoshizumi T, Shirabe K, Maehara Y., A successful case of living donor liver transplantation performed in 7 hours for sub acute fulminant hepatitis., <i>Fukuoka Igaku Zasshi</i> , 103(7), 145-149, 2012
6	Yae T, Tsuchihashi K, Ishimoto T, Motohara T, Yoshikawa M, Yoshida JG, Wada T, Masuko T, Moguchi K, Tanaka T, Osawa T, Kanki Y, Minami T, Aburatani H, Ohmura M, Kubo A, Suematsu M, Takahashi K, Saya H, Nagano O, Alternative splicing of CD44 mRNA by ESRP1 enhances lung colonization of metastatic cancer cells, <i>Nature Communications</i> , 3, 833, 2012
7	Kumagai H, Nio K, Shirakawa T, Uchino K, Kusaba H, Isobe T, Komoda M, Tamura S, Maeyama R, Nagai E, Akashi K, Baba E., Improvement of quality of life and survival using self-expandable metal stent placement for severe malignant stenosis of the gastric body: a case report., <i>J Med Case Rep</i> , 6, 315, 2012
8	Yamashita N, Tokunaga E, Kitao H, Hisamatsu Y, Taketani K, Akiyoshi S, Okada S, Aishima S, Morita M, Maehara Y., Vimentin as a poor prognostic factor for triple-negative breast cancer., <i>J Cancer Res Clin Oncol</i> , 139(5), 739-746, 2013
9	Kohno M, Shirabe K, Mano M, Muto J, Motomura T, Takeishi K, Toshima T, Yoshimatsu M, Ijichi H, Harada N, Aishima S, Uchiyama H, Yoshizumi T, Taketomi A, Maehara Y., Granulocyte colony-stimulating-factor-producing hepatocellular carcinoma with extensive sarcomatous changes: report of a case., <i>Surg Today</i> , 43, 439-445, 2013
10	Yoshiya S., Shirabe K., Matsumoto Y., Ikeda T., Soejima Y., Yoshizumi T., Uchiyama H., Ikegami T., Harimoto N., Maehara Y., Rendezvous ductoplasty for biliary anastomotic stricture after living-donor liver transplantation., <i>Transplantation</i> , 95, 1278-1283, 2013
11	Kasagi Y, Oki E, Ando K, Kimura Y, Ikegami T, Saeki H, Morita M, Kusumoto T, Maehara Y., A case of panitumumab-responsive metastatic rectal cancer initially refractory to cetuximab., <i>Case Report in Oncol</i> , 6(2), 382-386, 2013
12	Kimura K., Ikegami T., Yamashita Y., Saeki H., Oki E., Yoshizumi T., Uchiyama H., Kawanaka H., Soejima Y., Morita M., Shirabe K., Ikeda T., Maehara Y., Rendezvous Technique Treatment for Late-Onset Biliary Leakage after Major Hepatectomy of a Living Donor: Report of a Case., <i>Fukuoka Igaku Zasshi</i> , 104, 309-314, 2013
13	Ueo H., Takano Y., Matsumura T., Kurashige J., Shinden Y., Eguchi H., Sudou T., Sugimachi K., Saeki H., Oki E., Morita M., Ikeda T., Maehara Y., Mimori K., Identification of genes that predict lymph node metastasis in colorectal cancer cases., <i>Fukuoka Acta Medica</i> , 104(12), 559-563, 2013
14	Imai D., Furukawa K., Shiba H., Wakiyama S., Gocho T., Yanaga K., Balloon venoplasty for liver failure due to stenosis of the left hepatic vein after right tri-segmentectomy., <i>Int Surg</i> , 98, 160-163, 2013
15	Kawano Y, Ohyanagi F, Yanagitani N, Kudo K, Horie A, Tanimoto A, Nishizawa H, Ichikawa A, Sakatani T, Nakatomi K, Hagiwara S, Ninomiya H, Motoi N, Ishikawa Y, Horai T, Nishio M., Pemetrexed and cisplatin for advanced non-squamous non-small cell lung cancer in Japanese patients: phase II study., <i>Anticancer Res</i> , 33(8), 3327-33, 2013
16	Yoshikawa M, Tsuchihashi K, Ishimoto T, Yae T, Motohara T, Sugihara E, Onishi N, Masuko T, Yoshizawa K, Kawashiri S, Mukai M, Asoda S, Kawana H, Nakagawa T, Saya H, Nagano O, xCT inhibition depletes CD44v-expressing tumor cells that are resistant EGFR-targeted therapy in head and neck squamous cell carcinoma, <i>Cancer Res</i> , 71, 1855-66, 2013
17	Wada T, Ishimoto T, Seishima R, Tsuchihashi K, Yoshikawa M, Oshima H, Oshima M, Masuko T, Wright NA, Furuhashi S, Hirashima K, Baba H, Kitagawa Y, Saya H, Nagano O, Functional role of CD44v-xCT system in the development of spasmolytic polypeptide-expressing metaplasia, <i>Cancer Sci</i> , 104, 1323-9, 2013
18	Tsuchihashi K, Takayoshi K, Uchino K, Shirakawa T, Kumagai H, Tamura S, Komoda M, Isobe T, Takaishi S, Kusaba H, Aishima S, Akashi K and Baba E., Systemic chemotherapy for metastatic non-mucinous appendiceal adenocarcinoma: a case report and literature review., <i>Int Cancer Conf J</i> , 2, 36-40, 2013
19	Kawano Y, Okamoto I, Fukuda H, Ohe Y, Nakamura S, Nakagawa K, Hotta K, Kiura K, Takiguchi Y, Saka H, Okamoto H, Takayama K, Semba H, Kobayashi K, Kenmotsu H, Tsuboi M, Yamamoto N, Nukiwa T, Nakanishi Y., Current status and future perspectives of cooperative study groups for lung cancer in Japan., <i>Respiratory Investigation</i> , 52(6), 339-347, 2014
20	Nakano M, Kusaba H, Makiyama A, Ariyama H, Arita S, Oda H, Esaki T, Takayoshi K, Uchino K, Tamura S, Kumagai H, Iwama E, Shirakawa T, Mitsugi K, Takaishi S, Akashi K, Baba E., Pemetrexed combined with platinum-based chemotherapy for advanced malignant peritoneal mesothelioma: retrospective analysis of six cases., <i>Anticancer Res</i> , 34, 215-220, 2014
21	Isobe T, Uchino K, Makiyama C, Ariyama H, Arita S, Tamura S, Komoda M, Kusaba H, Shirakawa T, Esaki T, Mitsugi K, Takaishi S, Akashi K, Baba E., Analysis of adverse events of bevacizumab-containing systemic chemotherapy for metastatic colorectal cancer in Japan., <i>Anticancer Res</i> , 34, 2035-2040, 2014
22	Kumagai H, Kusaba H, Okumura Y, Komoda M, Nakano M, Tamura S, Uchida M, Nagata K, Arita S, Ariyama H, Takaishi S, Akashi K, Baba E., Efficacy and safety of an increased-dose of dexamethasone in patients receiving fosaprepitant for chemotherapy in Japan., <i>Asian Pac J Cancer Prev</i> , 15, 461-465, 2014
23	Sagara K, Takayoshi K, Kusumoto E, Uchino K, Matsumura T, Kusaba H, Momosaki S, Ikejiri K, Baba E., Favorable control of rapidly progressive retroperitoneal pleomorphic leiomyosarcoma with multimodality therapy: a case report, <i>BMC Res Notes</i> , 7, 377, 2014

24	Kumagai H, Nio K, Okumura Y, Komoda M, Shirakawa T, Kusaba H, Yasuda S, Odashiro K, Arita S, Ariyama H, Yamada Y, Yamamoto H, Oda Y, Nakamura K, Akashi K, Baba E., Successful chemoradiotherapy for undifferentiated malignant neoplasm arising from the left pulmonary artery. <i>Case Rep Oncol.</i> 2014 Jul 16, 7(2), 484-90, 2014
25	Yamauchi H, Goto T, Takayoshi K, Sagara K, Uoi M, Kawanabe C, Matsunaga M, Miyoshi T, Uchino K, Misumi N, Nishino T., A retrospective analysis of the risk factor for allergic reactions induced by the administration of oxaliplatin, <i>Eur J Cancer Care</i> , 24, 111-6, 2015
26	Inadom K, Kumagai H, Takayoshi K, Ariyama H, Kusaba H, Nishie A, Yamamoto H, Takase K, Tanaka M, Sagara K, Okumura Y, Nio K, Nakano M, Arita S, Oda Y, Akashi K, Baba E., Successful combination chemotherapy for metastatic inflammatory myofibroblastic tumor: A case report, <i>Oncology Lett</i> , 10, 2981-2985, 2015
27	Nio K, Arita S, Isobe T, Kusaba H, Kohashi K, Kajitani T, Tamura S, Hirano G, Mitsugi K, Makiyama A, Esaki T, Ariyama H, Oda Y, Akashi K, Baba E., Amrubicin monotherapy for patients with extrapulmonary neuroendocrine carcinoma after platinum-based chemotherapy, <i>Cancer Chemother Pharm</i> , 75, 829-835, 2015
28	Takayoshi K, Tamura S, Uchino K, Nio K, Nakano M, Shirakawa T, Suzuki SO, Yoshimoto K, Mizoguchi M, Nakashima T, Yamamoto H, Shioyama Y, Yoshitake T, Ariyama H, Kusaba H, Akashi K, Baba E., Successful multimodal therapy for undifferentiated carcinoma with neuroendocrine differentiation in the clival region, <i>Int Cancer Conf J</i> , 4, 105-110, 2015
29	Okumura Y, Komoda M, Tamura S, Kumagai H, Shirakawa T, Arita S, Ariyama H, Kusaba H, Umeno J, Matsumoto T, Yamamoto H, Oda Y, Akashi K, Baba E., Anti-HER2 combination chemotherapy for advanced gastric cancer associated with the Peutz-Jeghers syndrome: a case report and literature review, <i>Int Cancer Conf J</i> , 3, 165-168, 2015
30	Li H, Wang S, Takayama K, Harada T, Okamoto I, Iwama E, Fujii A, Ota K, Hidaka N, Kawano Y, Nakanishi Y., Nicotine induces resistance to erlotinib via cross-talk between $\alpha 1$ nAChR and EGFR in the non-small cell lung cancer xenograft model., <i>Lung Cancer</i> , 88(1), 1-8, 2015
31	Yoneshima Y, Okamoto I, Arimura-Omori M, Kimura S, Hidaka-Fujimoto N, Iwama E, Harada T, Takayama K, Nakanishi Y., Infected complex renal cysts during crizotinib therapy in a patient with non-small cell lung cancer positive for ALK rearrangement., <i>Invest New Drugs</i> , 33(2), 510-2, 2015
32	Takayoshi K, Sagara K, Uchino K, Kusaba H, Sakamoto N, Iguchi A, Baba E., A case of metastatic renal cell carcinoma and bile duct carcinoma treated with a combination of sunitinib and gemcitabine., <i>BMC Cancer</i> , 15, 426, 2015
33	Inadomi K, Kumagai H, Takayoshi K, Ariyama H, Kusaba H, Nishie A, Yamamoto H, Takase K, Tanaka M, Sagara K, Okumura Y, Nio K, Nakano M, Arita S, Oda Y, Akashi K, Baba E., Successful combination chemotherapy for metastatic inflammatory myofibroblastic tumor: A case report., <i>Oncol Lett</i> , 10(5), 2981-2985, 2015
34	Wang H, Ikegami T, Harada N, Yoshizumi T, Soejima Y, Uchiyama H, Yamashita Y, Itoh S, Harimoto N, Kawanaka H, Shirabe K, Maehara Y., Optimal changes in portal hemodynamics induced by splenectomy during living donor liver transplantation, <i>Surg Today</i> , 45, 979-85, 2015
35	Yuki Betsuki, Yoichi Yamashita, Shinji Ito, Kenji Hatamoto, Ken Shirabe, Yoshihiro Maehara, Predictors of the Effectiveness of Prophylactic Drains After Hepatic Resection, <i>World J Surg</i> , 39, 2453-2549, 2015
36	Kentaro Inoue, Tomohiro Iguchi, Shuhei Ito, Takefumi Ohga, Tadahiro Nozoe, Ken Shirabe, Takahiro Ezaki and Yoshihiko Maehara, Rerupture of nonparasitic liver cyst treated with cyst fenestration: a case report, <i>Surg Case Rep</i> , 1, 71, 2015
37	Nishimura S., Saeki H., Nakanoko T., Kasagi Y., Tsuda Y., Zaitu Y., Ando K., Nakashima Y., Imamura Y, Ohgaki K., Oki E., Ohga S., Nakamura K., Morita M., Maehara Y., Hyperthermia Combined with Chemotherapy for Patients with Residual or Recurrent Oesophageal Cancer After Definitive Chemoradiotherapy, <i>Anticancer Res</i> , 35(4), 2299-2304, 2015
38	Matsubara Y, Morisaki K, Matsuda D, Aoyagi Y, Tanaka S, Okadome J, Fukunaga R, Matsumoto T, Maehara Y, Thoracic endovascular aortic repair and coil embolization of the pulmonary artery for primary racemosehemangioma of the bronchial artery with a bronchial-pulmonary artery fistula, <i>Vascular: CaseReports</i> , 23(4), 436-439, 2015
39	Matsubara Y, Matsumoto T, Aoyagi Y, Tanaka S, Okadome J, Morisaki K, Shirabe K, Maehara Y., Sarcopenia is a prognostic factor for overall survival in patients with critical limb ischemia, <i>J Vasc Surg</i> , 61, 945-950, 2015
40	Korehisa S., Ohgaki K., Yukaya T., Zaitu Y., Tsuda Y., Ando K., Nakashima Y., Imamura Y., Saeki H., Oki E., Maehara Y., Laparoscopic Total Gastrectomy for RGC: Four Case Reports, <i>Anticancer Res</i> , 35(9), 5023-5026, 2015
41	Shimokawa M, Itoh S, Ikegami T, Takeishi K, Harimoto N, Yamashita Y, Yoshizumi T, Kawanaka H, Shirabe K, Maehara Y., Local Therapy Improvement of Outcome in a Patient with Recurrent Hepatocellular Carcinoma After Living Donor Liver Transplantation : A Case Report, <i>Anticancer Res</i> , 35, 3525-3530, 2015
42	Haratake N, Yamazaki K, Shikada Y, Diaphragmatic hernia caused by heterotopic endometriosis in Chilaiditi syndrome : Report of a case, <i>Surg Today</i> , 45(9), 1194-6, 2015
43	Yoshiga R, Morisaki K, Matsubara Y, Yoshiya K, Inoue K, Matsuda D, Aoyagi Y, Tanaka S, Okadome J, Matsumoto T, Maehara Y., Emergency thoracic aortic stent grafting for acute complicated type B aortic dissection after a previous abdominal endovascular aneurysm repair, <i>Surg Case Rep</i> , 1, 99, 2015
44	Haratake N, Shoji F, Kozuma Y, Takamori S, Akamine T, Takada K, Katsura M, Okamoto T, Maehara Y., Giant leiomyoma arising from the mediastinal pleura: A case report, <i>Ann Thrac Cardiovasc Surg</i> , Epub, 2016
45	Kusaba H, Kumagai H, Inadomi K, Matsunobu T, Harimaya K, Takayoshi K, Arita S, Ariyama H, Akashi K, Baba E., Efficacy analysis of the aprepitant-combined antiemetic prophylaxis for non-round cell soft-tissue sarcoma patients received adriamycin and ifosfamide therapy, <i>Medicine (Baltimore)</i> , 95(49), e5460, 2016
46	Shirakawa T, Nakano M, Nio K, Tamura S, Komoda M, Kumagai H, Uchino K, Arita S, Shibata Y, Ariyama H, Kusaba H, Akashi K, Baba E., Retrospective analysis of cardiovascular diseases in chemotherapies for advanced solid tumor patients, <i>Anti-Cancer Drugs</i> , 27, 891-898, 2016
47	Tsuchihashi K, Okazaki S, Yoshikawa M, Seishima S, Ishikawa M, Sampetean O, Onishi N, Ohmura M, Abe S, Takao A, Shimizu M, Masuko T, Wakimoto H, Nagane M, Furnari F, Suematsu M, Baba E, Akashi K, Saya H, Nagano O., The EGF receptor promotes malignant potential of glioma by regulating system xc(-) and NMDA receptor., <i>Cancer Res</i> , 76, 2954-63, 2016

※ P33 補足データ：「高度先端臨床腫瘍学コース」における履修生の研究成果（英文誌）（つづき）

48	Arita S, Shirakawa T, Matsushita Y, Kumagai H, Hirano G, Makiyama A, Shibata Y, Tamura S, Esaki T, Mitsugi K, Ariyama H, Kusaba H, Akashi K, Baba E., An expanded safety of TAS-102 in a multicenter retrospective study of salvage chemotherapy for advanced or recurrent colorectal cancer, <i>Anticancer Res</i> , 36, 1959-66, 2016
49	Nio K, Higashi D, Kumagai H, Arita S, Shirakawa T, Nakashima K, Shibata Y, Esaki M, Ueki T, Nakano M, Ariyama H, Kusaba H, Hirahashi H, Oda Y, Esaki T, Futami K, Akashi K, Baba E., Safety analysis of chemotherapy for metastatic colitis-associated colorectal cancer in Japan., <i>Anti-Cancer Drugs</i> , 27, 457-63, 2016
50	Inadomi K, Kumagai H, Arita S, Tsuruta N, Takayoshi K, Mishima M, Ota S, Tanaka M, Okumura Y, Sagara K, Nio K, Nakano M, Uchi H, Yamamoto H, Ariyama H, Kusaba H, Niuro H, Oda Y, Akashi K, Baba E., Bi-cytopenia possibly induced by anti-PD-1 antibody for primary malignant melanoma of the esophagus: A case report, <i>Medicine (Baltimore)</i> , 95, e4283, 2016
51	Kuwayama M, Uchino K, Takayoshi K, Komoda M, Kohjima M, Nakamura M, Momosaki S, Kusaba H, Akashi K and Baba E., Immunosuppressant therapy successfully improved regorafenib-induced severe hepatic injury in a patient with metastatic gastrointestinal stromal tumor: A case report., <i>Oncol Lett</i> , 11(1), 85-88, 2016
52	Nio K, Arita S, Isobe T, Kusaba H, Kohashi K, Kajitani T, Tamura S, Hirano G, Mitsugi K, Makiyama A, Esaki T, Ariyama H, Oda Y, Akashi K, Baba E., Amrubicin monotherapy for patients with extrapulmonary neuroendocrine carcinoma after platinum-based chemotherapy., <i>Cancer Chemother Pharm</i> , 75, 829-835, 2016
53	Takayoshi K, Ariyama H, Tamura S, Yoda S, Arita T, Yamaguchi T, Ozono K, Yamamoto H, Inadomi K, Kumagai H, Tanaka M, Okumura Y, Sagara K, Nio K, Nakano M, Arita S, Kusaba H, Odashiro K, Oda Y, Akashi K and Baba E., Intraluminal superior vena cava metastasis from adenocarcinoma of the duodenum: A case report., <i>Oncol Lett</i> , 11, 605-609, 2016
54	Yoneshima Y, Abolhassani N, Iyama T, Sakumi K, Shiomi N, Mori M, Shiomi T, Noda T, Tsuchimoto D, Nakabeppu Y., Deoxyinosine triphosphate induces MLH1/PMS2- and p53-dependent cell growth arrest and DNA instability in mammalian cells., <i>Sci Rep</i> , 6, 32849, 2016
55	Sakata S, Saeki S, Okamoto I, Otsubo K, Komiya K, Morinaga R, Yoneshima Y, Koga Y, Enokizu A, Kishi H, Hirosako S, Yamaguchi E, Aragane N, Fujii S, Harada T, Iwama E, Semba H, Nakanishi Y, Kohroggi H., Phase II trial of weekly nab-paclitaxel for previously treated advanced non-small cell lung cancer: Kumamoto thoracic oncology study group (KTOSG) trial 1301., <i>Lung Cancer</i> , 99, 41-45, 2016
56	Nosaki K, Satouchi M, Kurata T, Yoshida T, Okamoto I, Katakami N, Imamura F, Tanaka K, Yamane Y, Yamamoto N, Kato T, Kiura K, Saka H, Yoshioka H, Watanabe K, Mizuno K, Seto T., Re-biopsy status among non-small cell lung cancer patients in Japan: A retrospective study., <i>Lung Cancer</i> , 101, 1-8, 2016
57	Hirai F, Edagawa M, Shimamatsu S, Toyozawa R, Toyokawa G, Nosaki K, Yamaguchi M, Seto T, Twakenoyama M, Ichinose Y., c-kit mutation-positive advanced thymic carcinoma successfully treated as a mediastinal gastrointestinal stromal tumor: A case report., <i>Mol Clin Oncol</i> , 4, 527-529, 2016
58	Shimizu T, Seto T, Hirai F, Takenoyama M, Nosaki K, Tsurutani J, Kaneda H, Iwasa T, Kawakami H, Noguchi K, Shimamoto T, Nakagawa K., Phase 1 study of pembrolizumab (MK-3475; anti-PD-1 monoclonal antibody) in Japanese patients with advanced solid tumors., <i>Invest New Drugs</i> , 34, 347-354, 2016
59	Toyokawa G, Taguchi K, Edagawa M, Shimamatsu S, Toyozawa R, Nosaki K, Hirai F, Yamaguchi M, Shimokawa M, Seto T, Takenoyama M, Hamamoto R, Sugio K, Ichinose Y., The Prognostic Impact of Jumoni Domain-containing 2B in Patients with Resected Lung Adenocarcinoma., <i>Anticancer Res</i> , 36, 4841-4846, 2016
60	Anai S, Takeshita M, Ando N, Ikematsu Y, Mishima S, Ishida K, Inoue K., A Case of Lung Adenocarcinoma Resistant to Crizotinib Harboring a Novel EML4-ALK Variant, Exon 6 of EML4 Fused to Exon 18 of ALK., <i>J Thorac Oncol</i> , 11, e126-8, 2016
61	Nishimura S, Oki E, Tsutsumi S, Tsuda Y, Sugiyama M, Nakashima Y, Sonoda H, Ohgaki K, Saeki H, Maehara Y., The possibility of totally laparoscopic distal gastrectomy – comparison of short-term outcomes with open and laparoscopic-assist distal gastrectomy, <i>Surg Laparosc Endosc Percutan Tech</i> , 26, 372-376, 2016
62	Korehisa S, Saeki H, Yuichiro N, Nakaji Y, Tsutsumi S, Yukaya T, Tajiri H, Kasagi Y, Sonoda H, Sugiyama M, Ohgaki K, Oki E, Hirahashi M, Yamamoto H, Maehara Y, Mixed spindle and epithelioid cell type gastrointestinal stromal tumor of the esophagus: a case report., <i>Esophagus</i> , 13, 301-305, 2016
63	"Taniguchi D, Saeki H, Nakashima Y, Tsutsumi R, Nishimura S, Kudou K, Nakaji Y, Tajiri H, Tsutsumi S, Yukaya T, Nakanishi R, Sugiyama M, Sonoda H, Ohgaki K, Oki E, Maehara Y., Development of fistula between esophagogastric anastomotic site and cartilage portion of trachea after subtotal esophagectomy for cervical esophageal cancer: a case report., <i>Surg Case Rep</i> , 1, 107, 2016"
64	Hirose K, Okabe H, Yoshizumi T, Uchiyama H, Ikegami T, Harimoto N, Itoh S, Kimura K, Baba H, Maehara Y., A case report of bacteremia manifesting as an overwhelming postsplenectomy infection due to <i>Streptococcus pneumoniae</i> post vaccination, <i>Surg Case Rep</i> , 2, 48, 2016
65	Yoshihiro T, Nio K, Tsuchihashi K, Ariyama H, Kohashi K, Tsuruta N, Hanamura F, Inadomi K, Ito M, Sagara K, Okumura Y, Nakano M, Arita S, Kusaba H, Oda Y, Akashi K, Baba E., Pancreatic acinar cell carcinoma presenting with panniculitis, successfully treated with FOLFIRINOX regimen: A case report, <i>Mol Clin Oncol</i> , in press, 2017
66	Tsuruta N, Takayoshi K, Arita S, Aikawa T, Ariyama H, Kusaba H, Ohuchida K, Nagai E, Kohashi K, Hirahashi M, Inadomi K, Tanaka M, Sagara K, Okumura K, Nio K, Nakano M, Nakamura M, Oda Y, Akashi K, Baba E., Systemic chemotherapy with pronounced efficacy and neutropenia in a granulocyte-colony stimulating factor-producing advanced gastric neuroendocrine carcinoma., <i>Oncol Lett</i> , in press, 2017
67	Yoshihiro T, Tsuchihashi K, Kusaba H, Nakashima T, Obara T, Nio K, Takayoshi K, Kodama H, Kiyohara H, Tsuruta N, Kiyohara H, Asai K, Harada E, Kamezaki K, Arita T, Sato M, Yamamoto H, Arita S, Ariyama H, Odashiro K, Oda Y, Akashi K, Baba E., Cardiac metastasis of squamous cell carcinoma of the thyroid gland with severe disseminated intravascular coagulation (DIC): A case report, <i>Mol Clin Oncol</i> , 6, 91-95, 2017
68	Toh H, Shirane K, Miura F, Kubo N, Ichiyonagi K, Hayashi K, Saitou M, Suyama M, Ito T, Sasaki H., Software updates in the Illumina HiSeq platform affect whole-genome bisulfite sequencing., <i>BMC Genomics</i> , 18, 31, 2017
69	Otsubo K, Goto H, Nishio M, Kawamura K, Yanagi S, Nishie W, Sasaki T, Maehama T, Nishina H, Mimori K, Nakano T, Shimizu H, Mak TW, Nakao K, Nakanishi Y, Suzuki A., MOB1-YAP1/TAZ-NKX2.1 axis controls bronchioalveolar cell differentiation, adhesion, and tumor formation., <i>Oncogene</i> , in press, 2017
70	Nakaji Y, Oki E, Nakanishi R, Ando K, Sugiyama M, Nakashima Y, Yamashita N, Saeki H, Oda Y, Maehara Y., Prognostic value of BRAF V600E mutation and microsatellite instability in Japanese patients with sporadic colorectal cancer, <i>J Cancer Res Clin Oncol</i> , 143(1), 151-160, 2017

久留米大学

概要

久留米大学は、悪性腫瘍治療の認定医もしくは専門医、さらには指導者として社会に貢献できる医師を養成するための「化学薬物療法専門医養成コース」、「放射線療法専門医養成コース」、「緩和医療専門医養成コース」を設置している。また、地域（在宅を含む）および施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの過程において、患者とその家族のニーズに応えられる専門的な知識、実践力を身につけ、さらに、がん医療の現場においてがん看護のスペシャリストとしてその役割を果たせる人材の育成をめざす「がん看護専門看護師教育課程」において、本学のがんプロ事業の運営を担っている。

各コースの内容

1. 博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット (大学院医学研究科個別最適医療系専攻)

①「化学薬物療法専門医養成コース」、②「放射線療法専門医養成コース」、③「緩和医療専門医養成コース」

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	①がん薬物治療 ②放射線治療 ③緩和医療
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限(期間)	4年
コースの履修対象者	医学研究科博士課程個別最適医療系専攻 大学院生		
養成する人材像	がん医療の各専門分野において、治療・研究のプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム)	・日々進展する医学やがん治療のニーズに対応できるがん治療専門医師の輩出。 ・がんプロ全国 e-learning クラウドなどを利用することによる学習の効率化。		
教育内容の特色等	がんプロ全国 e-learning クラウドによる単位認定や連携大学間での単位互換などを教育手法として導入するとともに、重粒子線治療、肝癌治療及び癌ワクチン療法に関する教育に取り組む。		

2. 修士課程看護学専攻「専門職養成コースがん看護分野 CNS 養成」(大学院医学研究科医科学専攻)

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限(期間)	2年
コースの履修対象者	医学研究科修士課程医科学専攻 大学院生		
養成する人材像	地域及び施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの過程で、患者とその家族のニーズに応えられる高度実践能力を備えた看護師。		

当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	従来の看護ケアに加え、高度な知識や技術に基づいた治療を行い、チーム医療の一役を担って協働することができる看護師の輩出。
教育内容の特色等	地域医療機関及び施設と連携し、がんの在宅療養者及び家族への訪問看護演習を行うなかで看護援助及びがん看護専門看護師が果たす役割について探求する。

3. 博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット（大学院医学研究科個別最適医療系専攻）

- ①「化学薬物療法専門医養成コース（インテンシブ）」、②「放射線療法専門医養成コース（インテンシブ）」、③「緩和医療専門医養成コース（インテンシブ）」

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	①がん薬物治療 ②放射線治療 ③緩和医療
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	医学研究科博士課程個別最適医療系専攻 科目等履修生		
養成する人材像	がん医療における各専門分野において、がんのプロフェッショナルとして地域社会に貢献できる人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	大学院での履修に伴いスキルアップした人材を地域へ還元することができ、地域病院などでのがん専門医療の質を保証する。 がんプロ全国 e-learning クラウドなどを利用することにより、時間的・空間的制限を解消し効率的な知識習得ができる。		
教育内容の特色等	がんプロ全国 e-learning クラウドによる単位認定や連携大学間での単位互換などを教育手法として導入する。		

4. 修士課程「科目等履修制度」（インテンシブ）（大学院医学研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻修士課程 科目等履修生		
養成する人材像	地域及び施設におけるがんの予防から終末期の緩和ケアまでの過程で、患者とその家族のニーズに応えられる高度実践能力を備えた看護師。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	大学院での履修に伴いスキルアップした人材を地域へ還元することができ、地域医療機関や施設などでのがん看護の質を保証する。		
教育内容の特色等	在宅療養者への看護実践を学ぶとともに、がんプロ全国 e-learning クラウドについても有効に活用する。		

養成実績

コース名	入学人数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「化学薬物療法専門医養成コース」、「放射線療法専門医養成コース」、「緩和医療専門医養成コース」	－	0	2	0	0
修士課程看護学専攻「専門職養成コースがん看護分野 CNS 養成」	－	0	0	1	4
博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「化学薬物療法専門医養成コース（インテンシブ）」、「放射線療法専門医養成コース（インテンシブ）」、「緩和医療専門医養成コース（インテンシブ）」	－	0	0	0	0
修士課程「科目等履修制度」（インテンシブ）	－	1	0	0	0

主な取組みと成果

がん医療に携わる専門的な従事者の育成状況

【平成24年度】

重粒子線治療、肝癌治療及びがんワクチン療法に関するプロフェッショナル養成に向けてカリキュラムの検討・新設準備

【平成25年度】

■博士課程科目の新設

「肝発癌の予防および肝癌治療の実習」

- ・ラジオ波焼灼療法、肝動脈化学塞栓術、肝動注化学療法を実際に見学して手技について学ぶ。

「がんワクチン療法の実際」

- ・がんワクチン療法の原理、検査、製剤、投与方法、投与レジメン、有害事象、併用療法、患者ケア、薬効及び安全性評価法などについて学ぶ。

■修士課程科目の新設

「がん看護学在宅実習」を新設し、在宅で療養するがん患者や家族が抱える問題を在宅医療にかかわる他職種と連携しながら、広い視野からがん看護専門看護師の果たす役割について考察し、専門知識と技術に基づいた生活調整を行える看護実践能力の習得を教育目標とする。

■博士課程2科目について e-ラーニングシステム「がんプロ全国 e-learning クラウド」試聴を行うことにより単位認定する。

■全国 e-learning クラウド向けの講義を2コマ作成

共通4（臨床腫瘍学概論） 代表的疾患の標準治療 1 消化管がん

共通4（臨床腫瘍学概論） 代表的疾患の標準治療 2 肝・胆・膵

- 次年度大学院生募集及び修士課程科目等履修生（インテンシブ）募集
学生募集にあわせてチラシを作成。

【平成26年度】

- 平成26年度 2名入学（博士課程）

- 大学病院腫瘍センターHPでがんプロ大学院に関する情報を発信



- 次年度大学院生募集及び修士課程科目等履修生（インテンシブ）募集
学生募集にあわせてチラシを作成。

【平成27年度】

- 平成27年度 1名入学（修士課程）

- 次年度大学院生募集及び修士課程科目等履修生（インテンシブ）募集
学生募集にあわせてチラシを作成。

【平成28年度】

- 修士課程医科学専攻臨床看護学群がん看護論「がん看護専門看護師教育課程」から
修士課程看護学専門職養成コースがん看護分野 CNS養成へ組織および名称変更

- 学内のがん関連部門との相互協力

- 平成28年度 4名入学（修士課程）

セミナー、講演会等の開催

- 久留米粒子線治療研究会セミナーの開催

重粒子線治療の役割についての知識を深め、久留米・筑後地区医療関係者の知見を広める。

H24.12：東北大学大学院医学研究科内科病態学講座放射線腫瘍学分野 神宮 啓一 教授を講師にお招きし、『重粒子線治療の基礎とこれまでの臨床試験結果』について講演いただいた。

H25.12：筑波大学付属病院 放射線腫瘍科 石川仁 准教授 を講師にお招きし、平成25年度、九州重粒子線がん治療センターの開設に伴い、粒子線治療について久留米・筑後地区の医療関係者を対象にした研究会を行った。

■先端癌セミナーの開催（2回）

H24.1：九州大学生体防御医学研究所 遺伝情報実験センター 山本 健 准教授 をお招きし、『GWA SおよびEWA Sによる疾患関連遺伝子解析とその応用』について講演いただいた。

H24.2：九州大学生体防御医学研究所 器官発生再生学分野 鈴木 淳史 准教授 をお招きし、『肝臓における幹細胞研究の進展と次世代医療への挑戦』について講演いただいた。肝癌の発生機序を理解し、肝発癌予防や進行肝癌に対する治療法開発に役立てる。

■地域がん医療貢献

がん看護専門看護師育成研修会（久留米ネットワークの会）

H25.3.2：現在活躍しているがん看護CNSを講師として、体験に基づいた貴重な意見を聞くことができ、修了生は、プレCNSとしての活動の幅を広がることにつながり、在學生は地域に根ざすがん看護CNSの役割をイメージすることができた。

■がん看護専門看護師教育課程セミナーの開催

H25.10：

- ・基調講演 神戸市看護大学 鈴木 志津枝 学長をお招きし、『がん看護実践能力を高めあうために』をテーマに講演いただいた。
- ・シンポジウム 看護師3名を講師にお招きし、病棟看護師の立場／緩和ケア認定看護師の立場／がん看護専門看護師の立場それぞれの看護実践の場における課題を明らかにし、在宅療養を希望する患者家族を支援する病棟看護師および、在宅ケアに関する他職種のがん看護実績能力の向上に向けて、専門看護師がどのように役割を発揮し、連携・協働していくことが良いケアにつながるかを考える場となった。
- ・ディスカッション がん看護専門看護師対象に行った。

H26.2.1：

- ・平成26年度は、がん看護専門看護師教育課程セミナーと地域医療機関との合同セミナーをコラボレーション企画。
- ・第一部 日本の緩和ケアの先駆者である北海道医療大学 石垣 靖子 客員教授 をお招きし、療養の場が在宅へと移行し、病院と地域における他職種連携がますます求められている中、広く医療職の方へ案内し、よりよい支援とは？について考える。
- ・第二部 がん看護専門看護師・教育課程修了者による事例検討会を実施。

教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施

【平成27年度】

H27.12.19～20

コミュニケーション技術研究会 1回開催 8名参加

がん患者が納得したうえで安心して治療を受けることができるように患者・医師間のより一層の良好なコミュニケーションを目指して、悪い知らせの伝え方を軸としたコミュニケーション技術を学ぶ。

H28.3.23

がん看護専門看護師養成課程、在校生および修了生を対象として、がん看護専門看護師教育課程セミナーとしてコミュニケーション技術についての研究会を開催した。



テーマ「実践的なストレスマネジメントと指導者としての心得」講師：えな・ヒューマンサポート代表 臨床心理士、家族心理士 森川早苗先生10名の参加者があった。

【平成28年度】

H29.3.4～5

コミュニケーション技術研究会 開催予定

参加者 6名（予定）

社会への情報発信

【平成27年度】

ホームページ更新頻度 年2回程度

院内合同カンファレンスの取り組み

【平成27年度】

1回開催 医師、専門看護師、看護師、薬剤師等16名参加

がん診療拠点、緩和ケア専門病院との合同セミナーの取り組み

【平成27年度】

筑後地区の9緩和ケア病棟ががん診療拠点病院である当院に偶数月に集まり、症例報告を中心に緩和ケアの向上を目指して話し合いを行った。他施設の良い点について学びそれぞれの施設で緩和ケアに生かすことを目的とした。

6回開催 医師、専門看護師、看護師、薬剤師、リハビリ技師、介護福祉士等200名参加

【平成28年度】

がん教室の開催

原則毎月第1月曜日に患者さんとご家族を対象としたがんに関連する暮らしに役立つセミナーを開催している。医師・看護師・薬剤師等が講師となり、毎回異なるテーマを扱っている。平成28年度は「がん相談支援センターの上手な利用方法」や「もっと身近に緩和ケア」など計11回開催した。



地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣

【平成27年度】

がん看護専門看護師養成コースでは、1) 在宅で療養する患者・家族の生活を理解するため、2) がんの専門家となり、地域医療を推進するために必要となる実践を学ぶことを目的に、訪問看護ステーションと地

域連携センターでのがん看護学在宅実習を実施した。平成27年度は、3/10～16に1名が参加した。

《平成27年度がん看護専門看護師教育課程で在宅訪問看護の実習に行った学生の記録を一部抜粋》

訪問看護師は、このようにご家族だけで困難な状況を乗り越えることが難しい場合、家族個々を尊重し患者・家族にとって潜在的・顕在的問題を明らかにしながら、ご家族が新たな対処法を見つけて生活できるように支援する役割を持つ。必要な支援を的確に行うためには家族全体を理解し、日ごろの関係性など家族それぞれの考え方、日ごろの関係性など家族機能についてアセスメントし把握することが必要となる。家族の対処行動には家族間のコミュニケーション、家族それぞれの考え方、日ごろの生活習慣などが大きく影響するため、家族の個性を十分尊重し家族が受けやすい方法で支援していくことが大切になってくる。

また、在宅療養を支援するに当たっては、訪問看護師だけでなく医師、ケアマネージャー、介護士、リハビリセラピスト、薬剤師等の他職種との連携が不可欠である。今回の実習において、全身状態が急激に悪化した患者の看護を通し、患者の意思を尊重するためにはどこにどのように働きかけるのか瞬時に判断され、状態が悪化しても在宅療養の継続ができるように、多職種の役割を理解して働きかけ、患者の望みがかなえられるように調整する専門看護師の役割を見ることができた。そのためには、患者にいつ何が起きても対応できるように普段から顔の見える関係性を保ち、信頼関係を構築しておくことが重要である。それぞれの専門性を尊重し対等な立場で話し合い、患者のベストのための医療が提供できるチーム作りが大切であり、在宅療養の場における専門看護師の果たす役割は大きいということが理解できた。

【平成28年度】

2/25～3/27に4名が在宅訪問看護ステーションと大学病院外来での実習に参加する予定。

地域医療機関との合同のセミナーの取り組み

【平成26年度】

H27.2.1 :

がん看護専門看護師教育課程セミナーと地域医療機関との合同セミナーをコラボレーション企画し、広く参加者を募った。第一部では、患者・家族が望む療養法を選択し、生活を支えていくために多職種の方との連携や協働のため必要なことを北海道医療大学 石垣 靖子 客員教授 から講演いただいた。第2部では参加者をグループに分けて、困難な事例への対処方法について検討を行った。

【平成27年度】

H27.4.25

慢性病やがんを患いながら地域で生活する患者とその家族は増加しており、その中でも高齢化が進んでいる現状で、その方々を支援するには様々な困難なことが多い。そこで、医療者は、患者・家族が望む療養法を選択し、生活していくことを支えられるように多職種との切れ目のない連携・協働や、人的・物的資源の調整能力を身につけることが急務となってきた。そこで、茨城県立中央病院・がんセンターの角田直枝局長に、地域に根ざした退院支援について自ら実践されていることをご講演頂き、参加者同士が意見交換を行いながら、より良い退院支援につながる手立てを見つけていくことを目的として開催した。

参加者は70名（病棟主任、師長）以上で、事例の振り返りによる、退院支援のための病院側の具体策について討論することができた。

H28.3.19

介護保険制度は15年経過し、2025年問題も見据えて「地域包括ケアシステム」を充実させていくことが求められているため、平成26年度の退院支援研修会に引き続き、「地域包括ケアシステム」の実際について理解し、実践できることを考える目的で開催した。

地域に根ざした退院支援の実際として、久留米と茨城県立中央病院における地域連携についてご講演を頂き、専門看護師は「地域包括ケアシステム」の中で暮らす患者・家族を、いつ、どこで、どのように支える

ことができるのかについて意見交換を行った。40名参加者があり、生活者の視点をベースに持ち、予防的視点でアセスメントできる能力を身につけたコーディネーターを養成することの必要性が課題となった。

【平成28年度】

先端癌治療研究センター（がんワクチン・肝癌・分子外科・がん免疫）の各部門との共同で各セミナー、講演会を開催することで、学生の専門的な知識の吸収・理解を求めモチベーションの維持に努めた。

（分子標的セミナー5回開催 BMWWSの会8回開催 年内に各1回ずつ開催予定）

H29.3.25

修士課程 CNS 養成コースの在校生と修了生で組織されている久留米ネットワークの会の総会で開催する特別講義としてがんプロセミナーを開催する予定である。テーマは「倫理的視点を育てるための現場教育（仮題）」で、実践現場にいる専門看護師がスタッフ教育に果たす役割を考える。

地域医療機関との合同のカンファレンスの取り組み

【平成27年度】

大学病院を退院後、在宅ですごす患者・家族の経過を知ることから、入院中に実践していたケアを評価できること、また現在の状況を知ること、看護の視点から助言できることがあり、意見交換とケアの質評価の機会となった。

3回開催 3名参加

地域卒業者のがんプロ大学院入学生

平成27年度 1名

平成28年度 4名

総括：これまでの経過と望まれる検討

がんプロ養成基盤推進プランの中で、久留米大学は医学科のコーディネーターのもと、博士課程個別最適医療系、先端癌治療学、悪性腫瘍専門医養成ユニットに化学薬物療法専門医養成コース、放射線療法専門医養成コース、緩和医療専門医養成コース、修士課程看護学専攻がん看護分野に、CNS 養成コースを設置しています。その中で、講義に加えて、博士課程では、肝動注化学療法、肝動脈化学塞栓術、がんワクチン療法、重粒子線治療、緩和ケア等のセミナーを開催しています。緩和ケアセミナーへの平成25年度年間参加者数は240名と群を抜いています。

また、修士課程 CNS 養成コースでは、地域（在宅を含む）および施設、がん医療の現場におけるがんの予防から終末期までの過程において、がん看護のスペシャリストとして役割を果たせることをねらい、修了生と共に企画担当を行い、毎年セミナーを開催することで、知識を深め、研究にもつながる実績を残してきております。

問題点として入学者数の確保、指導者充実です。企画を実践するための時間的負担、マンパワー不測は否めません。今までのがんプロ養成基盤推進プランにより、資金面および教育面から多大な支援を頂きました。また、がん予防に向けて市民向け公開講座は参加者も多く、お話しする側の私たちにも学びとなりました。そこで、がんプロ基盤養成で開催されていた全体研修会や市民公開講座のように、最新の診断治療に関する内容のものは、これからも継続していく必要性を感じます。久留米大学では、博士課程専門医養成、修士課程 CNS 養成コースは継続しますので、がん診療連携拠点病院としての役割を果たすことを通じ、九州の大学間でがんに関する情報を共有し、研修会を共催する等により、横のつながりを持って進めていきたいと考えています。

産業医科大学

概要

産業医科大学は、「がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、「臨床腫瘍医養成コース」と「放射線腫瘍医養成コース」の二つのコースを設置し、放射線療法、化学療法、手術療法、緩和ケア、小児がん、がん研究等のがん医療に携わる専門医を育成するとともに、チーム医療、がん登録、がんの普及啓発等の推進を目指している。

各コースの内容

1. 臨床腫瘍医養成コース（大学院医学研究科医学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	臨床腫瘍医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	大学院医学研究科 大学院生（医学専攻）		
養成する人材像	臨床腫瘍専門医養成を基本とした上で、高度な研究能力も有することに加え、チーム医療のリード、がん患者の社会生活面での支援等の能力を有し、将来的にはがんセンター等の病院のがん診療体制にも参画しうる人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	複数大学が連携した継続的な養成システムの構築により、教育や医療における知見、技術等の高度化、共有・均質化が期待される。また、患者の職場復帰や就労支援といった側面からのがん患者支援の向上が期待される。		
教育内容の特色等	既存の臨床腫瘍専門医の養成カリキュラムに、以下の教育手法・教育内容を取り入れることで発展的改変を行い、より実践的な臨床能力と先進的な研究能力の獲得を目指す。 <ul style="list-style-type: none">・産業医科大学病院がんセンターと連携しての多職種との合同カンファレンスの実施。・大学院生を大学病院のカンファレンス等に参加させ、相互に学生教員の交流を促す。・学内の実施体制を整備した上で、講義を補完するものとしてがんプロ全国 e-learning クラウドを取り入れる。・本学の特色を生かし、がん患者の職場復帰支援等の知見を授業として組み込むとともに九州がんプロでも依頼があれば知見を提供する。		

2. 放射線腫瘍医養成コース（大学院医学研究科医学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	放射線腫瘍医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	大学院医学研究科 大学院生（医学専攻）		
養成する人材像	放射線腫瘍専門医養成を基本とした上で、高度な研究能力も有することに加え、チーム医療のリード、がん患者の社会生活面での支援等の能力を有し、将来的にはがんセンター等の病院のがん診療体制にも参画しうる人材を養成する。		

当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	複数大学が連携した継続的な養成システムの構築により、教育や医療における知見、技術等の高度化、共有・均質化が期待される。また、患者の職場復帰や就労支援といった側面からのがん患者支援の向上が期待される。
教育内容の特色等	既存の放射線腫瘍専門医の養成カリキュラムに、以下の教育手法・教育内容を取り入れることで発展的改変を行い、より実践的な臨床能力と先進的な研究能力の獲得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・産業医科大学病院がんセンターと連携しての多職種との合同カンファレンスの実施。 ・大学院生を大学病院のカンファレンス等に参加させ、相互に学生教員の交流を促す。 ・学内の実施体制を整備した上で、講義を補完するものとしてがんプロ全国 e-learning クラウドを取り入れる。 ・本学の特色を生かし、がん患者の職場復帰支援等の知見を授業として組み込むとともに九州がんプロでも依頼があれば知見を提供する。

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
臨床腫瘍医養成コース	－	1	0	1	3
放射線腫瘍医養成コース	－	1	0	0	0

主な取り組みと成果

大学院組織の改革

産業医科大学大学院医学研究科は改組の届出を行い、平成25年度から「博士（医学）」の学位を授与していたそれまでの「生体適応系専攻」、「環境・産業生態系専攻」、「障害機構系専攻」、「生体情報系専攻」の4つの専攻を、「医学専攻」の1つの専攻に纏めた。これに伴い、カリキュラムの大幅な変更を行い、がん専門医師養成科目についても新たに「がんゲノム情報解析Ⅰ」、「がん患者の職場復帰と産業医の役割」、「がんゲノム情報解析Ⅱ」、「がん診療体制の整備とがん診療における医療連携」の4科目4単位を新設した。

なお、平成29年度からは、社会的ニーズ、重要性に鑑み、「救急医学」に係る授業科目を新たに設け、より広い視野を持った医師の育成に努力している。

大学院生への英語による教育

大学院の改組に併せて、グローバルな能力を持ち将来国際的に活躍するために、専門領域の講義とディスカッションを全て英語で行う「医学英語特別コース」を設置し、大学院生が必ず受講する必修科目とした。学生は、大学院担当教員41名がそれぞれ1コマずつ担当する講義の中から9コマを選択して受講し、実践的な英語能力を身につけるとともに、英語の背景にあるものの見方や考え方を学んでいる。

また、アジア各国の医学部・医科大学等から留学生を受入れることで、英語で接する機会を増やしている。

大学間交流

第2回九州がんプロ全体研修会参加

がん治療に関して会場参加型の専門的な研修を行い、かつ九州がんプロ各施設間の情報交換を行う目的で、平成26年12月20日～21日レイクサイドホテル久山にて開催された全体研修会に学生1名を派遣した。

研修会等の参加

RSNA 北米放射線学会出席

放射線腫瘍医養成コースに所属している大学院生は平成26年11月30日から同12月4日にかけて、RSNA (Radiological Society of North America、北米放射線学会) に出席し、放射線治療に関する教育講演と学術発表を5日間集中的に受講した。専門医に必要な放射線治療に関する学術的知識の向上はもちろんのこと、学生は米国と日本における放射線治療の事情の違いを認識できるなど、収穫が大であった。

セミナー・講演会等の開催

(1) 合同がんセンターボード

臓器別がんセンターボードとは別に、産業医科大学病院がんセンターと共同で、教育を主目的とした合同がんセンターボードを年3回開催している。内容としては、特に多職種連携に重きを置いたセミナー形式である。さらにセミナーの内容を全て録画し、また演者のパワーポイントファイルを提供してもらい、がんプロのe-Learning教材ともしている。

特定部位・治療法に絞った「集学的治療の一例」や「緩和ケア」等の内容で開催し、多くの参加があった。医師のみならず、薬剤師、看護師や放射線部、臨床検査・輸血部、リハビリ部等の医療技術職を含めた多職種によるプレゼンに引き続き、参加者全員による総合討論を行っている。これらを通して大学院生は、多職種間の連携の重要性を学ぶことができている。さらに、病理医による病理診断の講義を含めているため、病理診断の重要性に対する意識向上にも繋がっている。

開催日	症例がん種	参加者数(人)
平成25年 7月17日	直腸穿孔にて人工肛門を造設し、化学療法後に根治的手術を施行した直腸癌の一例	68
平成25年 11月20日	放射線療法、化学療法により治療した尿管癌の一例	76
平成26年 3月26日	症状マネジメントチーム(SMT;緩和ケアチーム)のチームアプローチの実際	45
平成26年 7月16日	集学的治療を行った肝細胞癌の一例	103
平成26年 11月19日	集学的治療を行った食道癌の一例	103
平成27年 3月18日	集学的治療を行った前立腺癌の一例	84
平成27年 7月15日	集学的治療を行った肺癌の一例	127
平成27年 11月18日	集学的治療を行った胃癌の一例	71
平成28年 3月9日	当院での舌がん治療における多職種チームによる緩和ケアの実践	90
平成28年 7月13日	乳房再建と集学的治療を行った乳癌の一例	92
平成28年 11月16日	脳転移を来した腎細胞癌に集学的治療を行った一例	76

(2) 市民公開講座

産業医科大学病院がんセンターと共同で、毎年「がんに関する市民公開講座」を開催し、医師、保健師、看護師等がそれぞれの立場からわかりやすく講演したのち、総合討論・質疑応答を行った。医地域住民との交流の場として非常に良い機会となった。終了後のアンケートでも、約90%が参考になったと回答し、また、50%以上ががん治療のイメージが変わったとの回答があり、がん治療への啓発に貢献できた。



開催日	テーマ	参加者数(人)
平成26年 12月13日	がんの緩和ケアとは？	24
平成27年 10月17日	産業医科大学病院における、肺がんの集学的治療～肺がん治療の最前線：不治の病から治せる時代へ！～	76
平成28年 10月29日	胃がんの予防と治療の最前線！	58



教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施

定期的に、頭頸部癌カンサーボード、肺癌カンサーボード、乳癌カンサーボード、胃癌・大腸癌カンサーボード、肝癌カンサーボード、婦人科癌カンサーボード、緩和ケアカンサーボード、泌尿器癌カンサーボードを開催した。さらにすべての部署による合同カンサーボードを、年3回開催し、癌に特化したFDに取り組んだ。

カンサーボード実施状況

※平均は平成28年実績

カンサーボード名	開催	1回当たり平均 検討症例数(例)	1回当たり平均 参加者数(人)
頭頸部癌カンサーボード	隔週	10	19
肺癌カンサーボード	毎週1回	4	16

がんセンターボード名	開催	1回当たり平均 検討症例数（例）	1回当たり平均 参加者数（人）
乳がんセンターボード	毎月1回	2	29
胃癌・大腸がんセンターボード	毎月1回	2	23
肝癌センターボード	毎月1回	2	22
婦人科がんセンターボード	毎週1回	22	21
緩和ケアがんセンターボード	毎週1回	14	13
泌尿器がんセンターボード	毎月1回	2	16

社会への情報発信

平成26年度から、がんセンターと共同で「がんに関する市民公開講座」を年1回開催し、地域住民の「がん治療」についての理解を深めるため情報発信を行った。

また、定期的（年5回）に血液疾患患者会と共同で血液腫瘍関連の勉強会を開催し、社会への情報提供を行った。

産業医科大学病院がんセンターと連携した取り組み

がんセンターと共同で合同がんセンターボード、臓器別がんセンターボードを整備、推進し、包括的な議論ができる環境としている。教員もこれらのがんセンターボードへ常に参加しており、教員の資質・指導能力向上につながっている。

また、「がんに関する市民公開講座」を共同で開催する等、がんセンターと連携して取組を行った。

多職種連携に関するセミナーの取り組み

内視鏡部、放射線部、薬剤部、臨床検査・輸血部、病理部に所属の医療技術者や看護部所属の看護師もがんセンターボードへ参加しており、多職種による連携を推進している。医師だけでなく複数の看護師、医療技術者の発言や討議もあり、多職種の連携の必要性を肌で感じられ、大学院生の意識向上に繋がっている。

院内合同カンファレンスの取り組み

各診療科によるカンファレンス以外に、学外者も参加可能な合同カンファレンスとして、内科系が合同で行う「内科合同クリニカルカンファレンス」、呼吸器腫瘍に特化して内科と外科が合同で行う「呼吸器腫瘍カンファレンス」等を開催している。また、定期的に複数の部署による臓器別がんセンターボードも開催しており、癌に関する横断的な情報の共有及び診療の質の向上に取り組んでいる。

合同カンファレンス名	開催	参加診療科等
内科合同クリニカルカンファレンス	月1回	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科、循環器内科、腎臓内科、消化管内科、肝胆膵内科、呼吸器内科、神経内科、心療内科、血液内科
神経放射線カンファレンス	週1回	神経内科、心療内科、脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科
北九州神経カンファレンス	年2回	神経内科、心療内科、脳神経外科

合同カンファレンス名	開催	参加診療科等
婦人科・放射線合同カンファレンス	週1回	産婦人科、放射線科
耳鼻咽喉科・放射線合同治療カンファレンス	隔週	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科・口腔外科、放射線科
呼吸器腫瘍カンファレンス	週1回	呼吸器・胸部外科、放射線科、呼吸器内科
呼吸器疾患合同カンファレンス	月1回	呼吸器内科、呼吸器・胸部外科、放射線科、病理診断科
乳腺カンファレンス	月1回	呼吸器・胸部外科、消化器・内分泌外科、放射線科、病理部、臨床検査・輸血部、放射線部
肝癌キャンサーボード	月1回	消化器・内分泌外科、消化管内科、肝胆膵内科、放射線科、病理診断科
病理検討会（CPC）	週1回	全科

コース大学院生によるがん医療に関する研究論文

(1) 国際学会・英文誌での論文発表

★Tomura K, et al. Radiotherapy plus hyperthermia for high-risk prostate cancer: thermal parameters correlate with biochemical disease-free survival. European Society for Radiotherapy & Oncology (ESTRO), Annual meeting 2015 April, Barcelona
★K.Tomura, T.Ohguri, S.Yamaguchi, H.Imada, K.Yahara, H.Narisada, S.Ota, M.Sakagami, N.Fujimoto, Y.Korogi Radiotherapy plus hyperthermia for high-risk prostate cancer: thermal parameters correlate with biochemical DFS.3rd ESTRO (The European Society for Radiotherapy & Oncology) Forum (Barcelona, Spain) 2015.4.24-4.28
T.Ohguri, M.Murakami, K.Yahara, ★K.Tomura, M.Sakagami, H.Imada, Y.Korogi Effect of mobile insulator sheets for optimization of the deep heating in regional hyperthermia: a prospective study. 3rd ESTRO (The European Society for Radiotherapy & Oncology) Forum (Barcelona, Spain) 2015.4.24-4.28
K.Yahara, T.Ohguri, ★K.Tomura, M.Sakagami, Y.Korogi, J.Yamamoto, S.Nishizawa, T.Onoda, et al.Chemoradiotherapy using IMRT boosts in combination with hyperbaric oxygen therapy for high grade glioma.3rd ESTRO (The European Society for Radiotherapy & Oncology) Forum (Barcelona, Spain) 2015.4.24-4.28
M Fujii, T.Ohguri, K.Yahara, H.Imada, ★K.Tomura, M.Sakagami, G.Nagatani, H.Suzuki, et al. Hyperfractionated CCRT for head and neck squamous cell cancer: The prognostic impact of the overall treatment time. 3rd ESTRO (The European Society for Radiotherapy & Oncology) Forum (Barcelona, Spain) 2015.4.24-4.28
Cheng X, Sato N, ★Koui S, Yamaguchi K Prognostic Impact of Hyaluronan and Its Regulators in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma PLOS ONE (2013) 8:1-7
Cheng X, Sato N, ★Koui S, ★Koga A, Hirata K Receptor for Hyaluronic Acid-Mediated Motility is Associated with Poor Survival in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma. Journal of Cancer Journal of Cancer (2015) 6:1093-1098
★Koui S, et al. A novel epigenetic mechanism regulating the expression of hyaluronan synthase genes and hyaluronan production in pancreatic cancer cells Clin Exp Metastasis (2016) 33:225-230

★印はコース大学院生

(2) 国内学会・和雑誌での論文発表

★厚井志郎、佐藤典宏、秋山泰樹、森泰寿、田村利尚、皆川紀剛、日暮愛一郎、山口幸二 術前化学療法により腫瘍の縮小を認めRO切除し得た腭頭部癌の1例 第8回腭癌術前治療研究会（東京）2013年10月
★厚井志郎、佐藤典宏、程暁博、山口幸二 腭癌細胞におけるヒアルロン酸分解酵素（HYAL）mRNAの発現解析 第45回日本腭癌学会大会（北九州）2014年7月
★古賀敦大、日暮愛一郎、柴尾和徳、佐藤典宏 胸部食道切除後の腹腔鏡下胃管作製・腹部リンパ節郭清における Reduced Port Surgery 第12回 Needleoscopic Surgery Meeting（北九州）2015年1月
★厚井志郎、佐藤典宏、程暁博、日暮愛一郎 DNAメチル化阻害剤は腭癌のヒアルロン酸合成を促進する 第115回日本外科学会定期学術集会（名古屋）2015年4月

★戸村恭輔 声門上癌治療後のオリゴ肺転移に対し体幹部定位放射線治療を施行した1例
第97回北九州肺縦隔疾患研究会（北九州市）2015年5月
佐藤典宏、★厚井志郎、程暁博、田村利尚、日暮愛一郎 浸潤性膵管癌におけるヒアルロン酸の調節機構および機能的役割 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会（東京）2015年6月
★戸村恭輔、大栗隆行、矢原勝哉 多発肝転移に対する全肝照射の初期経験 第27回九州放射線治療セミナー（福岡県久山町）2015年8月
★厚井志郎、佐藤典宏 膵癌細胞におけるヒアルロン酸合成はエピジェネティックな制御を受ける 第74回日本癌学会学術総会（愛知）2015年10月
程暁博、佐藤典宏、平田敬治、★厚井志郎、★古賀敦大 Effects of Hyaluronan on Pancreatic Cancer Cell Migration 第77回日本臨床外科学会総会（福岡）2015年11月
★厚井志郎、田村利尚、秋山泰樹、皆川紀剛、日暮愛一郎、山口幸二 腎細胞癌胆嚢転移の1例 日本臨床外科学会雑誌（2013）75:212-218

★印はコース大学院生

総括

産業医科大学大学院医学研究科では、臨床腫瘍医と放射線腫瘍医の養成を基本とした上で、高度な研究能力も有することに加え、チーム医療のリード、がん患者の社会生活面での支援等の能力を有し、将来的にはがんセンター等の病院のがん診療体制にも参画しうる人材を養成に努めてきた。

本学は、平成25年度に大学院医学研究科の改組を行い、「博士（医学）」の学位を授与していたそれまでの「生体適応系専攻」、「環境・産業生態系専攻」、「障害機構系専攻」、「生体情報系専攻」の4つの専攻を、「医学専攻」の1つの専攻に纏めた。これに伴い、カリキュラムの大幅な変更を行い、がん専門医師養成科目についても新たな科目を新設した。また、これに併せてグローバル化を視野に入れ、英語のみで講義や議論を行う「医学英語特別コース」を設置し、必修科目とした。

一方、チーム医療を念頭においた教育の推進のため、定期的に行っている臓器別がんセンターボードとは別に、教育を主目的として産業医科大学病院がんセンターと共同で「合同がんセンターボード」を行った。医師のみならず、薬剤師、看護師や放射線部、臨床検査・輸血部、リハビリ部等の医療技術職を含めた多職種によるプレゼンと、参加者全員による総合討論を行っており、それぞれの立場や考え方の違いを理解することでチーム医療の役割や意義を理解する機会となった。さらにセミナーの内容を、がんプロのe-Learning教材としても活用した。

また、地域社会での役割や、患者や家族等一般的な考え方や意識を理解するために、産業医科大学病院がんセンターと共同で「がんに関する市民公開講座」を開催し、医師、保健師、看護師等がそれぞれの立場からわかりやすく講演、総合討論、質疑応答を行った。がんに対する知識や医療の最前線を紹介し、がんやがん治療についての関心を高めることで、地域貢献の一助となった。

このように産業医科大学病院がんセンターと共同で合同がんセンターボードや公開講座等を行うことで、現場に即した人材育成につながった。

福岡大学

概要

福岡大学は、「がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、がん専門医医療人指導者コース、「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、地域がん医療専門医療人養成コース、がん医療専門職業人コース（インテンシブ）、がん医療専門医コース（インテンシブ）の計4つのコースを設置してがん専門医療人の養成を行っている。

各コースの内容

1. がん専門医療人指導者コース（大学院医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	臨床腫瘍学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻 大学院生		
養成する人材像	がん専門医療人を指導できる人材。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん専門医療人を育成できる指導者が輩出される。		
教育内容の特色等	がんプロ全国 e-learning クラウドを利用して大学病院ばかりでなく地域の医療機関で働いている医療人が社会人大学院生として入学できる。 Web 会議システムを使ってケースカンファレンスや講義を受講できる。		

2. 地域がん医療専門医療人養成コース（大学院医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	臨床腫瘍学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻 大学院生		
養成する人材像	地域がん医療を理解し、実践ができる専門医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん医療の均てん化に寄与できる人材が輩出される。		
教育内容の特色等	がんプロ全国 e-learning クラウドにより基礎的な知識・技術を学び単位を取得する。 また、地域の医療機関とネットワークを作って大学院生を教育する。		

3. がん医療専門職業人コース（インテンシブ）（大学院医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん医療
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	6ヶ月
コースの履修対象者	がん医療に対する基礎的な知識・技術を持った看護師、薬剤師、医師		
養成する人材像	一般看護師、薬剤師、医師を指導できるがん医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	各地域の病院でがん医療について、一般看護師、薬剤師、医師を指導・教育できる人材が確保できる。		
教育内容の特色等	がんに関する基礎的な知識・技術とがん医療の各論が研修できる。		

4. がん医療専門医コース（インテンシブ）（大学院医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん医療
コースの開始時期	平成25年1月	修業年限（期間）	3ヶ月～1年
コースの履修対象者	がん医療に対する基礎的な知識・技術を持った医師		
養成する人材像	一般看護師、薬剤師、医師を指導できるがん専門医。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	各地域の病院でがん医療について、一般看護師、薬剤師、医師を指導・教育しチームリーダーとなる人材が確保できる。		
教育内容の特色等	がんに関する基礎的な知識・技術とがん医療の各論が研修できる。集学的治療、チーム医療を実践する。		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
がん専門医療人指導者コース	—	3	2	1	0
地域がん医療専門医療人養成コース	—	1*	0	0	0
がん医療専門職業人コース（インテンシブ）	108	333	53	53	58
がん医療専門医コース（インテンシブ）	0	1	1	0	0

※旧がんプロからの移行者

主な取組みと成果

地域医療研修

平成25年度に長崎大学の離島・僻地病院実習（上五島病院）に大学院生1名が参加。また、平成27年度にはがんの地域医療を学ぶために、地域医療機関に大学院生1名（1か月、三沢市立三沢市民病院）。両研修とも離

島・僻地医療の実際を経験でき院生にとって大変貴重な体験となった。

臨床研究・臨床試験の取り組み

- ・子宮頸癌Ⅲ B 期を対象とした Z100 第Ⅲ相アジア共同試験
- ・びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫高齢患者に対する高齢者機能評価を用いた適正治療に関する研究、等々

学位取得・資格取得等

平成28年度前期に2名が学位を取得して修了。平成28年度後期にも2名が学位を取得して修了予定である。1名が婦人科腫瘍専門医、2名ががん治療認定医の資格を取得した。

成果発表会

平成25、26年度末に大学院生全員の成果発表の場として研究発表会を開催。平成29年1月には「福岡大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン報告会」を開催して、大学院生の発表、福大がんプロの活動・今後、研修等への参加報告ののち、九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座の馬場英司教授に九州がんプロの取り組みや今後についてお話いただき、5年間の活動報告を行った。

大学院生によるがん医療に関する研究

(1) 学会発表

・内藤淑子 他、がん患者の苦痛に対する調査研究、第110回日本内科学会講演会、2013.4.12、東京。
・内藤淑子 他、がん患者の苦痛に対する調査研究、第6回福岡県医学会総会、2014.2.2、福岡。
・内藤淑子、佐々木秀法、猪狩洋介、勝屋弘雄、後藤敏孝、茂木愛、田中俊裕、石塚賢治、高松泰、田村和夫、高齢者総合的機能評価 (Comprehensive Geriatric Assessment, CGA) を用いた悪性リンパ腫高齢患者の予後の検討～多変量解析の結果、第13回日本臨床腫瘍学会学術集会、2015.7.16～18、札幌
・柴山慶継 他、センチネルリンパ節生検を施行したメルケル細胞癌6例についての検討、第112回日本皮膚科学会総会、2013.6.15、ポスター発表、東京。
・柴山慶継 他、再発性有棘細胞癌に放射線照射を施行した長期無再発中の2例、第113回日本皮膚科学会総会、2014.5.31、ポスター発表、京都。
・柴山慶継 他、診断が困難であった腋窩部腺癌の1例、第30回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会、2014.7.4、口頭発表、東京。
・前原 都 他、婦人科がんの TC 療法に対する NK1 受容体拮抗薬アプレピタントの効果検討、第54回日本婦人科腫瘍学会学術集会、2013.7.19～21、東京。
・前原 都 他、TC 療法に対する NK1 受容体拮抗薬アプレピタントの効果検討、第17回バイオ治療法研究会学術集会、2013.12.7、福岡。
・宮原大輔 他、再発卵巣癌に対するリポゾーム化ドキシソルピシンとイリノテカン併用療法に関する第Ⅰ相臨床試験、第17回バイオ治療法研究会学術集会、2013.12.7、福岡。
・宮原大輔 他、子宮体癌に対するドセタキセツ、シスプラチン併用療法についての検討、第18回バイオ治療法研究会学術集会、2014.12.13、高松。
・勝田 隆博 他、卵巣腫瘍の晩期再発について、バイオ治療研究学術集会、2014.12.13、香川。
・宮原大輔、藤田みずき、清島千尋、勝田隆博、阿南春分、伊東智宏、高橋庸子、伊東裕子、近藤晴彦、城田京子、宮本新吾、子宮体癌に対するドクタキセル、シスプラチン併用療法についての検討、日本産科婦人科学会第67回学術講演会、2015.4.9～12、横浜。
・宮原大輔、勝田隆博、高橋庸子、近藤晴彦、城田京子、宮本新吾、リポゾーム化ドキシソルピシン長期投与後に発症した舌癌の一例、第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、2015.8.7～9、盛岡。

(1) 学会発表 (つづき)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 深川 怜史 他、Antitumor effect of intravenous injection of an HB-EGF inhibitor, CRM197, in triple negative breast cancer.、日本癌学会、2014.9.25、横浜。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 深川 怜史 他、Varidation of anti tumor effect by intravenous administration of CRM197 in triple negative breast cancer.、International Conference of Anticancer Research、2014.10.8、Sithonia, Greece.
<ul style="list-style-type: none"> ・ 深川 怜史、宮田康平、南星旭、四元房典、宮本新吾、卵巣癌予後予測因子としての microRNA の検索、日本産科婦人科学会第67回学術講演会2015.4.9~12、横浜。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 深川 怜史、宮田康平、四元房典、黒木政秀、安永晋一郎、宮本新吾、卵巣癌予後予測因子としての microRNA の解析、第74回日本癌学会学術総会、2015.10.8~10、名古屋。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝田隆博、野村英明、高澤 豊、竹島信宏、壁在結節を伴った傍卵管嚢腫の一例、第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、2015.9.10~12、横浜。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 阿南春分、南 星旭、深川 怜史、四元房典、黒木政秀、安永晋一郎、宮本新吾、肺癌治療薬としての HB-EGF 選択的阻害剤 (CRM197) の有効性。第19回バイオ治療法研究会、2015.12.5、東京。

(2) 論文発表

<ul style="list-style-type: none"> ・ 内藤 淑子 他、急性骨髄性白血病の治療中に好中球減少性腸炎を発生した2例、福岡大学医学紀要、40(3/4):173-179、2013。
<ul style="list-style-type: none"> ・ Naito Y, Sasaki H, Takamatsu Y, Fumiaki Kiyomi, Tamura K. Retrospective Analysis of Treatment Outcomes and Geriatric Assessment in Elderly Malignant Lymphoma Patients. J Clin Exp Hematop. 56(1):43-46, 2016.
<ul style="list-style-type: none"> ・ Shibayama Y. et al. Role of sentinel lymph node biopsy in patients with Merkel cell carcinoma: statistical analysis of 403 reported cases. Int J Clin Oncol 2014.(epub ahead of print)
<ul style="list-style-type: none"> ・ Shibayama Y. et al. Comparison of facial predilection sites for cutaneous squamous cell carcinoma and actinic keratosis in Japanese patients. J Dermatol 41;1102-1105, 2014.
<ul style="list-style-type: none"> ・ Nam SO, Yotsumoto F, Miyata K, Fukagawa S, Yamada H, Kuroki M, Miyamoto S. Warburg effect regulated by amphiregulin in the development of colorectal cancer. Cancer Medicine. 4:575-587, 2015
<ul style="list-style-type: none"> ・ Maehara M, Ueda T, Miyahara D, Takahashi Y, Miyata K, Nam SO, Katsuda T, Kondo H, Miyamoto S. Clinical efficacy of aprepitant in patients with gynecological cancer after chemotherapy using paclitaxel and carboplatin, Anticancer Res. 35:4527-4534, 2015
<ul style="list-style-type: none"> ・ Miyahara D, Ueda T, Katsuda T, Maehara M, Fukagawa S, Miyata K, Nam SO, Kondo H, Miyamoto S. The safety of pegylated liposomal doxorubicin plus irinotecan in recurrent ovarian cancer patients: A phase I trial. Anticancer Res. 35:4521-4526, 2015
<ul style="list-style-type: none"> ・ 深川 怜史、宮田康平、宮本新吾、診療や相談に役立つがん患者100の質問、安達洋祐編 「76 子宮がんはどんながんですか?」「子宮がんはどのように治療しますか?」「78 子宮がんはワクチンで予防できますか?」「79 卵巣がんはどんながんですか?」「卵巣がんはどのように治療しますか?」、メディカルレビュー社 p168-177、2015

オンコロジーセミナー

がん医療専門職業人コース (インテンシブ) としてオンコロジーセミナーを10月~翌年3月にかけて毎月1回日曜日開催。初期コースと中期コースを終えた医療者を対象にアドバンスコースとして実施し、4年間で500名超が受講した。

10/25	11/15	12/20	1/17	2/14	3/13
10:00~11:00 11:00~12:00 12:00~13:00 13:00~14:30 14:30~15:30	10:00~11:00 11:00~12:00 12:00~13:00 13:00~14:30 14:30~15:30	10:00~11:00 11:00~12:00 12:00~13:00 13:00~14:30 14:30~15:30	10:00~11:00 11:00~12:00 12:00~13:00 13:00~14:30 14:30~15:30	10:00~11:00 11:00~12:00 12:00~13:00 13:00~14:30 14:30~15:30	10:00~11:00 11:00~12:00 12:00~13:00 13:00~14:30 14:30~15:30
癌診療の進歩 田村 貴木 休憩 森原 高野	食道癌 (手術療法) 胃癌 (手術療法) 憩室 (手術療法) 膵癌 (手術療法) 胆管癌 (手術療法)	肺癌の診療 (手術療法) 肺癌の診療 (化学療法) 肺癌の診療 (放射線療法) 肺癌の診療 (分子標的療法) 肺癌の診療 (免疫療法)	乳癌 (手術療法、アジュバント療法、放射線療法) 乳癌 (手術療法、アジュバント療法、放射線療法) 乳癌 (手術療法、アジュバント療法、放射線療法) 乳癌 (手術療法、アジュバント療法、放射線療法) 乳癌 (手術療法、アジュバント療法、放射線療法)	前立腺癌 (手術、化学、ホルモン) 前立腺癌 (手術、化学、ホルモン) 前立腺癌 (手術、化学、ホルモン) 前立腺癌 (手術、化学、ホルモン) 前立腺癌 (手術、化学、ホルモン)	造血幹細胞 (リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫) 診療 造血幹細胞 (リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫) 診療 造血幹細胞 (リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫) 診療 造血幹細胞 (リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫) 診療 造血幹細胞 (リンパ腫、白血病、多発性骨髄腫) 診療

図1. オンコロジーセミナー2015アドバンスコーススケジュール

オンコロジー塾

平成28年度は、オンコロジーセミナーのような講義形式では医療の現場で応用できる実践的な内容を盛り込むことが困難であるという反省を踏まえ、症例を通して予防・診断・治療・予後について多職種が集まって議論する場としてオンコロジー塾をセミナーに代わって開講。テーマに基づいてミニレクチャー、症例検討を行った。年4回開催し、58名が受講した。



図2. オンコロジー塾

教育的なカンファ等の開催等

(1) 感染症臨床教育カンファレンス

平成25年9月6日、平成26年3月7日、平成26年9月12日、平成27年2月27日、平成27年9月11日、平成28年3月4日に開催し、サクラ精機学術顧問の青木 眞先生を講師としてお招きし、院内での症例を元に教育カンファレンスを実施した。参加者は20～30名である。がん、免疫不全に伴う感染症について病態生理や治療法について議論し、治療方針の構築に役立った。



図3. 感染症臨床教育カンファレンス

(2) 生物統計学演習

平成26年2月13日、九州がんセンター・腫瘍統計学研究室室長の下川元継先生を講師としてお招きし、生物統計学演習を実施した。参加者は5名で、大学院生を中心にATLの背景と治療成績、高齢者のがんの機能評価、化学療法に伴う悪心・嘔吐の調査研究に関しデータの処理の仕方、多変量解析について演習を行い、論文文化に向けて準備した。

(3) 骨髄標本の見方の実習指導

九州がんセンター 元検査技師長・阿南建一氏に月2、3回のペースで継続的に骨髄像の見方について指導いただいている。参加者は20～30名である。臨床像と骨髄像双方を検討することにより、診断力の向上に役立つと共に治療指針の基礎的なデータを得ることができる。

(4) キャンサーボード

呼吸器がん、消化器がん、乳がん、その他のがんのキャンサーボードをそれぞれ月1回のペースで実施している。不定期であるが外部講師を招き、質の向上に努めている。

(5) 病理部実習

臨床医と病理医、検査技師が合同で症例検討を月一回行っており、大学院生も討論に参加している。

セミナー、講演会等の開催

(1) 中皮腫細胞診セミナー

平成26年1月25、26日の2日間にわたって開催し、第1日目は山口県立総合医療センター病理診断科の亀井敏昭先生による「中皮腫診断での体腔細胞診の評価と今後の課題」、公立学校共済組合関東中央病院臨床検査科・病理科の岡輝明先生による「アスベストによる非腫瘍性肺・胸膜病変の形態像」、東京女子医科大

学八千代医療センター病理診断科の廣島健三先生による「肉腫型中皮腫の病理診断」、福岡大学医学部呼吸器・乳腺内分泌・小児外科の岩崎昭憲先生による「中皮腫診断と治療における外科の役割」、愛知県がんセンター研究所分子腫瘍学部の関戸好孝先生による「悪性中皮腫の遺伝子異常」について講演いただいた。第2日目は、中皮腫症例の検鏡実習を行った。参加者は約140名で、中皮腫の基礎から臨床病理・臨床について理解を深め、さらに細胞診診断の重要性とその実際について学んだ。

(2) Dr. 松元 隆 講演会

平成26年2月13日に開催し、演者として愛媛大学産科婦人科学講座 講師である松元隆先生をお招きし、「巣がん治療の Breakthrough」について講演いただいた。参加者は35名で、演者が経験した卵巣がん症例の解析や、臨床試験の概要について講演を拝聴。また、国内で進行中の臨床試験や海外の臨床試験の概要についても話があり、がんの臨床に従事する医師にとって非常に有意義な講演であった。

(3) Dr. Pamela S. Tauchi-Nishi 講演会

平成26年4月28日に開催し、The Queens Medical Center(Honolulu, Hawaii, USA) のDr. Pamela S. Tauchi-Nishi に「Respiratory and pleural fluid cytology: General principles and cytomorphologic details」として講演いただいた。参加者は約50名で、細胞診の基本的な見方から、呼吸器細胞診における病変（病的細胞）の捉え方、さらには先進的な liquid based cytology の応用とその実際について紹介があった。参加者から多くの質疑があり、有意義な講演会であった。

(4) Dr. Peter Friedl 講演会

平成26年7月14日に開催し、Radboud University Nijmegen, Netherlands および The University of Texas MD Anderson Cancer Center, Houston, USA の Peter Friedl 教授に「Collective cell migration in cancer」として講演いただいた。参加者は約50名で、同教授の先進的な取り組みである2光子顕微鏡を用いた in vivo におけるがん細胞の動きのカラーで実にリアルな美しい動画を提示しその解析について解説がなされた。参加者からは多くの質問が出され、がん細胞の浸潤機構について大いに理解が深まり、有意義な講演会となった。

(5) 福岡大学病院腫瘍セミナー

平成26年11月14日に開催し、名古屋市立大学病院の楠本茂先生を講師としてお招きし、「がん化学療法中の B 型肝炎ウイルス再活性化のリスクとその対策」と題して講演いただいた。化学療法時の B 型肝炎ウイルスの再活性化による劇症肝炎は致死率が高く、かつ最近では医療過誤としての認識されることになる医療安全上非常に重要なトピックスである。セミナーの参加者は40名で、化学療法時の B 型肝炎ウイルスの再活性化の病態、リスク因子、その発症を未然に予知するための方法と予防法の説明を、それを決定する際のバックグラウンドとなった情報、研究班で行われた調査から得られた情報を交えながら、概説いただいた。



図4. 福岡大学病院腫瘍セミナー

(6) Dr. 岡田保典 講演会

平成27年4月17日に開催し、慶応義塾大学病理学教室の岡田保典教授に「組織内微小環境因子代謝を介したがん細胞増殖・浸潤・転移機構：現状と今後の展望」と題して講演いただいた。

(7) 福大がん免疫療法セミナー

平成28年9月10日に開催し、「免疫チェックポイント阻害剤の副作用と院内マネジメント体制について」として九州医療センター呼吸器科 一木 昌郎 科長に講演いただいた。参加者は106名。

(8) Dr. Mari Mino-Kenudson 講演会

平成28年11月14日に開催し、Harvard Medical School の Dr. Mari Mino-Kenudson に「Air space invasion in lung cancer」と題して講演いただいた。Air space invasion の3D reconstruction 動画には、会場のあちこちでどよめきが起きていた。肺癌分類についての基礎、組織型における問題点、Tumor STAS (spread through air spaces) に関する最新の知見等盛沢山な内容であった。

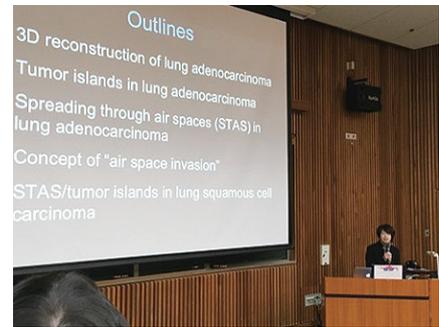


図5. Dr. Mari Mino-Kenudson 講演会

社会への発信

(1) JSMO2014市民公開講座 “抗がん剤治療は怖くない!”

平成26年7月19日、第12回日本臨床腫瘍学会学術集会の際に開催し、参加者は約250名。第1部では、なぜ抗がん剤治療が必要なのか、がんに伴う症状や抗がん剤治療の副作用にどのように対処すればいいのかについて医療者が解説。第2部では実際に抗がん剤治療を経験された患者さんに、病気や治療とうまく付き合ってQOLの高い生活を送れる術を紹介していただいた。

図6. JSMO2014市民公開講座

(2) がんセミナー

がんに対する基本的な情報から、部位ごとのがんの性状や症状についてお話し、がんと向き合い闘っていくにあたっての必要な知識や技術を知っていただくための「がんセミナー」を月1回、年に9～10回開催している。対象は患者、患者家族、がん治療に興味のある方で、参加者は25～110名/回。

(3) 第47回グループ・ネクサス・ジャパン リンパ腫医療セミナー in 福岡

「みんなで学ぼう！考えよう！リンパ腫のこと！」と題して平成27年3月9日に開催。リンパ腫の治療と今後について医師からの講演、看護師・薬剤師それぞれの立場からの講演、患者さんの体験談、パネルディスカッション・質疑応答を行った。患者に寄り添ったわかりやすい話を聞いて良かった、看護師、薬剤師のコメディカルの話も勉強になったとの感想をいただいた。参加者は患者やその家族、医療関係者等68名。



図7. リンパ腫医療セミナー in 福岡

地域医療機関との連携セミナー等

(1) 福岡がん地域医療連携セミナー2016

「患者さん、開業医の先生方、大学病院の医療従事者、すべての人にメリットがあるシステムの構築のために」として平成28年5月20日に開催。『外来化学療法室での薬剤師としての取り組みについて』（柿本 秀樹先生 福岡大学病院 薬剤部 がん薬物療法認定薬剤師）、『大腸癌の地域連携パス』（河本 和幸先生 倉敷中央病院 外科 部長）として講演いただいた。参加者は108名。

※福岡がん地域医療連携セミナー2017を平成29年2月10日に開催予定。「がん診療における就労支援～乳がん診療を中心に～」(名古屋第二赤十字病院 乳腺外科 副部長 赤羽 和久 先生)、「がん診療における地域連携の重要性」(福井県済生会病院 外科 主任部長 宗本 義則 先生)

(2) 福大病院メディカルセミナー「最新の抗がん剤治療と緩和医療」

平成28年11月29日、「抗がん薬治療の進歩」、「新しい免疫療法」、「緩和ケアにおける痛み止めの使い方」それぞれのテーマに沿って講演。多く院内医師、地域医療機関の医師に参加いただいた。

(3) FUTURE カンファ

毎年、紹介医と合同でがん患者の治療に関する症例検討を行っている。1回/年。参加者15～25名。

(4) その他

がん診療連携拠点病院との合同セミナー、緩和ケア専門病院との合同セミナーも定期的に開催している。

総括

がん専門医療人指導者コースでは、大学院生ががん診療に関連した研究を遂行するとともに、地域の医療者や患者に対して情報発信を行った。また病院でのがん診療のリーダーとして若手医師の教育に携わった。入学した大学院生の数は少なかった。その原因としてがん治療を行う診療科に入局する若手医師が減少していることが考えられる。今後は医学生に対してがん治療の重要性や魅力を伝えていく必要がある。

地域がん医療専門医療人養成コースでは、大学院生が実際に離島や僻地の病院での実習を行うことができた。都市圏にある中核病院とは異なり、一人の医師が一般診療からがんの治療まで様々な業務を担っていることがあらためて確認できた。今後もこのような研修を続けるとともに、地域のがん診療を担う専門医療人を育成するには、どのような教育・実習プログラムが望ましいのか検討することが重要と考えられた。

インテンシブコースでは、福大病院での研修を通し2名のがん薬物療法専門医を輩出できた。またがん診療に携わるメディカルスタッフを対象としてオンコロジーセミナーは多くの参加者を得て、がんに関する基礎～臨床の知識の獲得に貢献した。

福岡県立大学

概要

福岡県立大学は「地域がん看護人材養成コース」としてがん看護専門看護師コースを設置してがん看護専門看護師の養成を行っている。地域貢献として定期的ながん看護勉強会等の開催やセミナーの開催によって、地域へのがん看護に関する知識の普及やがん医療に関する意見交換を行っている。また、がん看護・カンサナーシング・カフェの開催によってがん医療に関する住民参加型の取り組みを行っている。

コースの内容

地域がん看護人材養成コース（大学院看護学研究科）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成24年4月	修業年限（期間）	2年（長期履修制度あり：3年）
コースの履修対象者	看護学研究科 がん看護専門看護師コース 大学院生		
養成する人材像	病院などの施設だけでなく、地域で生活するがん患者（サバイバー）とそれを支える訪問看護師や多職種と連携して、施設から在宅／地域へのシームレスなケアプラン作成／支援ができる人材。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん患者とその家族に対して、医療機関と在宅／地域を繋ぐシームレスなケアやケアのプランニングを行うことが可能になる。		
教育内容の特色等	がんプロ全国 e-learning クラウドを効果的に活用する。在宅領域の看護職者とのディスカッションや地域の訪問看護ステーションの協力を得て在宅看護実習を導入し、医療機関から地域／在宅へのシームレスなケアプランニングについて学ぶ。スピリチュアルケアやヒーリングに関する教育を充実し、ケアプランに生かせる理論と具体的な援助技術に関する学びを深める。		

主な取り組みと成果

大学院 看護学研究科 臨床看護学系 がん看護専門看護師コース

当コースでは現在26単位課程のがん看護専門看護師養成を行っている。平成24年度からは、今後の医療情勢を考慮して在宅実習を取り入れた。実習の成果として施設での退院調整やサポートシステムなどの理解が深まり効果的であったため、平成26年度はこれまで1週間だった在宅実習を2週間に延長した。がん看護専門看護実習においては、九州圏内の実習病院の開拓及び当該施設との調整、連携を行い、学生の実習が円滑に行われるようにフォローしている。平成24年度から28年度の学生受け入れ及び修了の状況としては、平成24年度2名、25年度1名、27年度1名の計4名の入学者があり、うち2名が修了し CNS として登録・活動している。1名は退学、1名在籍中である。

◎専門看護師資格取得までの支援及び卒後の支援

大学院在学中の実習報告書の一部を、申請の様式を使用して作成し申請のための準備を行っている。また、修了生に対しては大学院修了後の資格申請に関わるレポートの指導などを行っており、資格取得までサポートを行っている。また、修了後の協同研究や研究に関する支援を行っている。

地域貢献

(1) がん看護勉強会の開催

当大学では、第1期がんプロより継続してがん看護勉強会を開催している。九州がんプロの12校のうち5校が福岡県下にあるが、当大学が位置している筑豊地区は大学病院などから遠く交通も非常に不便である。そのような環境でむしろ看護師の学習ニーズは高く、県立大学に寄せられている期待は大きい。第1期がんプロでは、地域の看護職からの希望を反映して、事例を持ち寄ってケースカンファレンスなどを行っていた。しかし、マンネリ化し次第に参加者が減少したため、第2期がんプロでは平成24年度からはあらかじめテーマを設定し告知を行ったところ参加者も増加してきた（平成24年度は3回分の内容をあらかじめ決定、他は事例検討を行った）。現在は年5回（1回/2ヶ月、当大学に於いて）、火曜日18:30~20:00の開催である。



Skype を用いたディスカッション

平成25年度は主に講演形式となり、あまり意見交換が行われなかったことを反省し、平成26年度からはテーマに沿ってミニレクチャー後にディスカッションを行った。開催方法に関しても、スカイプを用いて当日参加できない方も、討論やコメントに参加するなどの方法を用いた。

またアピアランスケアや消臭ケア等の実演や最新研究成果を先進的に取り組んでいる業者に依頼して開催した。

平成24年度以降の年度別のテーマは表1の通り。

表1：がん看護勉強会のテーマ

テーマ		参加人数	備考
平成24年度			
第1回	1. 在宅でのケア：在宅で利用できる社会資源 2. 事例検討	10	5月10日開催 講演・ディスカッション
第2回	事例検討	24	7月12日開催 ディスカッション
第3回	1. 緩和ケア（エンゼルケアを含む） 2. 事例検討	13	9月13日開催 講演・ディスカッション
第4回	小児がんのケア 1. プレパレーションって何？ 2. プレパレーションの実践例	14	11月8日開催 講演
第5回	事例検討	7	1月10日開催 ディスカッション
平成25年度（当校教員による資料提供及び講演）			
第1回	身体的問題を抱えるがん患者・家族の看護	26	5月5日開催
第2回	心理・社会的問題を抱えるがん患者・家族の看護	20	7月10日開催
第3回	がん治療の継続が困難となった患者・家族の看護	25	9月11日開催

テーマ		参加人数	備考
第4回	がん患者をめぐる倫理的問題	29	11月6日開催
第5回	がん患者のリハビリテーション	29	1月8日開催
平成26年度			
第1回	リンパ浮腫のケア（1）講演 内容：リンパ浮腫指導技能者（当校教員）による講演	62	5月14日開催
第2回	リンパ浮腫のケア（2）事例検討 内容：前回の講演をベースに、スカイプを利用し事例提供者と当校会場でディスカッション実施。	43	7月9日開催 スカイプ使用
第3回	スキンケア・アピランスケア 講演：業者 内容：脱毛する対象者のウィッグ利用の注意点、治療で皮膚が脆弱になった対象者のスキンケアに関する講演とデモンストレーション	35	9月10日開催
第4回	緩和ケア、症例マネージメント 事例検討 内容：緩和ケア認定看護師とのスカイプを用いた意見交換	30	11月11日開催 スカイプ使用
第5回	終末期の緩和ケア 内容：アドバンスケア・プランニングに関する当校教員による講演	26	1月13日開催
平成27年度			
第1回	リンパ浮腫 内容：リンパ浮腫指導技能者（当校教員）による講演	30	5月12日開催
第2回	緩和ケア 内容：緩和ケア認定看護師による講演	33	7月14日開催
第3回	家族看護 事例検討 内容：当校教員によるがん看護の基本となる理論の紹介と事例を使った学習	31	9月8日開催
第4回	在宅看護ケア 事例検討 内容：訪問看護師による講演	24	11月10日開催
第5回	消臭ケア 内容：国内の企業による研究成果講演及び製品紹介	36	1月12日開催
平成28年度			
第1回	がん患者の浮腫と看護 内容：リンパ浮腫指導技能者（当校教員）による講演	44	5月10日開催
第2回	スキンケア 内容：当校教員による講演・最近の研究動向など	29	7月12日開催
第3回	在宅看護 内容：訪問看護師による講演、地域の特徴に応じた支援のあり方など	31	9月13日開催
第4回	がん患者の口腔ケア 内容：歯科衛生士による講演	20	11月8日開催
第5回	がん患者のアピランスケア 内容：国内業者によるがん化学療法を行っている対象者のメイクアップ。ネイルケア。ウィッグ装着の留意点に関する講演とデモンストレーション。	19	1月10日開催

(2) がん看護セミナー

第1期より外部講師を招聘して「がん看護セミナー」を平成25年度まで継続して実施した。開催場所は講師と受講者の交通の便を考え、福岡市内で開催した。セミナーのテーマと参加人数は表2の通り。

表2：がん看護セミナー

	テーマ	講師	参加人数
H24年	物語としての在宅ホスピス	にのさかクリニック 院長 二ノ坂保喜	83
H25年	がん患者さんの口腔ケアのコツとポイント	東京医科歯科大学大学院歯科総合研究科 地域福祉口腔衛生学分野 教授 白田千代子	109

(3) 「キャンサー・ナーシング・カフェ」の企画・開催

平成26年度以降は経費の面からこれまでのような「がん看護セミナー」を開催することができなかった。そのため、地域の医療施設などの協力を得て、参加型の「キャンサー・ナーシング・カフェ」を企画し開催している。

当校のがんプロメンバーが地域の特徴や動向を検討して、企画・提案を行い、病院や訪問看護ステーション等のそれぞれのニーズに沿った地域貢献イベントとして開催した。

第1回を、平成27年1月31日に実施した。ここでは地域のがん治療および緩和ケアを担っている中核病院である社会医療法人喜悦会 那珂川病院（福岡市）で、講演の場として薬剤部、栄養部・訪問リハビリテーション部・外来看護部・緩和ケア病棟・訪問看護部など各部門の協力を得て各部門10分程度のミニレクチャー形式で（入退室自由：時間内に2回）実施、体験の場として栄養士や薬剤師、訪問看護師、がん看護専門看護師の相談コーナー、検診カフェ、訪問看護カフェ、ふれあいの場としてボランティアによるドッグセラピーやマッサージ、音楽療法士のピアノ演奏などを企画実施した。喫茶コーナーでは医師も交えて自由に歓談（おやつ付き）などを実施した。

第2回は平成28年3月5日に本校の校舎を利用し訪問看護ステーションエルクの協力を得て、在宅でのがん患者を支援する訪問看護ステーションの役割の紹介や様々な介護を担う業者の展示、ヒーリングタッチなどの代替医療の紹介と実演、さらにワールドカフェを開催して地域住民や医療者とのディスカッションを行った。

第3回は平成28年6月25日に福岡ゆたか中央病院の協力を得て、病院の健康フェアと同時開催として、本校の教員やがん看護専門看護師による、がんに関する情報提供や相談などを行った。

現在第4回を平成29年3月4日に開催予定で準備を進めている。

これらの成果は主催した医療施設や参加者と共に協同研究として、第2回目までを第17回 日本看護医療学会学術集会（福井）、第18回日本看護医療学会学術集会（愛知）で発表した。第3回及び4回に関しては平成29年9月の同学会で成果発表を行う予定である。

回	年度	テーマ及び主催者／開催場所	参加人数	備考
1	26	◎ 「知りましょうがんのこと」 ◎ 社会医療法人喜悦会 那珂川病院	124	平成27年1月31日

福岡県立大学 Presents
第1回 キャンサー・ナーシング・カフェ

知りましょう！がんのこと

がんになったら どうしよう
がんになって困っている 身内を助けたい
がんになったら どうなるの？
自分ががんと 告知された

- 「キャンサー・ナーシング・カフェ」にて、病院と地域をつなぐ新しいコミュニケーションの場を提供いたします。
- がんになっても、病院で！ご自宅で！住み慣れた町で安心した生活を送ることが可能です。
- カフェスタイルでお茶でも飲みながら語りましょう！

日時：2015年1月31日(土) 13:30～16:00
場所：社会医療法人喜悦会 那珂川病院
(福岡市南区向新町2丁目17-17)
連絡先：092-565-3531
那珂川病院 事務部 吉田まで

***カフェの準備がございますので事前にご連絡をお願いいたします。**

主催：福岡県立大学、社会医療法人喜悦会 那珂川病院
後援：福岡市
企画：九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン (福岡県立大学)

スケジュール会場案内

体験の場 (5階食堂)
栄養士相談コーナー
薬剤師相談コーナー
専門看護師相談コーナー
～スライド上映～
～喫茶コーナー～

講演の場 (5階研修室)
13:30 開会の挨拶
13:40 プログラム紹介
14:00 講演 (1回目)
15:00 休憩
15:10 講演 (2回目)
16:00 終了

相談の場 (4階相談室)
14:10 マッサージ体験
14:30 ドッグセラピー
15:20 マッサージ体験
15:30 ドッグセラピー

検診カフェ (委員会室1)
～アデランス～
～検診コーナー～がんモデル体験

防犯カフェ (委員会室2)
～防犯看護～
～訪問リハビリテーション～

ふれあいの場 (4階相談室)
～スライド上映～
～音楽療法士のピアノ演奏～
～喫茶コーナー～

検診センター
がん検診、がん予防情報

講演内容～
1) くりすは怖くない (薬剤部門)
2) あなたは何を食べていますか? (栄養部門)
3) その人らしさを支えるリハビリ (訪問リハビリテーション部門)
4) がん検診を受けよう!
5) 自分らしく生き抜くために! (緩和ケア科棟)
6) なるほど! 防犯看護 (訪問看護部門)

～講演内容～
1) くりすは怖くない (薬剤部門)
2) あなたは何を食べていますか? (栄養部門)
3) その人らしさを支えるリハビリ (訪問リハビリテーション部門)
4) がん検診を受けよう!
5) 自分らしく生き抜くために! (緩和ケア科棟)
6) なるほど! 防犯看護 (訪問看護部門)

回	年度	テーマ及び主催者／開催場所	参加人数	備考
2	27	◎ がんになっても住み慣れた、自宅で地域で、自分らしく過ごすために！ ◎ 訪問看護ステーションエルム 於：福岡県立大学	35	平成28年3月5日

福岡県立大学 Presents
第2回 キャンサー・ナーシング・カフェ

がんになっても 住み慣れた自宅で、地域で、自分らしく過ごすために！

悩みを解決できる方法をお茶でも飲みながら話ませんか？
今回のキャンサーナーシングカフェでは、下記3つのコーナーを設けています。
お気軽にお越しください!! 全て無料です!

1 ワールド・カフェ
参加者募集中!
*地域住民の皆様と「そんな皆様を支えたい」看護者の語り合いの場です。詳しくは裏面へ!

2 ヒーリング・タッチ
「気」を整えるエネルギー療法 体験してみませんか?
*施術を受ける方は要予約です。
*体験や説明を聞くだけなら当日参加OKです。詳しくは裏面へ!

3 在宅での療養を支える 社会のしくみ展示コーナー (自由書き込み・相談コーナー)
●行政より ●業者より
●保健所より・福祉用具について
●病院より ●補助栄養食について
・アピアランスケア(カツラやメイク)について
*皆様の思いを書き込んでみましょう。
*気になることを相談してみよう。

日時：2016年3月5日(土) 13:30～16:00
場所：福岡県立大学5号館1F・3F
(田川市伊田4395)
連絡先：がんプロ 倉掛
電話：0947-42-2051
e-mail：oncology2@fukuoka-pu.ac.jp

主催：福岡県立大学、訪問看護ステーションエルム
企画：九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン (福岡県立大学)

***ワールド・カフェ**
「がんになっても住み慣れた自宅で、地域で、自分らしく過ごすにはどうしたらいいの?」という地域住民の皆様と「そんな皆さんを支えたい」看護者の語り合いの場です。ゲーム形式でアイデアを出し合いディスカッションします。
現在、参加者を募集中です。
(定員約50名様まで)
(締め切り：平成28年2月12日金)

***ヒーリング・タッチ**
「気」の層を整える癒やしのエネルギー療法です。
・施術を受ける方は、被験者として同意書にサインをしていただく必要があります。定員6名程度(希望者が多い場合はお断りする場合がございますのでご了承ください)
・無料：お時間は、30分から1時間程度です。
(締め切り：平成28年2月12日金)
・体験や説明を聞くだけの方は当日OKです。

ご希望の方は下記連絡先まで
ご連絡お待ちしております。

住所：〒825-8585福岡県田川市伊田4395
福岡県立大学
担当：がんプロ 倉掛
電話：0947-42-2051
e-mail：oncology2@fukuoka-pu.ac.jp

回	年度	テーマ及び主催者／開催場所	参加人数	備考
3	28	◎ あなたが変われば体も変わる 健康フェア2016 ◎ 福岡ゆたか中央病院	43	6月25日開催 病院の健康フェアと合同開催

検査無料
腹部CT、血管年齢、脳年齢、自律神経検査など※一部の検査は人数制限があります

あなたが変われば、体も変わる
健康フェア2016

第3回 キャンサー・ナーシング・カフェ
「九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」
共催：福岡県立大学



とき 6月25日(土) 9:00~12:00
場所 健康管理センター (2F)

【イベント内容】
①無料測定 血糖・血圧等が無料で測定できます ②検査 腹部CT・血管年齢・ストレス・脳年齢チェック等 ③栄養指導 栄養士による栄養相談を実施します ④お薬相談 薬剤師がお薬に関する相談・質問にお答えします ⑤リハビリ体験 楽しくて簡単なストレッチの実演・指導 ⑥展示 無料サンプル配布や、健康に関する情報を展示します ⑦製品展示 素敵なプレゼントをご用意しています

独立行政法人 地域医療機能推進機構 HEALTH CARE CENTER
福岡ゆたか中央病院 健康管理センター
〒822-0001 福岡県東海市大字橋本 523-5 TEL. 0949-26-2327

- 健康フェアの一環としてがん看護専門看護師2名及びがんプロ教員、がん看護専門看護師コース学生による相談コーナーを開設。
- 検診の傍ら、がん医療や在宅看護などに関する相談を受けた。必要な場合はゆたか病院の健康管理センターを通じて医療施設や治療に関する紹介を行える体制で実施した。

回	年度	テーマ及び主催者／開催場所	参加人数	備考
4	28	◎ がんになっても住み慣れた、自宅で地域で、自分らしく過ごすために！ ◎ 福岡県立大学	-	3月4日開催予定

福岡県立大学 Presents

第4回 キャンサー・ナーシング・カフェ

がんになっても住み慣れた自宅で、地域で、自分らしく過ごすために！ 参加は全て無料

3月4日(土)に

福岡県立大学で、**がんに関するお得なイベント**を行います。
お茶、お菓子、お土産付きです。お気軽にお越し下さい！

1 がんに関する情報を知りたい方
がんに関する相談をしたい方
福祉用具や補助食を試してみたい方におすすめ

●行政、保健所、病院の情報がたくさんあります
●がん専門看護師が相談にのります
●各業者の展示があり体験ができます
●福祉用具の展示
●補助食食品の試食
●アピランスケア(カツラやメイク)の体験
お茶でも飲みながら、ゆっくりどうぞ。

2 「気」を整えるエネルギー療法を体験してみたい方におすすめ
*施術を受ける方は要予約です。
*体験や説明を聞くだけなら当日参加OK
詳しくは裏面へ！ 参加者募集中

3 地域住民の皆様を支えたい看護師と語り合ってみよう方へおすすめ
要予約です。
詳しくは裏面へ！ 参加者募集中

在宅療養を支える
社会のしくみ展示コーナー

ヒーリングタッチ

ワールドカフェ

日時：2017年3月4日(土) 13:30~16:00
場所：福岡県立大学5号館1F・3F (田川市伊田4395)
連絡先：がんプロ 倉掛
電話/FAX：0947-42-2051
0947-42-2108
*不在の際は留守電にメッセージと連絡先をお願いいたします。
e-mail：oncology2@fukuoka-pu.ac.jp
miyazono@fukuoka-pu.ac.jp

主催：福岡県立大学、訪問看護ステーションエルム
企画：九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン (福岡県立大学)

***ワールド・カフェ**
「がんになっても住み慣れた自宅で、地域で、自分らしく過ごすにはどうしたらいいの？」という地域住民の皆様と「そんな皆さんを支えたい」看護師の語り合いの場です。ゲーム形式でアイデアを出し合いディスカッションします。
現在、参加者を募集中です。
(定員約50名様まで)
(締め切り：平成29年2月10日(金))

***ヒーリング・タッチ**
「気」の層を整える癒やしのエネルギー療法です。
・施術を受ける方は、被験者として同意書にサインをしていただく必要があります。定員6名程度(希望者が多い場合はお断りする場合がございますのでご了承ください)
・無料：お時間は、30分から1時間程度です。
(締め切り：平成28年2月10日(金))
・体験や説明を聞くだけの方は当日OKです。

ご希望の方は下記連絡先までご連絡お待ちしております。

住所：〒825-8585福岡県田川市伊田4395
福岡県立大学
担当：がんプロ 倉掛
電話/FAX：0947-42-2051
0947-42-2108
*不在の際は留守電にメッセージと連絡先をお願いいたします。
e-mail：oncology2@fukuoka-pu.ac.jp
miyazono@fukuoka-pu.ac.jp

大学院生によるがん看護に関する研究

(1) 学会発表

【平成24年度入学者】

- ・岩崎玲奈他、「治癒が困難になったがん患者への療養上の意思決定に必要な看護支援」日本看護科学学会（2013）
- ・岩崎玲奈、村田節子、櫛直美、小出昭太郎「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討」第29回日本がん看護学会（2015）
- ・岩崎玲奈、村田節子、櫛直美、小出昭太郎「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討」第29回日本がん看護学会（2015）
- ・村田節子、岩橋宗哉、岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム 第2報ーロールプレイ演習とリフレクションによる評価ー」第30回日本がん看護学会（2016）
- ・村田節子、岩橋宗哉、岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム 第3報ー効果的なリフレクションを促す教員の関わりについてー」第31回日本がん看護学会（2017）

【平成25年度入学者】

- ・西坂恵子、村田節子、宮園真美「がんサバイバーの情緒的支援と対処行動，心理的適応に関する文献的考察」第41回日本看護研究学会（2015）

(2) 修士論文

【平成24年度入学者】

- ・岩崎玲奈：治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と支援に影響している要因の検討

【平成25年度入学者】

- ・西坂恵子：自宅で生活を送るがんサバイバーが感じる情緒的支援と、対処行動・心理的適応との関係

その他

(1) 西日本がんプロ合同市民公開シンポジウムへの参加

九州がんプロの一員として、当大学からも西日本がんプロ市民公開シンポジウム（平成26年10月18日）へ参加し、乳がん部門での分科会の役割を担った。

(2) 九州がんプロ全体研修会参加

九州がんプロ基盤養成推進プランで平成25年より1回／年に開催されている九州がんプロ全体研修会に教員及び学生と共に参加した。症例カンファレンス等を通して、最新の治療の方針やそれぞれの職種の役割、チーム医療について意見交換を行い学びを深めることができた。又、ミニレクチャーなどで最新の治療の動向を知ることができた。さらに他大学の教官や学生との交流を深めることができた。

(3) キャンサー・ナーシング・カフェの成果発表

◎平成27年度 第17回看護医療学会

- ・宮園真美、村田節子、政時和美、植木昭代「地域でがんについて語り合う「キャンサー・ナーシング・カフェの取り組み」～医療スタッフの意識調査～」
- ・村田節子、宮園真美、政時和美「地域で語り合うがんとの向き合い方～キャンサー・ナーシング・カフェの取り組み～」

◎平成28年度 第18回看護医療学会

- ・宮園真美、村田節子、政時和美、今丸満美、植木昭代、「地域住民参加型プログラム『キャンサー・ナー

シング・カフェ』実践への課題 ～主催者側スタッフの実施評価調査より～]

- ・政時和美、村田節子、宮園真美、今丸満美、吉田恭子、櫛直美、杉本みぎわ、柴北早苗、吉村美奈子、植木昭代「訪問看護ステーションの支援に関する意識調査～『キャンサー・ナーシング・カフェ』の取り組み」
- ・村田節子、宮園真美、政時和美、今丸満美、吉田恭子、櫛直美、杉本みぎわ、柴北早苗、吉村美奈子、「がん療養生活の選択に影響を与えるもの～地域で語り合うがんとの向き合い方（第2報）～」

(4) がん看護専門看護師コース指導法に関する工夫 研究成果

- ・村田節子、岩橋宗哉「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム－ロールプレイ演習のリフレクションによる評価－」第29回日本がん看護学会（2015）
- ・村田節子、岩橋宗哉、岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム 第2報－ロールプレイ演習とリフレクションによる評価－」第30回日本がん看護学会（2016.2.20）

教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施

当大学でがんプロの企画としてがん看護勉強会を年に5回開催し、専門職者の講義やグループワークなどを行いがんプロ教員の能力向上を図るとともに地域の医療職者からの知見を得るなどの取り組みを行っている（教員参加人数7～8名/回）。

がん診療拠点、緩和ケア専門病院との合同セミナーの取り組み

がんプロ教員は、認定がん医療ネットワークナビゲーターの学習をするなど、がん拠点病院や緩和ケア専門病院と実践においても連携するよう取り組んでいる。認定がん医療ネットワークナビゲーターの学習のe-learningへの積極的な参加も行った。

教員はがん拠点病院のELNECファシリテーターとしても活動している。

総括

公立大学法人 福岡県立大学は第1期がんプロから引き続き参加して、がん看護専門看護師養成を行ってきた。当大学は臨床病院を持っていない。また、医療関係の他の学部もないために実習や普段の他医療職種とのディスカッションが行いにくい環境にある。加えて県立大学としての様々な制約や今後の方針から、かねてより今後の専門看護師コース継続について学内で論議が行われていた。最終的に平成28年度の26単位の認定期間終了と共にがん看護専門看護師コースを終了することとなった。

しかし、第1期より当大学院のコースを修了した修了生は地域のがん看護を担う中核メンバーとして活躍している。また、地域貢献として行ってきたがん看護勉強会やがん看護セミナーは、そこらからがん看護専門看護師コースの応募者があるなど、地域のがん看護に関する一定の教育効果や意識の向上に効果があったと考える。さらに修了生たちは、がんプロを通して他大学の教官や学生との交流も深め、臨床実践で連携や研究活動を行っている。指導教員も勉強会などを通して看護専門職としての活動のブラッシュアップを行ったり、修了生の開催するELNEC等でファシリテーターをつとめるなど、修了生の臨床家としての継続した活動に寄与することができた。

さらに、平成26年度より開催したキャンサー・ナーシング・カフェの取り組みで、地域住民と直接ふれあいながらがん医療に対する情報提供や、地域ニーズの把握を行うことができた。学生には地域のアセスメントや住民のニーズを分析したり、そのニーズに相応しい専門職としての活動を検討するなどの機会となった。その結果当校が掲げた「地域がん看護人材育成コース」に適した教育内容を実践することができた。又その成果をカフェの取り組みで連携した臨床の専門家と共に、研究として成果発表できたことは地域がん医療・がん看護に今後の活動の動機付けができたと考える。

佐賀大学

概要

佐賀大学は、「地域癌医療に貢献するがん専門医療人養成」に重点を置くコースとして、がん地域診療医師養成特別コース、がん地域医療人養成コース、がん地域診療医師養成特別コース（インテンシブコース）、がん地域医療人養成コース（インテンシブコース）（後者2コースは旧がんプロ養成基盤推進プラン）の4つのコースを設置し、地域のがん診療の質の向上を目的に、地域のがん拠点病院でがん診療の中核を担う医療人の養成を行っている。養成した人材が中心となって、がん患者の管理の施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成することにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上できると期待される。

各コースの内容

1. がん地域診療医師養成特別コース（大学院医学系研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	臨床腫瘍医、緩和ケア医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学系研究科博士課程医科学専攻 大学院生		
養成する人材像	地域基幹病院など中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり、中核的役割を果たすことができる医師を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が中心となって、がん患者の管理に施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成する。このことにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上することができる。		
教育内容の特色等	各地域の基幹病院などでがん診療の実務を行いながら履修ができる様に1)がんプロ全国 e-learning クラウドの活用、2)がん薬物療法専門医、緩和ケア専門医による巡回指導を行う。		

2. がん地域医療人養成コース（大学院医学系研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん医療に特化した各職種
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	医学系研究科修士課程医科学専攻 大学院生		
養成する人材像	地域基幹病院など中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり、中核的医師のサポートをする看護師、医療ソーシャルワーカーなど医療スタッフを養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が中心となって、がん患者の管理に施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成する。このことにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上することができる。		

教育内容の特色等	各地域の基幹病院などでがん診療の実務を行いながら履修ができる様に1) がんプロ全国 e-learning クラウドの活用、2) がん薬物療法専門医、緩和ケア専門医による巡回指導を行う。
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------

3. がん地域診療医師養成特別コース（インテンシブ）（大学院医学系研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	臨床腫瘍医、緩和ケア医
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	1年以上
コースの履修対象者	医学系研究科博士課程医科学専攻 科目等履修生		
養成する人材像	地域基幹病院など中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり、中核的役割を果たすことができる医師を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が中心となって、がん患者の管理に施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成する。このことにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上することができる。		
教育内容の特色等	各地域の基幹病院などでがん診療の実務を行いながら履修ができる様に1) がんプロ全国 e-learning クラウドの活用、2) がん薬物療法専門医、緩和ケア専門医による巡回指導を行う。		

4. がん地域医療人養成コース（インテンシブ）（大学院医学系研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん医療に特化した各職種
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	6か月以上
コースの履修対象者	医学系研究科修士課程医科学専攻 科目等履修生		
養成する人材像	地域基幹病院など中心とする地域がん医療のネットワーク形成にあたり、中核的医師のサポートをする看護師、医療ソーシャルワーカーなど医療スタッフを養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が中心となって、がん患者の管理に施設・職種横断的に取り組む、地域ネットワークを形成する。このことにより、地域の医療資源を有効に活用し、一部の医療機関への人的負担などの集中を回避しつつ、地域のがん診療の質を向上することができる。		
教育内容の特色等	各地域の基幹病院などでがん診療の実務を行いながら履修ができる様に1) がんプロ全国 e-learning クラウドの活用、2) がん薬物療法専門医、緩和ケア専門医による巡回指導を行う。		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
がん地域診療医師養成特別コース	－	1	0	2	0
がん地域医療人養成コース	－	0	0	0	0
がん地域診療医師養成特別コース（インテンシブ）	1	0	0	0	0
がん地域医療人養成コース（インテンシブ）	1	0	0	0	0

主な取組みと成果

キャンサーボードの新たな導入数

血液腫瘍内科、呼吸器内科、消化器外科、婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚科、肝臓内科、泌尿器科、口腔外科、小児科、放射線科（治療部門）の医師、看護師、薬剤師など、多分野・多職種の参加によるキャンサーボードが、平成24年は15回、平成25年は12回、平成26年は6回、平成27年は16回開催されている。平成26年度にキャンサーボードの中心的人物の一人として参加した医師は、その後、平成27年よりがん地域診療医師養成特別コースを履修している。

e-learning

佐賀大学におけるeラーニングの取り扱いは、全国eラーニングクラウドで提供される「eラーニングプログラムジュークボックス」を本学の講義以外に、さらに広く、深く学ぶための参考として視聴を奨励するとされている。しかし、視聴を必須としていないため、受講学生の自発的な視聴は行われなかった。

このことは、受講学生が必要としている科目を学内で提供できていると解釈することも可能であるが、より幅広い範囲で学ぶことは全人的医療の提供という観点から不可欠であるため、他大学が提供している科目の受講も含め、さらに利用を進めていきたい。

本学からの全国eラーニングクラウドへの教材の提供については平成25年度1科目のみであった。教材提供が進まなかった最も大きな原因は著作権処理であった。eラーニング教材の著作権についてはまだ解釈の分かれるところも残存しているが、有益な授業を全国で共有できるようにガイドライン等を示してeラーニングとしての活用をし易くするための環境作りが進められている。今後は各教員に対し、eラーニング教材化を積極的に促していきたい。

がんプロ教育におけるICT利活用として、2つの環境整備を着手または計画之中である。

まず、大学院講義収録システムの充実である。現在稼働中の講義集録システムは老朽化しているため、情報基盤システムの更新に合わせて新システムを導入することとした。簡単な操作で収録が可能であるだけでなく、インターネットを介して、講義実施時にリアルタイムでストリーミング配信を行うことができるようになるため、社会人受講者が主であるがんプロにおいては、講義がさらに受講しやすくなる。

2番目に遠隔会議システムを利用した手術指導の実施である。これまで、eラーニングといえば知識を提供する授業（座学）をオンデマンド化することに特化しており、実技指導ではまだほとんど利用されていない。本学では、平成26年10月より、九州大学アジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）の協力を得て、研修医が実施した手術ビデオをノーカットで再生しながら、大学の指導医が再生画面上にペンで直接書き込みながらポイントを指導する教育を試行している。

従来の遠隔会議システムでの資料共有は静止画による症例写真等の供覧がほとんどで、動画の共有は画質も不十分で限定的であった。今回試行している方法では、ハイビジョン画質の動画が利用できるだけでなく、再生しながらリアルタイムでその画面上にペンで書き込みながら指導ができる点が新しい利点である。これが可能になったことにより、実技に関する指導でもeラーニングが活用できる可能性が大きくなってきたといえ



る。現在はほとんどの機器を TEMDEC から借用して実施しているため、本学独自でも実施できるように、本学の基盤設備整備及びがんプロ受講学生が勤務する県内の医療機関の環境整備も合わせて行えるように、平成27年度の政策提案を佐賀県に対して行ったところである。

がん診療連携拠点・緩和ケア専門病院との連携

唐津赤十字病院にがん診療にあたる大学院生を派遣してきたが、昨年からは九州がんプロ養成基盤推進プラン履修者で、がん薬物療法専門医を取得した医師が、常勤医師として勤務を開始した。平成26年がん地域医療人養成コース修了者が現在、佐賀県医療センターにて、がんリハビリを担当している。国立病院機構佐賀病院の緩和ケアチームと毎月合同カンファレンスを開催している。そのうち隔月で佐賀大学の緩和ケア医および大学院生1名が佐賀病院で開催する合同カンファレンスに参加し、病棟回診も行っている。

九州がんプロ養成基盤推進プラン履修者による国際研修

2011年4月より医学部医学系研究科博士課程がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン臨床腫瘍医師養成特別コースに入学した小林直美医師は、2012年10月より6ヶ月間、英国ストラスクライド大学に滞在し、表面増強ラン散乱を用いて腫瘍の生物学的活性を解析するための手技習得のため指導を受けた。滞在中、英国の臨床試験事情と日本の臨床試験事情について学んだ。

がん地域診療医師養成特別コースに入学した北村浩晃医師は、米国MDアンダーソンがんセンター白血病科の診療・研究見学を行った。

九州がんプロ養成基盤推進プラン履修者による英論文発表

Kitamura H, et al. Domino-Style Cerebral Bleeding in a Patient With Immune Thrombocytopenic Purpura. JAMA Neurol. 2016 Apr;73(4):474-5.

Umeguchi H, et al. Usefulness of plasma HGF level for monitoring acquired resistance to EGFR tyrosine kinase inhibitors in non-small cell lung cancer. Oncol Rep. 2015 Jan;33(1):391-6.

Kitamura H, et al. Diffuse bone marrow uptake of fluorodeoxyglucose in a patient with aleukaemic acute lymphoblastic leukaemia. Br J Haematol. 2014 Jul;166(1):2.

Yoshimura M, et al. Induction of p53-mediated transcription and apoptosis by exportin-1 (XPO1) inhibition in mantle cell lymphoma. Cancer Sci. 2014 Jul;105(7):795-801.

Yoshimura M, et al. ABL tyrosine kinase inhibitor-induced pulmonary alveolar proteinosis in chronic myeloid leukemia. Int J Hematol. 2014 Dec;100(6):611-4.

Kobayashi N, et al. Disseminated Nocardiosis caused by Nocardia concava with acute respiratory failure and central nervous system involvement treated with linezolid. Intern Med. 2012;51(23):3281-5.

九州がんプロ養成基盤推進プラン履修者による資格取得

平成24年4月1日に吉村麻里子医師が、平成25年4月1日に小林直美医師が、平成27年4月1日に梅口仁美医師が、がん薬物療法専門医を取得した。少人数ではあるが地域におけるパイオニアとしての人材を育成できている。平成28（2016）年11月現在、総勢9名ががん薬物療法専門医を取得しており、佐賀県全体では12名と九州で2番目の専門医数となった。

九州がんプロ養成基盤推進プラン履修者の受け入れ促進

平成26年度時点での当大学における九州がんプロ養成基盤推進プラン履修者は1名のみであったが、連携病院との協議を進め、履修者の受け入れを促進した結果、がん地域診療医師養成特別コースに平成27年度2名の履修者を得た。九州がんプロ養成基盤推進プラン履修者の受け入れ促進のためには、コース履修・修了者からの推奨は大きな力になると考えられることから、平成26年度は現履修者4名を対象に満足度調査をおこなった。その結果、がん研究に関しては改善の余地を認めるも、概ね良い評価を得た（（1）がん教育改革に関する項目：5段階中4.4点、（2）地域がん医療貢献に関する項目：同3.8点、（3）がん研究に関する項目：同3.4点）。このことから、現履修者を介しての履修者の獲得を目指している。平成27年度履修の1名は、がん薬物療法専門医を取得した履修者からの推奨もあり履修を決定している。平成28年度履修者に対するアンケートも、概ね良い反応を得ている。

教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施

医学部教職員を対象とした講演会及びワークショップからなるファカルティ・ディベロップメント「医学・看護学教育ワークショップ」を毎年度開催し、カリキュラムの再考、教育の質保証、魅力あるカリキュラムなどをワークショップのテーマとしている。また、佐賀大学における教育の質保証推進の一環として、大学教員の教育の取組の検証及び改善の支援を目的とする佐賀大学ティーチング・ポートフォリオを作成することとしており、医学部教員についても、当該ワークショップに参加して作成している。

社会への情報発信

後援事業として県民公開講座（フーフー言った夫婦のがん闘病、参加者150名）を、平成27（2015）年6月13日に佐賀大学医学部で開催した。主催事業として、多職種連携セミナーを、佐賀大学医学部で、第1回（平成27（2015）年7月4日、看護カウンセリングの実際、戸田中央総合病院 広瀬寛子先生、参加者63名）、第2回（平成28（2016）年1月22日、がん治療新時代におけるチーム医療、九州大学 池末裕明先生、愛媛大学 藤原弘先生、参加者37名）、第3回（平成28（2016）年8月10日、エビデンスとナラティブに基づいた医療の実践―“最善”の方針決定をめぐる―、北海道医療大学名誉教授 石垣靖子先生、参加者105名）の3回行った。平成27（2015）年9月19日に佐賀大学医学部を会場にNPO 法人血液情報広場・つばさフォーラム in 佐賀が主催する一般向け講演会（参加者110名）にて全体講演を行った。企画事業として、多職種連携に関するセミナーを（平成27（2015）年5月8日 安全に化学療法を行うための薬剤師の取り組み、横浜市立大学病院附属市民総合医療センター 上手真梨子先生；移植患者を対象にしたリハビリ、慶應義塾大学 石川愛子先生、参加者60名）、および（平成28（2016）年6月17日 造血幹細胞移植医療におけるチーム医療とは？ 虎の門病院 成田円先生；当院の造血幹細胞移植におけるチーム医療の試みと現状 慶應義塾大学 森毅彦先生、参加者70名）に佐賀大学医学部で行った。佐賀がんリハビリテーション研修会を、年に1回ずつ佐賀大学医学部で開催した（参加者104名ずつ）。

多職種連に関するセミナーの取り組み

主催事業として、多職種連携セミナーを、佐賀大学医学部で、第1回（平成27（2015）年7月4日、看護カウンセリングの実際、戸田中央総合病院 広瀬寛子先生、参加者63名）、第2回（平成28（2016）年1月22日、がん治療新時代におけるチーム医療、九州大学 池末裕明先生、愛媛大学 藤原弘先生、参加者37名）、第3回（平成28（2016）年8月10日、エビデンスとナラティブに基づいた医療の実践―“最善”の方針決定をめぐる―、北海道医療大学名誉教授 石垣靖子先生、参加者105名）の3回行った。企画事業として、多職種連携に関するセミナーを（平成27（2015）年5月8日 安全に化学療法を行うための薬剤師の取り組み、横浜市立大学病院附属市民総合医療センター 上手真梨子先生；移植患者を対象にしたリハビリ、慶應

義塾大学、石川愛子先生、参加者 60名)、および(平成28(2016)年6月17日 造血幹細胞移植医療におけるチーム医療とは? 虎の門病院 成田円先生;当院の造血幹細胞移植におけるチーム医療の試みと現状 慶應義塾大学 森毅彦先生、参加者 70名)に佐賀大学医学部で行った。参加大学院生の多職種連携に対する意識の向上に有益であった。

院内合同カンファレンスの取り組み

緩和ケア診療班に加え、口腔ケアサポート班、臨床腫瘍班が設立された。腫瘍内科、消化器内科、産婦人科、肝臓内科、皮膚科などの医師、看護師、薬剤師など、多分野・多職種の参加によるカンサーボードが、月に1-3回程度開催されている。ここにおいて、がんプロ修了者が中心的な役割を果たしている。

総括

いまだ少人数ではあるが、佐賀県下のがん薬物療法専門医は着実に増加しており、地域におけるパイオニアとしての人材を育成できている。研究成果も履修者を筆頭者にした論文が欧米の学会誌に掲載されてきた。がん地域診療医師養成という目的に合致した、地域基幹病院など中心とする地域がん医療ネットワークの中核的役割を果たす医師を養成することができていると考える。

長崎大学

概要

長崎大学は、「がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、がん専門医師・歯科医師養成コース、がん専門薬剤師養成コース、がん看護専門看護師養成コース、「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、がん地域貢献医師・歯科医師養成コース、がん地域貢献薬剤師養成コース、がん看護地域貢献看護師養成コースの計6つのコースを設置している。また、がんに特化した臓器横断的な講座「臨床腫瘍学講座」を平成24年度に設置し、本講座にて本学のがんプロ事業の運営を担っている。

各コースの内容

1. がん専門医師・薬剤師養成コース（大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻（博士課程））

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	がん専門医師・薬剤師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年（博士課程）
コースの履修対象者	医歯薬学総合研究科医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻 大学院生		
養成する人材像	・がんに関する高度な知識と国際的な視野をもった専門医療人。 ・チーム医療を意識したがん専門医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	・がんに関する高度な知識と国際的な視野をもった指導医等が養成可能となる。 ・多職種間の連携によりチーム医療を意識したがん専門医療人の養成が期待される。		
教育内容の特色等	がんプロ全国 e-learning クラウドの推進や学生の大学間交流により、各大学の個性、得意分野の相互連携・補完が可能である。 また、国際学会での発表や国際研修派遣を積極的に行うことで、国際的な感覚と視野を涵養できる。		

2. がん専門看護師養成コース（大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻（修士課程））

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	がん専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年（修士課程）
コースの履修対象者	医歯薬学総合研究科保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	・がんに関する高度な知識と国際的な視野をもった専門医療人。 ・チーム医療を意識したがん専門医療人。		

当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関する高度な知識と国際的な視野をもった看護師が養成可能となる。 ・多職種間の連携によりチーム医療を意識したがん専門医療人の養成が期待される。
教育内容の特色等	<p>がんプロ全国 e-learning クラウドの推進や学生の大学間交流により、各大学の個性、得意分野の相互連携・補完が可能である。</p> <p>また、国際学会での発表や国際研修派遣を積極的に行うことで、国際的な感覚と視野を涵養できる。</p>

3. がん地域貢献医師・薬剤師養成コース（大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻（博士課程））

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん地域貢献医師・薬剤師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年（博士課程）
コースの履修対象者	医歯薬学総合研究科医療科学専攻、新興感染症病態制御学系専攻、放射線医療科学専攻 大学院生		
養成する人材像	離島や僻地でのがん医療の質向上や医療人の育成など、地域がん医療に貢献する優れた、かつ即戦力として活躍できるがん専門医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・医師等不足によるがん医療の地域間格差の解消。 ・がん在宅医療やがん地域連携パスに対応できる医療人の養成。 		
教育内容の特色等	在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会の Dr ネット及び離島や僻地での地域医療機関との連携を行う。		

4. がん地域貢献看護師養成コース（大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻（修士課程））

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん地域貢献看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年（修士課程）
コースの履修対象者	医歯薬学総合研究科保健学専攻 大学院生		
養成する人材像	離島や僻地でのがん医療の質向上や医療人の育成など、地域がん医療に貢献する優れた、かつ即戦力として活躍できるがん専門医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・医師等不足によるがん医療の地域間格差の解消。 ・がん在宅医療やがん地域連携パスに対応できる医療人の養成。 		
教育内容の特色等	在宅医療で先進的取り組みを行っている長崎市医師会の Dr ネット及び離島や僻地での地域医療機関との連携を行う。		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
がん専門医師・薬剤師養成コース	－	8	5	9	1
がん専門看護師養成コース	－	2	0	0	0
がん地域貢献医師・薬剤師養成コース	－	7	4	1	6
がん地域貢献看護師養成コース	－	0	0	1	0

主な取組みと成果

がんに特化した臓器横断的な講座の活動状況

「臨床腫瘍学講座」は教授1名（放射線診断学）、助教1名（放射線診断学）、大学院生3名（放射線治療1名、放射線診断1名、消化器内科1名）が所属し、本学のがんプロ事業の運営を行っている。また、週に1回、当大学病院がん診療センター（呼吸器内科1名、消化器内科1名、消化器外科1名、がん看護認定看護師2名、ソーシャルワーカー2名）と合同ミーティングを実施し、外来化学療法、がん相談支援室、がん患者サロンなどの運営に当たっている。

がんプロ大学院生の教育について

(1) e-ラーニング

がんプロ大学院生に対する講義（集学的がん治療学特論 3単位）はすべて「がんプロ全国 e-learning クラウド」で行っている。長崎大学がんプロフェッショナル基盤推進プランホームページ（<http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/ganpro/kiban/index.html>）から「がんプロ全国 e-learning クラウド」へのリンクを作成し、利用している。定期的に履修状況のチェックを行い、大学院生の履修は概ね良好である。新たな講義コンテンツの作成については、平成26年に2つ、平成28年に3つの講義を作成した。今後、新たな講義を増やし、また、これまでのコンテンツを更新していくことが課題である。

(2) 離島・僻地病院実習

離島・僻地における医療の実態を理解し、地域医療におけるがん診療能力を備えたがん専門医療人を養成する目的で、平成25年度より離島・僻地病院実習を開始した。がん地域貢献医師・歯科医師養成コースの必修科目であり、1ヶ月間の実習を行い、2単位を取得する。現在までに本学の大学院生18名と他大学の大学院生1名の実習を行った。大学院生はそれぞれの専門性を生かしながら離島・僻地医療を実践し、その経験を通して、地域医療の問題点や、がん専門医療人としての今後の自分のあり方を考える機会となった。本実習は今後も継続する予定である。

実習生	実習期間	実習先	実習報告書（抜粋）
歯科医師 歯科衛生士	平成25年 11月5日－ 11月28日	国民健康 保険平戸 市民病院	主に訪問看護に同行させてもらい、歯科訪問診療とは異なる医科の立場での在宅医療を体験しました。同時に口腔内診察・評価を行い、多くのデータを集積することが出来ました。さらに出前講座などにも参加させて頂き、平戸市民病院と地域との密着力も実感しました。今回の離島・僻地病院実習での貴重な経験を通じて、地域医療における歯科医師としての役割を改めて考えました。

実習生	実習期間	実習先	実習報告書（抜粋）
歯科医師	平成26年 1月6日－ 1月31日	長崎県上 五島病院	実習では主に入院患者や在宅患者の口腔内診察や口腔衛生指導を行いました。また、医科のドクターの診察や処置の見学もさせていただきました。患者さんと家族のように話をするスタッフの方々をみて上五島病院は地域の方々からすごく頼りにされているんだなと実感しました。今回の実習で地域医療を肌で感じる事ができ、とても充実した1ヶ月を送ることができました。
歯科医師	平成26年 2月3日－ 2月28日	長崎県五 島中央病 院、富江 病院	離島実習では、五島中央病院、富江病院、両病院内の入院患者の口腔ケア実施以外にも、五島中央病院では、内科、外科の先生方に普段大学病院では見ることがない処置等を見学させていただきました。
医師 (福岡大学)	平成26年 3月3日－ 3月28日	長崎県上 五島病院	受診依頼のあった症例は24時間全て受け入れなければならないという厳しい条件にある病院でした。そして医師の数は多くはなく仕事は夜遅くまで行われているのが現状です。真夜中に心肺停止の症例が救急車で運ばれて来れば、当直医だけでなく病院に残っているすべての医師が対応します。大変な仕事環境ですが、皆仲が良く、楽しく働いていました。
歯科医師	平成26年 8月4日－ 8月29日	長崎県対 馬いづは ら病院	内科の先生に付き、外来や病棟だけでなく出張診療所や訪問診療にも同行させていただき、内科的治療について色々とお話をいただきました。歯科が併設されていないため歯科治療はできませんが、内科実習と並行して、ICU 管理中の患者さん、がん化学療法を受けておられる患者さん、脳梗塞等でセルフケア困難な患者さん等に対し、看護師さん方と一緒に口腔ケアを実施しました。8/26には院内向けに、口腔ケアや医科歯科連携についての勉強会を開催させていただきました。
医師	平成26年 8月4日－ 8月27日	長崎県中 対馬病院	離島や僻地で問題になっている医療従事者の人手不足は否めず、常勤医師はほぼ毎日外来もしくは救急担当となっており、その負担は非常に大きいものであると感じました。また、今回、入院症例の担当もさせていただきましたが、心原性脳塞栓症や出血性胃潰瘍、膵癌、肺炎、間質性肺炎など自分の専門領域から非専門領域まで幅広い症例を経験させていただきました。約1か月間という短い期間ではありましたが、僻地・離島医療圏の診療だけでなく、現場医療の問題点やそこで努力している医療従事者の現状を垣間見ることができました。
歯科医師	平成27年 1月5日－ 1月26日	上五島病 院	普段の歯科における診療では見ることのできない処置や検査などに同行させていただき、様々な知識を教わったことはかけがいの無い経験となりました。地域に根付いた上五島病院で島に住む人々を自分の家族のように考え、日々医療に取り組む先生方・スタッフの皆様の姿勢は、再度普段の自分の診療に対する姿勢を見直す良い機会となりました。
歯科医師	平成27年 2月2日－ 2月27日	平戸市民 病院	実習期間中は、訪問看護や訪問診療で在宅患者の口腔内診察や口腔ケアをさせていただきました。近くに歯科医院がなく、また往診を行える歯科医院も少ないため、歯科に行きたくても、歯科受診ができないという現状を知ることができました。今回、歯科で往診に来られている先生にも同行させていただき、院内の嚥下回診や歯科治療を見学させていただきました。このような往診を行える歯科医院の必要性を実感いたしました。
歯科医師	平成27年 9月2日－ 9月29日	上五島病 院	内科指導医の下、外来、病棟往診、処置、在宅訪問の実習が始まりました。その指導医はほぼ同年齢で内科部長と医局長を兼任していました。他の内科医も卒後3～5年の若手が多かったのですが、どのドクターも非常にモチベーションと技量が高かったように思います。呼吸器、消化器、循環器、腎臓、内分泌や膠原病など内科全般の広い分野をカバーしていました。それは自分たちがこの島の医療の最後の砦であることを自覚し、日々研鑽を積んでいる結果ではないかと思えます。化学療法中の患者さんや肺炎、易感染などの患者さんの口腔ケアを可及的にさせてもらいました。貴重な経験をさせていただき、診た患者さん全員にお礼を言いたいです。

実習生	実習期間	実習先	実習報告書（抜粋）
歯科医師	平成28年 1月4日－ 1月29日	五島中央 病院	五島中央病院では上下内視鏡検査や、気管支鏡検査、膿胸ドレナージや胆管 ステント留置など様々な検査や処置、肝臓がんや大腸がんなどの外科手術の 見学、救急搬送されたCPAの患者への対応など様々な経験をいただきました。 実際に検査や処置を行っている様子を見て手技や処置の大変さや、患者 の状態によって臨機応変な対応などの先生方の配慮や工夫がわかり、よく分 からないところも先生方から丁寧に教えていただき大変勉強になりました。
歯科医師	平成28年 1月4日－ 1月29日	対馬病院	思っていたよりずっと離島・僻地では先進的な医療が行われていること に驚かされるとともに、日本が抱えている少子高齢化や過疎化の問題点 も間近で見ることができました。この他にも、普段見ることのない内視鏡 や読影について丁寧に教えていただき、私自身本当に貴重な体験をさせ ていただきました。一方で、歯科的目線からの離島医療では高齢者ほど歯 科治療に対する病識が足りないように感じました。
医師	平成28年 2月1日－ 2月26日	五島中央 病院	実習は外来と病棟実習を主に行いました。外来では五島中央病院にかかり つけの患者の急患対応（救急車対応も）を行う外来を週3回行い、新患外 来を週1回手伝っていました。だいたい15-25人／日程度の診察を行いま した。今回外来・入院で多くの患者を診察して感じたのは離島の患者の高 齢化です。高齢化に伴い癌患者の数は増加することが考えられます。高齢 化に対応できるようマンパワーの確保が離島医療の課題と思いました。
医師	平成28年 2月1日－ 2月26日	平戸市民 病院	訪問診療、訪問看護、訪問リハビリに同伴させて頂き、身体的理由で病院 まで通えない患者のお宅に病院車で伺いました。『『地域医療の実情』とは どのようなものか』について、訪問医療（診療、看護、リハビリ）のイン パクトが大きかったのでこれらを頑張っていることがその答えなのかと 思っていました。今はそうではないと思っております。病院に通えない 患者の存在は離島・僻地に限ったわけではありませんし、訪問診療、看 護、リハビリは都会にも存在します。むしろ、規模としては決して大き くない病院に勤務する医師が近くに頼れる病院（開業医、同等 or 高次レ ベルの病院）がない中で、専門外の疾患のことまでストレスやリスクを負い つつ診療せざるを得ない（逆を言えば患者にとっても専門外の医師に命 を預けている）環境のことではないかと考えました。
歯科医師	平成28年 5月9日－ 5月31日	対馬病院	本実習では離島・僻地のがん診療以外にも、僻地医療全般を学ぶことが できたと思いました。また、我々歯科医師が普段触れることのない医科領 域の疾患に触れることができたのも私にとっては大きな収穫でした。医 科疾患に対する考え方、アプローチの仕方を実際の臨床現場で見学す ることで、今後の自身の診療にフィードバックできるものと考えています。
看護師	平成28年 9月5日－ 9月16日	平戸市民 病院	地域におけるがん看護のあり方を学ぶために、2週間実習させていただ きました。高齢者の増加に伴い、地域でも都心部でもがん患者は増え、が んの治療を受けながら地域で生活している患者も多く、意思決定の支援、 看取りのケアまで格差のない医療の提供が必要であることも実感しまし た。先生方、医療事務、看護スタッフの皆さんは忙しい業務の中で、疾患 だけではなく患者を取り巻く生活環境にまで考慮した対応で、患者と会 話を多く持ち必要な情報を得て、患者が安心する声かけをされていま した。また職種を超えたスタッフ間のコミュニケーションもスムーズな診 療につながっていることを感じました。
歯科医師	平成28年 10月3日－ 10月28日	五島中央 病院	午前外来診察を見学させていただき、午後は内視鏡検査、気管支鏡、 US、ペースメーカー埋め込み、透析、透視下による心臓カテーテル手術、 化学療法などといった専門的治療を約1か月間にわたり体験、見学させ ていただきました。急患対応では三次圏医療が必要とされている脳梗塞 の患者さんを長崎医療センターに画像伝送して、海上自衛隊のヘリコプ ターによる患者搬送を行う、画像伝送システムとヘリコプターによる救 急搬送システムも見学することができました。約1か月という短い期間 ではありましたが、僻地・離島医療圏の診療だけでなく、現場医療の問題 点やそこで努力している医療従事者の現状を見ることができました。

実習生	実習期間	実習先	実習報告書（抜粋）
歯科医師	平成28年 11月1日－ 11月25日	平戸市民 病院	主に訪問診療・介護、訪問リハビリを行う中で訪れた先の患者さんに対し口腔内診察を行わせていただきました。口腔内診察を行う中で、普通の大学での患者さんと比べ、う蝕、歯の喪失、義歯不適合を放置している患者さんが多いように感じました。平戸では、往診を行う歯医者が多くなく、通院が困難な患者さんに対して、治療や検診が十分に行き届いていない現状を知りました。患者さんも口腔内の状態に悩みを抱えているものの、解決する手段がなく困っている方が多かった印象を受けました。都心部では歯科医院が多くあり、患者さんも受診する機会が多くありますが、僻地においては需要を満たせていないのだなあと感じました。
歯科医師	平成28年 12月1日－ 12月28日	五島中央 病院	今回の実習にて内科の外来診察では、患者の主訴に対する検査や診察・診断を見学させていただき、病棟では化学療法や患者管理、内視鏡検査や気管支鏡検査、カテーテル治療などといった専門的な分野においても見学させていただきました。診療科に歯科が存在しないため、私が行うことができることは限られていましたが、月曜午後には嚥下専門看護師・言語聴覚士・栄養士にて行われている嚥下ラウンドと一緒に回ることで、嚥下についての知識を更に深めると共に、口腔内に問題を抱えている患者の診察や診断、口腔ケアを行っていきました。現在歯科的処置の必要な患者には近隣の歯科医院の先生が介入しているとのことですが、積極的な歯科治療の介入は困難であるとのことでした。

(3) 在宅医療実習

長崎在宅 Dr. ネットの医療施設において、がんを含む在宅医療全般を幅広く経験し、幅広いがん診療能力を備えたがん専門医療人を養成する目的で、平成26年度より在宅医療実習を開始した。がん専門医師・歯科医師養成コースの必修科目であり、1日2コマ（午前、午後）として換算して、10コマの実習を行い、1単位を取得する。これまでに本学の大学院生15名が実習を行った。大学院生はそれぞれの専門領域において、大学病院を退院したがん患者の治療について、多くのことを学んだ。本実習は今後も継続する予定である。

実習生	実習期間	実習先	実習報告書（抜粋）
医師	平成26年 7月14日－ 7月18日	長崎宝町 医療クリ ニック	外来を行わず、往診専門のクリニックです。院長の松尾先生の他に2人の先生がおられ、約130人の患者さんを診られています。主に車で、自宅や有料老人ホーム、小規模多機能ホームなどに往診に行きます。私の実習中は1日平均30人くらいの往診をしていたと思います。実際の実習は往診して、必要があれば点滴や抗生剤、利尿剤など使うこともあります。退院前カンファや、自宅でのPICC(peripheral inserted central catheter)、鼠径部からのCV挿入も見せていただきました。1度朝の6時に亡くなられた患者様の看取りと一緒にさせていただきました。
医師	平成26年 9月1日－ 9月12日	ホーム・ ホスピス 中尾クリ ニック	まず始めに感じたことは外来の診外来の診療室ではなく実際にその患者さんの家に入ることによって患者さんの生活の実態（生活環境や外来ではみることができない人間関係・患者さんの態度、バリアフリーの程度）を把握することができるということです。さらに、家というパーソナルスペースに入ることにより一層心理的に家族に近づくことができ、それは患者さんやその家族の視点に立った医療につながります。大学院という機会がなければなかなか実現しないこのような実習は是非継続して頂ければ幸いです。
医師	平成26年 8月5日－ 10月14日	奥平外科 医院	10数名程度の患者の在宅診療を毎週火・金曜日の午後に行っておられます。奥平定之先生と大坪看護師のお二人で往診しておられ、毎週火曜日の往診に帯同させていただき、原爆病院や大学病院の入院患者の退院前カンファレンスにも同行させていただきました。基本的には在宅診療・在宅看護はほとんどの患者に適応出来ると言っておられました。在宅診療をしながら、ご家族の理解も深まり、重症患者を在宅でみることが可能であることをこの実習で理解することができ、非常に有意義でした。

実習生	実習期間	実習先	実習報告書（抜粋）
医師	平成27年 4月20日－ 6月1日	白髭内科 医院	今回の実習を通じ、白髭先生には長崎で独自に発展させていった Dr. net システムの素晴らしさを教えて頂きました。将来、この活動に取り組むかどうかは現時点では分かりませんが、このような素晴らしいシステムがあることを体感でき、自分が外科医として診療にあたる際には是非とも Dr. net を活用し、在宅診療の力添えになれるようにしていきたいと強く感じました。
医師	平成27年 5月26日－ 12月1日	谷川放射 線科胃腸 科医院	在宅の先生に紹介をするというところまでしか携わっていなかった在宅医療の、核となる場面に携わることで、患者様と関わる在宅医およびスタッフの方々、また患者様を介護するご家族様と関わりをもてたことや、生活背景・環境といった在宅医療において重要となってくる場面を知ることができました。今後の臨床において、在宅医療が必要とされる患者様に選択肢の一つとして提示する際に今回の経験を生かすことができればと思います。
医師	平成27年 6月1日－ 6月26日	たくま医 院、ゆき なりクリ ニック、 安 中 外 科・脳神 経外科医 院、出口 外科医院	在宅医が少ない一因として、院内外来診療が多忙である上に、在宅医療を行うことでの医師側へのメリットが少なく、むしろ、自分の専門外のことを要求される可能性があることに対する不安があげられると考える。医療が細分化された現代においても、開業医院での外来診療、とくに持参する器具も限られる訪問診療では、全科的な知識や、難病、ターミナルケアに関する知識、それに伴った侵襲的な手技が求められることもしばしばである。そういった際に、各領域の専門医にコンサルトが可能な、長崎在宅 Dr. ネットの活用は非常に有用であると感じた。各診療科の医師間または主幹病院医師との間にネットワークを広げ、在宅診療を行う医師の診療上の不安を取り除くことに加えて、国だけではなく、県や市の条例等、法整備（在宅診療を行う医師側へのメリット）等による在宅診療をおこなえる医師の確保を行うことで、長崎が在宅医療のモデルケースを作ることも可能ではないかと考える。
医師	平成27年 6月19日－ 10月9日	奥平外科 医院	奥平先生に付いて訪問させて頂いた患者さん宅それぞれが違った家庭環境、居住環境で、抱えている身体的精神的問題も様々であった。時には精神科あるいはカウンセラーなどの介入も検討する価値があるのではないかと思えたほど、在宅医療では個々の感情や家庭事情などにも耳を傾ける場があり、寄り添いながら、与えられた環境の中で患者さんご本人とご家族が納得できる better な医療やサービス、生活上の工夫などを提供していく。急性期病院しか経験してこなかった自分にとっては衝撃的な経験、現実であった。たくさん貴重な経験をさせて頂き、『在宅医療』の必要性、と同時に在宅医不足も含めた『在宅医療』が抱える問題点、市制上の改善の余地について考えさせられた。またなによりも医師としての考え方・見方が大きく揺さぶられ、大変大きな刺激を受けた。大学病院や毎日のように手術に入る中核病院のような急性期病院ではなかなか見ることのできない、しかし見逃してはならない事実・現実が存在していること、そして私達がどんなに忙しくても、私達が相手にしているのは様々な背景をもった一人の人のんだ、ということに改めて意識させられた。
医師	平成27年 7月6日－ 8月21日	ホーム・ ホスピス 中尾クリ ニック	診察は午前中、午後ともに通院できる方は外来受診をされ、診察が終了すると、院長先生が運転される軽自動車に看護師と三人乗り込み往診に出かけます。まず、驚かされたのは、院長のドライビングテクニックと裏道を駆使した無駄のない往診プランでした。また、看護師さんのかばんも持たせていただきましたがかなり重く驚きました。病氣と向かい合いながらも家族としての立場を全うされている姿。そういうことをお互いに共有しながらお互いに考えながら、治療を行っていく。こうして、深い関係性、信頼関係が構築され、最終的に在宅での看取りに関してもゆっくりと時間をかけて相談できる状況になることがわかりました。

実習生	実習期間	実習先	実習報告書（抜粋）
医師	平成27年 8月17日－ 8月21日	安 中 外 科・脳神 経外科医 院	訪問診療では、安中先生ご自身の車に同乗させていただき、南は脇岬、東はかき道、西は福田方面まで幅広く飛び回っておられました。以前は滑石方面まで行かれていたとのことですが、そのテリトリーの広さには本当に驚きました。しかも1日につき15～20件もの患者さん宅を訪問し、お話を聞いては診察されていくのですから、その多忙さは想像を超えるものでした。5日間ではありましたが、非常に濃い実習をさせていただいたと思います。今回感じたこと、今までは感じえず考えさせられたことを、今後の診療に役立たせられるよう日々精進したいと思います。
医師	平成27年 10月7日－ 12月16日	安 中 外 科・脳神 経外科医 院、たく ま医院	今回の実習を通じて最も強く感じたことは、在宅医療と急性期医療の違いは大きいということでした。我々急性期病院の医師は、重篤な病態を専門的知識で何とか鎮めることが最重要課題で、その後のことはどうしても後回しになりがちですが、在宅医療はその後どう生活させていくということが最重要課題で、全人的な視点が求められます。また近年、在院日数の短縮化、患者の大病院志向もあり、細やかな医療を提供する余裕を失ってしまっているということ、両先生方の診療をみていて気づかされました。我々がしつつい MSW に丸投げしてしまう患者さんの社会的問題にも真摯に取り組んでおられ、訪問看護ステーションの方々も含め、患者さん・多職種と良くコミュニケーションを取っていることに深い感銘を受けました。
医師	平成28年 1月18日－ 1月31日	安 中 外 科・脳神 経外科医 院、たく ま 医院、 出口外科 医院	私たちが普段、外来で患者さんを診るときは主に病気をみていて、本当に生活のごく一部しかみることができていないということを痛感しました。外来までどのくらいの時間をかけて、どうやって来られたのか、治療を受けたあとはきつい中で急な坂を上っているのかなどはあまり気が付かない点でした。「自分達は全ての病気の専門家にはなれないから、今どんな病状なのか全てを理解することはできないと思う。でも生活がととのっているか、困っていることはないか、前の訪問の時と違う様子はないかみている。」という言葉がとても印象的でした。
医師	平成28年 5月19日－ 5月25日	ホーム・ ホスピス 中尾クリ ニック	中尾先生の診療に1週間同行し、在宅医療には多種多様な疾患を抱えている患者さんのため総合的な医学知識とマネージメント力が必要だということが分かりました。患者さんの疾患だけではなく御家族の状況、介護保険をはじめとした受けられる公的サービス、家の構造までも考えて診療にあたられておりました。1人ひとり異なる状況で御本人御家族の身体的精神的な負担をなるべく少なく出来るように日々考えられ診療されておりました。この包括的なマネージメントは病院で主治医として患者さんの診療に当たるうえでも、重要であると考えられました。
医師	平成28年 6月2日－ 7月12日	長崎宝在 宅医療ク リニック	クリニックとしての外来診療は行っておらず往診を専門にされています。院長の松尾先生含め3名の先生で実際の往診・診療業務を行っていますが常時130-140人の患者さんを診られていました。実習当初、外来診療をされないということの意味があまり理解できていなかったのですが、往診専門でされているというシステムが無いと成立しないことが多くあり、その上で患者さんが享受できる多くの利点があることも理解できました。実際の診療場面で得る面も多くありましたが、同時に移動中の車内でお話いただいた患者さんのこと、往診医としての考え方や理念、先生自身のこと、先生のご家族のことや計画されている将来的なプロジェクトのお話まで本当に色々なこととお話いただき得るものが沢山ありました。

実習生	実習期間	実習先	実習報告書（抜粋）
医師	平成28年 6月27日－ 7月8日	安 中 外 科・脳神 経外科医 院、たく ま医院	安中先生は毎日午後、北は西山、南は脇岬の広範囲を走り回っておられます。小児から高齢者まで、胃瘻や呼吸器管理、褥瘡の治療など、外科医の技術を生かした診療が多くあり、私も一部お手伝いさせていただきました。あじさいネットを活用し、病院主治医よりシビアな病状説明を受けた患者さんに、今後の過ごし方や他の治療法を模索するかどうか等のインフォームドコンセントの場に立ち合わせていただきました。詫摩先生はスピリチュアルな痛みのケアまで重視されている先生で、これまでの人生や遺り残したことを訊くのに30分以上お話することもありました。どの患者さんも先生の訪問を楽しみに待っているように見え、もはや生活の一部となっているような印象を受けました。在宅看取りのインフォームドコンセントに立ち会うのは初めての経験で、具体的な手順や本人の人生に沿った旅立ち方など、学ぶことが多かったです。
医師	平成28年 10月3日－ 10月28日	安 中 外 科・脳神 経外科医 院、白髭 内 科 医 院、出口 外 科 医 院、たく ま医院	日頃は肺癌、誤嚥性肺炎、その他呼吸器疾患を診療しており、ターミナル期や寝たきりの患者さんを診療することが多い。いざ治療して退院となったときに病院にするのか、施設にするのか、在宅にするのかといったことを考える。ソーシャルワーカーが患者さんや紹介先と上手にコミュニケーションをとって調整してくれることが多いが、今回の実習で主治医としてより在宅という選択肢をアドバイスできるようになったと思う。とても熱心で優秀な在宅の先生が長崎に多くいることがわかり、より連携をとって診療できればと思う。どの先生も人間性や活動的な生き方がとても刺激になった。また自分が看てほしい、患者さんを紹介したいと思う素敵な先生だった。24時間拘束の状態で親身に診療しているのがわかった。

（４）九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン長崎大学記念講演会

がんプロを修了する大学院生の研究発表を行う機会として、毎年記念講演会を開催している。平成24年度は、平成25年2月17日に、研究発表、読別講演「Bridge between Bench and Bedside」（古川洋一教授 東京大学医科学研究所先端医療センター臨床ゲノム腫瘍学分野教授）を行った。平成25年度は、平成26年2月10日に、研究発表、離島・僻地医療実習報告、特別講演「国際連携による胃癌化学療法の開発」（馬場英司教授 九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座）を行った。参加者は59名で、その他に、テレビ会議システムを通して福岡大学、九州大学、大分大学からも参加していただいた。平成26年度は、平成27年2月17日に開催し、研究発表、在宅医療実習報告、韓国アサンメディカルセンター研修報告、がん専門看護師合格報告を行った。特別講演は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻臨床腫瘍学講座教授 上野真一先生をお招きし、「若手医療者のための「がんチーム医療」」についてご講演いただいた。平成27年度は、平成28年2月9日に開催し、研究発表、在宅医療実習報告、がん専門看護師合格報告を行った。特別講演は、琉球大学大学院医学研究科放射線診断治療学講座准教授 戸板孝文先生をお招きし、「集学的治療における放射線治療の役割：特に婦人科がんについて」をご講演いただいた。平成28年度は、平成29年2月8日に開催を予定し、研究発表、離島・僻地病院実習報告、韓国アサンメディカルセンター研修報告を行う予定である。特別講演は、全国がんプロ協議会会長、大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻特任教授 松浦成昭先生をお招きし、「がん医療人材養成にがんプロの果たしてきた役割」についてご講演いただく。

大学間交流

（１）九州がんプロ全体研修会

九州がんプロ養成基盤推進プランに参加する九州各地の大学院生と教員が集まり、症例検討とワークショップを行った。第1回（平成25年7月13日－14日 休暇村志賀島）に教員6名と大学院生2名が参加した。第2回（平成26年12月20日－21日 レイクサイドホテル久山）には、教員5名と大学院生2名が参加した。がんの症例についてディスカッションを行い、大学院生は他診療科の考え方やがんにかかわる他職種の考え方を学ぶことができた。また、他大学の大学院生や教員との交流を深め、互いの教育、臨床、研究についての意見を

交換した。第3回（平成28年1月30日－31日 指宿ベイテラス HOTEL & SPA 及びメディポリス国際陽子線治療センター）には教員3名と大学院生1名が参加した。第4回（平成29年1月21日－22日 長崎にっしょうかん）は、長崎大学主催で長崎市にて開催した。参加者は全体で33名であり、長崎大学からは教員9名と大学院生3名が参加した。これまで同様、症例検討やワークショップ、懇親会を通して他大学との交流を深めることができたが、参加大学は5大学であり、オール九州での研修会開催が今後の課題である。

（2）アサン医療センター・アサンがんセンター（ソウル）派遣研修

第1回（平成25年11月4日－5日）ウルサン医科大学アサン医療センター訪問研修に教員1名と大学院生1名が参加した。第2回（平成26年11月3日－4日）には、教員2名と大学院生1名が参加した。日本と韓国におけるがん医療や臨床研究制度の違いについて学び、今後の診療と研究を推進する上で貴重な体験となった。第3回（平成28年1月11日－12日）には教員1名と大学院生1名が参加した。第4回（平成29年1月9日－10日）には大学院生1名が参加した。

（3）西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム

平成26年10月18日福岡国際会議場において市民公開シンポジウムが行われ、教員2名が参加し、分科会での質疑応答等を行った。

研修会の開催：長崎県がん診療連携拠点病院研修会

長崎大学病院がん診療センターと共催で年に4回の研修会を開催している。がん化学療法、放射線治療、外科治療、看護、医療政策など、がんに特化した臓器横断的な内容の研修会を定期的に開催し、当大学病院の医療スタッフやがんプロ大学院生が最新の情報を学んでいる。

開催日	長崎県がん診療連携拠点病院研修会 テーマ
平成24年4月16日	「アセトアミノフェン～当院における使用実態と注意点～」長崎大学病院薬剤部 宮永圭先生 「アセトアミノフェンの作用機序について」国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 ユニット長 白石成二先生
平成24年7月14日	「第二次がん対策推進基本計画」国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦先生
平成24年12月10日	「膵がんの診断と治療」川崎医科大学附属病院消化器外科教授 中村雅史先生
平成25年2月28日	「抗がん剤の職業的曝露と対策について」大阪府立公衆衛生研究所衛生化学部生活環境課 吉田仁先生
平成25年6月1日	「第2期がん対策推進基本計画策定後の、がん対策の動向について」国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦先生
平成25年7月16日	「重粒子線がん治療の現状と将来」九州大学大学院医学研究院・重粒子線がん治療学講座 教授 塩山善之先生
平成25年12月6日	「非小細胞肺癌化学療法の最新情報」関西医科大学附属枚方病院呼吸器腫瘍内科診療教授 倉田宝保先生
平成26年5月24日	「がん対策をめぐる最近の動き－新たながん診療提供体制を中心に－」国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦先生
平成26年7月23日	「放射線治療の進歩と高精度放射線治療」九州大学病院放射線部准教授 中村和正先生
平成26年9月5日	「がん患者への支援－告知と意思決定－」株式会社 緩和ケアパートナーズ がん看護専門看護師 梅田恵先生

開催日	長崎県がん診療連携拠点病院研修会 テーマ
平成27年 1月20日	「遺伝と乳がんー診断から切除までー」 聖路加国際病院乳腺外科部長 山内英子先生 「乳がんの薬物療法」 聖路加国際病院腫瘍内科部長 山内照夫先生
平成27年 6月 6日	「わが国のがん対策 最近の動向 ー基本計画の中間報告と今後の方向性」 国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦先生
平成27年 7月24日	「抗がん剤投与における IV ナースの取組み」 国立がん研究センター東病院 看護部副師長 がん看護専門看護師 市川智里先生 「遺伝子異常を有する希少がんに対する個別化治療の確立への挑戦」 国立がん研究センター東病院 呼吸器内科長 後藤功一先生
平成27年 9月 4日	「長崎県がん登録の現状と腫瘍組織登録」 長崎大学原爆後障害医療研究所 腫瘍・診断病理学分野（原研病理）教授 中島正洋先生 「胃がん予防のための「ヘリコバクターピロリ菌除菌に対する薬事承認と保険適用」への道のり&「がん登録推進法」の施行へ向けて」 参議院議員 秋野公造先生
平成28年 2月 1日	「ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の現状と将来展望」 京都大学原子炉実験所重粒子腫瘍学研究センター 粒子線腫瘍学研究分野 教授 鈴木実先生
平成28年 6月26日	「今後のがん対策の方向性について ーがん対策加速化プランと第3期基本計画に向けた動き」 国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾文彦先生
平成28年 8月24日	「胃がんに対する化学療法 ～大学における腫瘍内科の役割を含めて～」 大分大学医学部腫瘍・血液内科学講座 教授 白尾国昭先生
平成28年11月 4日	「分子画像と放射線治療の融合」 岐阜大学大学院医学系研究科 腫瘍制御学講座放射線医学分野 教授 松尾政之先生
平成29年 1月11日	「がんサバイバーの QOL：がん治療と生殖機能～女性での妊孕性温存を中心に～」 長崎大学病院産婦人科 講師 北島道夫先生

大学院生によるがん医療に関する研究論文

国際学会・英文誌での論文発表（旧がんプロからの移行者のぞく）

Takemoto S, et al. Pharmacokinetic Parameters of Gefitinib Predicts its Progression Free Survival and Adverse Events: 2014 IASLC Asia Pacific Lung Cancer Conference (APLCC) November 6-8, 2014, Kuala Lumpur, Malaysia
Senju H, et al. A Phase II study of Amrubicin and Carboplatin for previously untreated patients with Extensive-Disease Small Cell Lung Cancer: 2014 IASLC Asia Pacific Lung Cancer Conference (APLCC) November 6-8, 2014, Kuala Lumpur, Malaysia
Sasaki R, et al. Serum Wisteria Floribunda Agglutinin-Positive Mac-2 Binding Protein Values Predict the Development of Hepatocellular Carcinoma among Patients with Chronic Hepatitis C after Sustained Virological Response. PLoS One 2015 Jun 12;10(6)
Sasaki R, et al. Changes in levels of venous blood ketone bodies after transcatheter arterial chemoembolization of hepatocellular carcinoma. The 12th JSH Single Topic Conference, Sep.22-23 2016,Kanazawa,Japan.
Ogawara D, et al. Drug fever after cancer chemotherapy is most commonly observed on posttreatment days 3 and 4. Supportive Care in Cancer 24(2): 615-619; 2015
Koike H, et al. Quantification of lung perfusion blood volume by dualenergy CT in patients with and without chronic obstructive pulmonary disease. JBR-BTR 99(1), pp. 62-68,2015
Koike H, et al. Quantification of lung perfusion blood volume (lung PBV) by dual-energy CT in patients with and without pulmonary hypertension. RSNA (Radiological Society of North America) 100th Nov.30-Dec.5 2014,Chicago,IL,USA
Koike H, et al. Lung perfusion blood volume (lung PBV) image of pulmonary infarction (PI) on various stages. RSNA (Radiological Society of North America) 101th Nov.29-Dec.4 2015,Chicago,IL,USA
Nakamura D, et al. Outcomes of Fractionated Stereotactic Radiotherapy for Skull Base Meningiomas. European Cancer Congress 2013 Sep.27-Oct.1 2013, Amsterdam, Netherlands

国際学会・英文誌での論文発表（つづき）

Nakamura D, et al. Outcomes of Stereotactic Body Radiotherapy for Intrapulmonary Recurrence after Lung Cancer Surgery. 3rd ESTRO FORUM, Apr.24-28 2015, Barcelona, Spain
Maruya Y, et al. Transplantation adipose-derived stromal cell sheets for prevention of stricture after esophageal endoscopic submucosal dissection in pig models. 2015 4th TERMIS World Congress, sep.8-11 2015, Boston, MA, USA
Imamura H, et al. Outcomes of performing living donor liver transplantation alone in patients on maintenance hemodialysis in Japan: A multi-institutional study. International Liver Transplantation Society 2015, July 8-11 2015, Chicago, IL,USA.
Onizuka H, et al. Postoperative complications and management of endovascular aortic aneurysm repair. RSNA (Radiological Society of North America) 101th Nov.29-Dec.4 2015,Chicago,IL,USA
Mori M, et al. Usefulness of dual energy CT for endoleaks after endovascular aortic repair. RSNA (Radiological Society of North America) 101th Nov.29-Dec.4 2015,Chicago,IL,USA.
Kinoe H, et al. Discordance of biomarkers between primary breast cancer and synchronous axillary node metastasis. World Congress of the International College of Surgeons. Oct.23-26 2016, Kyoto, JAPAN.
Shinagawa K, et al. Clinical Roles of Interleukin-6 and STAT3 in Oral Squamous Cell Carcinoma. Pathol Oncol Res. 2016 Oct 15.

社会への情報発信

長崎大学病院との共催で、平成27年9月19日（土）に県民公開講座「がんについてよく考えよう」を開催、約400名の参加があった。平成28年度は、平成28年10月1日（土）に開催し、約110名の参加があった。本事業を長崎大学ホームページに公開し、活動報告を中心に頻回に更新を行っている。

総括

長崎大学は、本がんプロの3つのコースのなかで、①教育改革と②地域貢献のコースを設置し、それぞれ、①がんに関する高度の知識と国際的視野を持ち、チーム医療を実践できる医療人、また②がん地域医療を理解でき将来的に地域で即戦力として活躍できる医療人の育成を目標としてきた。薬剤師のコース履修者はなかったが、医師・歯科医師と看護師は44名の大学院生を受け入れることができた。また、地域がん医療に貢献する講座として、臨床腫瘍学教室を設置し、本学のコースの特色である離島・僻地実習や在宅実習に多くの大学院生を送り出し、また、地域の医療機関との調整や連携を行ってきた。上記報告にあるように、多くの大学院生が本実習の有用性を認識し実習には満足したようである。講義に関しては、がんプロ全国 e-learning クラウドを活用した大学院教育を実践すべく、いち早く e-learning による講義の単位化を行った。日常臨床で多忙な大学院生にとっては有効な教育方法と考えられる。大学間連携では、合宿形式の全体研修会の参加や主催（平成28年度）、アサン医療センター・アサンがんセンター（ソウル）派遣研修への参加を通して、他大学の大学院生や教員との交流を深めることができた。概して、本プロジェクトの当初の目標はかなり達成できたと考えられる。現コースに多数の大学院生が在籍しているので、本がんプロ終了後も、コースの継続を予定している。

熊本大学

概要

熊本大学は、「がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース、医学物理士養成コース（博士前期課程）、「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース」としてがん看護専門看護師コースの計3つのコースを設置し本学のがんプロ事業を運営している。

各コースの内容

1. 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース（大学院医学教育部医学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	がん薬物治療　がん外科治療 放射線治療　緩和医療
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学教育部博士課程　大学院生		
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none">・研修医終了後はもちろん、研修医からでもシームレスで大学院に進学でき、リサーチ・マインドを持ち、かつ国際的な視野を持ったがん専門医療人を養成。・多職種間の連携により、より高度ながん診療が実践でき、また地域がん診療レベルの向上に貢献できる医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none">・初期臨床研修をする一方で、大学院生として研究に従事する事が可能であり、大学院学生の期間が短縮できる。・別に新設した「がん看護専門看護師コース」との連携により、医師・看護師などの多職種間でのより一層レベルの高いチーム医療の実践。・地域におけるがん医療の一層のレベルアップと活性化を図る事で地域間格差をなくす。		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none">・初期臨床研修制度から大学院へ進学する事でシームレスな教育。・医師・看護コース合同セミナーの開催。・熊本大学独自のシステムとがんプロ全国 e-learning クラウドを利用することでいつでも・どこでもがんに関する最新の知識が学習できる。・学内の地域医療関連の寄付講座との連携により、がん専門医療職への派遣・ローテーションを行う。・がんに特化した内容の大学院セミナーを開催。		

2. がん看護専門看護師コース（大学院保健学教育部保健学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護研究分野
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	博士前期課程　2年 博士後期課程　3年

コースの履修対象者	保健学教育部博士課程（前期・後期） 大学院生
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がん専門看護師の育成・促進、精神専門看護師、在宅専門看護師との連携。 ・がん看護を担う人材の育成。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護専門看護師の育成・促進による高度看護実践者の排出 ・精神看護・在宅看護の専門看護師との連携による地域との連携拡充・発展並びに対応困難な患者に対応できる高度な知識・技術・見識を備えた看護職の人材育成、地域における看護実践能力向上。 ・チーム医療の確立による医療体制の充実とともに、診断期から終末期までのケアの提供による患者・家族の生活の質の保証。
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・がん専門看護師として高度看護実践できる人材育成。 ・がん看護専門看護師と精神看護・在宅看護の専門看護師との連携による地域がん医療への貢献及びがん患者・家族へのこころのケアの充実。 ・がん看護に関する研究手法、看護ケア開発。

3. 医学物理士養成コース 博士前期課程（大学院保健学教育部保健学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	医学物理学
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	保健学教育部医用放射線科学分野 大学院生		
養成する人材像	臨床現場で指導的役割を果たす医学物理士を養成する。また、医学物理の研究者として、自立し独創的研究活動を行い、かつ高度に専門的な業務に従事するために必要な柔軟な問題解決能力及びその基礎となる豊かな学識とグローバルな視野を持つ人材を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療、診断、核医学において高度な物理工学的知識を有し、医学物理士として指導的立場で臨床業務に従事することができる。 ・医学物理における多様な知識創造活動が進み、先進的な医学物理学の学問体系の構築に寄与できる。 ・放射線治療と診断に関する医学物理領域において国際的競争力のある最先端・次世代の医療機器の開発が期待される。 ・アジアを中心として、世界レベルで活躍できる国際感覚にすぐれた医学物理士、及び医学物理研究者を養成できる。 		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床における医学物理に関する問題を実践的に研究する。医学物理士認定試験受験に必要なとされる医学物理教育を必修とする。 ・保健学系出身者に医学物理教育を提供する。 ・がんプロ全国 e-learning クラウドによりコンテンツの相互利用ならびに単位認定を行う。 		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	—	0	15	9	8
がん看護専門看護師コース	—	0	1	1	1
医学物理士養成コース 博士前期課程	—	8	8	6	9

主な取組みと成果

履修者・修了者の満足度を高めるための取組み

研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースでは、がんに関する国内学会にて口演発表、若しくはポスター発表を行った者に対して、その際の旅費を補助している。平成24年度はコース運営の準備段階であり、平成25年度については履修者がいなかった為、対象者を医師、研究者とし実施した。平成26年より、履修者を対象として実施している。採用者からは、参加したことで今後の研究に優良な情報を得ると共に、研究の改善点を見つけることが出来たとの報告があがっている。採用者の中には実際に学生の指導を受け持つ教員もあり、教育の場でも得た知識を共有できると考える。

表1. がんに関する国内学会旅費補助件数

年度	支援した人数	支援を行った方が参加した学会（一部）
平成24年度	14名	日本放射線腫瘍学会、日本甲状腺外科学会、日本泌尿器科学会、日本肺癌学会総会、日本消化器関連学会週間（JDDW）、日本頭頸部外科学会、日本内科学会、日本消化器癌発生学会総会、日本癌学会学術総会、日本小児血液・がん学会学術集会、日本癌治療学会学術集会
平成25年度	17名	
平成26年度	15名	
平成27年度	18名	
平成28年度	2名	

平成28年度については、第1期の補助として2名に対し、支援を行った。現在、第2期の補助について検討している。

がんプロコースを履修する学生がより充実した環境で学び、研究に有益な情報を得られる場を設けることができたと思われる。

研修会及びファカルティ・ディベロップメントの実施状況について

(1) 最新のがん医療セミナーの開催

研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースでは、毎年2回～3回の「最新のがん医療セミナー」を開催している（平成24年度2回、平成25年度3回、平成26年度2回、平成27年度2回、平成28年度2回（2回目は3月に開催予定））。毎回およそ40名～50名の学生や病院職員、大学院教職員、研究者が参加している。最新のがん医療をテーマに外部より講師を招聘し、セミナーを開催した。



図1. 平成28年度最新のがん医療セミナー

表2. 最新のがん医療セミナー

年度	招聘講師	演題
平成24年度	Seon-Hahn Kim 先生 Korea University Anam Hospital	Robotic Rectal Cancer Surgery: Present and Future
	Han-Kwang Yan 先生 Seoul National University Hospital	Re-defining of the management of Gastric cancer

年 度	招聘講師	演題
平成25年度	中川 英刀 先生 理化学研究所ゲノム医科学研究センター バイオマーカー探索・開発チーム チームリーダー	Whole genome sequencing analysis of cancer, forwarding to personalized medicine
	豊國 伸哉 先生 名古屋大学大学院医学系研究科 生体反応病理学・分子病理診断学 教授	Role of Iron in Carcinogenesis
	塚崎 邦弘 先生 国立がん研究センター東病院 血液腫瘍科 科長	リンパ系腫瘍に対する新規治療法の開発
平成26年度	徳永 えり子 先生 九州大学大学院 九州連携臨床腫瘍学 准教授	最新の乳癌治療
	江崎 泰斗 先生 九州がんセンター 臨床研究センター 臨床腫瘍研究部長	消化器がん薬物療法の進歩 ～分子標的薬と個別化治療の新展開～
平成27年度	①陶山 浩一 先生 熊本大学医学部附属病院 外来化学療法センター センター長 ②吉武 淳 先生 熊本大学医学部附属病院 緩和ケアセンター緩和ケ アチームリーダー	①固形がん薬物療法の歴史と最近の進歩 ②がん医療と緩和ケア
	藤 也寸志 先生 独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 院長	最新のがん医療 ～がん医療従事者が共有すべき問題意識～
平成28年度	野田 哲生 先生 公益財団法人がん研究会／代表理事・常務理事 がん研究所 所長	発がん研究100年 －これまでのがん研究、これからのがん研 究－
	山口 俊晴 先生 公益財団法人がん研究会 有明病院 病院長	未定

参加した学生たちにとっては、最新の情報を把握することができ、また教員にとってもFDの一環として、最新の知見を得ることができる貴重な機会となった。

多職種連携に関するセミナーの取組みについて

医師・看護師合同セミナー

本学では平成25年度より研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースとがん看護専門看護師コースが合同で、医師代表と看護代表の講師をそれぞれ招聘し、「医師・看護師合同セミナー」を開催している。

表3. 医師・看護師合同セミナー

年 度	招聘講師
平成25年度	<医師>馬場 英司 先生 九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 教授
	<看護師>射場 典子 先生 特定非営利活動法人「健康と病いの語り ディベックス・ジャパン」 理事

年 度	招聘講師
平成26年度	<医師>三浦 裕司 先生 虎の門病院 臨床腫瘍科 医員
	<看護師>清水 奈緒美 先生 神奈川県立がんセンター がん看護専門看護師
平成27年度	<医師>坂本 快郎 先生 熊本大学医学部附属病院 講師
	<看護師>成松 恵 先生 兵庫県立加古川医療センター 看護部 がん看護専門看護師

医療現場において有効的な情報を提供し、より強い連携のもとがん診療ならびに地域医療の向上に努めた。

セミナー・講演会などの開催

(1) PHITS 講習会

医学物理士養成コースでは、日本原子力研究開発機構より講師を招聘し、粒子輸送モンテカルロコード PHITS の講習会を開催した。PHITS とは任意の体系中における放射線の挙動を模擬する汎用的な放射線輸送計算コードである。原子力分野での放射線遮へい計算をはじめ、放射線治療、宇宙開発、原子核・高エネルギー物理実験などの分野で幅広く利用されている。全国各地から大学院生をはじめ放射線医療従事者が参加している。講習会を担当した教員からは充実した内容で講習会を開催することができたとの報告があった。



図2. 粒子・重イオン輸送計算
モンテカルロコード PHITS 講習会

表4. 粒子・重イオン輸送計算モンテカルロコード PHITS 講習会

年度	開催日	概要
平成25年度	平成25年5月18日～19日	PHITS の概要説明、インストールを行い実際に使えるよう体系の作成方法、線源・タリー・輸送計算に関する設定方法、核反応モデル・核データの設定、CT 画像からのボクセルファントムの作成方法などを学んだ。
	平成26年2月1日～2日	医療分野における利用を実際に行えるよう X線治療のシミュレーションを対象とし、variance reduction を用いて計算を効率よく行う方法や、ボクセルファントムの作成と利用方法について学んだ。
平成26年度	平成26年5月24日～25日	X線治療のシミュレーションを対象とし、ダンプデータを用いた2段階計算の方法や、放射線治療計画シミュレーション等を行った。
	平成27年1月31日～2月1日	強度変調放射線治療を想定し、マルチリーフコリメータのモデリングやこれを治療計画装置の出力結果に基づいて変化させた場合のシミュレーションについて学んだ。また、スクリプト言語を用いて効率的に PHITS を動かす方法について紹介された。
平成27年度	平成27年6月6日～7日	リニアック装置における放射化量を PHITS により評価する方法について学んだ。また、残留放射能の時間変化を評価する DCHAIN-SP プログラムについても紹介された。

年度	開催日	概要
平成27年度	平成28年 3月19日～20日	Phase space file を PHITS 形式の線源データに変換する方法や変換したデータを用いたX線治療のシミュレーションについて実習形式で学んだ。また、VMAT(強度変調回転放射線治療)のシミュレーションや PHITS で求めた線量分布を DICOM RT dose 形式に変換する機能についても紹介された。
平成28年度	平成29年 1月21日～22日	Phase space file を PHITS 形式の線源データに変換する方法や変換したデータを用いたX線治療のシミュレーションについて実習形式で学んだ。

(2) がん看護セミナー

がん看護専門看護師コースでは、毎年がん看護セミナーを開催し、がん看護専門看護師の活動と協働、緩和ケアにおける役割と活動等についてご講演いただいていた。九州各地より参加があり、多くの看護師の方へがん看護専門看護師の役割や重要性を知っていただき、またそういった方を養成しているがんプロセスを知って頂く良い機会となった。

表5. がん看護セミナー

年 度	招聘講師	テーマ
平成24年度	濱口 恵子 先生 がん研有明病院 副看護部長 がん看護専門看護師	がん看護専門看護師の専門性と活動の実際
	細矢 美紀 先生 国立がん研究センター中央病院 がん看護専門看護師	
平成25年度	田墨 恵子 先生 大阪大学医学部附属病院 オンコロジーセンター がん看護専門看護師	がん看護専門看護師の活動と組織での協働
平成26年度	新貝夫 弥子 先生 愛知県がんセンター中央病院 がん看護専門看護師	がん看護専門看護師の役割 —ジェネラリストとスペシャリストのコラボレーション—
平成27年度	樋口 有紀 先生 熊本大学大学院生命科学研究部 がん看護専門看護師	倫理的課題をもつがん患者の理解
	戸畑 利香 先生 博愛会 相良病院 乳がん看護認定看護師	
	石垣 靖子 先生 北海道医療大学大学院 客員教授	最期までその人らしさを支えるケア
平成28年度	大川 恵 先生 聖路加国際病院 遺伝診療部 看護師	看護師のがん医療に関する知識の向上と がん看護実践の向上
	金井 久子 先生 聖路加国際病院 乳がん看護認定看護師	

eラーニングについて

本学では独自のeラーニングシステムを利用し、講義のeラーニング化を進めている。一部の科目では、授業が全てeラーニング化されており、場所や時間に拘束されず自由に受講することができ、単位取得へとつながっている。全国eラーニングクラウドについては、導入された当初は希望者のみを利用登録していたが、あまり反応が見られず、平成26年度からは全てのがんプロコース履修者を登録し利用促進に努めた。しかし、参考視聴までに留まっており単位化していない為か受講状況が伸び悩んだ。

コンテンツについては、平成25年度からは全国eラーニングへのコンテンツ提供が承認され、現時点でも講義コンテンツを提供している。

多職種連に関するセミナーの取り組み

地域医療機関の医師、医療従事者には「がん化学療法セミナー」の実施。がん診療に携わる県内医療機関の医師、薬剤師、看護師には「緩和ケア研修会」を実施。また、医師、診療放射線技師、物理士へは「リニアックの精度管理に関する研修会」を実施した。

地域医療機関との合同のセミナーの取り組み

平成27年12月22日（火）に熊本県がん診療連携協議会幹事会がん登録部会主催にて、講師に国立がんセンターがん対策情報センターがん統計研究部長の西本寛先生を招いて、県内の院内がん登録実務者等を対象とし、院内がん登録制度の向上及び院内がん登録推進を目的とした研修会を実施した。

大学院生の臨床研究・臨床試験の取り組み

主に消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵癌など）に関する様々な分子学的変化に関する検証を行い、また手術、化学療法などに関する臨床研究を遂行した。それらの研究成果については、多くの学会、論文で報告した。

海外の研究機関への研修派遣

本プログラムの卒業生の一人は、アメリカ ダナ・ファーバー癌研究所に研究留学を行っている。

総括

本学は、【がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース】として、リサーチ・マインドを持ち、かつ国際的な視野を持ったがん専門医療人及び多職種間の連携により、より高度ながん診療が実践でき、また地域がん診療レベルの向上に貢献できる医療人としての医師養成を目的とする「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」、臨床現場で指導的役割を果たす医学物理士を養成することを目的とする「医学物理士養成コース（博士前期課程）」、がん看護を担う人材の育成を目的とする「がん看護専門看護師コース」の計3つのコースを設置し、事業運営を行った。

実際に、多職種連携に関するセミナーや地域医療機関との合同のセミナーの開催、学生に対するがんに関する学会の旅費補助等を行うことで、がん専門医療人養成に寄与し、平成27年度までに18名の修了者を輩出したこと、がんに関する専門資格を取得する履修者を育成出来たこと等一定の成果を果たせたかと思われる。

今後もがん専門医療人養成のための拠点として、がん医療に携わる専門的な知識・技能を有する医師その他医療従事者の育成に努めていく。

大分大学

概要

大分大学は、「がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、多職種連携教育コース（インテンシブ）、「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、地域貢献がん看護専門看護師コース、地域貢献がん専門医療人養成コース、地域がん医療専門医療人養成コース（インテンシブ）、「がん研究者養成に重点を置くコース」として、がん研究者養成コース（インテンシブ）の計5つのコースを設置し、平成24年度より活動を行っている。

各コースの内容

1. 地域貢献がん看護専門看護師コース（大学院医学系研究科 修士課程 看護学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	医学系研究科看護学専攻修士課程 大学院生		
養成する人材像	地域全体を視野に入れたがん看護の質の向上に向けて、中核的役割を果たし、開発的役割がとれるチェンジ・エイジェントとして機能できる人材を育成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	養成した人材が、がん診療連携拠点病院と在宅医療を含む地域の医療機関の多職種と横断的に連携して、地域ネットワークを構築しながら、地域のがん看護の質を向上することができる。		
教育内容の特色等	これまでのがん看護専門看護師の教育課程に、がんプロ全国 e-learning クラウドを取り入れ、在宅医療や地域連携における現状と課題について分析し、地域・他職連携による課題解決の方法論を開発していく科目・実習を改変・拡充して発展させる。		

2. 地域貢献がん専門医療人養成コース（大学院医学系研究科 医学専攻 博士課程）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	医師、看護師、薬剤師他
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学系研究科 医学専攻 博士課程 大学院生		
養成する人材像	がん専門医療者としての高い技能・知識を身につけた地域医療人を育成する。地域病院において病院全体のがん医療の質を向上させることができる医療人を育成する。また、将来に渡って地域病院における若手育成に貢献できる指導者を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	地域病院のがん医療の質の向上が期待される。将来に渡って、地域で優秀な若手医療者を養成することができるようになる。		

教育内容の特色等	地域病院へ出向いての研修、在宅医療の実践研修、地域医療学講座・腫瘍内科学講座での診療・カンファレンスを通じた研修など実践型学習とがんプロ全国 e-learning クラウドなどを使用した自己学習を組み合わせたカリキュラムを実践する。
----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 地域がん医療専門医療人養成コース（インテンシブ）（大学院医学系研究科）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	看護師、医師、薬剤師他
コースの開始時期	平成24年9月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	博士・修士課程卒業後のプレがん専門看護師、医師、薬剤師または地域医療機関の看護師、医師、薬剤師他		
養成する人材像	地域病院だけでなく、地域全体のがん医療の質を向上させることができる医療人を育成する。特に在宅医療やパス連携に関わる人材を育成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	地域全体の看護をはじめとしたがん医療の質の向上が期待される。在宅医療、パス連携を通じた地域全体のネットワークをつくることにより、将来のさらなるがん医療の充実を目指すことが可能となる。		
教育内容の特色等	地域病院へ出向いての研修、在宅医療の実践研修、地域医療学講座での診療・カンファレンスを通じた研修など実践型学習と e-learning を使用した自己学習を組み合わせ、無理なく効率よく職業人が受講できる。看護師に関しては、がん看護専門看護師としての役割獲得・拡大や実践能力向上のための事例検討や講義、一般看護師へのがん看護に関する教育の実践なども行う。		

4. 多職種連携教育コース（インテンシブ）（大学院医学系研究科）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	看護師、医師、薬剤師他
コースの開始時期	平成24年9月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	医師、看護師、薬剤師他		
養成する人材像	がんを専門とする病棟（腫瘍センター、血液病棟など）において中心的存在となって診療に携わることができる医師、看護師、薬剤師のチームをつくる。具体的にはそれぞれの分野で日常がん診療のリーダーとなり得る人材、院内全体のカンファレンスの運営、若手ががん医療人育成のための学習プログラム作成などが積極的に指揮できる人材の育成を目指す。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	各職種に優秀な人材が揃うことにより高度な総合的がん診療の提供が可能となる。また、これら医師、看護師、薬剤師によるチームにより、「患者中心のがんチーム医療」の具体化が可能となる。また、職種毎にリーダーとなり、次世代の若手育成に貢献できる。		
教育内容の特色等	症例検討会、病棟回診、カンサーボードなどにチームとして参加し、チームとして行うべき役割を実行に移してゆく。加えて、e-learning、当大学で独自に開発中である自主運営型自主学習システム（チーム医療コース及び指導者育成コース）などを利用することにより、多忙な職業人の参加を可能にする。		

5. がん研究者養成コース（インテンシブ）（大学院医学系研究科）

コースの重点区分	③研究者	養成する専門分野	看護師、医師、薬剤師他
コースの開始時期	平成24年9月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医師、看護師、薬剤師他		
養成する人材像	基礎研究及び臨床研究の両方を経験しながら、がんに関する基礎的知識と臨床知識の両者を兼ね備えた総合的能力をもつ優秀な研究者を育成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	基礎及び臨床の知識を兼ね備えた優秀な研究者の育成により、新治療や優秀な医薬品の開発が期待できる。さらに、現在大学で個々に行われている基礎研究と臨床研究の橋渡し役を担う存在になることによって、大学のそれぞれの研究が有機的に結び付き、より臨床に直結した成果が期待できる。		
教育内容の特色等	基礎研究とそれに関連する臨床研究の両者に同時に研究者として参加する。両者を経験することにより、研究全体の流れを学ぶことが可能となり、今後の新治療開発、新医薬品開発に必要な包括的教育が受けられる。		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
地域貢献がん看護専門看護師コース	－	1	1	1	2
地域貢献がん専門医療人養成コース	－	11	4	16	16
地域がん医療専門医療人養成コース（インテンシブ）	27	2	14	15	0
多職種連携教育コース（インテンシブ）	6	4	6	2	1
がん研究者養成コース（インテンシブ）	3	0	0	0	0

主な取組みと成果

活動状況（新がんプロ）

平成24年度よりインテンシブコースの募集を開始し、学内外への説明会を行い、地域病院の医師・コメディカルからの参加もあり、これまでに80名を受け入れている（修了者62名）。また、平成25年度より大学院コースの募集を開始し、新入学者向けの説明会を行い、これまでに43名を受け入れている。詳細は上記のとおりである。

研修会

（1）がんプロ受講者に対する看護研修会開催

看護実践に関する事例検討会を実施している。詳細は、下記のとおりである。

研 修 会	H24	H25	H26	H27	H28
事例検討会（インテンシブ対象）	9回	6回	10回	6回	6回

事例検討会を実施して、インテンシブコース対象者の臨床判断能力や教育能力、組織的に活動する能力の充実を図った。

(2) 緩和・終末期ケア研修会開催

地域全体のがん医療の質を向上させることができる医療人を育成する研修会を企画。

- ・平成24年12月～平成25年2月 12回シリーズ
- ・平成25年9月～平成25年11月 13回シリーズ

また、インテンシブコース受講生が講師となり、看護協会と連携して「緩和・終末期ケア研修会」を実施。

- ・平成25年9月～平成25年11月 13回シリーズ
- ・平成26年11月～平成26年12月 13回シリーズ

上記の研修会を実施して、がん診療拠点病院をはじめ大分県下のスタッフナースのがん看護に関するレベルの改善を図ることができた。

大学間交流

(1) 九州大学大分大学合同カンファレンス

九州がんプロ養成基盤推進プラン参加大学は、それぞれ遠隔地にあるため、一箇所に集まって大学間の交流を行うこととし、本学の腫瘍・血液内科学講座と九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座・病態修復内科学講座で合同カンファレンスを開催している。

表1. 九州大学大分大学合同カンファレンス

開催日	テーマ
平成24年11月10日	「大腸癌においては E-Cadherin 陽性細胞、陰性細胞とものがん幹細胞性をもつ」など
平成25年8月24日	「あなたならどう診断・治療します？」
平成26年11月29日	「日常診療に関する問題点の共有」 「がん診療、臨床検査に関する講演・最新知見の共有」
平成28年2月23日	「後腹膜原発神経内分泌腫瘍の切除不能術後再発と同時性重複癌の1例」 「がん治療のためのチームアップ」

上記のタイトルに沿って、主に両校の若手医師が発表を行った。発表内容は多岐におよび、それぞれの発表に対して長時間に及ぶ深い討論が行われた。本合同カンファレンスによって若手医師のみならず、指導者にとって最新のがん治療を学ぶ良い機会であった。

セミナー、講演会等の開催

(1) 腫瘍内科医会セミナー

腫瘍内科医会で腫瘍内科医セミナーの計画をたて、運営を行っている。

表2. 腫瘍内科医会セミナー

開催日	テーマ
平成24年4月15日	「腫瘍内科医はなぜ必要か」

開催日	テーマ
平成25年4月12日	「腫瘍内科が日本のがん医療にどう貢献するか」
平成26年4月11日	「日本の腫瘍内科教育に求められるもの」
平成27年4月11日	「生涯教育としての腫瘍内科学」
平成28年4月16日	「新・内科専門医制度における腫瘍内科教育」

セミナーを通して全国のがんプロ受講生、研修医および腫瘍内科医と腫瘍内科の意義について検討を行った。今後の腫瘍内科医育成を考えるうえで、有意義な情報共有が行えた。

(2) チーム医療セミナー

チーム医療セミナーを共催することにより、地域がんプロ受講生および地域の医師コメディカルとの積極的な意見交換を行い地域医療機関との連携を取ることができた。

表3. チーム医療セミナー

開催日	テーマ
平成25年6月15日	「大腸がん化学療法におけるチーム医療の問題点と対処法」
平成26年4月19日	「チーム医療の概念と実践」など
平成26年12月13日	「大腸がん化学療法におけるチーム医療の問題点と対処法」
平成28年2月6日	「EBMに基づいた大腸がん治療方針とマネジメントの決定」

(3) 県民公開講座

県民公開講座を行うことで、本事業を地域住民へ知らせることができた。

表4. 県民公開講座

開催日	テーマ
平成25年2月3日	「新しいがん治療法のはなし」
平成26年2月2日	「がん患者さんと家族の集い」
平成27年2月15日	「抗がん剤治療の進歩」など
平成28年2月28日	「がん患者さんと家族の集い」

(4) がんプロ受講生・一般看護師・一般市民向けの教育セミナー

①インテンシブコースと大分県下のナースのレベルの改善や一般市民に対するがんやがん治療に対する啓発を図ることができた。

②地域の病院に勤務する看護師を対象に、終末期がん患者の在宅医療に向けての退院調整に関するアプローチ法について、2つの研究で明らかになったアプローチ法の内容や臨床での活用に関する知識を提供することで、終末期がん患者の在宅医療への移行への意識や臨床で研究結果を活用する意識が高まり、具体的な援助の方向性を見出すことができた。

表5. がんプロ受講生・一般看護師・一般市民向けの教育セミナー

年度	開催日	テーマ
H24	平成24年12月16日	「組織内でのがん看護専門看護師としての役割獲得に向けた主体的取り組み」(がん看護専門看護師向け)
	平成25年1月26日	「臨床場面で怒りを読み解き対応する」(インテンシブ・一般看護師向け)
H25	平成25年12月15日	「粒子線治療を希望する患者・家族の意思決定支援を通してOCNSの調整役割を考える」(インテンシブ)
	平成26年1月25日	「終末期がん患者のQOL向上に向けた看護実践」(一般看護師向け)
H26	平成26年9月～平成27年2月	「がんをよく知ってがんと共に生きる」6回シリーズ(一般市民向け)
	平成27年2月22日	「治療器からの緩和ケアを考えるエビデンスに基づく術後疼痛緩和の方法と患者のセルフケア能力を高めるアプローチ」(インテンシブ・一般看護師向け)
H27	平成28年1月17日	「高齢終末期がん患者の自宅退院に向けた病棟看護師の支援」(インテンシブ・一般看護師向け)
	平成28年1月～3月	「もっと知りたい。がんになりにくい生活やなってからのこと」4回シリーズ(一般市民向け)
H28	平成29年1月～3月	「がんになって、わからないこと・聞けないこと教えて!」3回シリーズ(一般市民向け)

(5) 大分県腫瘍・血液内科懇話会

平成26年4月16日に開催し、聖隷浜松病院 森 雅紀先生に米国の卒後臨床研修「血液・腫瘍内科、緩和医療のプロフェッショナルを育てる」について、ご講演いただいた。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表

(1) 英文誌

Ikeda T, Kabasima A, Ueda N, Yonemura Y, Ninomiya M, Nogami M, Fujii K, Mashino K, Tashiro H, Sakata H. Totally laparoscopic colectomy with intracorporeal anastomosis achieved using a laparoscopic linear stapler: experience of a single institute. Surg Today. 2012 Jan;42(1):41-5.
Suehiro S, Abe M, Takumi Y, ★ Hashimoto T, Kamei M, Osoegawa A, Miyawaki M, Sugio K : The clinical manifestations and treatment of male breast cancer: A report of three cases. Surg Case Rep. Open access, 2015
Yoshioka S, Tsukamoto Y, Hijiya N, Nakada C, Uchida T, Matsuura K, Takeuchi I, Seto M, Kawano K, Moriyama M. Genomic profiling of oral squamous cell carcinoma by array-based comparative genomic hybridization. PLoS ONE, 8(2), e56165, 2013. 2月
Ohba T, Toyokawa G, Osoegawa A, Hirai F, Yamaguchi M, Taguchi K, Seto T, Takenoyama M, Ichinose Y, Sugio K : Mutations of the EGFR, K-ras, EML4-ALK, and BRAF genes in resected pathological stage I lung adenocarcinoma. Surg Today. 46(9)1091-1098, 2016
Kamei M, Kikuchi N, Ichimura H, Chujo M, Takahashi Y, Sugio K : A case of breast cancer involving a ventriculoperitoneal shunt. Surg Case Rep. 2016 2:8, Published on : 6 February 2016
Ishikawa K, Sakai T, Saito- Shono T, Miyawaki M, Osoegawa A, Sugio K, Ono A, Mori H, Nishida H, Yokoyama S, Okamoto O, Fujiwara S, Hatano Y : Pemetrexed-induced scleroderma-like conditions in the lower legs of a patient with non-small cell lung carcinoma. J Dermatol. 43(9)1071-1074, 2016
Toyokawa G, Taguchi K, Edagawa M, Shimamatsu S, Toyozawa R, Nosaki K, Hirai F, Yamaguchi M, Shimokawa M, Seto T, Takenoyama M, Hamamoto R, Sugio K, Ichinose Y : The Prognostic Impact of Jumonji Domain-containing 2B in Patients with Resected Lung Adenocarcinoma. Anticancer Res. 36(9)4841-4846, 2016
Yamada K, Azuma K, Takeshita M, Uchino J, Nishida C, Suetsugu T, Kondo A, Harada T, Eida H, Kishimoto J, Eriguchi G, Takayama K, Nakanishi Y, Sugio K : Phase II trial of Erlotinib in elderly patients with previously treated non-small cell lung cancer: Results of the Lung Oncology Group in kyushu (LOGiK-0802) Anticancer Res. 36(6)2881-2888, 2016

Fukuda M, Suetsugu T, Shimada M, Kitazaki T, Hashiguchi K, Kishimoto J, Harada T, Seto T, Ebi N, Takayama K, Sugio K, Semba H, Nakanishi Y, Ichinose Y : Prospective study of the UGT1A1*27 gene polymorphism during irinotecan therapy in patients with lung cancer: Results of Lung Oncology Group in Kyushu (LOGIK1004B) Thoracic Cancer . 7(4)467-472, 2016
Imamura T, Yano M, Asai D, Moriya-Saito A, <u>Suenobu SI</u> , Hasegawa D, Deguchi T, Hashii Y, Kawasaki H, Hori H, Yumura-Yagi K, Hara J, Horibe K, Sato A. IKZF1 deletion is enriched in pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia patients showing prednisolone resistance. Leukemia 2016; 30: 1801-1803.
Akiyoshi K, Sekiguchi K, Okamoto T, <u>Suenobu SI</u> , Izumi T. Cord blood transplantation in a young child with pyruvate kinase deficiency. Pediatr Int 2016; 58: 634-636.
<u>Nakahara R</u> , Sato Y, Itoh H. High-performance Liquid Chromatographic Ultraviolet Detection of Nilotinib in human plasma from patients with chronic myelogenous leukemia, and comparison with liquid chromatography-tandem mass spectrometry, J Clin Lab Anal. 30(6),1028-1030, 2016)

(2) 和文誌

杉尾 賢二、宮脇 美千代、小副川 敦、★橋本 崇史、安部 美幸：同時性・異時性重複がんの実態と診療戦略 肺癌 臨、床外科 70(12)1341-1345、2015
藤井 及三、 <u>西田 美和</u> 、小川 聡、田代 英哉、猪股 雅史、北野 正剛 【大腸 SM 癌浸潤距離1,000μm の現状と課題】EMR 後に腹膜播種、多発肺転移および肝転移を生じた SM 浸潤1,000μm の早期下行結腸癌の1 経験 Intestine16巻2号 Page164-165(2012.03)
高田 彰子、加島 健司、矢田 直美、駄阿 勉、 <u>西田 陽登</u> 、荒金 茂樹、 <u>廣石 和章</u> 、首藤 敬史、宮本 伸二、横山 繁生右心房に発生した滑膜肉腫の1 例 診断病理29巻3号 Page188-192(2012.07)
川野 雄一郎、野口 剛、 <u>廣石 和章</u> 、和田 伸介、白石 憲男、北野 正剛 根治的3 領域郭清を行った頸部食道癌肉腫の1 例 臨床外科67巻1号 Page139-142(2012.01)
北川 大、岸原 文明、佐々木 理人、岡田 敏子、岡崎 寛士、 <u>廣石 和章</u> 、白水 章夫、福山 康朗、池田 正仁 肝内胆管癌の術前診断にて外科的切除術を施行した IgG4関連硬化性胆管炎の1 例 臨牀と研究89巻5号 Page663-665(2012.05)
<u>西田 陽登</u> 、矢田 直美、川村 和弘、荒金 茂樹、加島 健司、駄阿 勉、田代 舞、 <u>高橋 喜浩</u> 、 <u>河野 憲司</u> 、横山 繁生 上顎に発生した Melanotic Neuroectodermal Tumor of Infancy の1 例 診断病理、29 (3)、231-235、2012 7月
山本 哲彰、吉賀 大午、宮本 郁也、石川 文隆、鬼頭 慎司、河野 辰行、森本 泰宏、 <u>河野 憲司</u> 、高橋 哲 下唇に発生した小唾液腺体内唾石の1 例 九州歯科学会雑誌、66(4)、100-103、2012 8月
山本 哲彰、山内 健介、山下 善弘、宮本 郁也、野上 晋之介、吉賀 大午、鬼頭 慎司、河野 辰行、 <u>河野 憲司</u> 、古賀 博文、森本 泰宏、高橋 哲 口腔悪性腫瘍診断における18F-FDG-PET/CT の有用性に関する検討 九州歯科学会雑誌、66(4)、104-109、2012 8月
<u>高橋 喜浩</u> 、河野 辰行、小野 敬一郎、 <u>河野 憲司</u> 幼児の下顎部に生じた侵襲性線維腫症の1 例 日本口腔科学会雑誌、61(4)、337-343、2012 9月
河野 辰行、 <u>高橋 喜浩</u> 、田代 舞、 <u>河野 憲司</u> 下顎埋伏智歯抜去後に生じた仮性動脈瘤からの出血に対して動脈塞栓術を行った1 例 日本口腔外科学会雑誌、58(11)、637-641、2012 11月
<u>高橋 喜浩</u> 、山形 純平、神崎 夕貴、河野 辰行、田嶋 理江、 <u>河野 憲司</u> 温熱処理骨と自家骨移植で再建を行った下顎骨歯原性粘液腫の1 例 日本口腔外科学会雑誌、59(1)、9-13、2013 1月
川村 和弘、 <u>高橋 喜浩</u> 、 <u>河野 憲司</u> 口腔扁平上皮癌患者に発症した原発不明頸部転移腺癌の1 例 日本口腔外科学会雑誌、59(1)、28-32、2013 1月
山本 哲彰、霧岡 祥子、山内 健介、石川 文隆、山下 善弘、河野 辰行、阿部 史佳、 <u>河野 憲司</u> 、高橋 哲 肺転移巣から G-CSF 産生を認めた下顎歯肉扁平上皮癌の1 例 日本口腔腫瘍学会誌、25(1)、13-19、2013 3月
末廣 修治、橋本 崇史、亀井 美玲、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二：フルベストラントが有効であった非手術86歳乳癌の1 例 日本臨床外科学会雑誌 77(4)42-46、2016
安部 美幸、小副川 敦、内匠 陽平、橋本 崇史、宮脇 美千代、杉尾 賢二：肺癌術後に限局性気道浮腫をきたした一例 日本呼吸器外科学会雑誌 30(5)84-89、2016
泌尿器科疾患：後腹膜腫瘍、後腹膜線維症 三股 浩光 今日の治療指針 山口 徹、北原 光夫、福井 次矢 医学書院（東京）2012年版：944-945、2012
三股 浩光 泌尿器科疾患に対する単孔式腹腔鏡手術の現状と課題 泌尿器科学の最近の進歩 28:9-15、2012
小野 寛之、佐藤 雄己、大山 展弘、 <u>中原 良介</u> 、倉成 正恵、伊東 弘樹、パクリタキセルの後発医薬品間の製剤学的特性および治療的安全性の比較 日本医薬品情報学会誌 18(1)、7-11、2016

(2) 和文誌 (つづき)

佐藤 雄己、大山 展弘、小野 寛之、天田 耕平、 <u>中原 良介</u> 、伊東 弘樹、オキサリプラチンの先発医薬品と後発医薬品の治療学的安全性の比較、診療と新薬 53(10)、44-48、2016
佐藤 雄己、吉岩 あおい、 <u>龍田 涼佑</u> 、山本 恭子、宮崎 英士、伊東 弘樹、認知症外来患者に対する薬学的ケアの有用性、医療薬学 42(11)、767-772、2016

(3) 国際学会

Takumi Y, Osoegawa A, ★ Hashimoto T, Abe M, Suehiro S, Miyawaki M, Sugio K, The clinicopathological significance of PD-L1 expression in thymoma., 16th World Conference on Lung Cancer (Denver, Colorado) 2015/9/06-9
Osoegawa A, Hashimoto T, Takumi Y, Abe M, Hiraishi H, Suehiro S, Miyawaki M, Sugio K, Positive correlation between the gamma-H2AX and PD-L1 expression in lung squamous cell carcinoma., AACR Annual Meeting 2016(New Orleans) 2016年4月16-20日
Nosaki K, Shiraishi Y, Hirai F, Harada T, Himeji D, Kitazaki T, Ebi N, Hamada A, Yamanaka T, Takenoyama M, Sugio K, Phase II study of erlotinib in advanced non-small cell lung cancer patients with leptomeningeal metastasis., ASCO Annual Meeting 2016(Chicago) 2016年6月3-7日
Ota K, Shiraishi Y, Harada T, Himeji D, Kitazaki T, Ebi N, Hamada A, Yamanaka T, Nozaki K, Takenoyama M, Sugio K, Phase II study of erlotinib in advanced non-small cell lung cancer patients with leptomeningeal metastasis. (LOGIK1101) , 17th World Conference on Lung Cancer(Vienna) 2016年12月4-7日
So-ichi Suenobu, Ikuya Usami, Toshihiko Imamura, et al. Continuous cytarabine plus dexamethasone in consolidation phase to patients with childhood ALL: result from Japan Association of Childhood Leukemia Study - JACLS ALL02 protocol – 58th American Society of Hematology (ASH) Annual Meeting, San Diego, 2016
<u>Nakahara R</u> , Sumimoto T, Sato Y, Itoh H, Determination of nilotinib with high-performance liquid chromatography in human plasma from patients with chronic myelogenous leukemia, and its applications. 45th ESCP Annual Symposium Clinical pharmacy tackling inequalities and access to health care. (Oslo, Norway) 2016.10

(4) 国内学会

★Mika Takahashi, Keiko Matsuura, Tomoki Kai, Akinori Tokunaga, Fuminori Sato, Hiromitsu Mimata and Masatsugu Moriyama WDR20 is involved in the malignant transformation of clear cell renal cell carcinoma ,2015年 第67回西日本泌尿器科学会総会
★高橋 美香、松浦 恵子、甲斐 友喜、徳永 暁憲、佐藤 文憲、三股 浩光、守山 正胤、淡明腎細胞癌 (ccRCC) の悪性化に関する遺伝子の探索、2015年 第103回日本泌尿器科学会総会
★高橋 美香、松浦 恵子、甲斐 友喜、徳永 暁憲、佐藤 文憲、三股 浩光、守山 正胤、WDR20は淡明型腎細胞癌の悪性化に関する、2016年 第25回泌尿器科分子・細胞研究会
小副川 敦、内匠 陽平、★橋本 崇史、安部 美幸、末廣 修治、宮脇 美千代、杉尾 賢二、胸腺腫における PD-L1の発現とその意義、第115回 日本外科学会定期学術集会 (名古屋市) 2015/4/16-18
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、脳血管障害の既往は肺癌治療に影響するか、第115回 日本外科学会定期学術集会 (名古屋市) 2015/4/16-18
内匠 陽平、安部 美幸、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、超高齢者 (85歳以上) 肺癌手術例における周術期安全性の検討、第115回 日本外科学会定期学術集会 (名古屋市) 2015/4/16-18
安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、小副川 敦、末廣 修治、宮脇 美千代、杉尾 賢二、続発性縦隔気腫に関する臨床的検討、第52回九州外科学会・第52回九州小児外科学会・第51回九州内分秘外科学会 (大分市) 2015/5/08-9
★橋本 崇史、安部 美幸、内匠 陽平、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、肺膿瘍の長期加療中に急速に増大した扁平上皮癌の1切除例、第52回九州外科学会・第52回九州小児外科学会・第51回九州内分秘外科学会 (大分市) 2015/5/08-9
内匠 陽平、安部 美幸、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、温存乳房照射後の放射線肺臓炎の検討、第52回九州外科学会・第52回九州小児外科学会・第51回九州内分秘外科学会 (大分市) 2015/5/08-9
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、肺切除を伴う再手術例の分類と手術手技の問題点、第69回手術手技研究会 (高崎市) 2015/5/15-16
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、気道異物摘出症例の検討 – 気管支鏡から開胸まで –、第38回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (東京都) 2015/6/11-12
末廣 修治、宮脇 美千代、小副川 敦、★橋本 崇史、内匠 陽平、安部 美幸、杉尾 賢二、高齢者肺癌症例に対する治療の検討、第23回日本乳癌学会学術総会 (東京都) 2015/7/02-4

小副川 敦、★橋本 崇史、内匠 陽平、安部 美幸、末廣 修治、宮脇 美千代、杉尾 賢二、小細胞癌転化を来した EGFR-TKI の治療後の獲得耐性肺腺癌の一例、第13回日本臨床腫瘍学会学術集会（札幌市）2015/7/16-18
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、肺癌の脊椎転移への治療奏功例の一例、第13回日本臨床腫瘍学会学術集会（札幌市）2015/7/16-18
安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、外傷性肋骨骨折による胸郭同様と肺損傷に対する手術例、第48回日本胸部外科学会九州地方会総会（佐賀市）2015/8/06-7
安部 美幸、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、食道癌気管浸潤により気道狭窄をきたした1例、第67回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会（福島市）2015/11/19-20
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、中枢気管損傷に対し心膜パッチと筋皮弁で修復した2例、第67回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会（福島市）2015/11/19-20
★橋本 崇史、安部 美幸、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、EGFR-TKI 耐性肺腺癌に対する Re-biopsy による耐性機序の検討、第56回日本肺癌学会学術集会（横浜市）2015/11/26-28
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、EGFR minor mutation 陽性肺扁平上皮癌に対するゲフィチニブの治療経験、第56回日本肺癌学会学術集会（横浜市）2015/11/26-28
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、小副川 敦、杉尾 賢二、間質性肺炎合併肺癌手術例の検討、第56回日本肺癌学会学術集会（横浜市）2015/11/26-28
安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、中右葉原発肺癌のリンパ節転移様式の検討、第56回日本肺癌学会学術集会（横浜市）2015/11/26-28
小副川 敦、内匠 陽平、安部 美幸、★橋本 崇史、宮脇 美千代、杉尾 賢二、肺扁平上皮癌における PD-L1 の発現に関する検討、第56回日本肺癌学会学術集会（横浜市）2015/11/26-28
安部 美幸、内匠 陽平、★橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、若年者肺癌の1例、第56回日本肺癌学会九州支部学術集会・第39回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会（北九州市）2016/2/26-27
末廣 修治、宮脇 美千代、小副川 敦、★橋本 崇史、安部 美幸、天野 翔太、杉尾 賢二、骨転移による病的骨折を契機に発見された乳癌の1例、第13回日本乳癌学会九州地方会（福岡市）2016/3/5-6
★札幌 博貴、稲生 靖、阿部 竜也、榎井 泰朋、藤木 稔、藤堂 具紀、非グリオーマ性悪性脳腫瘍に対する第三世代がん治療用単純ヘルペスウイルス G47Δ の治療効果、日本脳神経外科学会第74回学術総会（札幌）2015年10月14-16日
★札幌 博貴、稲生 靖、藤木 稔、榎井 泰朋、阿部 竜也、藤堂 具紀、G47Δ を用いた非グリオーマ性悪性脳腫瘍のウイルス療法の有効性、第33回日本脳腫瘍学会学術総会（京都）2015年12月6-8日
北川 大、岸原 文明、佐々木 理人、岡田 敏子、岡崎 寛士、廣石 和章、白水 章夫、福山 康朗、池田 正仁 当院における高齢結腸直腸悪性腫瘍に対する外科的切除症例に関する検討 第67回日本消化器外科学会 2012年7月
岸原 文明、北川 大、佐々木 理人、岡田 敏子、岡崎 寛士、廣石 和章、白水 章夫、福山 康朗、池田 正仁 当院における大腸癌イレウスの治療方針と成績 第67回日本消化器外科学会 2012年7月
小西 晃造、梅田 健二、米村 祐輔、小川 聡、藤井 及三、足立 英輔 大腸癌に対する単孔式腹腔鏡下結腸切除の手法と成績 第67回日本消化器外科学会 2012年7月
米村 祐輔、久松 雄一、梅田 健二、小西 晃造、小川 聡、藤井 及三、足立 英輔 当院における完全腹腔鏡下肝切除の導入と短期成績 第25回日本内視鏡外科学会 2012年11月
川村 和弘、高橋 喜浩、田嶋 理江、阿部 史佳、小野 敬一郎、河野 憲司 翼突下顎隙に発生した周辺性エナメル上皮腫の1例 第66回日本口腔科学会学術集会（広島市）平成24年5月17日
高橋 喜浩、河野 辰行、田代 舞、手島 理絵、板井 健、河野 憲司 口腔扁平上皮癌における原発巣および転移巣での腫瘍間質の生成能と間質形状との関連についての検討 第66回日本口腔科学会学術集会（広島市）平成24年5月18日
高橋 喜浩、河野 辰行、板井 健、山本 哲彰、河野 憲司 口腔扁平上皮癌1次症例における頸部リンパ節転移診断と治療成績 九州地区口腔癌研究会 第16回学術講演会（鹿児島市）平成24年6月22日
板井 健、高橋 喜浩、河野 辰行、山本 哲彰、河野 憲司 口腔扁平上皮癌 N0 症例における頸部リンパ節後発転移に対する治療成績 九州地区口腔癌研究会 第16回学術講演会（鹿児島市）平成24年6月22日
阿部 史佳、河野 辰行、高橋 喜浩、山本 哲彰、田嶋 理江、池田 麻美、板井 健、吉岡 俊一、野口 香緒里、小野 敬一郎、河野 憲司 舌異物迷入の一例 第80回日本口腔外科学会九州地方会（鹿児島市）平成24年6月23日
渡邊 啓次朗、高橋 喜浩、田代 舞、手島 理絵、後藤 雅、吉川 直近、川村 和弘、小原 正寛、河野 憲司 3か月男児の上顎前歯部に発生した黒色性神経外胚葉性腫瘍の1例 第80回日本口腔外科学会九州地方会（鹿児島市）平成24年6月23日

(4) 国内学会 (つづき)

河野 辰行、高橋 喜浩、山本 哲彰、板井 健、阿部 史佳、吉岡 俊一、川村 和弘、渡邊 啓次朗、河野 憲司 口腔扁平上皮癌の後発転移リンパ節の増大パターンと病理組織学的所見の比較検討 第57回日本口腔外科学会総会・学術大会 (横浜市) 平成24年10月19日
田嶋 理江、高橋 喜浩、田代 舞、手島 理絵、小原 正寛、吉川 宜近、後藤 雅、小野 敬一郎、高橋 陽夫、藤澤 寛子、河野 憲司 シェーグレン症候群患者に対する塩酸ピロカルピン漸増投与法のコンプライアンスの検討 第57回日本口腔外科学会総会・学術大会 (横浜市) 平成24年10月19日
阿部 史佳、山本 哲彰、高橋 喜浩、河野 辰行、手島 理絵、河野 憲司 口腔扁平上皮癌における対側頸部リンパ節転移の検討 第31回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 (東京都) 平成25年1月24日
吉川 宜近、河野 辰行、高橋 喜浩、山本 哲彰、田嶋 理江、河野 憲司 当科におけるエナメル上皮腫に対する開窓療法の効果の検討 第31回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会 (東京都) 平成25年1月24日
二宮 遼、徳永 暁憲、梶原 徹、鍋加 浩明、李 成、土居原 拓也、下川 哲哉、小林 直人、松田 正司、濱田 文彦、ヘリコバクター・ピロリによる胃癌発生に関連する遺伝子の網羅的探索、第120回日本解剖学会学術集会 (神戸)、2015年3月21日~23日
原田 大志、福田 実、末次 隆行、徳永 章二、高山 浩一、杉尾 賢二、骨転移を有する進行非小細胞肺癌のうち、骨代謝マーカー高値例に対するゾレドロン酸投与の第II相臨床試験、第56回日本呼吸器学会学術講演会 (京都) 2016年4月6-10日
北崎 健、福田 実、末次 隆行、嶋田 緑、橋口 浩二、岸本 淳司、海老 規之、高山 浩一、杉尾 賢二、千場 博、中西 洋一、一瀬 幸人、UGT1A1*27 遺伝子多型のイリノテカン治療に対する影響を検討する研究 LOGIK-1004-B、第56回日本呼吸器学会学術講演会 (京都) 2016年4月8-10日
小副川 敦、平石 瞳美、内匠 陽平、安部 美幸、橋本 崇史、亀井 美玲、末廣 修治、宮脇 美千代、杉尾 賢二、肺扁平上皮癌におけるPD-L1の発現に関する検討、第116回日本外科学会定期学術集会 (大阪) 2016年4月14-16日
小副川 敦、内匠 陽平、橋本 崇史、安部 美幸、宮脇 美千代、杉尾 賢二、肺扁平上皮癌におけるPD-L1発現とDNA損傷との関連、第33回日本呼吸器外科学会総会 (京都) 2016年5月12-13日
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、末廣 修治、杉尾 賢二、気管支嚢胞による発作性上室性頻拍の1例、第53回九州外科学会・第53回九州小児外科学会・第52回九州内分分泌外科学会 (佐世保) 2016年5月13-14日
安部 美幸、内匠 陽平、橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、原発性肺癌との鑑別に苦慮した転移性肺腫瘍の一例、第53回九州外科学会・第53回九州小児外科学会・第52回九州内分分泌外科学会 (佐世保) 2016年5月13-14日
末廣 修治、宮脇 美千代、小副川 敦、橋本 崇史、安部 美幸、杉尾 賢二、転移・再発肺癌19症例の検討、第53回九州外科学会・第53回九州小児外科学会・第52回九州内分分泌外科学会 (佐世保) 2016年5月13-14日
末廣 修治、宮脇 美千代、小副川 敦、橋本 崇史、安部 美幸、杉尾 賢二、Fulvestrantを使用した肺癌転移、再発13症例の検討、第24回日本乳癌学会学術総会 (東京都江東区) 2016年6月16-18日
Goto Y, Murakami H, Tsumura S, Sakashita H, Tokunaga S, Yamamoto N, Nakanishi Y, Sugio K, Okamoto I, A multicenter phase II study (LOGIK1401) of alectinib in patients with ALK rearrangement -positive non-small cell lung cancer and a poor performance status, The Japanese Society of Medical Oncology 2016 Annual Meeting (Kobe) 2016年7月28-30日
姫路 大輔、白石 祥理、原田 大志、北崎 健、海老 規之、濱田 哲暢、山中 竹春、野崎 要、竹之山 光広、杉尾 賢二、Phase II study of erlotinib in advanced non-small cell lung cancer with leptomeningeal metastasis (LOGIK1101) 非小細胞肺癌の癌性髄膜炎に対するエルロチニブ第2相試験 (LOGIK1105), The Japanese Society of Medical Oncology 2016 Annual Meeting 第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 (Kobe) 2016年7月28-30日
Fukuda M, Shimada M, Kitazaki T, Nagashima S, Ebi N, Takayama K, Seto T, Okamoto I, Ichinose Y, Sugio K, Phase I study of irinotecan for previously treated lung cancer patients with UGT1A1*28 or *6 polymorphism (LIGIK11004A), The Japanese Society of Medical Oncology 2016 Annual Meeting (Kobe) 2016年7月28-30日
小副川 敦、安部 美幸、橋本 崇史、内匠 陽平、末廣 修治、宮脇 美千代、杉尾 賢二、EGFR-TKI rechallenge with bevacizumab, a possible treatment option in EGFR mutated NSCLC. EGFR 遺伝子変異陽性肺癌における Bevacizumab を併用した EFR-TKI 再投与の一例、第14回日本臨床腫瘍学会学術集会 (Kobe) 2016年7月28-30日
Hirai F, Seto T, Morinaga R, Otsu S, Suetsugu T, Moriwaki A, Tanaka M, Kodama M, Nakagaki N, Sugio K, Randomized phase II trial evaluating EGFR-TKI plus chemotherapy in NSCLC patients with previously treated EGFR-TKI/, The Japanese Society of Medical Oncology 2016 Annual Meeting (Kobe) 2016年7月28-30日
海老 規之、北崎 健、濱田 哲暢、竹之山 光広、杉尾 賢二、Phase II study of erlotinib in advanced non-small cell lung cancer patients with leptomeningeal metastasis (既治療進行非小細胞肺癌の癌性髄膜炎に対するエルロチニブ第2相試験)、第75回日本癌学会学術総会 (横浜) 2016年10月6-8日
内匠 陽平、安部 美幸、橋本 崇史、小林 良司、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、降下性壊死性縦隔炎で治癒に至った2症例の経験、第68回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会 (東京都) 2016年11月17-18日

小副川 敦、山口 正史、宮脇 美千代、平井 文彦、竹之山 光広、一瀬 幸人、杉尾 賢二、局所進行非小細胞肺癌に対する CDDP+TS-1 による術前導入化学放射線同時 j 療法、第78回日本臨床外科学会外科学会総会（東京都）2016年11月24-26日
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、小林 良司、橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、COPD 合併肺癌に対する肺気漏れの検討、第78回日本臨床外科学会外科学会総会（東京都）2016年11月24-26日
杉尾 賢二、小副川 敦、岡本 勇、田中 謙太郎、大泉 聡史、朝比奈 肇、福田 実、山口 博之、靱持 広知、和久田 一茂、内野 順治、中尾 明、中西 洋一、第3世代 EGFR-TKI Osimertinib を対象とした臨床試験、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、小林 良司、橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、肺癌 EGFR 変異陽性例の癌性髄膜炎に対する治療経験、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
福田 実、嶋田 緑、北崎 健、長島 聖二、橋口 浩二、海老 規之、高山 公一、中西 洋一、千場 博、原田 大志、瀬戸 貴司、岡本 勇、一瀬 幸人、杉尾 賢二、UGT1S1*28または*6多型既治療肺癌患者におけるイリノテカン第1相試験（LOGIK1004A）、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
橋本 崇史、安部 美幸、内匠 陽平、小林 良司、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、杉尾 賢二、当科における EGFR-TKI 耐性肺癌に対する Re-biopsy の現状、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
宮脇 美千代、安部 美幸、内匠 陽平、小林 良司、橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、杉尾 賢二、間質性肺炎合併肺癌の術後肺気漏の特徴、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
安部 美幸、内匠 陽平、小林 良司、橋本 崇史、末廣 修治、小副川 敦、宮脇 美千代、上尾 裕昭、杉尾 賢二、肺転移再発をきたした乳腺扁平上皮癌の1例、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
安部 美幸、内匠 陽平、小林 良司、橋本 崇史、末廣 修治、宮脇 美千代、杉尾 賢二、悪性中皮腫に対する Pemetrexed についての検討、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
内匠 陽平、田中 康一、小副川 敦、宮脇 美千代、近藤 能行、杉尾 賢二、肺良性腫瘍として摘出術後、再発を来たした mucinous (collid) adenocarcinoma の1切除例、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
小副川 敦、橋本 崇史、内匠 陽平、安部 美幸、小林 良司、末廣 修治、宮脇 美千代、杉尾 賢二、ROCK 阻害剤を使ったヒト肺癌細胞の初代培養、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
田口 健一、竹之山 光広、鈴木 実、岩崎 昭憲、佐藤 雅美、岡本 龍郎、田中文啓、三浦 隆、小林 広典、鍋島 一樹、古賀 孝臣、徳永 章二、一瀬 幸人、杉尾 賢二、肺腺癌切除例における新しい肺腺癌組織分類に基づく病理組織学的特徴：LOGIK1103、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
原田 大志、野崎 要、姫路 大輔、北崎 健、海老 規之、濱田 哲暢、山中 竹春、白石 祥理、竹之山 光広、杉尾 賢二、進行非小細胞肺癌の癌性髄膜炎に対するエルロチニブの第II相試験 LOGIK1101（EGFR 変異陽性 subset の解析）、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
小副川 敦、橋本 崇史、内匠 陽平、安部 美幸、小林 良司、末廣 修治、宮脇 美千代、杉尾 賢二、Invasive mucinous adenocarcinoma における遺伝子異常の解析、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
久松 靖史、平井 文彦、森永 亮太郎、末次 隆行、猿渡 功一、森脇 篤史、田中 誠、児玉 多、中垣 憲明、瀬戸 貴司、杉尾 賢二、EGFR-TKI により病勢制御が得られた NSCLC 症例を対象に TKI 継続投与の意義を検討する無作為化第II相試験（LOGIK1102）、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日
末次 隆行、福田 実、原田 大志、川崎 雅之、綿屋 洋、古堅 誠、白石 祥理、徳永 章二、高山 浩一、杉尾 賢二、骨転移を有する進行非小細胞肺癌のうち、骨代謝マーカー高値例に対するゾレドロン酸投与の第2相臨床試験、第57回日本肺癌学会学術集会（福岡）2016年12月19-21日

総括

がん研究者として自立して活動しつつ高度な専門業務に従事するために必要な能力とその基盤となる学識を身につけるため、これまで様々なセミナーやカンファレンスを実施してきた。

これに伴い、インテンシブコースをはじめとして、医師、臨床検査技師や看護師等の様々な職種に、医学・医療はもとよりそれに関連する専門性について、基本的知識やその研究手法を修得するよう努めてきたことで、英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表が増加し、より専門性の高い知識を得ることが出来た。

また、専門性の高い知識をもとに、一般市民向けに公開講座やセミナーを開催し、がんになりにくい生活から罹患後の終末期医療までの新しい知識の享受を実践した。

宮崎大学

概要

宮崎大学では、高度な専門知識を備え、宮崎県における地域がん診療の質の向上に貢献できる人材の育成を目指し、「地域がん治療専門医育成コース」および「地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース」を設置している。また、インテンシブコースとして、「地域がん総合治療医育成コース」および「成人T細胞白血病専門医療人養成コース」を設けている。

各コースの内容

1. 地域がん治療専門医育成コース (大学院医学獣医学総合研究科 博士課程 医学獣医学専攻)

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん治療医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限(期間)	4年
コースの履修対象者	医学獣医学専攻 大学院生		
養成する人材像	がんを総合的に全人格のなかで捉え、生活の質をも考慮したがんの総合的治療が行える専門性と、将来のがん臨床研究を遂行できる高度な専門知識を備え、地域に定着し、地域がん医療に貢献できる医療人を育成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム)	地域がん医療の質の向上が期待でき、地域医療に貢献できる。		
教育内容の特色等	大学附属病院内に加え、医師不足地域での実地研修を行う。地域医療機関における研修期間は、本学の教員が遠隔会議システムを用いた指導を行う。		

2. 地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース (大学院医科学看護学研究科修士課程看護学専攻、大学院看護学研究科修士課程看護学専攻(平成26年入学者より))

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限(期間)	2年
コースの履修対象者	3年以上の看護実務経験を有する看護師(がん看護の実務経験2年以上)で、コース修了後、地域のがん医療に貢献する意思のある者		
養成する人材像	地域がん医療の充実・向上、地域連携を目指し、ジェネラリストの教育のみならず、地域のがん看護専門看護師間の情報共有、自己研鑽に努め、地域に根ざした活動ができるがん看護専門看護師。		
当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム)	県内のがん拠点病院だけでなくがん医療に積極的な施設に、がん看護専門看護師を配置し、地域がん医療の質向上に貢献できる。施設間の連携が強化でき、がん患者の在宅医療へのスムーズな移行が可能になる。		

教育内容の特色等	地域で活躍しているがん看護専門看護師による講義を積極的に導入し、地域のがん医療の現状・問題点、連携のあり方などについて教育を行う。特に「緩和ケア論」「ターミナルケア論」では、地域データ等を活用した講義を行う。地域への定着、看護の質の向上のためのフィジカルアセスメント、抄読会を開催し、院生と地域のがん看護専門看護師のフォローアップを兼ねた研修を行う。
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）（大学院医学獣医学総合研究科博士課程医学獣医学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成24年9月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	医学獣医学専攻大学院生及び地域の医療機関において実際にごん診療に従事している医師		
養成する人材像	各臓器の専門がん治療医が充足していない地域医療機関において、がんの標準治療から終末期の緩和ケアまでトータルに診療できる、地域がん医療を中心的に担う医療人。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	各臓器の専門がん治療医が充足していない地域において、患者は標準治療から終末期の緩和ケアまでトータルながん診療を受けることができる。患者や家族を含む地域住民の不安解消にも寄与できる。		
教育内容の特色等	がんの標準治療から終末期の緩和ケアまで、トータルにごん患者を診療できるように集中講義を行う。		

4. 成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）（大学院医学獣医学総合研究科博士課程医学獣医学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	医学獣医学専攻大学院生及び地域の医療機関においてがん診療に従事している医師		
養成する人材像	成人T細胞性白血病（ATL）を、疫学、感染症学、産科学、皮膚科学、血液学、腫瘍学などの多方面から理解でき、ATL感染の予防、患者・家族教育、治療ができる医師を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	本県を含む西日本、南九州に多いATL患者の治療成績の向上に寄与できることに加え、ATLキャリアの相談、教育、感染予防を行える人材育成により、ATL患者や家族の不安解消、ATLの撲滅に寄与する。		
教育内容の特色等	短期間（12回）のATLに特化した集中講義、ATL診療の実習など実践的なコースである。受講生が実際に担当している症例をもとに、鹿児島大学と連携し、年4回の遠隔会議や相互訪問による合同での症例検討や発表を行う。		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
地域がん治療専門医育成コース	—	0	0	0	1
地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース	0	4	1	2	2
地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）	15	6	11	15	13
成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）	0	1	2	2	2

主な取組みと成果

宮崎大学がんセミナーの開催

がん診療レベルの向上と均てん化を目的に、宮崎大学がんセミナーを開催している。このセミナーは、がん診療の基本と現在の標準的治療について、ガイドラインや最新のエビデンスに基づいた講習を実施している。大学院生も含めた医師、看護師等、薬剤師等が参加している。

年度	回数	参加のべ人数
平成24年度	11回	70名
平成25年度	12回	131名
平成26年度	11回	121名
平成27年度	11回	82名
平成28年度	11回	249名

がん関連セミナーの開催

「最新がん免疫療法の現状と将来展望」、「消化器癌の発生起序と個別化治療」等最新医学に関するセミナーを実施している。

平成26年3月には、がんプロセミナーとして山梨大学大学院医学工学総合研究部の下川敏雄先生をお招きし、「医学研究における統計的方法の基礎」というタイトルでセミナーを開催し、医療統計学について学んだ。30が参加した。

FDへの参加

平成25年度に開催された第2回全国がんプロ合同フォーラム（放射線治療FD）には、本学から医師2名、診療放射線技師1名が参加し、放射線治療についての知識、教育を学んだ。

また、平成27年1月に開催された全国がんプロ合同フォーラム（がん薬物療法FD）には医師1名、がん化学療法認定看護師1名、がん専門薬剤師1名が参加し、がん薬物療法についての知識等を学んだ。

e ラーニングコンテンツ作成に関する取り組み

e ラーニングコンテンツについては、平成23年度に3コンテンツを提供したところであるが、平成25年度から26年度にかけて、新たに複数のコンテンツを提供するための準備を進め、平成26年度に3つのコンテンツの撮影を終え、平成27年度に新たに公開した。

コース履修生のがん診療並びに地域医療への貢献

地域がん治療専門医育成コースの履修学生については、本院のがん診療部において中心的な役割を果たすと共に、院内および院外からのがん診療に関する相談等にも対応している。また「地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース」履修生については、コース開設後から毎年2名の学生を受け入れており、順調にがん看護専門看護師の養成が出来ている。さらに本コースを修了した学生は修了後に地域医療機関に勤務するとともに、本学が実施する一般市民や地域の看護師を対象にしたがん看護や緩和ケアに関する講演会や事例検討会に講師として参加しており、がん看護に関する教育や宮崎県のがん看護の質向上に貢献している。

がん看護における事例検討会の開催

大学院生および地域のCNSの看護力upのために、地域の看護師も参加して参加者が関わっている困難事例について、定期的な検討を行っている。開催回数の中の2回は、がん看護専門看護師として活躍している講師に依頼し、院生・修了生を対象にした検討会を開催した。

年度	回数	開催時期	参加者数
平成24年度	5回	4・6・9・11・2月	約7名
平成25年度	5回	7・9・11・1・2月	約9名
平成26年度	5回	8・9・11・1・2月	約10名
平成27年度	9回	4・5・6・7・8・9・11・1・2月	約12名
平成28年度	10回	4・5・6・7・8・10・11・12・1・3月	約12名

医療の質向上に関する取り組み

(1) 医療チームの整備状況

宮崎大学附属病院がん診療部に化学療法チーム及び緩和ケアチームを配置し、専門の知識と技術を持ったスタッフによる質の高い医療の提供及び支援を行っている。

(2) キャンサーボードの体制

附属病院内には現在、「大腸癌キャンサーボード」、「頭頸部治療カンファレンス」、「神経放射線カンファレンス」、「肝細胞癌カンファレンス」、「肝胆膵カンファレンス」、「肺癌・乳癌・縦隔腫瘍カンファレンス3科合同」、「造血器腫瘍カンファレンス」、「頭頸部カンファレンス」があり、それぞれ定期的ながん診療についての検討や報告を行っている。

(3) 多職種連携に関するセミナーの開催

多職種連携に関するセミナーとして、院内外の医師、看護師、薬剤師、検査技師などのコメディカルスタッフなども参加してがん治療に関する様々なテーマでセミナーを行っている。

参加者も多職種連携に関する知識を深めることができ、連携に関する意識の向上につながっている。

セミナーの例としては、次のとおり。

タイトル
<ul style="list-style-type: none"> 宮崎大学医学附属病院院内がんセミナー 「がん総論」「化学療法」「緩和医療（心理的防御機制、せん妄）」「乳がん」 （がん診療に携わる医師による様々なテーマで実施）
<ul style="list-style-type: none"> 宮崎大学がん診療部医療連携講演会 「がんの骨転移・骨病変のマネジメント（平成25年度）」「転移性脳腫瘍（平成26年度105名）」 「支持療法・サポータティブケア（平成27年度157名）」「皮膚障害（平成28年度82名）」
<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県がん診療連携協議会 4 専門部会合同研修会（平成27年度80名、28年度94名参加） （緩和医療専門部会、地域連携クリティカルパス専門部会、院内がん登録専門部会、相談支援専門部会）
<ul style="list-style-type: none"> 頭頸部がんに対する化学療法の適応と副作用「頭頸部がんに対する化学療法の内容と副作用」
<ul style="list-style-type: none"> 頭頸部がんに対する放射線治療の適応と副作用「頭頸部がんに対する放射線治療の仕組みと適応・副作用」
<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度 周術期の口腔ケア研修会「消化器のがん治療と、がん診療連携」
<ul style="list-style-type: none"> 制吐療法 Expert Meeting「制吐療法に関するセミナー」
<ul style="list-style-type: none"> 看護師ができる自殺予防～気になる患者への対応の仕方～（平成25年度60名）
<ul style="list-style-type: none"> 地域でできる自殺予防～気になる人とのコミュニケーション法～（平成25年度60名）
<ul style="list-style-type: none"> ひむか骨関節・脊椎脊髄疾患セミナー（平成25年度83名、平成27年度88名）
<ul style="list-style-type: none"> 宮崎市胃がんリスク検診（ABC検診）研修会（平成25年度200名）
<ul style="list-style-type: none"> 在宅緩和研修会 がん患者におけるこころの問題とその対応（平成27年度80名）
<ul style="list-style-type: none"> 癌治療周術期口腔ケアセミナー（平成27年11月27名）
<ul style="list-style-type: none"> 医療スタッフのためのサイコオンコロジー神経症状診察入門 知っておきたい神経所見（平成27年度200名）
<ul style="list-style-type: none"> みやざきホスピス・緩和ケアネットワーク学術集会（二次医療圏内医師、看護師、薬剤師を対象に緩和ケアに関する講演）
<ul style="list-style-type: none"> リハビリ合同カンファレンス （症例：急性リンパ性白血病、甲状腺癌、脳腫瘍、皮膚筋炎、乳がん、硬膜下血腫等）
<ul style="list-style-type: none"> 宮崎県生活習慣病検診従事者研修会（平成27年度12月3回実施）
<ul style="list-style-type: none"> 日本サイコオンコロジー学会 多職種連携セミナー 認知症症状を伴うがん患者の対応（平成28年度60名）
<ul style="list-style-type: none"> 第1回慢性疼痛セミナー（平成28年度66名）
<ul style="list-style-type: none"> 第72回宮崎整形外科懇話会 演題：骨軟部腫瘍の診断と治療（平成28年度73名）
<ul style="list-style-type: none"> Malignant Melanoma Innovation Conference（平成28年度40名）
<ul style="list-style-type: none"> 前立腺癌の薬物治療と対策「皮下注射製剤による注射部位反応とその対策について」（平成28年度60名）
<ul style="list-style-type: none"> 頭頸部癌に関する専門的口腔ケア（平成28年度20名）

地域におけるがん看護の質の向上

地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コースにおける取り組みとしてがん看護研究会との共催で地域の看護師・大学院生・がん看護修士に対する教育を行っている。内容としては、講演会、事例検討会、公開授業、公開技術演習などである。

年度	回数	参加者数
平成24年度	17回	290名
平成25年度	16回	638名
平成26年度	12回	403名
平成27年度	12回	284名
平成28年度	12回（予定）	145名 (H29.1.23時点)

●がん看護専門看護師による講演会など

開催日	講演会名等	参加者数
平成24年 6月	講演会「事例検討（倫理事例について考えよう）」	25名
平成25年 3月	講演会「事例検討（満足感のある事例検討会にするには）」	12名
平成25年 9月	講演会「事例検討（臨床の困ったを解決するカンファレンスとは）」	24名
平成26年 3月	講演会「事例検討（がんの親を持つ子どもへの援助）」	26名
平成26年 8月	講演会「療養の場における切れ目のない緩和ケア」	28名
平成26年 11月	講演会「チームで育む緩和ケア」	31名
平成27年 1月	講演会「血液のがん 移植を受けるがん患者の看護」	24名
平成27年 2月	講演会「緩和ケアを院内に根付かせるためにがん研有明病院における緩和ケアセンターの活動」	36名
平成27年 3月	講演会「事例検討（急性骨髄性白血病患者の看護）」	20名
平成28年 2月	講演会「事例検討（大腸がん患者の看護）」	17名
平成29年 3月	講演会「事例検討」（予定）	—

地域医療機関との連携

地域医療機関とのがん診療の連携および診療の質の向上を目的として、以下のような合同セミナーやカンファレンス等を実施している。

内容
宮崎胆膵疾患研究会 / 宮崎内視鏡外科研究会 / 宮崎消化器癌治療研究会 / 宮崎大腸疾患研究会 / 宮崎大学婦人科学術講演会 / 宮崎県泌尿器科医会 / 宮崎泌尿器科医療連携（Miu-NET）カンファレンス / 宮崎大学がん診療部医療連携講演会 / 宮崎がん治療フロンティア・宮崎肝癌研究会 / 宮崎県がん治療研究会 / HPB Scientific Forum 2016 / 宮崎呼吸器乳腺懇話会 / 周術期口腔機能管理勉強会 / 宮崎胆道・膵疾患フォーラム / PDT 講演会 / 大腸がん治療フォーラム in MIYAZAKI / 宮崎食道癌研究会 / 宮崎県消化器外科研究会 / Medical Scientific Forum / 宮崎肺癌研究会 / 宮崎東病院肺癌カンファレンス / 宮崎甲状腺疾患研究会 / 宮崎大学婦人科がん症例報告会 / 小児がん拠点病院 TV 会議 /

内容
九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会 / 宮崎緩和ケア研究会・ミリプラエリアフォーラム In 宮崎 / 肺癌井戸端会議（年3回） / 肺癌化学療法勉強会（年1回） / Miyazaki Oncology Conference / 宮崎乳がんネットワーク特別講演 / 消化器・血液・腫瘍研究会特別講演 / みやざきホスピス・緩和ケアネットワーク第6回学術集会（平成26年度総会） / 宮崎大学がん診療部医療連携講演会 / 宮崎緩和ケア研究会 / 宮崎肝癌治療講演会 / 木曜会年末学術講演会 / 肺癌合同カンファレンス（毎月1回） / 2014年「宮崎県泌尿器科-内科連携の会」◎「前立腺がんは治療しすぎでは？- PSA検査は本当に有用か？-一般医家の先生へのお願い」 / 第4回南九州・沖縄3大学の会「CRPC薬物療法の最近の話題」 / 第38回 宮崎 CT 研究会 / 第39回 宮崎県画像医学研究会 / 第22回宮崎血管内治療 IVR 研究会 / 宮崎脳腫瘍研究会（第31回）（第32回） / 関連病院症例検討会 / 宮崎県肝疾患研修事業 南那珂肝疾患講演会 / 土呂久地区住民検診 / 土呂久地区住民健康観察検診大検診 / ミャンマー国ヒ素汚染地域における衛生保健の実施体制強化プロジェクト

また、緩和ケア専門病院と実施したセミナーについては次のとおり。

内容
<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度第1回宮崎県緩和ケア研修会 国立病院都城病院地域がん診療連携拠点病院研修 平成26年度第3回宮崎県緩和ケア研修会 第27回日本サイコオンコロジー学会総会 平成26年度第5回宮崎県緩和ケア研修会 宮崎ホスピス緩和ケアネットワーク総会 みやざきホスピス緩和ケアネットワーク学術集会 多職種向け研修セミナー「せん妄講義」「がんと認知症」

患者・市民等を対象とした講演会

開催日	催事名	参加者数
平成24年11月10日	宮崎大学医学部市民公開講座「HTLV-1と皮膚病」	40名
平成24年9月29日	日本肝臓学会 市民公開講座「肝癌の病態と治療について」	70名
平成25年7月20日	鹿児島・宮崎がんの子供を守る会主催講演会「小児がん活動の現状と未来」	60名
平成25年9月28日	宮崎県産科婦人科学会・宮崎県産婦人科医会市民公開講座「子宮頸がんの予防・診断・治療などについて」	100名
平成26年7月19日	第31回日本脳腫瘍学会学術集会市民公開講座	130名
平成26年7月29日	宮崎大学医学部公開講座「皮膚がん-早期発見、早期治療-」	27名
平成26年7月30日	宮崎大学医学部公開講座「すこやか長寿社会」	130名
平成26年9月6日	肝がん撲滅運動市民公開講座 in 延岡「肝がん、肝硬変にならないためには」	60名
平成27年2月8日	市民講座「がんを知って「生きる」を学ぼう」	18名
平成27年2月22日	市民講座「がんを知って「生きる」を学ぼう」	31名
平成27年5月18日	宮崎県ウイッグ・スタイリスト協会研修会「がんの基礎知識」	40名
平成27年7月12日	のぞみ講演会	40名

開催日	催事名	参加者数
平成27年11月7日	平成27年度長期療養児講演会・交流会	20名
平成27年11月17日	宮崎県ウイッグ・スタイリスト協会研修会「がんの基礎知識」	40名
平成28年2月7日	市民講座「がんを知って「生きる」を学ぼう」	9名
平成28年2月21日	宮崎県医師会県民健康セミナー	200名
平成28年2月28日	市民講座「がんを知って「生きる」を学ぼう」	35名
平成28年7月3日	のぞみ講演会	60名
平成28年7月8日	がん心のケア 宮崎の現状と課題	60名
平成28年7月26日	宮崎大学公開講座 家族ががんになったとき～精神・こころの働きについて～	20名
平成28年9月24日	平成28年度長期療養児講演会・交流会	15名
平成28年11月19日	日本肝臓学会宮崎県支部主催 市民公開講座「知っておきたい肝臓病の新知識」	37名

がん患者団体等との連携など

特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎や特定非営利活動法人宮崎がん患者支援ネットワークなどの患者団体と連携し、定期的に事例検討会などを実施している。公益財団法人がんの子供を守る会主催で実施されるピアカウンセリングでは医師が参加しアドバイスを行っている。本学医学部生が実施している小児がんの子どもを対象としたデイキャンプでも、緊急時の対応、参加学生への小児がんについての指導等を行っている。

また、県立宮崎病院の乳がん患者の会や日本オストミー協会宮崎県支部への講義・講演依頼や会員との交流を行っている。

院内がん登録について

院内がん登録件数：平成24年 約1,360件 / 平成25年 約1,600件 /
平成26年 約1,700件 / 平成27年 約1,700件 /
平成28年 約1,700件（予定）

現在、主要5部位に加えて本院で多く診断されている部位（前立腺癌、膀胱癌、頭頸部癌）におけるステージ毎の治療の割合等を集計しており、これまでに集計した他のデータも含めて、患者の治療や研究発表等に活用してもらえるようなデータベース作りを進めている。

社会への情報発信

- ・公開講座を通して、参加対象者を指定せず、社会へ情報を発信した。
- ・平成27年に行った市民公開講座では肝がんに関する講演を行い、約200名の参加が、HTLV-1/ATL 公開講座 in 宮崎を2日間にわたって開催した際には、合わせて約350名の参加があった。
- ・がんに負けない社会づくりを目指して市民公開講座を開催し、約100名の参加があった。
- ・宮崎県ウイッグ・スタイリスト協会での講演により、80名の美容師の参加があった。

地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣

がん看護専門看護師コース学生が、本学附属病院での3週間の実習に加え、三州病院または宮崎市郡医師会病院緩和ケア病棟で1週間、がん研究会有明病院で2週間の実習を行っている。

英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表（一部抜粋）

Sekine M, Kubuki Y, Kameda T, Takeuchi M, Toyama T, Kawano N, Maeda K, Sato S, Ishizaki J, Kawano H, Kamiunten A, Akizuki K, Tahira Y, Shimoda H, Shide K, Hidaka T, Kitanaka A, Yamashita K, Matsuoka H, Shimoda K: Effects of mogamulizumab in adult T-cell leukemia/lymphoma in clinical practice. Eur J Haematol. doi:10.1111/ejh.12863.2017
★柴田 伸弘、田原 良博、川野 理沙、堅山 智代美、松野 織江、千阪 智美、日高 智徳、永井 公洋、七島 篤志、下田 和哉 局所進行または遠隔転移を有する膀胱癌に対する FOLFIRINOX の有効性と安全性の検討、第14回日本臨床腫瘍学会総会（2016）
Sekine M, Kubuki Y, Kameda T, Takeuchi M, Toyama T, Kawano N, Maeda K, Sato S, Ishizaki J, Kawano H, Kamiunten A, Akizuki K, Tahira Y, Shimoda H, Shide K, Hidaka T, Kitanaka A, Yamashita K, Matsuoka H, Shimoda K: Mogamulizumab for adult T-cell leukemia/lymphoma in clinical practice. 58th ASH Annual Meeting & Exposition, San Diego, 2015年12月3日～6日。（口演）
関根雅明、武内正紀、外山孝典、前田宏一、佐藤誠一、山下清、石崎淳三、上運天綾子、田平優貴、秋月溪一、亀田拓郎、幣光太郎、日高智徳、久富木庸子、北中明、下田和哉 ATL に対するモガムリズマブの効果、第3回日本 HTLV-1学会学術集会（鹿児島市）2015年8月26～27日（口演）
★柴田 伸弘、秋月 溪一、日高 智徳、亀田 拓郎、永井 公洋、下田 和哉 DIC を伴う乳癌骨髄腫腫症の治療経験 -PTX の有効性が示唆された4例の報告-、第23回日本乳癌学会学術総会（東京）2015年7月2～4日
田平 優貴、★柴田 伸弘、秋月 溪一、亀田 拓郎、日高 智徳、永井 公洋、下田 和哉 乳癌による癌性腹水で腹部コンパートメント症候群を来した1例、第13回日本臨床腫瘍学会学術総会（札幌）2015年7月16～18日
長町 茂樹、西井 龍一、★柴田 伸弘、清原 省吾、水谷 陽一、田村 正三、近藤 千博、甲斐 眞弘、千々岩 一男、川井 恵一 胆道癌におけるFDG集積と腫瘍遺伝子発現（EGFR、BRAF、HIF1、Glut）との相関 ADC との比較 第72回日本医学放射線学会総会（横浜）2013年4月11～14日
★落合 美智子、奥 祥子、機能障害を体験している頭頸部がん患者の意味探求プロセスの分析、第30回日本がん看護学会学術集会（千葉）2016年2月
★有島 みつる、奥 祥子、緩和ケア病棟における患者と家族を支える Enrichment、第30回日本がん看護学会学術集会（千葉）2016年2月
★貴島 さとみ、奥 祥子、呼吸困難を抱える治療期肺がん患者の症状体験、第30回日本がん看護学会学術集会（千葉）2016年2月
★小柳 優美子、奥 祥子、大腸がん患者のパニツムマブ投与による皮膚障害の体験、第30回日本がん看護学会学術集会（千葉）2016年2月
★中村 久美、奥 祥子、訪問看護を行う熟練看護師が、がん看護を継続する要因、第31回日本がん看護学会（於高知）2017年2月（発表予定）

総括

がん治療専門医コースは、5年間で1名の入学と当初の予定より少数であったが、インテンシブコースである地域がん総合治療医育成コースと成人T細胞白血病専門医療人養成コースはそれぞれ47名、5名の受講があった。

がん治療に貢献する地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コースは、ほぼ予定通りの実績をあげており、5年間で9名の入学（7名卒業）であった。

本取り組みが、がん専門医療従事者の育成に大きな役割を果たしたと考えている。

鹿児島大学

概要

鹿児島大学は、「がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、消化器がん集学的治療専門医療人養成コース（インテンシブ）、がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）、緩和ケア専門医療人養成コース（インテンシブ）、成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）の計4つのコースを設置し、手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケアに携わるがん専門医療人を養成する大学の取組を支援することにより、今後増加するがん患者に対応するがん専門医療人の育成に努めている。また、大学院博士課程として、「僻地・離島医療専門医療人養成コース」を開講し、がんに関する高度な研究遂行能力とがん患者に対する高度な先端医療を理解し、かつ、地域がん医療に貢献できるがん専門医の養成を行っている。

本学の特徴としては、「九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（H24）」における九州南部拠点として臨床腫瘍学講座が設置され、教授1名、助教1名が所属している。先に挙げた本学のがんプロ事業は、この臨床腫瘍学講座を中心に行われ、さらには、他の2拠点大学と協力しながら、九州がんプロ全体の取り組みにも主体的に関わっている。臨床腫瘍学講座の設置目的は地域医療貢献であり、人材育成のみならず、直接的に都道府県がん診療拠点病院事業にも関わりながら地域がん医療への貢献を図っていることも特徴である。

各コースの内容

1. 僻地・離島医療専門医療人養成コース（大学院医歯学総合研究科）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医歯学総合研究科博士課程 大学院生		
養成する人材像	僻地・離島でのがん医療を総合的に進める人材の育成を目的とする。医師、薬剤師、看護師、放射線技師等と協調してチーム医療の核となる指導的がん専門医を養成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	僻地・離島で施行が困難な高度ながん治療を実践することが可能になり、がん治療の均てん化に貢献できる。また、特に離島でのメディカルスタッフの育成にも貢献する。		
教育内容の特色等	がんの特化した大学院教育の中で高度な研究遂行能力、診療能力を育成する。特に離島で問題となるがん救急やがんの全般的治療について各診療科や救急部等で経験的学習を実践することに新規性がある。		

2. がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）（大学院医歯学総合研究科）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	臨床薬剤師
コースの開始時期	平成24年11月	修業年限（期間）	6ヵ月

コースの履修対象者	離島・僻地の病院・調剤薬局に勤務する薬剤師
養成する人材像	効能効果及び副作用モニタリングができ、質の高い化学療法管理を実施できる薬剤師。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	離島・僻地に在住する患者に安全で質の高い化学療法を実施できる体制を確立できると共に、拠点病院と離島・僻地との連携構築によるシームレスな医療の提供が可能となる。
教育内容の特色等	離島や僻地に在住する患者にも、地域の病院のみならず在宅においても質の高い化学療法を安全に実施できる体制を確立することが重要となる。具体的には、これまで展開してきたがん専門薬剤師養成インテンシブコースを更に発展させ、e-learningを用い医師養成ならびに緩和医療専門医療人養成インテンシブコースと相互受講できる体制を確立する。

3. 消化器がん集学的治療専門医療人養成コース（インテンシブ）（大学院医歯学総合研究科）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成25年1月	修業年限（期間）	2ヶ月
コースの履修対象者	消化器がん専門医		
養成する人材像	消化器がん（食道、胃、大腸、肝臓、胆・膵）に関して、手術、化学療法、放射線治療を含めた集学的治療を全般的に深く理解できる高度医療人を育成し、僻地や離島でがん治療を実践する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	僻地や離島で消化器がん患者の高度医療に携わることが可能になり、地域のがん治療の均てん化に貢献できる。		
教育内容の特色等	消化器がんの集学的治療に関する各大学間の発表や、講演会を通じ最新の消化器がん治療の動向を学ぶ。特に化学療法に関しては新しいプロトコールに参加し、経験的学習を実践することが特色である。		

4. 緩和ケア専門医療人養成コース（インテンシブ）（大学院医歯学総合研究科）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	緩和医療
コースの開始時期	平成25年1月	修業年限（期間）	3ヶ月
コースの履修対象者	がん専門医、看護師、薬剤師		
養成する人材像	がん治療を終末期の緩和ケアまでをトータルに理解し、特に終末期の緩和診療に関して対処できる医療人を育成する。特に僻地や離島における緩和医療の担い手を育成する。緩和医療学会の専門医、がん専門及び緩和ケア専門看護師、緩和ケア専門薬剤師等の養成。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	がん患者のニーズに対応でき、本県に特有の離島や郡部などを含む地域でも活躍できる、高度がん医療人の育成。 国家的課題である、がん診療の均てん化を遂行し、がん患者や家族の不安解消に寄与する。		
教育内容の特色等	緩和ケアの系統的講義を行い、職種間の相互理解を進め、患者にとって、より効率的な緩和ケアの実践を可能とする教育を行う。 既にある本学離島医療学講座とも協体制をとり、本県に特有の離島医療に対処できる教育体制が特色である。		

5. 成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）（大学院医歯学総合研究科）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん臨床医
コースの開始時期	平成24年11月	修業年限（期間）	5ヶ月
コースの履修対象者	医歯学総合研究科博士課程大学院生及び地域医療機関で勤務する血液専門医		
養成する人材像	ATLに関する高度な研究遂行能力とともに、造血器腫瘍一般とともにATLに対して診断から治療、終末期の緩和ケアまで、トータルに診療できる高度医療人を育成する。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	本県を始めとする南九州に多発しているATL患者の治療成績を向上させると同時に、ATLキャリアの相談に対応できる医療人を育成することにより、国家的課題である、がん診療の均てん化をATLという特殊ながんに於いて成し遂げ、がん患者や家族の不安解消に寄与する。		
教育内容の特色等	短期間のATLに特化した集中講義、ATL診療の実習などを行う実践的なコース。宮崎大学との連携で、受講生が実際に担当している症例などを基にして、年4回の遠隔会議や相互訪問による合同での症例検討や発表をおこなう。日本で最も多発している2県による連携の教育体制が特色である。		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
僻地・離島医療専門医療人養成コース	—	3	3	2	3
がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）	9	12	10	11	9
消化器がん集学的治療専門医療人養成コース（インテンシブ）	21	24	10	4	6
緩和ケア専門医療人養成コース（インテンシブ）	2	2	1	1	0
成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）	2	1	1	2	0

主な取組みと成果

がんに特化した臓器横断的な講座の活動状況

（1）大学院コース（カリキュラム）

「僻地・離島医療専門医療人養成コース」（博士課程）は、僻地・離島でのがん医療を総合的に行える人材を育成するとともに、医師、薬剤師、看護師、放射線技師等と協調してチーム医療の核となる指導的がん専門医を養成する目的で開講している。また、がんに特化した大学院教育の中でがん医療における高度な研究遂行能力の育成も行っている。本コースの特徴は、コース習得中に、がん専門医の資格（日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」、日本がん治療認定医機構「がん治療認定医」等）の取得を念頭に置いた臨床修練を行うことである。本コース履修者は、卒業年の11月に実施される「がん薬物療法専門医」試験の受験資格が得られる。複数の診療科にまたがる症例報告が必要になるが、通常より1年早い時期での受験および資格取得となる。本コースには現在11名の大学院生が在籍している。外来化学療法室を中心としたカンファレンスには、後に述べるように診療科横断的ながん治療専門医が出席して、大学院生を指導しながらがん患者診療

に当たっている。平成28年度までに、2名の大学院生が「がん治療認定医」資格を取得した。

(2) インテンシブコース

① 消化器がん集学的治療専門医療人養成コース（インテンシブ）

このコースは、現在消化器がん治療に携わっている医師（ただし、薬剤師、臨床工学技士、看護師等のメディカルスタッフも受講可能）を対象とし、消化器がん集学的治療における全人的医療かつチーム医療に関する専門的かつ最新の情報を提供することを目的として本講座が主体的に開催している。各回の講義はがんに関連する各分野の専門家が担当している。平成24年度から平成27年度までに59名が受講し、50名が修了した。平成28年度も6名が受講予定である。

② がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）

がん治療の専門的かつ最新の情報を提供するため、鹿児島県下4つの地区（北薩地区、南薩地区、曾於・肝属地区、離島）で、年4回（4年間で合計16回）「がん薬物療法セミナー」を開催した。平成24年度から平成27年度までの参加者合計は384名であった。本講習会は平成28年度も、北薩地区、南薩地区、曾於・肝属地区、離島で継続的に開催する予定である。

③ 緩和ケア専門医療人養成コース（インテンシブ）

これまで5年間コースを開講し、4施設6名が受講した。職種は医師2名、看護師3名、薬剤師1名であった。受講者が所属する施設は大学病院以外が3施設で、それぞれ特定臓器腫瘍の専門施設、がん診療指定病院、地方の基幹病院（拠点病院、指定病院以外）であった。それらの施設では、本コースの受講生を中心に緩和ケアに取り組んでいただいております、大学病院とも交流を継続しており、効果を上げている。

④ 成人T細胞白血病専門医療人養成コース（インテンシブ）

平成24年から28年度にわたり6名が受講した。受講生は講義を聴講した他、e-learning 学習、病棟でのATL 化学療法、移植療法を体験した。また、宮崎大学医学部血液内科との連携研究会を毎年11月に共催し養成に寄与している。

(3) キャンサーボード

平成24年11月より当講座が中心となって、病院規模での腫瘍カンファレンス・キャンサーボードを開催している。26の診療科、薬剤部、看護部、理学療法部から、それぞれ39名の医師、2名の薬剤師、16名の看護師、1名の理学療法師を運営委員として選出し、この運営委員を中心として、治療に難渋している、あるいは、多科にまたがるがん症例に対して、手術療法、化学療法、放射線療法、緩和医療などの面から協議し、治療方針の更なる充実とチーム医療の推進を計っている。専門医等の資格取得を含めた学習の機会とすべく参加希望医師やメディカルスタッフの参加制限は行っていない。定期的には、月1回（第3木曜日、18:30～1時間程度）の開催であるが、早急な検討が必要な症例には、臨時開催で対応している。平成29年1月現在、46回のキャンサーボードを開催し、のべ約1,500名の参加者があり、計57例のがん患者の治療方針を討論した。



図1. 消化器がん集学的治療専門医療人養成コース 開催案内



図2. がん薬物療法セミナー



図3. 第23回院内キャンサーボード

(4) 外来化学療法室カンファレンス

毎週、当講座が中心となって、外来化学療法カンファレンスを実施している。このカンファレンスには、消化器、乳腺、呼吸器、造血器のがん治療担当医、薬物療法専門医、薬剤師、看護師、メディカルソーシャルワーカー等が参加する。教育の場として、がんプロ大学院生は勿論のこと、他施設からの参加者もある。この外来化学療法カンファレンスでは、実際のがん症例の治療に関する検討、新規化学療法レジメン審査、がん薬物療法に関するミニレクチャーが毎回実施され、レクチャーに関しては臨床腫瘍学講座ホームページでも閲覧できるようにしている。また、病院内の横断的立場を利用して、院内化学療法全体の構造的問題点やインシデントの改善にも意見を出し合っている。大学院生は、このカンファレンスで消化器、呼吸器、乳腺・内分泌、造血器腫瘍の患者を臓器横断的に年3-4症例、担当している。また年1-2回、研究経過をこのカンファレンスで報告し、教官との討論を行っている。

本カンファレンスにおける活動は、教育的にも、日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」、日本がん治療認定医機構「がん治療認定医」、日本病院薬剤師会「がん薬物療法認定薬剤師」、日本医療薬学会「がん専門薬剤師」・「がん指導薬剤師」、日本臨床腫瘍薬学会「外来がん治療認定薬剤師」、がん化学療法看護認定看護師等の育成に活かされている。平成28年度までに、「がん薬物療法専門医」2名、「がん治療認定医」2名、「がん専門薬剤師」2名、「緩和ケア認定看護師」1名と同「専門看護師」1名、「がん化学療法認定看護師」1名を育成する成果を得た。

研修会及びファカルティ・ディベロップメントの開催について

(1) 九州がんプロ全体合同研修会

がん医療分野における、優れた専門家とリーダーを育成するとともに、多職種が協力してがん医療の向上を図ることを目的にしている。

第1回は平成25年7月13日から2日間、第2回は平成26年12月20日から2日間、合宿形式で開催され、九州大学、鹿児島大学、長崎大学、琉球大学、福岡大学、久留米大学、佐賀大学、福岡県立大学から教員と大学院生や履修者が参加し、各大学の独自の教育内容や取り組みを共有する場となった。第1回、第2回研修会の参加者はそれぞれ35名と32名で、本学からは第1回、第2回研修会とも2名の大学院生と2名の教員が参加した。研修内容は、実際のがんの診断、手術、放射線、薬物療法の決定、その副作用対策、緩和ケアの導入のみならず、全人的医療・家族ケアの検討までを網羅するものであった。

続く第3回は、鹿児島大学が企画立案を担当し、平成28年1月30日から31日にかけて開催された。6大学から教員13名、大学院生11名が参加し、グループワークによる症例検討・発表や多職種連携に関する討論が行われた他、メディポリス国際陽子線センターの講師による講演や同施設の見学等が行われた。

本研修会は、参加者に対しがん治療に関する高度な知識習得の場を提供するとともに、各大学が一堂に会し情報交換を行う貴重な機会となっており、今後も継続的に開催される予定である。

(2) 韓国アサンメディカルセンター訪問研修

第1回は平成25年11月4日から2日間、第2回は平成26年11月3日から2日間、九州大学、鹿児島大学、

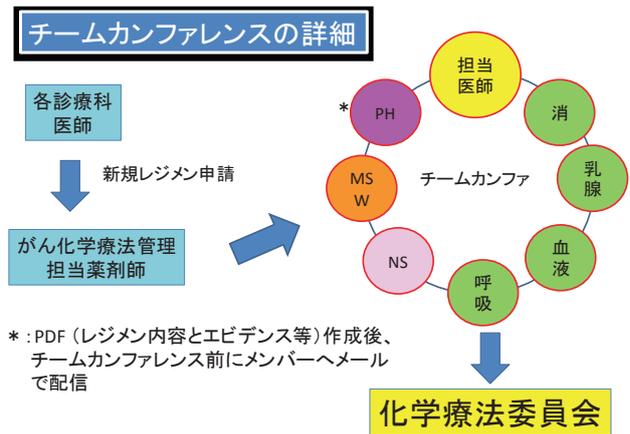


図4. 新規抗がん剤・レジメン審査



図5. 第2回九州がんプロ全体合同研修会

長崎大学から教員と大学院生や履修者が参加した。本学からは、第1回は2名の教員が、第2回及び第3回は各1名の大学院生が参加した。韓国アサンメディカルセンターは韓国における大型臨床研究分野の先駆けである。我々が訪問した Yoon-Koo Kang 教授の率いる Oncology 部門、Gastroenterology 部門は、その強力なリーダーシップの下、院内でも特に多数の臨床研究を行っている部門である。Kang 教授が主導あるいは参加した最近1年間に発表された前向き臨床試験に関する論文を表1にまとめた。Kang 教授と討議を行い、韓国の医療事情と日本の医療事情の違いを認識した。アサンメディカルセンターは施設が独立して自らの施設を発展させる、医療の集約化に力を注いでいる。日本が国をあげて推し進めようとしている医療の均てん化とはその志向が異なっていた。

phase	study	disease	agent	journal
I	-	HCC	everolimus, sorafenib	J Hepatol
I	-	Gastric ca	vorinostat, capecitabine, cisplatin	Invest New Drugs
II	-	Gastric ca	docetaxel, oxaliplatin, S-1	Cancer Chemother Pharmacol
II	-	HCC	bevacizumab, erlotinib	Oncology
III	AMC0101	Gastric ca	intraperitoneal cisplatin	Cancer Chemother Pharmacol
III	RIGHT	GIST	resumption of imatinib	Lancet Oncol
III	BRISK-PS	HCC	brivanib	J Clin Oncol
III	EXPAND	Gastric ca	cetuximab, capecitabine, cisplatin	Lancet Oncol
III	GRID	GIST	regorafenib	Lancet

HCC; hepatocellular carcinoma, GIST; gastrointestinal stromal tumor

表1. 韓国アサンメディカルセンター Oncology/Gastroenterology 部門の前向き臨床試験 (2012年12月-2013年11月)

(3) 鹿児島県がん診療連携協議会 4部門（がん診療企画・化学療法部門、がん登録部門、がん相談・連携部門、がん緩和医療部門）合同研修会の設置・開催

鹿児島県の全地域拠点病院・県指定病院を集めての4部門合同研修会（がん診療企画・化学療法部門、がん登録部門、がん相談・連携部門、がん緩和医療部門）を年2回開催するように企画立案した。研修会は全体研修会（午前）と部門別研修会（午後）の2部制とし、会毎に研修テーマを設け、これまでに計7回開催した（表2）。本研修会は平成29年度以降も継続して開催予定である。

県下の全病院が他県の先進的取り組みを知ることは、鹿児島県のがん医療均てん化を推進するために重要であり、さらに地域がん医療貢献を目的とした大学院生にとっても最適な教材となり得る。

表2. 鹿児島県がん診療連携協議会 4部門合同研修会

開催日	全体研修会のテーマ	参加者数
平成25年6月29日	がんと診断された時、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療を受けるために 講師：熊本赤十字病院 腫瘍内科部長 吉田 稔 先生	128名
平成26年2月21日	外来化学療法センターにおけるがん診療均てん化の取り組みについて 講師：熊本大学医学部附属病院 がんセンター外来化学療法室長 野坂 生郷 先生	139名
平成26年7月26日	愛媛県のがん診療連携協議会の取り組み（がん登録を中心に） 講師：独立行政法人四国がんセンター 臨床研究センター がん予防疫学研究部 寺本 典弘 先生	151名

開催日	全体研修会のテーマ	参加者数
平成27年3月21日	がん相談支援センターに求められる役割・機能について 講師：国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供部 高山 智子 先生	136名
平成27年7月25日	最新の消化器がん薬物療法とがん専門医療人の育成 九州大学大学院医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座 教授 馬場 英司 先生	143名
平成28年2月5日	報告① 鹿児島県がん診療連携クリティカルパス運用について： 各施設の取組報告 ② 平成27年度九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラム in 鹿児島報告 静岡がんセンターにおける緩和ケア連携 講師：静岡県立がんセンター 緩和医療科部長 大坂 巖 先生	137名
平成28年7月30日	「鹿児島からの情報提供」 「全国がん登録 その先へ ～がん予防への情報活用」 講師：国立がん研究センター がん対策情報センター がん登録センター 全国がん登録室長 松田 智大 先生	147名

大学間交流

(1) 九州がんプロ養成基盤推進協議会

九州がんプロ養成基盤推進プラン参加大学は、それぞれ、かなりの遠隔地にあるため、一箇所に集まって大学間の交流を行うには、時間と予算がかかる。頻繁に大学間の交流を行うためには、テレビ会議システムの活用が不可欠である。そこで、本学の鹿児島大学ほか九州がんプロ11大学を相互に補完するため、平成25年度より各大学間でテレビ会議システムを活用した合同カンファレンス「コース担当者会議」を年2～3回開催することとなった。

表3. 九州がんプロ養成基盤推進プラン参加大学コース担当者会議

開催日	審議・報告事項
平成25年4月15日	専門部会の開催について
平成25年8月26日	離島・僻地病院での実習について
平成25年12月16日	アサン医療センター・アサンがんセンター（ソウル）派遣研修 開催報告
平成26年9月1日	平成26年度西日本がんプロ拠点市民公開シンポジウムについて
平成26年12月15日	平成26年度外部評価シンポジウムについて
平成27年10月13日	学生アンケートについて
平成28年1月25日	平成27年度市民公開講座について
平成28年8月29日	九州がんプロ全体研修会について 他（報告事項）
平成28年11月21日	学生アンケート、平成28年度市民公開講座について

(2) 【九州がんプロ】九州大学・鹿児島大学・長崎大学合同ミーティング

九州大学・長崎大学との合同カンファレンスを実施することにより地域連携のさらなる知見を得て、地域連携の取組みを進めている。平成26年6月16日に「九州がんプロ南部の地域連携の実績と今後の取組み」のテーマでテレビ会議システムを活用した合同カンファレンスを開催した。

(3) 九州がんプロとしての e-Learning 教材作成

専門教育における e-Learning の導入を進めるために、高品質コンテンツの効率的作成をすすめている。共通科目として、国際地域連携、基礎腫瘍学、臨床研究と生物統計学、臨床腫瘍学概論、精神・社会腫瘍学と患者教育、医療ケアとチーム医療、生命倫理と法的規則、専門科目として外科腫瘍学、腫瘍内科学のコンテンツが登録されている。鹿児島大学がんプロからは、これまでに、消化器癌治療、チーム医療や地域連携など8講座のコンテンツを登録し、全国がんプロ生が供覧できる。また、血液腫瘍に関する3講座の登録を進めている。「僻地・離島医療専門医療人養成コース」では、講義の一部（非常勤講師担当箇所等）に e-Learning を使用している。さらに、それぞれのインテンシブコースでも e-Learning 教材による補完を図っており、特に座学の講義を受講する機会の少ないへき地・離島の在職者等にとっては非常に有益なコンテンツとなっている。

セミナー、講演会等の開催

(1) がん薬物療法セミナー及び腫瘍免疫カンファレンス

現在のがん薬物療法は、分子標的療法薬や免疫チェックポイント阻害剤などの登場により、適用や使用法、副作用対策など各科横断的に情報共有を図り、また多職種連携による対策が重要である。また、「がんプロ」の一環として若手医師や大学院生等に対する教育の機会も増やさねばならない。このため、本講座を中心に、各専門家をお呼びし、がん薬物療法セミナーと腫瘍免疫カンファレンスを実施した。

表4. がん薬物療法セミナー及び腫瘍免疫カンファレンス

開催日	テーマ	参加者数
平成26年4月30日	がん薬物療法セミナー 「肺がん治療、標準治療から最新のトピックスまで」 講師：国立がん研究センター 中央病院 呼吸器内科医長 堀之内 秀仁 先生	45名
平成27年9月30日	第1回腫瘍免疫カンファレンス（鶴陵会館） 「腫瘍カンファレンス」	約30名
平成28年6月1日	第2回腫瘍免疫カンファレンス（城山観光ホテル） オブジーボ適応追加記念講演 ①「EBM and EXP of immuncheckpoint inhibitor」 ②「免疫チェックポイント阻害薬による内分泌代謝異常の診断と紹介時の要点」	約100名
平成29年3月15日	第3回腫瘍免疫カンファレンス（鶴陵会館） 「ホジキンリンパ腫の最新治療について」 「イムノチェックポイント阻害剤による神経系合併症について」	約40名 (予定)

(2) 市民公開講座

がん疾患・医療に対する市民の関心の高さから、毎年、本講座と病院腫瘍センターとの共催で市民公開講座を企画実施してきた。この中では、緩和医療やがん相談などの観点からもテーマを決定し、市民への理解に努めた。さらに、「がんプロ」の意義やその教育内容についても紹介した。

表5. 市民公開講座

開催日	テーマ	参加者数
平成24年11月27日	がんと心 心のケアとコミュニケーション 講師：独立行政法人国立がん研究センター東病院 臨床開発センター 精神腫瘍学開発分野 分野長 小川 朝生 氏	90名
平成25年12月22日	自分・家族ががんになったとき 住み慣れた地域で安心して医療を受けるために 講師：医療法人ナカノ会理事長 ナカノ在宅医療クリニック院長 中野 一司 氏	100名
平成26年12月 7日	あなたと家族を支える緩和ケア 講師：作家・全日本社会人落語協会副会長 樋口 強 氏	90名
平成27年10月18日	あなたのがん治療に役立つがん相談 特別講演「がんになっても私らしく生きる」 講師：NPO 法人 がんサポートかごしま 代表 三好 綾子 様	90名
平成28年 9月24日	最新のがんに対する免疫療法 講演 「新しいがん治療薬：がん細胞に対する免疫療法」 鹿児島大学病院 腫瘍センター副センター長 鈴木 紳介 氏	125名

(3) 平成26年度 西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム

平成26年10月18日に平成26年度西日本がんプロ合同市民公開シンポジウムが福岡国際会場にて行われた。全国がんプロ協議会、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン西日本7拠点主催で53大学からの参加があった。鹿児島大学からは、上野、鈴木の両教員が参加した。全国がんプロ協議会 松浦成昭会長の講演「がん医療向上のために必要な人材養成～がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの役割」の後、「がん治療の専門家とお話ししませんか？」というタイトルで、公開講座分科会が行われた。7つの主要テーマ（「胃・大腸がん」「肝・胆・膵がん」「乳がん」「肺がん」「前立腺がん」「子宮・卵巣がん」「中・高生のためのセミナー：がんってなに？」）で行われ、上野は「肝・胆・膵がん外科治療」の講演を行った後、質疑に参加し、また鈴木は「胃・大腸がん」に対して薬物療法の立場からコメンテーターとして参加した。

大学院生によるがん医療に関する研究論文（旧がんプロからの移行者のぞく）

(1) 国際学会・英文誌での論文発表

【国際学会】

Noda M, et al. Clinical significance of serum p53 antibody for esophageal cancer, Federation of Asian Clinical Oncology (FACO), September 26, 2013, Xiamen, China
Noda M, et al. Evaluation of duodenal metallic stent placement for pancreato-biliary cancer. International Hepato-Pancreato-Biliary Association (IHPBA), March 22-27, 2014, Seoul, Korea
Noda M, et al. Clinical significance of serum p53 for esophageal cancer antibody and correlations with other tumor markers, International Society of Diseases of the Esophagus (ISDE), September 22-24, 2014, Vancouver, Canada
Kan Tanabe MD, Shinichiro Mori, Kenji Baba, Yoshiaki Kita, Sigehiro Yanagita, Yasuto Uchikado, Hiroshi Okumura, Sumiya Ishigami, Shoji Natsugoe : MESH FIXATION WITH FUNADA-STYLE GASTROPEXY DEVICE II IN LAPAROSCOPIC INCISIONAL HERNIA REPAIR. SAGES, Nashville, 4月14日, 2015
Takashi Kijima, Yoshikazu Uenosono, Takaaki Arigami, Shigehiro Yanagita, Keishi Okubo, Yuka Nishizono, Munetsugu Hirata, Hisashi Haraguchi, Takeshi Arima, Sumiya Ishigami, Syuichi Hokita, Shoji Natsugoe; The Usefulness of Rapid RT-PCR Assay for the Detection of Free Cancer Cells in the Peritoneal Cavity of Patients with Gastric Cancer. 11th International Gastric Cancer Congress, Sao Paulo, Brazil, 6/4, 2015

【国際学会】（つづき）

Keishi Okubo, Yoshikazu Uenosono, Takaaki Arigami, Shigehiro Yanagita, Daisuke Matsushita, Takashi Kijima, Sumiya Ishigami, , Shoji Natsugoe : INVESTIGATION OF FLUORESCENCE INTENSITY OF ICG IN SENTINEL NODE FOR EARLY GASTRIC CANCER , 11th International Gastric Cancer Congress、SAO PAULO June 04-06th、2015
Yoichi Yamasaki, Sumiya Ishigami, Takaaki Arigami, Shigehiro Yanagita, Yoshikazu Uenosono, Shinichiro Mori, Masahiko Sakoda, Hiroshi Okumura, Kosei Maemura, Shoji Natsugoe : Expression of Gremlin1 in gastric cancer and its clinical significance. 11TH Intenational Gastric Cancer Congress. Brazil, Sao Paulo, June 4-6, 2015
Kijima T, Arigami T, Uchikado Y, Sasaki K, Omoto I, Okubo K, Matsushita D, Kita Y, Uenosono Y, Okumura H, Owaki T, Natsugoe S. Fibrinogen and neutrophil-lymphocyte ratio in advanced esophageal cancer for predicting tumor response and prognosis. 15th World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus, Singapore, Sept. 19-21. 2016.
Masahiko Amatatsu, Takaaki Arigami, Yoshikazu Uenosono, Sumiya Ishigami, Keishi Ohkubo, Takashi Kijima、Daisuke Matsushita, Shigehiro Yanagita, Hiroshi Okumura, Yasuto Uchikado, Yoshiaki Kita, Shinichiro Mori, Hiroshi Kurahara, Yuko Kijima, Akihiro Nakajo, Kosei Maemura and Shoji Natsugoe : Scoring system based on fibrinogen and neutrophil-lymphocyte ratio for predicting gastric cancer prognosis and chemotherapy response. KINGCA week 2016, Seoul, 4月22日 , 2016.
Kan Tanabe MD, Shinichiro Mori, Kenji Baba, Yoshiaki Kita, Masayuki Yanagi, Kousei Maemura, Hiroshi Kurahara, Yuko Mataka, Hiroyuki Shinchi, Fumio Kijima, Shoji Natsugoe : REDUCED PORT LAPAROSCOPIC CHOLECYSTECTOMY MAINTAINS SAFETY AND FEASIBILITY. SAGES, Boston, 3月16日 , 2016

【英文誌】

Kijima T, Arigami T, Uchikado Y, Uenosono Y, Kita Y, Owaki T, Mori S, Kurahara H, Kijima Y, Okumura H, Maemura K, Ishigami S, Natsugoe S. Combined Fibrinogen and Neutrophil-Lymphocyte Ratio as a Prognostic Marker of Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Cancer Sci. 2016 Nov
Osako Y, Seki N, Kita Y, Yonemori K, Koshizuka K, Kurozumi A, Omoto I, Sasaki K, Uchikado Y, Kurahara H, Maemura K, Natsugoe S. Regulation of MMP13 by antitumor microRNA-375 markedly inhibits cancer cell migration and invasion in esophageal squamous cell carcinoma. Int J Oncol. 49 (6): 2255-2264, 2016.
Kan Tanabe, Yoshinari Shinsato, Tatsuhiko Furukawa, Yoshiaki Kita, Kazuhito Hatanaka, Kentaro Minami, Kohichi Kawahara, Masatatsu Yamamoto, Kenji Baba, Shinichiro Mori, Yasuto Uchikado, Kosei Maemura, Akihide Tanimoto, Shoji Natsugoe : Filamin C promotes lymphatic invasion and lymphatic metastasis and increases cell motility by regulating Rho GTPase in esophageal squamous cell carcinoma. Oncotarget, doi: 10.18632/oncotarget.14087, 2016
Yonemori K, Kurahara H, Maemura K, Natsugoe S. MicroRNA in pancreatic cancer. J Hum Genet. 62: 33-40, 2016

(2) 国内学会・和文誌での論文発表

【国内学会】

大久保啓史 他 直腸、肝、肺に発生した同時性3重複癌の1例、第49回九州外科学会、2012年5月18-19日（佐賀）
大久保啓史 他 下部直腸癌の術前進達診断に基づく Sentinel Node 理論を応用した側方リンパ節転移診断の可能性、第15回 SNNS 研究会学術集会、2013年9月（釧路）
大久保啓史 他 多発肝転移を伴う直腸癌に対して FOLFOX+Pmab 療法行い R0手術を施行した1例、第51回日本癌治療学会学術集会、2013年10月24-26日（京都）
大久保啓史 他 胃癌の Sentinel Node 同定における偽陰性症例の検討、第114回日本外科学会、2014年4月3-5日（京都）
大久保啓史 他 残胃癌に対する Sentinel node navigation surgery 臨床応用の可能性、第69回消化器外科学会、2014年7月16-18日（郡山）
大久保啓史 他 進行膵臓癌における末梢血中遊離癌細胞の検討、第52回日本癌治療学会学術集会、2014年8月28-30日（横浜）
大久保啓史 他 早期胃癌における IRI システムと RI 法併用による SN 同定、第16回 SNNS 研究会学術集会、2014年9月13.14日（鹿児島）
野田昌宏 他 膵・胆道癌に伴う十二指腸閉塞に対する十二指腸ステントの経験、日本消化器関連学会週間、2013年10月9-12日（東京）
野田昌宏 他 膵・胆道癌による悪性十二指腸狭窄に対するステント治療の効果（ポスター）、第51回日本癌治療学会学術集会、2013年10月24-26日（京都）

野田昌宏 他 食道癌における血清 p53抗体値の特徴（一般口演）、第75回日本臨床外科学会総会、2013年11月21-23日（名古屋）
野田昌宏 他 膵頭十二指腸切除術における術中ドップラー超音波および血流計ガイドによる血管ナビゲーション法の評価、第26回日本肝胆膵外科学会総会、2014年6月11-13日（和歌山）
野田昌宏 他 食道癌における DLL4発現とその臨床病理学的意義、第23回日本癌転移学会、2014年7月10-11日（金沢）
山崎洋一 他 切除不能胃癌狭窄に対する腹腔鏡下胃腸吻合の有用性、第114回日本外科学会、2014年4月3-5日（京都）
山崎洋一 他 再発胃 GIST に対する治療戦略、第69回消化器外科学会、2014年7月16-18日（郡山）
山崎洋一 他 胃癌における Gremlin1発現の検討、第52回日本癌治療学会学術集会、2014年8月28-30日（横浜）
貴島孝 他 術前 DCS を行った進行胃癌切除症例の検討、第52回日本癌治療学会学術集会、2014年8月28-30日（横浜）
貴島孝 他 多発大腸癌術後に発症した小腸癌に対し、腹腔鏡下に切除しえた Lynch 症候群の1例、第27回内視鏡外科学会2014年10月2-4日（大阪）
貴島孝 他 神経線維腫症Ⅰ型に合併した骨盤腔内巨大悪性末梢神経鞘腫瘍の1例、第76回日本臨床外科学会総会、2014年11月20-22日（郡山）
Kan Tanabe MD, Shinichiro Mori, Yoshiaki Kita, Kenji Baba, Masayuki Yanagi, Hiroshi Okumura, Yuko Mataka, Kousei Maemura, Sumiya Ishigami, Shoji Natsugoe : Laparoscopic Complete Mesocolic Excision via Reduced Port Surgery for Colon Cancer. 日本消化器外科学会、浜松市、7月15日、2015
田辺 寛、盛 真一郎、馬場研二、喜多芳昭、柳 政行、奥村 浩、石神純也、池江隆正、貴島文雄、夏越祥次：腹腔鏡下胆嚢摘出術における Reduced Port Surgery の安全性と教育的意義の検討 Reduced Port Surgery Forum、秋田市、8月1日、2015
田辺 寛、盛 真一郎、馬場 研二、喜多 芳昭、柳 政行、前村公成、蔵原 弘、又木雄弘、新地洋之、池江隆正、貴島文雄、夏越祥次：腹腔鏡下胆嚢摘出術における Reduced Port Surgery の安全性の検討 日本内視鏡外科学会、大阪市、12月11日、2015
天辰仁彦、江口裕可、馬場研二、喜多芳昭、内門泰斗、上之園芳一、有上貴明、盛真一郎、奥村浩、前村公成、石神純也、夏越祥次：混合性結合組織症に合併し腸管捻転を繰り返した1例、第105回日本消化器病学会九州支部例会、長崎市、6月19日、2015
天辰仁彦、馬場研二、喜多芳昭、上之園芳一、有上貴明、盛真一郎、石神純也、大脇哲洋、夏越祥次：セプラフィルムを使用後に再手術を要した2例、第13回日本消化器外科学会大会、東京、10月10日、2015
天辰仁彦、有上貴明、上之園芳一、大久保啓史、貴島孝、柳田茂寛、松下大輔、有馬豪男、又木雄弘、前村公成、夏越祥次：十二指腸神経内分泌腫瘍にセンチネルリンパ節生検を行った2症例、第17回 SNNS 研究会学術集会、横浜市、11月14日、2015
野田昌宏、盛真一郎、南曲康多、馬場研二、喜多芳昭、石神純也、夏越祥次：穿孔性大腸憩室炎に対して腹腔鏡下に3期的手術を行った3例、第51回腹部救急医学会総会、京都、3月5日、2015
野田昌宏、奥村浩、恵浩一、尾本至、喜多芳昭、内門泰斗、有上貴明、上之園芳一、石神純也 夏越祥次：食道扁平上皮癌における血清 P53抗体測定 of 臨床的意義、第115回日本外科学会定期学術集会、名古屋、4月17日、2015
野田昌宏、又木雄弘、前村公成、蔵原弘、浦田正和、南幸次、飯野聡、迫田雅彦、上野真一 新地洋之、夏越祥次：多発肝転移を伴った充実性偽乳頭状腫瘍の切除例、第52回九州外科学会、大分、5月9日、2015
野田昌宏、前村公成、又木雄弘、蔵原弘、川崎洋太、迫田雅彦、飯野聡、樋渡清司、南幸次、上野真一、高尾尊身、新地洋之、夏越祥次：当科における十二指腸乳頭部癌のリンパ節転移、第27回日本肝胆膵外科学会総会、東京、6月13日、2015
野田昌宏、前村公成、又木雄幸、蔵原弘、迫田雅彦、飯野聡、樋渡清司、上野真一、新地洋之、夏越祥次：ドップラー超音波による術中血管同定を利用した胆膵外科手術の工夫、第70回日本消化器外科学会総会、浜松、7月15日、2015
野田昌宏、馬場研二、喜多芳昭、盛真一郎、柳政行、奥村浩、石神純也、夏越祥次：当科における人工肛門造設に対する Reduced Port Surgery の工夫、4th Reduced port surgery forum、秋田、7月31日、2015
野田昌宏、石神純也、出先亮介、奥村浩、夏越祥次：食道扁平上皮癌における Notch シグナルの臨床病理学的意義、第26回消化器癌発生学会総会、米子、11月19日、2015
貴島孝、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、大久保啓史、平田宗嗣、西園由香、原口尚士、有馬豪男、石神純也、帆北修一、夏越祥次；XP療法が著効し切除により組織学的CRが得られていた食道胃接合部癌同時性肝転移の1例 第87回日本胃癌学会総会、広島市、3月4日、2015
貴島孝、上之園芳一、松下大輔、有上貴明、柳田茂寛、萩原貴彦、大久保啓史、内門泰斗、奥村浩、夏越祥次；食道癌に対する Sentinel Node Navigation Surgery の検討 第39回日本リンパ学会総会、東京、3月27日、2015
貴島孝、有上貴明、奥村浩、内門泰斗、喜多芳昭、上之園芳一、大久保啓史、松下大輔、柳田茂寛、石神純也、夏越祥次；食道癌における化学放射線療法 of 新たなバイオマーカーによる治療効果予測 - 血清 Fibrinogen 値と Neutrophil-Lymphocyte Ratio を用いた combined analysis-。第36回癌免疫外科研究会、奄美市、5月14日、2015

【国内学会】(つづき)

貴島孝、馬場研二、盛真一郎、喜多芳昭、瀬戸山徹郎、高江芳恵、貴島文雄、夏越祥次；腸閉塞で発症した外側型盲腸周囲ヘルニアの1例 第13回日本ヘルニア学会学術集会、名古屋市、5月22日、2015
貴島孝、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、西園由香、平田宗嗣、原口尚士、有馬豪男、石神純也、帆北修一、夏越祥次；進行胃癌患者の術中迅速 RT-PCR による腹腔内遊離癌細胞検出の有用性 第70回日本消化器外科学会総会、浜松市、7月15日、2015
貴島孝、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、大久保啓史、西園由香、平田宗嗣、原口尚士、有馬豪男、石神純也、帆北修一、夏越祥次；膵臓癌患者の術中迅速 RT-PCR による腹腔内遊離癌細胞検出の有用性 第13回日本消化器外科学会大会、東京、10月8日、2015
貴島孝、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、大久保啓史、西園由香、平田宗嗣、原口尚士、有馬豪男、石神純也、帆北修一、夏越祥次；膵臓癌患者の術中迅速 RT-PCR による腹腔内遊離癌細胞検出の有用性 第53回日本癌治療学会学術集会、京都、10月29日、2015
貴島孝、上之園芳一、有上貴明、大久保啓史、天辰仁彦、松下大輔、平原徹志、柳田茂寛、夏越祥次；早期胃癌・食道癌における SPECT/CT と RI 集積の検討 第17回 SNNS 研究会学術集会、東京、11月13日
米盛圭一、前村公成、新地洋之、蔵原弘、又木雄弘、迫田雅彦、飯野聡、樋渡清司、南 幸次、上野真一、夏越祥次；非機能性膵神経内分泌腫瘍に対する外科的治療成績の検討 第115回日本外科学会定期学術集会 4月16日2015
米盛圭一、蔵原弘、前村公成、新地洋之、又木雄弘、迫田雅彦、飯野聡、樋渡清司、南幸次、上野真一、夏越祥次；膵神経内分泌腫瘍における Snail、E-cadherin 発現意義の検討 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会 9月12日 2015
米盛圭一、蔵原弘、前村公成、新地洋之、又木雄弘、迫田雅彦、飯野聡、樋渡清司、南幸次、上野真一、夏越祥次；膵神経内分泌腫瘍における Snail 発現意義の検討 第26回日本消化器癌発生学会総会、11月19日、2015
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、平原徹志、貴島孝
石神純也、夏越祥次；術後 QOL からみたセンチネルリンパ節郭清による腹腔鏡下胃部分切除の有用性 第87回日本胃癌学会総会、広島市、3月5日、2015
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、貴島孝、石神純也、夏越祥次 ICG と RI 併用法における Sentinel Node の ICG 蛍光強度の検討、第39回日本リンパ学会総会、東京、3月27日、2015
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、原口尚士、有馬豪男、平原徹志、西園由香、石神純也、帆北修一、夏越祥次；切除不能胃癌における生検組織と血中遊離癌細胞における HER2発現の検討、第115回日本外科学会定期学術集会、名古屋市、4月16日、2015
大久保啓史、上之園芳一、石神純也、有上貴明、貴島孝、山崎洋一、柳田茂寛、夏越祥次；：腹膜播種胃癌に対し PTX の腹腔内化学療法後に直腸狭窄を呈した3例、第37回日本癌局所療法研究会、千葉市、7月10日、2015
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、平原徹志、貴島孝、石神純也、夏越祥次；胃癌腹膜播種に対する S-1+腹腔内併用化学療法の有用性、第70回日本消化器外科学会総会、浜松市、7月15日、2015
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、平原徹志、貴島孝、天辰仁彦、夏越祥次；胃術後障害からみたセンチネルリンパ節理論に基づく胃部分切除の有用性、第45回胃外科・術後障害研究会、名古屋市、11月6日、2015
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、貴島孝、天辰仁彦、夏越祥次；早期胃癌の Sentinel Node 同定における RI 集積と ICG 蛍光強度に関する検討、第17回 SNNS 研究会学術集会、横浜市、11月13日、2015
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、貴島孝、夏越祥次；胃癌における主病巣と転移巣での EMT マーカー発現に関する検討、第26回日本消化器癌発生学会総会、米子市、11月20日、2015
山崎洋一、石神純也、柳田茂寛、有上貴明、上之園芳一、盛真一郎、前村公成、奥村浩、夏越祥次；胃癌における Gremlin1発現の検討 第87回日本胃癌学会、広島市3月4-6日、2015
山崎洋一、馬場研二、天辰仁彦、喜多芳昭、盛真一郎、奥村浩、前村公成、石神純也、夏越祥次；S 状結腸癌術後の門脈腫瘍栓に対して化学療法が著効した一例。 第105回日本消化器病学会九州支部例会、長崎市6月19-20日、2015
YOICHI YAMASAKI, SUMIYA ISHIGAMI, TAKASHI KIJIMA, KEISHI OKUBO, SHIGEHIRO YANAGITA, TAKA AKI ARIGAMI, YOSHIKAZU UENOSONO, YASUTO UCHIKADO, HIROSHI OKUMURA, SHOJI NATSUGOE；Clinical implication of multidisciplinary therapy for advanced or recurrent Gastrointestinal Stromal Tumors. 第70回日本消化器外科学会総会、浜松市7月15-17日、2015
山崎洋一、石神純也、有上貴明、柳田茂寛、上之園芳一、盛真一郎、奥村浩、前村公成、夏越祥次；切除不能胃癌狭窄に対する腹腔鏡下胃腸吻合の有用性、第13回日本消化器外科学会大会、品川10月8-11日、2015
山崎洋一、石神純也、貴島孝、大久保啓史、柳田茂寛、有上貴明、上野園芳一、盛真一郎、前村公成、夏越祥次；胃癌における Gremlin1発現の検討 第26回日本消化器癌発生学会総会、鳥取市11月19-20日、2015
伊地知徹也、蔵原弘、前村公成、又木雄弘、川崎洋太、南幸次、飯野聡、迫田雅彦、上野真一、高尾尊身、新地洋之、夏越祥次；80歳以上高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の検討 第4回鹿児島外科 TM 講演会、鹿児島市、3月9日、2016

伊地知徹也、木原研二、塗木健介、三枝伸二：急性限局性腸管壊死を来し緊急手術となった一例 第71回鹿児島県臨床外科学会医学 会、鹿児島市、3月12日、2016
伊地知徹也、盛真一郎、馬場研二、喜多芳昭、前村公成、夏越祥次：A case of the familial adenomatous polyposis without the family history. 第27回日本消化器癌発生学会総会 鹿児島市、9月16日、2016
伊地知徹也、馬場研二、喜多芳昭、盛真一郎、有上貴明、内門泰人、上之園芳一、夏越祥次：腫瘍出血により巨大化した副腎骨髄脂肪 腫を伴った進行横行結腸癌の1切除例 第78回日本臨床外科学会総会、東京、11月24日、2016
貴島孝、上之園芳一、大久保啓史、有上貴明、天辰仁彦、松下大輔、柳田茂寛、石神純也、夏越祥次：胃癌における主病巣と転移巣で の EMT マーカー発現に関する検討 第40回リンパ学会総会、東京都、6月24日、2016
貴島孝、上之園芳一、有上貴明、大久保啓史、天辰仁彦、川越浩輔、松下大輔、柳田茂寛、夏越祥次：早期胃癌・食道癌における SPECT/CT と RI 集積の検討 第18回 SNNS 研究会学術集会、東京都、11月11日、2016
貴島孝、上之園芳一、有上貴明、大久保啓志、天辰仁彦、西園由香、柳田茂寛、石神純也、夏越祥次：胃癌における HER2発現の原発 巣と再発巣での相違についての検討 第71回日本消化器外科学会総会、徳島市、7月14日、2016
貴島孝、上之園芳一、有上貴明、大久保啓史、天辰仁彦、柳田茂寛、松下大輔、石神純也、夏越祥次：HER2陽性切除不能進行、再発 胃癌における Trastuzumab 投与による組織学的 HER2発現変化に関する検討 第116回日本外科学会定期学術集会、大阪、4月14日、 2016
山崎洋一、原口尚士、上木原貴仁、加藤健司、今村 博、田辺 元、夏越祥次：当院における高齢者に対する腹腔鏡下ヘルニア修復術 (TAPP) の検討 第71回鹿児島臨床外科学会、鹿児島市、3月18日、2016
山崎洋一、原口尚士、上木原貴仁、加藤健司、今村 博、田辺 元、夏越祥次：当院における85歳以上の超高齢者大腸穿孔手術症例の 検討 鹿児島救急医学会、鹿児島市、3月26日、2016
山崎洋一、原口尚士、上木原貴仁、加藤健司、今村 博、夏越祥次：当院における高齢者に対する腹腔鏡下ヘルニア修復術 (TAPP) の 検討、第71回日本消化器外科学会、徳島市、7月15日、2016
山崎洋一、原口尚士、上木原貴仁、加藤健司、今村 博、夏越祥次：外鼠径ヘルニアに同側閉鎖孔ヘルニアの併存を認め腹腔鏡下修復 術 (TAPP) を施行した1例 第29回日本内視鏡外科学会、横浜市、12月9日、2016
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、貴島孝、天辰仁彦、石神純也、夏越祥次：早期胃癌に対するセンチネルリンパ節理論 を用いた腹腔鏡下胃部分切除術の術後評価 第48回胃病態機能研究会、東京、2月28日、2016
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、平原徹志、貴島孝、天辰仁彦、夏越祥次：胃癌術後障害からみたセンチネル リンパ節理論に基づく胃部分切除の有用性 第88回日本胃癌学会総会、別府市、3月18日、2016
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、貴島孝、夏越祥次：胃癌における主病巣と転移巣での EMT マーカー発現 に関する検討 第116回日本外科学会定期学術集会、大阪市、4月15日、2016
大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、貴島孝、天辰仁彦、夏越祥次：早期胃癌に対する CLEAN-NET +センチネルリンパ節 郭清による機能温存手術 第71回日本消化器外科学会総会、徳島市、7月14日、2016
大迫祐作、関 直彦、喜多芳昭、米盛圭一、蔵原 弘、前村公成、夏越祥次：癌抑制型 microRNA-375は MMP13を制御して食道扁平 上皮癌細胞の浸潤・遊走を抑制する 第27回日本消化器癌発生学会、鹿児島市、9月15日、2016
天辰仁彦、有上貴明、上之園芳一、大久保啓史、貴島孝、柳田茂寛、内門泰斗、喜多芳昭、盛真一郎、前村公成、夏越祥次：切除不 能・再発胃癌に対する新たな治療効果予測バイオマーカーの検索：治療前 Fibrinogen 値と Neutrophil-Lymphocyte Ratio に基づいた新 規免疫関連マーカーの臨床的意義 第37回癌免疫外科研究会、埼玉、5月12日、2016
天辰仁彦、有上貴明、内門泰斗、大脇哲洋、尾本 至、佐々木健、大久保啓史、上之園芳一、夏越祥次：食道癌における血清 Fibrinogen 値と Neutrophil-lymphocyte ratio の臨床的意義 第71回日本消化器外科学会、徳島、7月14日、2016.
天辰仁彦、大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、平原徹志、貴島 孝、夏越祥次：PGSAS-37を用いたセンチネ ルリンパ節理論による胃部分切除術の有用性評価 第46回胃外科・術後障害研究会、米子、10月28日、2016
天辰仁彦、大久保啓史、上之園芳一、有上貴明、柳田茂寛、松下大輔、平原徹志、貴島 孝、夏越祥次：センチネルリンパ節理論によ る胃部分切除術の PGSAS-37を用いた有用性評価 第18回 SNNS 研究会、東京、11月12日、2016.
田辺 寛、鶴田佑介、恵 浩一、中島三郎、石神純也：当院における急性腹症に対する緊急手術 大島地区消化器集団検診研究会、奄 美市、11月24日、2016
田辺 寛、矢野謙二、馬場研二、喜多芳昭、盛 真一郎、夏越祥次：下腸間膜動脈根部処理後に人工肛門虚血を繰り返した腹腔鏡下腹 会陰式直腸切断術 (Miles 手術) の一例 日本臨床外科学会、品川、11月26日、2016
田辺 寛、盛 真一郎、馬場 研二、喜多 芳昭、夏越 祥次：巨大腹壁癒痕ヘルニアに対する鮎田式胃壁固定具 IITM を用いた腹腔 鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術 日本内視鏡外科学会、横浜市、12月9日、2016

【国内学会】(つづき)

平野拓郎、橋口真征、恵 浩一、柳田茂寛、石神純也、夏越祥次：当院における急性虫垂炎症例の検討 第71回日本消化器外科学会総会 徳島市、7月14日、2016
米盛 圭一、蔵原 弘、前村 公成、又木 雄弘、川崎 洋太、迫田 雅彦、飯野 聡、南 幸次、新地 洋之、上野 真一、夏越祥次：膵神経内分泌腫瘍における Snail、Ecadherin 発現意義についての検討 (ポスター) 第116回日本外科学会定期学術集会、大阪市、4月16日、2016
米盛圭一、蔵原弘、前村公成、新地洋之、又木雄弘、迫田雅彦、飯野聡、樋渡清司、南幸次、上野真一、夏越祥次：膵神経内分泌腫瘍における VEGF-D 発現意義の検討。(ポスター) 第71回日本消化器外科学会総会、徳島市、7月15日 2016
米盛 圭一、関 直彦、蔵原 弘、大迫 祐作、越塚 慶一、喜多 芳昭、前村 公成、夏越 祥次：膵癌細胞における癌抑制型 microRNA-375 が制御する分子ネットワークの解明。(一般演題) 第26回日本消化器癌発生学会総会、鹿児島市、9月15日、2016
米盛 圭一、関 直彦、蔵原 弘、大迫 祐作、越塚 慶一、喜多 芳昭、前村 公成、夏越 祥次：次世代シーケンサーを用いた膵癌 microRNA 発現解析に基づく機能性 RNA 分子経路の探索。(シンポジウム) 第26回日本消化器癌発生学会総会、鹿児島市、9月16日、2016
野田昌宏、本高浩徐、上今別府大作、吉川弘太、九玉輝明、坂元昭彦、柳政行、中村登：肺癌の小腸転移により穿孔をきたした一例 53回九州外科学会、長崎県、5月13日、2016
野田昌宏、柳政行、坂元昭彦、九玉輝明、本高浩徐、吉川弘太、樋渡啓生、中村登、濱田信男、船川慶太：当院における内視鏡外科と内視鏡内科の合同手術の現状 南日本内視鏡外科学会 鹿児島市、7月29日、2016

【和文誌】

大久保啓史 他 オクトレオチドが有効であった甲状腺癌術後乳糜漏の1例、日本臨床外科学会雑誌75巻：1799-1802、2014
野本優貴、大久保啓史 他 腹腔鏡下に摘出した仙骨 epidermoid cyst の1例、手術68巻：1425-1428、2014
貴島孝、盛真一郎、馬場研二、瀬戸山徹郎、貴島文雄、夏越祥次；腸閉塞で発症した外側型盲腸周囲ヘルニアの1例 日本臨床外科学会誌76;5:1014-1018、2015
天辰仁彦、奥村浩、内門泰斗、恵浩一、喜多芳昭、上之園芳一、有上貴明、盛真一郎、石神純也、大脇哲洋、夏越祥次、化学療法により重症敗血症を起こした食道・胃同時性重複癌の1例、癌と化学療法、42：1322-1324、2015

総括

鹿児島大学では、平成24年度～28年度の第2期がんプロ養成期間に、本編で述べたように1つの大学院コースと4つのインテンシブコースが開講された。大学院コースにはのべ11名が入学し、またインテンシブコースでは122名の受講者があった(さらに平成28年度1月開講分に6名が参加予定)。大学院生に関しては所属科での研究とともに、九州がんプロ全体研修会や海外施設訪問、また、臨床腫瘍学講座を中心に行われる院内がんボードや外来化学療法カンファレンスにも参加し、横断的にがん医療を学ぶ機会を設けてきた。さらには研究期間中もしくは終了後に、本大学院コースの特徴である僻地・離島でのがん医療、緩和医療や在宅医療に関する実習を一定期間赴任する型で設け、がん救急や在宅ターミナルケアを中心に地域で活躍するがん専門医療人に必要な能力の向上が図られた。各インテンシブコースにおいても、座学のみではなく実際のカンファレンス参加等により質疑応答の機会を増やし双方向の学習に努めてきた。また、がん専門薬剤師養成コースは、地域医療従事者の学ぶ機会を提供するために離島や僻地に出向いて開講された。これらにより専門医等の資格では、がん薬物療法医2名、がん治療認定医2名、がん認定薬剤師2名、緩和ケア認定看護師1名と専門看護師1名、がん化学療法認定看護師1名などが養成された。また、がん医療の均てん化を図る目的で鹿児島県4部門合同研修会を設け、これまでに7回開催された。がん診療、緩和ケア、相談支援やがん登録等を中心に、第一部講演会では全国の講師に講演を依頼し、その後の第二部研修会では、それぞれの部門でグループワークや症例検討などを行ってきた。県内全域から200名近い医療者が参加しており、各病院間・各職種間の情報共有が図られ、新規治療法からがん患者を取り巻く医療環境や制度面での

知識の更新に寄与している。上記の大学院生やインテンシブコース受講生も参加し、地域がん医療に対する理解が促進された。

以上のように、鹿児島大学における九州がんプロ養成基盤推進プランでは、がん医療に関わる多職種の人材育成が図られ、直接的にも地域がん医療均てん化に貢献した。また九州がんプロ南部拠点として、研修会開催や講師派遣、また市民公開講座等を通じて全体の活動に寄与し得たと考えられる。

琉球大学

概要

琉球大学は、「がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」として博士課程1コース（腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム）を、「地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース」として、博士課程2コース（放射線腫瘍専門医養成プログラム、がん薬物療法専門医プログラム）と修士課程2コース（医学物理プログラム、がん専門看護師養成コース）及びインテンシブコース2コース（地域がん専門薬剤師養成コース、がん看護エキスパートナース養成コース）を設置し、沖縄県におけるがん医療均てん化のための専門医療人の育成を進めている。

各コースの内容

1. 腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム（大学院医学研究科医科学専攻）

コースの重点区分	①教育改革	養成する専門分野	ペインクリニック専門医 緩和ケア専門医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻大学院生		
養成する人材像	・国際的に活躍できる緩和ケア、ペインクリニック専門医。 ・地域医療の特性を理解し、地元貢献する緩和ケア、ペインクリニック専門医。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	・がん患者の全人的苦痛を理解し、緩和する知識と技能を有する緩和ケアチームのシステムを構築し、マネジメントする。 ・緩和ケアチームの中で身体的苦痛、疼痛緩和を特に専門として、各種神経ブロックや薬物療法に関する専門知識と手技を実行できる。		
教育内容の特色等	大学病院と地域がん拠点病院の緊密な連携のもと実習を行う。特に離島特有のがん患者の問題を経験し、検討する機会を持つ。		

2. 放射線腫瘍専門医養成プログラム（大学院医学研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	放射線治療医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻大学院生		
養成する人材像	島嶼県沖縄では県内でがん治療を完結する必要がある。しかしがん治療に重要な役割を果たす放射線治療の専門医は、沖縄県において著しく不足している（4人/県…2012年1月現在）。県内での養成が必須かつ急務であり、以下の人材を養成する。 ・沖縄県内のがん患者に安定して標準的放射線治療を行い高精度放射線治療（IMRT、IGBT等）の実施可能な放射線治療専門医。		

養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県内の放射線治療医を育成し、放射線治療に関わるスタッフ（診療放射線技師、医学物理士、品質管理士、看護師等）の指導的立場を務めることができる放射線治療指導医。 ・ 当大学の医学生・研修医、県内医療機関の医師に放射線治療の基礎と臨床的重要性を教育指導し、放射線治療医としてリクルートすることのできる医師。 ・ 各臓器がん専門医・腫瘍内科医らと、診療科横断的に腫瘍学の観点から放射線治療の適応判断（根治適応、緩和適応）も含めた専門的なディスカッションが可能な医師。 ・ 先進的治療技術の開発とともに、臨床試験などの臨床研究を通じて質の高いグローバルなエビデンスを構築し発信できる医師。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<p>当該人材が育成されることにより、更に安定した放射線治療を県内の癌患者に提供することが可能となる。これまで人材の不足により県内での適用が十分でなかった高精度放射線治療も広く提供可能となることが期待される。診療科横断的な知識を有するメリット、他診療科とのコネクションを活かし、地域のがん診療におけるリーダー、コーディネーター的役割を果たす人材像が期待される。がん医療における放射線治療の重要性が医療関係者に十分認識されるようになり、当該人材を始めとした放射線治療に関わるスタッフ増加が加速することが期待される。以上により、適切な放射線治療の適用が推進され、鳥嶋県沖縄におけるがん診療の均てん化が達成される。</p>
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線腫瘍学の基本となる放射線物理学・放射線生物学を学ぶとともに、臨床現場での On the job training を重視した教育を行う。 ・ 県内放射線治療施設での実地研修を通じ多くの治療症例を経験する。 ・ 地域での安定した治療の提供に十分な放射線治療医の充足が重要であり、学生や研修医のリクルートの重要性を教育する。 ・ 高精度放射線治療の治療技術に関しては、当大学のみならず九州がんプロ内の他機関と連携し実地研修を行う。特に、IMRT、SRT 等の高精度外部照射技術については、九州大学大学院の高度先端がん放射線治療医師養成コース、医学物理士養成コース博士後期課程との連携により教育内容の強化をはかる。 ・ 積極的に診療科横断的カンファレンス等に参加しディスカッションを経験することにより、治療技術的な「放射線治療学」にとどまらない、「放射線腫瘍学」の習得をめざす。 ・ 根治的治療のみならず、緩和的治療における放射線治療の適応、方法を習得させる。 ・ 全国レベルの学会、班会議、研究会への参加を推進する。 ・ 全国レベルの多施設臨床試験に積極的に関与し、がん治療におけるエビデンス構築の重要性を認識するとともに、自ら臨床試験のコンセプトを立案することができる臨床的問題意識を持った腫瘍医を目指す。

3. がん薬物療法専門医プログラム（大学院医学研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	腫瘍内科医
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	4年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻大学院生		
養成する人材像	臨床腫瘍学の進歩に即するがん薬物治療に精通し、十分な学識と経験を有する優れた医師。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	沖縄県に現在は2名しかいないがん薬物療法専門医が増えることにより、専門家不足の沖縄県のがん化学療法のレベルアップが確実に図れる。		
教育内容の特色等	医学部附属病院がんセンターが中心となり、外来化学療法室やがんセンターボードが運営され、診療科横断的な診療体制が整いつつあり、診療科の協力が得られやすい。		

4. 医学物理学プログラム（大学院医学研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	医学物理士、放射線治療品質管理士
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	医学研究科医科学専攻修士課程大学院生		
養成する人材像	近年の放射線治療技術や装置の高精度化にともない、治療関連機器の品質管理や情報処理等の面で理工系出身者の必要性も増加している。本コースでは、理工系出身学生を中心に高精度放射線治療に必要とされる人材を養成する。今後は粒子線治療の増大が予想されるので、粒子線治療への対応も視野に含んだ人材養成を行う。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	沖縄県でも放射線治療施設が増加しつつあるが現在、沖縄県では放射線治療に従事している理工系出身者は皆無であり、当該養成コースによる人材が、地域の高精度放射線治療の拡充及び品質向上に貢献する。将来的に粒子線治療施設が設置された場合でも、対応可能である。		
教育内容の特色等	放射線治療では、CTやMR画像等は必要不可欠であり、また治療機器の進歩に伴い、情報処理技術等、広範な知識が必要である。本コースでは放射線治療のみでなく医用画像及び情報処理の技能も養成する。なお、当該コースのみで教育体制を整えることは不可能であるので、筑波大学主催のがんプロ全国 e-learning クラウドに積極的に参加・利用することで教育体制を整える。		

5. がん看護専門看護師養成プログラム（大学院保健学研究科保健学専攻博士前期課程）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護専門看護師
コースの開始時期	平成25年4月	修業年限（期間）	2年
コースの履修対象者	保健学研究科保健学専攻博士前期課程大学院生		
養成する人材像	がん医療の現場において、複雑な問題を抱えるがん患者・家族に対して、卓越した看護実践・相談・倫理調整・教育・研究等の役割が遂行できる高度実践看護師。特に、地域に特化した実践・教育活動ができる人材の育成。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を基盤とし、高度な知識技術を備えた看護実践家の育成。 ・地域で活動する看護師への教育的支援等の役割開発。 ・島嶼地域を抱える沖縄県のがん地域医療の均てん化に貢献できる。 		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年より学内に開設されるシミュレーション研修センターの活用し、多職種（医師、薬剤師、放射線技師）連携教育やフィジカルアセスメント、事例検討会等を開催し、地域で複雑な問題を抱えるがん患者・家族の問題解決のための高度な実践教育を行う。 ・地域で活動しているがん看護専門看護師による講義を導入し、地域におけるがん医療の現状、問題点、連携のあり方等について 多方面から教育を行う。 ・地域で療養するがん患者の患者会やがんサロン等の運営に参画し、相談支援の役割機能を習得する。 		

6. 地域がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）（大学院医学研究科医科学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん治療、緩和医療薬剤師
コースの開始時期	平成24年4月	修業年限（期間）	9か月間
コースの履修対象者	沖縄県全域の薬剤師、対象者の募集方法は、公開授業とする。		

養成する人材像	地域がん治療に関与する、がん治療専門薬剤師、さらに緩和医療専門薬剤師養成を目的とする。
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	沖縄県でのがん、または緩和医療にかかわる人材の能力均等化とそれらに関わる地域チーム医療の強化に繋がることが予測される。
教育内容の特色等	複数科に渡るがん治療の講義、実習やチームへの参加、またがん治療と緩和医療を同時に受講、実習を行い、これらに精通する薬剤師の養成、また e-learning を用いた講義や受講。

7. がん看護エキスパートナース養成コース（インテンシブ）（大学院保健学研究科保健学専攻）

コースの重点区分	②地域貢献	養成する専門分野	がん看護エキスパートナース
コースの開始時期	平成24年10月	修業年限（期間）	1年
コースの履修対象者	沖縄県内（離島含む）で従事する看護師（がん看護分野3年以上の勤務を有する者）を対象とする。		
養成する人材像	離島地域を含む沖縄県内のがん医療水準の向上を目指して、がん診療連携拠点病院や基幹病院などで、将来的にがん看護における認定看護師及び専門看護師となる人材の育成。		
当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム）	<ul style="list-style-type: none"> がん医療の分野において卓越した看護実践を発揮することにより、がん患者・家族のケア向上に貢献できる。 島しょ地域を抱える沖縄県のがん医療の均てん化に貢献できる。 地域がん医療における多職種チームのコーディネーターとしての役割拡大。 		
教育内容の特色等	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年より学内に開設されるシミュレーションセンターの活用により、がん看護に特化した高度な知識、技術の習得を、多職種連携（医師、薬剤師、放射線技師）のもと、現場で活躍するがん看護専門看護師、認定看護師による講義演習指導も取り入れる。 特に本島北部地域や宮古・八重山などの離島地域で勤務する看護師には、e-learning による実践教育を実施し、後方支援なども行う。 		

養成実績

コース名	入学者数（受入実績）				
	H24	H25	H26	H27	H28
腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム	—	0	0	0	0
放射線腫瘍専門医養成プログラム	—	1	1	0	1
がん薬物療法専門医プログラム	—	0	0	0	0
医学物理学プログラム	—	0	1	0	1
がん看護専門看護師養成プログラム	—	0	1	0	0
地域がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）	1	0	0	2	0
がん看護エキスパートナース養成コース（インテンシブ）	5	6	9	7	9

主な取組みと成果

ホームページ運営、教育プログラム管理等

- ・学生への募集案内作成、研究科ホームページへの掲載、学内オープンラボでの紹介
- ・平成24年10月10日に開催された教授会において、がんプロコース設置における科目の指定、その科目において e-learning コンテンツ提供の協力が承認された。また、今後医学研究科において e-learning クラウド導入の積極的な検討も依頼した。その結果、残念ながら単位化には至らなかったが、対面講義の補完的使用が正式に認められた。
- ・履修単位確認結果と該当科目の e-learning 導入について、各プログラム担当教員へ、履修科目の指定を依頼し確定した。

大学間交流

(1) 「大学間連携共通教育プログラム」

放射線治療に関する大学間連携教育プログラムを構築し、「特別研究学生」として九州大学と連携した短期研修を実施した。

内容
第1回 実施日：平成25年10月30日～平成25年10月31日（2日間） 対象学生：琉球大学医学研究科博士課程放射線腫瘍専門医養成プログラム4年次 粕谷 吾朗 テーマ：高精度放射線治療の理論と応用 カリキュラム：頭頸部の定位放射線治療（講義・実習）、肺癌の体幹部定位放射線治療（講義・実習）、前立腺癌の強度変調放射線治療（講義・実習）、施設見学、回診
第2回 実施日：平成26年3月3日～平成26年3月4日（2日間） 対象学生：九州大学大学院医学系学府医学専攻臨床放射線科学分野4年次 松本 圭司 テーマ：子宮頸癌集学的治療における画像誘導腔内照射（IGBT）を中心とした高精度放射線治療の役割と課題 カリキュラム：子宮頸癌腔内照射（講義・実習）、画像誘導腔内照射の理論と実際（講義・実習）、子宮頸癌の化学放射線療法を中心とした臨床試験の現状（講義）、外来患者診察
第3回 実施日：平成28年1月14日～平成28年1月15日（2日間） 対象学生：琉球大学医学研究科博士課程放射線腫瘍専門医養成プログラム3年次 前本 均 テーマ：高精度放射線治療の理論と応用 カリキュラム：脳腫瘍の定位放射線治療（講義・実習）、肺腫瘍の定位放射線治療（講義・実習）、頭頸部、前立腺癌の強度変調放射線治療（講義・実習）、施設見学、回診
第4回 実施日：平成28年2月1日～平成28年2月2日（2日間） 対象学生：九州大学大学院医学系学府医学専攻臨床放射線科学1年次 脇山 浩明 テーマ：子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射（Image-guided brachytherapy: IGBT）の理論と応用 カリキュラム：子宮頸癌腔内照射（講義・実習）、画像誘導腔内照射の理論と実際（講義・実習）、子宮頸癌の化学放射線療法を中心とした臨床試験の現状（講義）、外来患者診察
第5回 実施日：平成29年2月9日～平成29年2月10日（2日間） 対象学生：琉球大学医学研究科博士課程放射線腫瘍専門医養成プログラム3年次 草田 武朗 テーマ：高精度放射線治療の理論と応用 カリキュラム：肺癌の体幹部定位放射線治療（講義・実習）、前立腺癌の強度変調放射線治療（講義・実習）、脳腫瘍に対する定位放射線治療（講義・実習）、頭頸部癌の強度変調放射線治療（講義・実習）、施設見学、回診

内容
第6回 実施日：平成29年3月13日～平成29年3月14日（2日間） 対象学生：九州大学大学院医学系学府医学専攻臨床放射線科学4年次 平田 秀成 テーマ：子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射（Image-guided brachytherapy: IGBT）の理論と応用 カリキュラム：子宮頸癌腔内照射（講義・実習）、画像誘導腔内照射の理論と実際（講義・実習）、子宮頸癌の化学放射線療法を中心とした臨床試験の現状（講義）、外来患者診察

(2) 九州がんプロ全体研修会への参加

本プランに参加する各大学の学生・教員が集い、2日間の症例検討とWSを通じて互いの教育・臨床・研究についての意見を交換することで、よりよいがん医療への理解を深める事を目的とした本研修会に参加した。

内容
第1回 実施日：平成25年7月13日～平成25年7月14日（2日間） 場所：志賀島国民休暇村 参加：前本均（放射線腫瘍専門医養成プログラム1年次）、戸板孝文（教員）
第2回 実施日：平成26年12月20日～平成26年12月21日（2日間） 場所：レイクサイドホテル久山 参加：草田武朗（放射線腫瘍専門医養成プログラム1年次）、戸板孝文（教員）
第3回 実施日：平成28年1月30日～平成28年1月31日（2日間） 場所：指宿ベイテラス HOTEL & SPA、メディポリス国際陽子線治療センター 参加：前本均（放射線腫瘍専門医養成プログラム3年次）、戸板孝文（教員）
第4回 実施日：平成29年1月21日～平成29年1月22日（2日間） 場所：長崎にっしょうかん 参加：草田武朗（放射線腫瘍専門医養成プログラム3年次）、石川和樹（放射線腫瘍専門医養成プログラム1年次）、戸板孝文（教員）

セミナー・講演会の開催

(1) 「大学間連携共通教育プログラム」

放射線治療	がん看護	医学物理学	合計
9回	20回	8回	37回

開催日	催事名・講師	参加者数
H24.4.24	がん看護プロフェッショナルセミナー 緩和ケアにおける症状緩和の実際 金城恵（緩和ケア認定看護師）	30名
H24.5.15	がん看護プロフェッショナルセミナー 緩和ケアにおける患者・家族の心理社会的支援 島袋恭子（ソーシャルワーカー）	30名
H24.5.26	がん看護プロフェッショナルセミナー がん患者・家族の意思決定支援～在宅意向支援の事例をとおして 細矢美紀（がん看護専門看護師）	45名
H24.6.17	第1回医学物理プログラムセミナー 放射線治療に係る第三者物理QAプログラム 峯村俊行	16名
H24.6.30	「市民公開講座～がん粒子線治療とは～」 菱川良夫	約400名
H24.10.6	第2回医学物理プログラムセミナー EPID（Electronic Portal Imaging Device）によるQC/QAの効率化 伊波鑑	14名

開催日	催事名・講師	参加者数
H24.12.8	第3回医学物理プログラムセミナー「放射線治療用 Couch、Rail の吸収補正」他 新城善春／宜保成洋	18名
H24.12.19	第4回医学物理プログラムセミナー「分子イメージングを用いた画像誘導放射線装置の開発」石川正純	17名
H25.1.18	がん看護エキスパートナースコースセミナー がん患者における疼痛マネジメント 金城恵（緩和ケア認定看護師）	7名
H25.1.24	がん看護エキスパートナースコースセミナー がん患者における症状マネジメント 屋良尚美（緩和ケア認定看護師）	7名
H25.6.29	第5回医学物理学セミナー「IMRT の高精度性の確保 QA/QC まで」成田雄一郎 「IGBT の概論～呼吸同期（RTRT）」石川正純	20名
H25.11.2	第6回医学物理学セミナー「治療用線量の標準とその供給体制について」佐方周防	13名
H25.11.30	第7回医学物理学セミナー「放射線治療の照射線量計算について」仲宗根定芳 「MRI の基礎知識～見ておきたいこと、知っておきたいこと」宮崎志穂、宮城みどり	25名
H25.12.14	がん看護プロフェッショナルセミナー「研究成果を臨床で活かそう～臨床における研究的視点を高めるには～」	20名
H25.12.19	がん看護エキスパートナースコースセミナー「痛みのマネジメント」金城恵	7名
H26.1.9	がん看護エキスパートナースコースセミナー「症状マネジメント」屋良尚美	7名
H26.6.14	がん看護プロフェッショナルセミナー「がん患者・家族の意思決定支援」知念正佳（がん看護専門看護師養成コース平成21年度卒業生）	44名
H26.11.27	がん看護エキスパートナースコースセミナー「症状マネジメント」金城恵	8名
H26.11.20	共催講演「放射線療法とその副作用について」玉城稚奈	24名
H26.12.11	がん看護エキスパートナースコースセミナー「臨死期のケア」金城ユカリ	8名
H27.6.6	がん看護プロフェッショナルセミナー「がん研有明病院における緩和ケア推進に向けた取組み」濱口恵子	52名
H27.9.26	共催講演「沖縄県肺癌放射線治療シンポジウム」木村智樹、武田篤也、辻野佳世子、石倉聡	53名
H27.10.10	医学物理学セミナー「IMRT における検証及び QA/QC」相川亜子、岡本裕之	25名
H27.10.22	共催講演「胆道がんの早期診断のための研修会」伊佐強	13名
H27.10.23	共催講演：放射線治療看護セミナー「がん放射線治療における看護師の役割」棚原陽子、橋口周子	53名
H27.10.28	共催講演「肝胆膵領域のがんに対する化学療法と副作用対策に関する研修会」小橋川嘉泉	9名
H27.11.12	平成27年度がん看護プロフェッショナル教育セミナー「症状マネジメント」金城恵	9名
H27.12.3	平成27年度がん看護プロフェッショナル教育セミナー「臨死期ケア」金城ユカリ	9名
H27.12.11	共催講演：放射線治療看護セミナー「放射線治療に伴う有害事象へのケア」石井しのぶ	42名

セミナー・講演会の開催（つづき）

開催日	催事名・講師	参加者数
H27.12.17	共催講演：放射線療法と副作用対策に関する研修会「放射線照射装置の特性」 戸板孝文	29名
H28.1.21	がん看護エキスパートナースコースセミナー「エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的配慮」 金城恵	9名
H28.12.8	がん看護プロフェッショナル教育セミナー「症状マネジメント」 金城恵	9名
H29.1.19	がん看護プロフェッショナル教育セミナー「臨死期のケア」 金城ユカリ	9名
H29.2.2	がん看護プロフェッショナル教育セミナー「エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題」 金城恵	9名
H29.2.11	共催講演「沖縄県の肺癌集学的治療の現状と課題」 早川和重、有賀拓郎、古堅誠、饒平名知史	43名
H29.3.4	共催講演：市民公開講座「前立腺がんの放射線治療」 戸板孝文、伊良波史郎、有賀拓郎、平安名常一、宜保成洋、宮城智江	—
H29.3.9	共催講演：「放射線科における緩和治療～その先にあるもの～」 平安名常一	—

大学院生の学位修得

- ・有賀 拓郎（博士課程平成24年修了）
「External beam boost irradiation for clinically positive pelvic nodes in patients with uterine cervical cancer」
- ・粕谷 吾朗（博士課程平成25年修了）
「Distribution patterns of metastatic pelvic lymph nodes assessed by CT/MRI in patients with uterine cervical cancer」
- ・金城 優志（修士課程平成27年終了）
「強度変調放射線治療における線量検証結果の総計的解析」
- ・前本 均（博士課程平成28年修了予定）
「Predictive factors of uterine movement during definitive radiotherapy for cervical cancer」

大学院生によるがん医療に関する研究論文

(1) 国際学会・英文誌での論文発表

Ariga T, Ogawa K, Shimoji H, Karimata H, Toita T, Kakinohana Y, Kasuya G, Nishimaki T, Yoshimi N, Murayama S. Radical radiotherapy for superficial esophageal cancer: impact of clinical N stage on survival. <i>Anticancer Res.</i> 2012; 32: 3371-6.
Ogawa K, Ishiuchi S, Inoue O, Yoshii Y, Saito A, Watanabe T, Iraha S, Toita T, Kakinohana Y, Ariga T, Kasuya G, Murayama S. Phase II trial of radiotherapy after hyperbaric oxygenation with multiagent chemotherapy (procarbazine, nimustine, and vincristine) for high-grade gliomas: long-term results. <i>Int J Radiat Oncol Biol Phys</i> 82: 732-738, 2012.
Kasuya G, Toita T, Furutani K, Kodaira T, Ohno T, Kaneyasu Y, Yoshimura R, Uno T, Yogi A, Ishikura S, Hiraoka M. Distribution patterns of metastatic pelvic lymph nodes assessed by CT/MRI in patients with uterine cervical cancer. <i>Radiat Oncol.</i> 2013 Jun 8;8:139.
Kasuya G, Ogawa K, Iraha S, Nagai Y, Hirakawa M, Toita T, Kakinohana Y, Kudaka W, Inamine M, Ariga T, Aoki Y, Murayama S. Postoperative radiotherapy for uterine cervical cancer: impact of lymph node and histological type on survival. <i>Anticancer Res.</i> 2013 May;33(5):2199-204.
Ariga T, Toita T, Kasuya G, Nagai Y, Inamine M, Kudaka W, Kakinohana Y, Aoki Y, Murayama S. External beam boost irradiation for clinically positive pelvic nodes in patients with uterine cervical cancer. <i>J Radiat Res.</i> 2013; 54: 690-696.

Kasuya G, Ogawa K, Iraha S, Nagai Y, Hirakawa M, Toita T, Kakinohana Y, Kudaka W, Inamine M, Ariga T, Aoki Y, Murayama S. Postoperative radiotherapy for uterine cervical cancer: impact of lymph node and histological type on survival. American Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ASTRO). 2012, Boston, USA.
Ariga T, Toita T, Niibe Y, Kazumoto T, Kodaira T, Eto H, Suzuki O, Kinoshita R, Tsujino K, Takemoto M, Hayakawa K. Outcomes of young patients (age younger than 40) with cervical cancer treated with (chemo) radiotherapy: A Japanese multi-institutional study. 2012 American Society of Cancer Annual Meeting. 2012, Chicago, USA.
Kasuya G, Toita T, Ariga T, Kakinohana Y, Murayama S. Factors predicting high D2cc values in organs at risk in patients with cervical cancer treated with image-guided brachytherapy. American Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ASTRO). 2013, Atlanta, USA.
Wakayama A, Inamine M, Kudaka W, Nagai Y, Nakamoto T, Ooyama T, Ariga T, Kasuya G, Toita T, Aoki Y. Concurrent Chemoradiotherapy for Non-bulky Stage IB/II Cervical Cancer Without Pelvic Node Enlargement. Anticancer Res 33: 5123-6, 2013.
Kakinohana Y, Toita T, Ariga T, Kasuya G: Fractal analysis for assessing IMRT modulation complexity. 55th Annual Meeting & Exhibition, Indiana, USA. 2013.
Toita T, Kusada T, Kasuya G, Ariga T, Shiina S, Hashimoto S, Maemoto H, Kakinohana Y, Murayama S. Predictive factors for high D2cc of the organs at risk in image-guided brachytherapy for cervical cancer. ESTRO 33, Vienna, Austria. 2014.
Ariga T, Toita T, Kasuya G, Heianna J, Hashimoto S, Shiina H, Maemoto H, Kusada T, Kakinohana Y, Murayama S. Whole pelvic radiotherapy for intermediate and high risk prostate cancer patients; single institutional prospective experiences. 15th International Congress of Radiation Research. Kyoto, Japan. 2015.
Heianna J, Toita T, Endo W, Kasuya G, Ariga T, Hashimoto S, Maemoto H, Terui K, Miura N, Togashi A, Miyauchi T, Murayama S. Concurrent use of strontium-89 with external beam radiotherapy for multiple bone metastases: early experience. Ann Nucl Med 29: 848-53, 2015.
Maemoto H, Toita T, Ariga T, Kakinohana Y, Hashimoto S, Heianna J, Murayama S : Predictive Factors for Inter-Fraction Uterine Motion in Definitive Radiotherapy for Cervical Cancer. ESTRO 35,Italy, 2016.
Maemoto H, Toita T, Ariga T, Heianna J, Yamashiro T, Murayama S : Predictive factors of uterine movement during definitive radiotherapy for cervical cancer. Journal of Radiation Research, 2016.

(2) 国内学会・和文雑誌での論文発表

粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、村山貞之：子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射の初期導入経験 第71回日本医学放射線学会総会、横浜、2012
有賀拓郎、戸板孝文、粕谷吾朗、垣花泰政、仲宗根定芳、宜保成洋、源河克之、村山貞之：子宮頸癌根治的放射線治療の全骨盤照射におけるIMRTと4門照射のDVHパラメータ比較 日本放射線腫瘍学会第25回学術大会、東京、2012
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、アルマスリフセイン、村山貞之：子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射実施に向けたOAR線量に関する検討 日本放射線腫瘍学会第25回学術大会、東京、2012
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、アルマスリフセイン、村山貞之：子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射実施に向けた2D・3D計画の治療パラメータ整合性の検証 日本放射線腫瘍学会小線源治療部会第14回研究会、軽井沢、2012
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、村山貞之：琉球大学附属病院における、前立腺癌に対するリニアック（直線加速器）を用いた強度変調放射線治療(Intensity modulated radiotherapy: IMRT)の品質保証に関する検討 第115回沖縄県医師会医学会総会、南風原、2012
戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗、椎名秀樹、垣花泰政、村山貞之、伊良波史朗、足立源樹、玉城稚奈：沖縄県における放射線治療の地域連携 第24回九州放射線治療セミナー、福岡、2012
有賀拓郎、戸板孝文、粕谷吾朗、椎名秀樹、垣花泰政、村山貞之：子宮頸癌IMRT準備経過報告 九州放射線治療セミナー、福岡、2012
垣花泰政、戸板孝文、粕谷吾朗、有賀拓郎、村山貞之：高線量率腔内治療計画装置の計算線量比較 第104回日本医学物理学会学術大会、つくば、2012
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、村山貞之 子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射におけるタンデムアプリケーションの変位に対する線量パラメータ比較 第72回日本医学放射線学会、横浜、2013
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、アルマスリフセイン、村山貞之 子宮頸癌腔内照射におけるアプリケーション軸設定の固定化に向けた検討 第49回日本医学放射線学会秋季臨床大会、名古屋、2013
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、村山貞之 閉経期の子宮頸癌患者に対するエストロゲン（エストラジオール）製剤の効果 日本放射線腫瘍学会第26回学術大会、弘前、2013

(2) 国内学会・和文雑誌での論文発表(つづき)

前本均、有賀拓郎、戸板孝文、粕谷吾朗、垣花泰政、平安名常一、長井裕、稲嶺盛彦、久高亘、青木陽一、村山貞之 子宮頸腺癌に対する同時化学放射線療法の治療成績 日本放射線腫瘍学会第26回学術大会、弘前、2013
前本均、土屋奈々絵、伊良波裕子、村山貞之。稲嶺盛彦、松本裕文 卵管捻転を来した female adnexal tumor of probable Wolffian organ (FATPWO) の1症例 第177回日本医学放射線学会九州地方会、長崎、2013
有賀拓郎、草田武朗、粕谷吾朗、平安名常一、垣花泰政、戸板孝文、村山貞之：当院における T4食道癌の放射線治療成績 第25回九州放射線治療セミナー、福岡、2013
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、村山貞之：緩和的放射線治療法の決定に難渋した子宮腺肉腫の一例 第25回九州放射線治療セミナー、福岡、2013
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、村山貞之：室外 CT の移動時の工夫 マイクロセレクトロン HDR 研究会、東京、2013
垣花泰政、戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗：フラクタル次元を用いた IMRT 変調度指標の検討 第26回日本高精度放射線外部照射研究会、京都、2013
ALMasri H, Kakinohana Y, Toita T, Ariga T, Kasuya G, Murayama S. Inter- and Intra-operator comparison for CT/MR applicator reconstruction. 第106回日本医学物理学会学術大会、大阪、2013
Kakinohana Y, Toita T, Kasuya G, Ariga T, Genga K, Gibo S, Nakasone S, Minemura T, Fukuda K. Effectiveness of on-site IMRT measurements by a third party organization: An important role of third party evaluation. 第105回日本医学物理学会学術大会、横浜、2013
垣花泰政、戸板孝文、粕谷吾朗、有賀拓郎、船生明：第三者訪問問測定の有用性：琉球大学の経験 日本放射線腫瘍学会第26回学術大会、弘前、2013
粕谷吾朗、戸板孝文、有賀拓郎、垣花泰政、アルマサリフセイン、村山貞之：子宮頸癌に対する画像誘導腔内照射における、OAR が高線量となる指標の検討 JASTRO 小線源治療部会第15回学術大会、福岡、2013
有賀拓郎、戸板孝文、粕谷吾朗、長井裕、稲嶺盛彦、久高亘、垣花泰政、青木陽一、村山貞之：子宮頸癌の根治的放射線治療における骨盤リンパ節転移に対する boost 照射の検討 ワークショップ(1)子宮頸癌放射線治療の新展開 第54回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、東京、2013
棚原陽子、多和田慎子、伊波華：病棟看護師による除痛率調査継続の効果「一年半の取り組みの成果と今後の課題」 第27回日本がん看護学会学術集会、石川、2013
戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗、垣花泰政、村山貞之：子宮頸癌の放射線治療—放射線治療計画ガイドライン 産科と婦人科 80: 1336-1341、2013
戸板孝文、粕谷吾朗、有賀拓郎、平安名常一、垣花泰政、村山貞之：子宮頸癌の画像誘導小線源治療 画像情報メディカル 45: 834-838、2013
戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗、垣花泰政、村山貞之：早期子宮頸癌に対する放射線治療の位置づけ：エビデンスを踏まえて 産婦人科の実際 62: 911-916、2013
戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗、垣花泰政、村山貞之：子宮頸癌 特集：コンツェリングを学ぼう 臨床放射線 58: 1841-1847、2013
草田武朗、粕谷吾朗、有賀拓郎、前本均、橋本成司、椎名秀樹、垣花泰政、平安名常一、戸板孝文、村山貞之：Factors affecting the D2cc for organs at risk in patients with cervical cancer treated with CT-based image-guided intracavitary brachytherapy、第73回日本医学放射線学会総会、横浜、2014
草田武朗、粕谷吾朗、前本均、橋本成司、椎名秀樹、有賀拓郎、垣花泰政、平安名常一、戸板孝文、村山貞之：子宮頸癌根治的放射線治療時のリスク臓器の中央遮蔽内/外それぞれにおける D2cc の検討、日本放射線腫瘍学会第27回学術大会、横浜、2014
戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗、平安名常一、垣花泰政、椎名秀樹、橋本成司、前本均、村山貞之：子宮頸癌放射線治療を対象とした臨床試験 産婦人科の実際 63: 2089-2095、2014
戸板孝文、足立源樹、伊良波史朗、玉城雅奈、平安名常一、河島光彦、垣花泰政、有賀拓郎、粕谷吾朗、真鍋良彦、橋本成司、椎名秀樹、前本均、草田武朗、岡田真広、千葉至、大城康二、宜保昌樹、村山貞之：沖縄県における放射線治療の実態調査：平成26年度沖縄県医療基盤活用型クラスター形成支援事業 第119回沖縄県医師会医学会総会 南風原町、2015
有賀拓郎、戸板孝文、粕谷吾朗、平安名常一、橋本成司、前本均、垣花泰政、村山貞之：琉球大学医学部附属病院における肺癌定位放射線治療 (SRT) の初期経験 第119回沖縄県医師会医学会総会 沖縄、2015
橋本成司、戸板孝文、平安名常一、有賀拓郎、粕谷吾朗、椎名秀樹、前本均、草田武朗、垣花泰政、佐村博範、村山貞之：直腸癌に対する強度変調放射線治療 (IMRT) の初期経験 第119回沖縄県医師会医学会総会 沖縄、2015
平安名常一、安座間喜明、伊良波裕子、木下亮、伊良波朝敬、橋本成司、有賀拓郎、前本均、戸板孝文、村山貞之：進行・再発子宮頸癌の骨盤内・外病変に対する動注化学塞栓術の検討 第51回日本医学放射線学会秋季臨床大会 2015

Kinjyo M, Funyu A, Kakinohana Y, Gibo S, Genka K, Miyazato T, Kiyuuna I, Nakasone S, Toita T, Murayama S. Retrospective analysis of patient-specific IMRT Quality assurance. 第110回日本医学物理学学会学術大会、札幌、2015
橋本成司、戸板孝文、平安名常一、有賀拓郎、粕谷吾朗、椎名秀樹、前本均、草田武朗、垣花泰政、村山貞之：当院における上咽頭癌の放射線治療成績 日本放射線腫瘍学会第28回学術大会 群馬、2015
平安名常一、戸板孝文、千葉至、有賀拓郎、橋本成司、前本均、村山貞之、宮良球一郎、有銘一郎、蔵下要：乳癌多発骨転移症例に対しメタストロン投与が効果的であった2例 (SUPER RESPONDER) 第29回沖縄県乳癌研究会 2015
多和田慎子、伊波華、砂川洋子、照屋典子：緩和ケアセンター活動報告—がん患者の苦痛のスクリーニングと外来支援についての実態調査— 日本看護研究学会第20回九州・沖縄地方会学術集会 2015
戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗、橋本成司、前本均、平安名常一、垣花泰政、村山貞之：子宮頸癌に対する化学放射線療法の現状と今後の展望 癌と化学療法 42: 1156-1161、2015
戸板孝文、有賀拓郎、粕谷吾朗、橋本成司、前本均、平安名常一、垣花泰政、村山貞之：腹部骨盤内臓器の有害事象 特に子宮癌術後照射について 臨床放射線 60: 1225-1230、2015
戸板孝文、足立源樹、伊良波史朗、玉城稚奈、平安名常一、河島光彦、垣花泰政、有賀拓郎、粕谷吾朗、真鍋良彦、橋本成司、椎名秀樹、前本均、草田武朗、岡田真広、千葉至、大城康二、宜保昌樹、村山貞之：沖縄県における放射線治療の実態調査 沖縄医学会雑誌 54: 4-7、2015
平安名常一、戸板孝文、有賀拓郎、橋本成司、前本均、村山貞之：婦人科がん診療を支えるトータルマネジメント—各領域のエキスパートに聞く「他臓器転移への対策」骨転移 臨床婦人科産科 69: 1185-91、2015
石川和樹、有賀拓郎、戸板孝文、平安名常一、前本均、垣花泰政、村山貞之：琉球大学医学部附属病院における肺癌定位放射線治療 (SBRT) の初期治療成績 第122回沖縄県医師会医学会総会 沖縄、2016
Maemoto H, Toita T, Ariga T, Kakinohana Y, Hashimoto S, Heianna J, Yamashiro J, Murayama S : Quantification of Uterine Motion During a Course of Definitive Radiotherapy. 第75回日本医学放射線学会総会、横浜、2016
前本均、草田武朗、有賀拓郎、垣花泰政、平安名常一、戸板孝文、村山貞之、木村隆、仲西昌太郎、宮里実：高齢者の浸潤性膀胱癌に対して放射線治療を行った一例 第122回沖縄県医学会総会、沖縄、2016
草田武朗、有賀拓郎、戸板孝文、平安名常一、前本均、橋本成司、垣花泰政、村山貞之：上咽頭癌に対する IMRT を用いた CCRT の初期経験 日本放射線腫瘍学会第29回学術大会、京都、2016

教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施

- 平成24年度 熊本大学への出張講義（医学物理プログラム）を行った。
- 平成25年度 九州がんプロ全体研修会へ教員1名が参加した。
- 平成26年度 九州がんプロ全体研修会へ教員1名が参加した。
- 平成27年度 九州がんプロ全体研修会へ教員1名が参加した。
- 平成28年度 九州がんプロ全体研修会へ教員1名が参加した。

地域医療機関との合同のセミナーの取り組み

- 平成24年度 医学物理講演会（4回）、看護セミナー（5回）を開催した。市民公開講座（がん粒子線治療とは）を開催した。
- 平成25年度 医学物理講演会（3回）、がん看護セミナー（3回）を開催した。
- 平成26年度 がん看護セミナー（3回）を開催した。放射線治療の副作用に関するセミナー（1回）を開催した。
- 平成27年度 放射線治療に関するセミナー・研修会・WSを開催した（肺がんの高精度放射線治療に関するもの、前立腺癌のIMRTに関する実計画装置を用いたもの、放射線治療看護について皮膚ケアの実習、高精度放射線治療のQA/QC）。
- 平成28年度 放射線治療に関するセミナー・研修会・WSを開催した（肺がんの集学的治療に関するもの、前立腺がん放射線治療に関する市民公開講座、緩和的放射線治療）。

総括

博士・修士課程コースは5コース設置されたうち3コースで大学院生が入学し4名が学位を取得し、設置されたインテンシブコース2コースの履修生（計39名）にコース修了証が授与された。放射線治療専門医を2名が取得し、1名は大学教員として放射線腫瘍医の教育に従事し、1名は研究施設（放射線医学総合研究所）に勤務している。また、がん看護専門看護師を1名が取得し、がん薬物療法認定薬剤師を7名が取得した。今後がんプロ修了生ががん診療拠点病院などで指導的・管理的な立場でリーダーシップを発揮していくことが期待される。

大学間交流として、九州大学と連携し放射線治療に関する大学間連携教育プログラムを構築し、各年度2名ずつ計8名の大学院生を相互の大学で短期研修を実施した。それぞれの大学で強みをもつ分野についての補完的な研修を実施でき、加えて相互の教室の教員及び学生の交流を推進する効果があった。

九州がんプロ全体研修会に学生と教員が毎年参加し、泊まり込みで各大学の教員と学生とともに、症例検討とWSを通じて意見交換を行った。本学からは主に放射線腫瘍専門医要請プログラムの学生・教員が参加したが、他大学の腫瘍内科医や外科腫瘍医、薬剤師、看護師らとのディスカッションを通じて、集学的治療体系における放射線治療の位置付けを自覚し整理させることができた。学生教育のみならず教員のファカルティディベロップメントとしても極めて有効であった。

問題点として、配分予算が十分に獲得できず多くの活動で他予算からの支出を必要とした。コーディネータが別途獲得した研究予算（県事業予算、科学研究費等）を充て、さらに病院がんセンターの共催を得て、多くのセミナーや講習会、市民講演会をようやく実施できた。教員はもちろん事務職員の雇用予算もがんプロ事業から支出できず多く他予算の持ち出しで運営せざるを得なかったことは、今後本学からの本事業への参加に関して検討を必要とする大きな課題と考えられた。

巻末：参考データ

目 次

- ・「九州がんプロ養成基盤推進プラン」コース受入実績（H29.1.1現在）
- ・「九州がんプロ養成基盤推進プラン」インテンシブコース受入実績（H29.1.1現在）
- ・「九州がんプロ養成基盤推進プラン」がんに関する専門資格の取得者数（H29.1.1現在）
- ・平成28年度がんプロ事業成果調査データ（H28.4.1現在）
- ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標
- ・九州がんプロ養成基盤推進プランにおける実施体制（委員会・会議）について
- ・コース担当者名簿（H29.1.1現在）
- ・eラーニング運営委員会委員名簿（H29.1.1現在）
- ・事業継続のための検討委員会委員名簿（H29.1.1現在）

「九州がんプロ養成基盤推進プラン」コース受入実績（H29.1.1現在）

コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	養成する専門分野	入学 開始時期	入学者数等					
				募集人員					
				計	H24	H25	H26	H27	H28
計				323	7	72	80	82	82
九州大学	大学院医学系学府医学専攻	高度先端臨床腫瘍学コース	臨床腫瘍学	H25.04	28	7	7	7	7
		高度先端がん放射線治療医師養成コース	放射線治療医		8	2	2	2	2
	大学院医学系学府保健学専攻	医学物理士養成コース博士後期課程	医学物理学		4	1	1	1	1
		がん専門臨床検査技師コース博士後期課程	病理細胞学		4	1	1	1	1
		がん看護研究者養成コース博士後期課程	がん看護研究分野		8	2	2	2	2
大学院薬学府臨床薬学専攻	がん研究薬剤師コース博士課程	がん研究薬剤師	H24.04	10	2	2	2	2	
久留米大学	大学院医学研究科個別最適医療系専攻	博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット ①「化学薬物療法専門医養成コース」、②「放射線療法専門医養成コース」、③「緩和医療専門医養成コース」	① がん薬物治療、 ② 放射線治療、 ③ 緩和医療	H25.04	12	3	3	3	3
		修士課程看護学専攻「専門職養成コースがん看護分野 CNS 養成」	がん看護専門看護師		8	2	2	2	2
産業医科大学	大学院医学研究科医学専攻	臨床腫瘍医養成コース	臨床腫瘍医	H25.04	8	2	2	2	2
		放射線腫瘍医養成コース	放射線腫瘍医		4	1	1	1	1
福岡大学	大学院医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻	がん専門医療人指導者コース	臨床腫瘍医学	H25.04	8	2	2	2	2
		地域がん医療専門医療人養成コース	臨床腫瘍医学		8	2	2	2	2
福岡県立大学	大学院看護学研究科看護学専攻	地域がん看護人材養成コース	がん看護専門看護師	H24.04	15	3	3	3	3
佐賀大学	大学院医学系研究科医科学専攻	がん地域診療医師養成特別コース	臨床腫瘍医、緩和ケア医	H25.04	4	1	1	1	1
		がん地域医療人養成コース	がん医療に特化した各職種		8	2	2	2	2
長崎大学	大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻 新興感染症病態制御学系専攻 放射線医療科学専攻	がん専門医師・薬剤師養成コース	がん専門医師・薬剤師	H25.04	14	4	4	3	3
		がん地域貢献医師・薬剤師養成コース	がん地域貢献医師・薬剤師		18	4	4	5	5
	大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻	がん専門看護師養成コース	がん専門看護師		4	1	1	1	1
		がん地域貢献看護師養成コース	がん地域貢献看護師		4	1	1	1	1
熊本大学	大学院医学教育部医学専攻	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	がん薬物治療、がん外科治療	H25.04	35	5	10	10	10
		がん看護専門看護師コース	がん看護研究分野		8	2	2	2	2
	大学院保健学教育部保健学専攻	医学物理士養成コース博士前期課程	医学物理学		8	2	2	2	2
大分大学	大学院医学系研究科看護学専攻	地域貢献がん看護専門看護師コース	がん看護専門看護師	H25.04	8	2	2	2	2
		地域貢献がん専門医療人養成コース	医師、看護師、薬剤師 他		12	3	3	3	3
宮崎大学	大学院医学獣医学総合研究科医学獣医学専攻	地域がん治療専門医育成コース	がん治療医	H25.04	8	2	2	2	2
		大学院医科学看護学研究科看護学専攻※	地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース	がん看護専門看護師	H24.10	10	2	2	2
鹿児島大学	大学院医歯学総合研究科健康科学専攻 先進治療科学専攻	僻地・離島医療専門医療人養成コース	がん臨床医	H25.04	11	2	3	3	3
琉球大学	大学院医学研究科医科学専攻	腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム	ペインクリニック専門医、緩和ケア専門医	H25.04	13	2	3	4	4
		放射線腫瘍専門医養成プログラム	放射線治療医		13	2	3	4	4
		がん薬物療法専門医プログラム	腫瘍内科医		4	1	1	1	1
		医学物理学プログラム	医学物理士、放射線治療品質管理士		8	2	2	2	2
大学院保健学研究科保健学専攻	がん看護専門看護師養成プログラム	がん看護専門看護師		8	2	2	2	2	

※大学院看護学研究科看護学専攻（H26～）

入学者数等												修了者数									
受入目標人数						受入実績 (※旧がんプロからの移行者除く)						合計		H24		H25		H26		H27	
計	H24	H25	H26	H27	H28	計	H24	H25	H26	H27	H28	計	うち旧がんプロ移行者数	修了者数	うち旧がんプロ移行者数	修了者数	うち旧がんプロ移行者数	修了者数	うち旧がんプロ移行者数	修了者数	うち旧がんプロ移行者数
296	6	62	72	78	78	293	4	72	70	71	76	105	77	0	0	23	22	45	31	37	24
28		7	7	7	7	56		14	15	12	15	44	44			11	11	19	19	14	14
6		1	1	2	2	2		1	0	1	0	1	1			0	0	1	1	0	0
4		1	1	1	1	9		1	3	3	2	0	0			0	0	0	0	0	0
4		1	1	1	1	1		0	1	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
8		2	2	2	2	3		2	1	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
10	2	2	2	2	2	7	2	2	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
12		3	3	3	3	2		0	2	0	0	2	2			1	1	1	1	0	0
8		2	2	2	2	5		0	0	1	4	2	2			2	2	0	0	0	0
8		2	2	2	2	5		1	0	1	3	0	0			0	0	0	0	0	0
4		1	1	1	1	1		1	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
8		2	2	2	2	6		3	2	1	0	0	0			0	0	0	0	0	0
8		2	2	2	2	0		0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
10	2	2	2	2	2	4	2	1	0	1	0	3	0	0	0	1	0	1	0	1	0
4		1	1	1	1	3		1	0	2	0	0	0			0	0	0	0	0	0
8		2	2	2	2	0		0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
12		3	3	3	3	23		8	5	9	1	0	0			0	0	0	0	0	0
16		3	3	5	5	18		7	4	1	6	1	1			0	0	1	1	0	0
4		1	1	1	1	2		2	0	0	0	2	0			0	0	2	0	0	0
4		1	1	1	1	1		0	0	1	0	0	0			0	0	0	0	0	0
35		5	10	10	10	32		0	15	9	8	5	5			0	0	0	0	5	5
8		2	2	2	2	3		0	1	1	1	0	0			0	0	0	0	0	0
8		2	2	2	2	31		8	8	6	9	13	0			0	0	6	0	7	0
8		2	2	2	2	5		1	1	1	2	2	1			1	1	1	0	0	0
8		2	2	2	2	47		11	4	16	16	21	21			7	7	9	9	5	5
6		1	1	2	2	1		0	0	0	1	0	0			0	0	0	0	0	0
10	2	2	2	2	2	9	0	4	1	2	2	5	0	0	0	0	0	4	0	1	0
11		2	3	3	3	11		3	3	2	3	0	0			0	0	0	0	0	0
12		1	3	4	4	0		0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
12		1	3	4	4	3		1	1	0	1	0	0			0	0	0	0	0	0
4		1	1	1	1	0		0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
4		1	1	1	1	2		0	1	0	1	1	0			0	0	0	0	1	0
4		1	1	1	1	1		0	1	0	0	1	0			0	0	0	0	1	0

「九州がんプロ養成基盤推進プラン」 インテンシブコース受入実績 (H29.1.1現在)

コースを開設している大学名	コース名	期間 (時間数等)	養成する専門分野	入学 開始時期	入学者数 (受入実績)			
					合計		H24	
					計	うち旧 がんプロ 移行 者数	入学 者数	うち旧 がんプロ 移行 者数
計					928	2	201	2
久留米大学大学院	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット ①「化学薬物療法専門医養成コース」、②「放射線療法専門医養成コース」、③「緩和医療専門医養成コース」	1年	①がん薬物治療、 ②放射線治療、 ③緩和医療	H25.04	0	0		
	修士課程「科目等履修制度」	1年	がん看護専門看護師		1	0		
福岡大学大学院	がん医療専門職業人コース	6カ月	がん医療	H24.10	605	0	108	0
	がん医療専門医コース	3カ月～1年	がん専門医	H25.01	2	0	0	0
佐賀大学大学院	がん地域診療医師養成特別コース	1年以上	臨床腫瘍医、緩和ケア医	H24.10	1	0	1	0
	がん地域医療人養成コース	6カ月以上	がん医療に特化した各職種		1	0	1	0
大分大学大学院	地域がん医療専門医療人養成コース	2年	看護師・医師・薬剤師他	H24.09	58	0	27	0
	多職種連携教育コース	2年	医師・看護師・薬剤師他		19	2	6	2
	がん研究者養成コース	4年			3	0	3	0
宮崎大学大学院	地域がん総合治療医育成コース	1年	がん臨床医	H24.09	60	0	15	0
	成人T細胞白血病専門医療人養成コース	1年	がん臨床医	H24.10	7	0	0	0
鹿児島大学大学院	がん専門薬剤師養成コース	6カ月	臨床薬剤師	H24.11	51	0	9	0
	消化器がん集学的治療専門医療人養成コース	2カ月	がん臨床医	H25.01	69	0	21	0
	緩和ケア専門医療人養成コース	3カ月	緩和医療		6	0	2	0
	成人T細胞白血病専門医療人養成コース	5カ月	がん臨床医	H24.11	6	0	2	0
琉球大学大学院	地域がん専門薬剤師養成コース	9カ月	がん治療、緩和医療薬剤師	H24.04	3	0	1	0
	がん看護エキスパートナース養成コース	1年	がん看護エキスパートナース	H24.10	36	0	5	0

入学者数（受入実績）								修了者数									
H25		H26		H27		H28		合計		H24		H25		H26		H27	
入学者数	うち旧がんプロ移行者数	入学者数	うち旧がんプロ移行者数	入学者数	うち旧がんプロ移行者数	入学者数	うち旧がんプロ移行者数	計	うち旧がんプロ移行者数	修了者数	うち旧がんプロ移行者数	修了者数	うち旧がんプロ移行者数	修了者数	うち旧がんプロ移行者数	修了者数	うち旧がんプロ移行者数
393	0	118	0	114	0	102	0	706	0	137	0	363	0	121	0	85	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	1	0			1	0	0	0	0	0
333	0	53	0	53	0	58	0	515	0	100	0	316	0	51	0	48	0
1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
2	0	14	0	15	0	0	0	29	0	0	0	0	0	27	0	2	0
4	0	6	0	2	0	1	0	16	0	0	0	0	0	6	0	10	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	11	0	15	0	13	0	5	0	0	0	0	0	3	0	2	0
1	0	2	0	2	0	2	0	4	0	0	0	0	0	2	0	2	0
12	0	10	0	11	0	9	0	42	0	9	0	12	0	10	0	11	0
24	0	10	0	4	0	10	0	50	0	18	0	22	0	10	0	0	0
2	0	1	0	1	0	0	0	6	0	2	0	2	0	1	0	1	0
1	0	1	0	2	0	0	0	4	0	2	0	1	0	1	0	0	0
0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	2	0
6	0	9	0	7	0	9	0	27	0	5	0	6	0	9	0	7	0

「九州がんプロ養成基盤推進プラン」 がんに関する専門資格の取得者数（H29.1.1現在）

コースを開設している大学・研究科・専攻名		コース名	資格名（認定学会等名）	H24			
				受験者数	うち旧が んプロ移 行者数	合格者数	うち旧が んプロ移 行者数
計			1	0	1	0	
九州大学	大学院医学系学府医学専攻	高度先端臨床腫瘍学コース	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会） がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	/	/	/	/
		高度先端がん放射線治療医師養成コース	日本放射線腫瘍学会認定医（日本放射線腫瘍学会）	/	/	/	/
	大学院医学系学府保健学専攻	医学物理士養成コース博士後期課程		/	/	/	/
		がん専門臨床検査技師コース博士後期課程		/	/	/	/
		がん看護研究者養成コース博士後期課程		/	/	/	/
大学院薬学府臨床薬学専攻	がん研究薬剤師コース博士課程		0	0	0	0	
久留米大学	大学院医学研究科個別最適医療系専攻	博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット ①「化学薬物療法専門医養成コース」、②「放射線療法専門医養成コース」、③「緩和医療専門医養成コース」	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）	/	/	/	/
	大学院医学研究科医科学専攻	修士課程看護学専攻「専門職養成コースがん看護分野CNS養成」	がん看護専門看護師（公益社団法人日本看護協会）	/	/	/	/
産業医科大学	大学院医学研究科医学専攻	臨床腫瘍医養成コース	外科専門医（日本外科学会）	/	/	/	/
		放射線腫瘍医養成コース		/	/	/	/
福岡大学	大学院医学研究科先端医療科学系臨床腫瘍学専攻	がん専門医療人指導者コース	婦人科腫瘍専門医（日本婦人科腫瘍学会） がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	/	/	/	/
		地域がん医療専門医療人養成コース		/	/	/	/
福岡県立大学	大学院看護学研究科看護学専攻	地域がん看護人材養成コース	がん看護専門看護師（公益社団法人日本看護学会）	0	0	0	0
佐賀大学	大学院医学系研究科医科学専攻	がん地域診療医師養成特別コース	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）	/	/	/	/
		がん地域医療人養成コース		/	/	/	/
長崎大学	大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻 新興感染症病態制御学系専攻 放射線医療科学専攻	がん専門医師・薬剤師養成コース	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構） 乳腺認定医（日本乳癌学会） がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	/	/	/	/
		がん地域貢献医師・薬剤師養成コース	消化器がん外科治療認定医（日本消化器外科学会）	/	/	/	/
	大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻	がん専門看護師養成コース	がん看護専門看護師（日本看護協会）	/	/	/	/
		がん地域貢献看護師養成コース		/	/	/	/
熊本大学	大学院医学教育部医学専攻	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	外科専門医（日本外科学会） がん治療認定医（日本がん治療認定医機構） 消化器外科専門医（日本消化器外科学会）	/	/	/	/
	大学院保健学教育部保健学専攻	がん看護専門看護師コース 医学物理士養成コース博士前期課程		/	/	/	/
大分大学	大学院医学系研究科看護学専攻	地域貢献がん看護専門看護師コース	がん看護専門看護師（公益社団法人日本看護協会）	/	/	/	/
		地域貢献がん専門医療人養成コース	消化器外科専門医（日本消化器外科学会）	/	/	/	/
			消化器がん外科治療認定医（日本消化器外科学会）	/	/	/	/
			がん治療認定医（日本がん治療認定医機構） 泌尿器科専門医（日本泌尿器科学会） 細胞診専門医（日本臨床細胞学会） 消化器内視鏡指導医（日本消化器内視鏡学会）	/	/	/	/
宮崎大学	大学院医学獣医学総合研究科医学獣医学専攻	地域がん治療専門医育成コース		/	/	/	/
	大学院医科学看護学研究科看護学専攻	地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース	がん看護専門看護師（公益社団法人日本看護協会）	1	0	1	0
鹿児島大学	大学院医歯学総合研究科健康科学専攻 先進治療科学専攻	僻地・離島医療専門医療人養成コース	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	/	/	/	/
			外科専門医（日本外科学会）	/	/	/	/
琉球大学	大学院医学研究科医科学専攻	腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム		/	/	/	/
		放射線腫瘍専門医養成プログラム		/	/	/	/
		がん薬物療法専門医プログラム		/	/	/	/
		医学物理学プログラム		/	/	/	/
大学院保健学研究科保健学専攻	がん看護専門看護師養成プログラム		/	/	/	/	

		受験・合格・資格取得者数																	
		H25						H26						H27					
資格取得者数	うち旧が んプロ移 行者数	受験 者数	うち旧が んプロ移 行者数	合格 者数	うち旧が んプロ移 行者数	資格取得 者数	うち旧が んプロ移 行者数	受験 者数	うち旧が んプロ移 行者数	合格 者数	うち旧が んプロ移 行者数	資格取得 者数	うち旧が んプロ移 行者数	受験 者数	うち旧が んプロ移 行者数	合格 者数	うち旧が んプロ移 行者数	資格取得 者数	うち旧が んプロ移 行者数
1	0	14	6	13	5	13	7	15	9	15	9	18	9	32	7	30	6	24	6
		2	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	3	3	2	2	2	2
		1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
		2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	3	2	3	2	7	2	6	0	6	0	5	0
		0	0	0	0	0	0	5	2	5	2	3	2	4	0	3	0	1	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0
		1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1
		1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	3	0	3	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成28年度がんプロ事業成果調査データ（平成28年4月1日現在）

※平成28年10月26日付け 全国がんプロ協議会からの調査依頼に基づき作成した内容。

○定量評価

※分類：①「放射線療法」、②「化学療法」、③「緩和ケア」、④「その他」

※「新たに」の定義は、本事業開始後に発展的に改変・拡充したものも含まれる。

事項	大学名	名称	分類	目的	24年度	25年度	26年度	27年度
新たに導入したがんに関する医療チーム	久留米大学	緩和ケアチーム	③	緩和ケアの推進	○	○	○	○
	産業医科大学	緩和ケアセンター	③	緩和ケアの提供体制の充実			○	○
	産業医科大学	がん相談支援センター	④	がん相談への支援（名称変更）			○	○
	産業医科大学	レジメン検討委員会	②	レジメンの承認・管理（規程の見直し・名称変更）		○	○	○
	福岡大学	造血器診断チーム	④	診断の困難な症例の検討（月2～3回）	○	○	○	○
	佐賀大学	がんリハビリテーション	④	がんリハビリテーションにおける専任リハ医、理学療法士、作業療法士によるリハビリ対応と関係者間のカンファレンス開催			○	○
	長崎大学	口腔ケアチーム	④	周術期、放射線治療前からの口腔ケア	○	○	○	○
	大分大学	緩和ケアチーム	③	多職種によるがん緩和ケアの実践	○	○	○	○
	宮崎大学	緩和ケアチーム	③	・身体症状および精神症状の緩和 ・院内教育 ・地域との連携 ・栄養指導 ・薬物内服指導	○	○	○	○
	宮崎大学	造血幹細胞移植チーム	②	・造血幹細胞移植患者に関する治療・看護、栄養指導を行う。			○	○
	鹿児島大学	外来化学療法カンファレンスチーム	②	外来化学療法の症例検討と講義	○	○	○	○
	鹿児島大学	化学療法レジメン審査	②	新たな化学療法の導入時に審査を行う。		○	○	○
	琉球大学	肺癌カンファレンス	①	肺癌患者の放射線治療適応を検討			○	○
	琉球大学	緩和ケアチーム	③	患者、家族のあらゆる苦痛の緩和、QOL向上を目的に毎週カンファを実施	○	○	○	○
	九州大学	チームICI	②	ICI(免疫チェックポイント阻害剤)の使用に関し、職種横断的なチーム医療を実施する体制を構築				○
九州大学	口腔がん診療チーム	②	口腔外科と腫瘍内科の連携によって口腔外科領域がんの化学療法を実施する体制				○	

事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
がんセンターボードの実施数	九州大学	201	184	180	97	229
	久留米大学	91	131	129	203	432
	産業医科大学	なし	163	190	122	206
	福岡大学	34	43	43	24	42
	佐賀大学	14	15	12	6	16
	長崎大学	11	12	11	9	12
	大分大学	371	371	371	371	330
	熊本大学	366	384	528	294	510
	宮崎大学	126	123	174	90	136
	鹿児島大学	0	5	11	6	11
	琉球大学	1	7	6	7	6
計		1,215	1,438	1,655	1,229	1,930

事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
院内がん患者登録数	九州大学	3,374	3,494	3,831	3,839	3,958
	久留米大学	2,918	2,984	2,688	2,793	3,138
	産業医科大学	1,772	1,806	1,908	1,880	1,993
	福岡大学	1,794	1,800	1,920	1,947	2,000
	佐賀大学	1,561	1,217	1,897	1,912	1,743
	長崎大学	2,467	2,880	2,160	2,975	2,667
	熊本大学	2,548	3,540	2,214	2,013	3,930
	大分大学	1,604	1,328	1,858	1,604	1,556
	宮崎大学	1,362	1,361	1,602	1,707	1,707
	鹿児島大学	2,124	2,101	2,171	2,117	2,045
	琉球大学	1,135	1,056	1,250	なし	1,516
計		22,659	23,567	23,499	22,787	26,253
地域がん患者登録数	九州大学	2,947	2,883	2,941	3,207	3,198
	久留米大学	2,936	2,394	2,078	2,619	2,840
	産業医科大学	1,729	1,729	1,797	1,865	1,850
	福岡大学	1,426	1,733	1,734	1,767	1,833
	佐賀大学	1,463	1,722	1,305	780	1,159
	長崎大学	2,467	2,880	2,160	2,975	2,667
	熊本大学	2,556	2,824	2,735	1,232	3,703
	大分大学	1,604	1,328	1,858	1,604	1,556
	宮崎大学	0	0	1,602	1,707	1,707
	鹿児島大学	2,033	2,022	2,079	2,023	1,943
	琉球大学	1,095	1,115	1,050	なし	なし
計		20,256	20,630	21,339	19,779	22,456

事項	大学名	24年度		25年度		26年度		27年度	
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数
各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	九州大学	1	38	3	440	1	155	1	94
	産業医科大学	0	0	0	0	1	24	1	76
	福岡大学	0	0	8	462	7	680	7	616
	福岡県立大学	0	0	0	0	1	124	1	35
	佐賀大学	0	0	1	40	1	104	5	380
	長崎大学	1	250	1	350	1	148	1	373
	熊本大学	1	200	2	230	2	550	1	175
	大分大学	3	140	3	140	9	740	7	400
	宮崎大学	1	43	3	85	3	60	2	171
	鹿児島大学	1	90	1	100	0	0	1	100
	琉球大学	0	0	0	0	1	24	1	68
計		8	761	22	1,847	27	2,609	28	2,488
各年度中における各種団体(※)との連携事業	九州大学	0	0	0	0	0	0	1	10
	福岡県立大学	6	151	6	238	5	196	5	154
	長崎大学	4	350	4	427	3	398	3	275
	大分大学	2	60	2	60	8	660	6	340
	宮崎大学	0	0	0	0	0	0	1	157
	鹿児島大学	0	0	0	0	1	45	2	300
計		12	561	12	725	17	1,299	18	1,236

※各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。

事項	大学名	24年度	25年度	26年度	27年度
がんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数	事業全体	4	25	9	16
	九州大学	58	112	58	73
	福岡大学	4	12	9	8
	福岡県立大学	6	6	6	6
	長崎大学	0	13	10	20
	熊本大学	2	1	0	7
	大分大学	0	0	0	3
	宮崎大学	0	0	0	1
	鹿児島大学	20	40	20	20
	琉球大学	6	3	2	3
計		100	212	114	157

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン達成目標・評価指標

申請担当大学名	九州大学
---------	------

■個性や特色、得意分野等に応じた各グループ固有の達成目標・評価指標について

※平成24年3月29日付け「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事業評価ガイドライン」に従い作成。

達成目標	達成目標に対する 評価指標（定量的なもの）	達成目標に対する 評価指標（定性的なもの）
<p>【がん教育改革】 九州全域一律で高度な教育、多職種連携教育等を受けることができるシステムを整備し、がん専門医療人を指導する指導者を養成することで、継続的に専門医等を養成できる基盤を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携に関するセミナーの開催回数（年間20回）、参加者数（年間890人）、参加大学院生数（年間90人）。 院内合同カンファレンスの開催回数（年間580回）、参加者数（年間3470人）、参加大学院生数（年間440人）。 病理部実習の実施回数（年間60回）、参加者数（年間150人）。 e-learning 講義の受講回数（年間540回）。 単位互換制度利用した大学院生数（年間10人）。 がん診療連携拠点病院との合同のセミナーの開催回数（年間20回）、参加者数（年間680人）、参加大学院生数（年間70人）。 緩和ケア専門病院との合同のセミナーの開催回数（年間20回）、参加者数（年間650人）、参加大学院生数（年間30人）。 	<ul style="list-style-type: none"> 多職種連携に関するセミナーの内容、及び、参加大学院生の多職種連携に対する意識の向上度合。 院内合同カンファレンスの質の向上。 病理部実習の内容、及び、参加大学院生のがん診療における病理診断の重要性の意識の向上度合。 がん診療連携拠点病院、緩和ケア専門病院との合同のセミナーの内容。 大学院生をがん診療連携病院、緩和ケア専門病院でのリーダー的役割を担える人材として養成できたか。 大学院生に対して将来の指導者としての教育が実施できたか。 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの実施。
<p>【地域がん医療貢献】 がん医療の均てん化のための研究を行い、がん医療の過疎地域の実態が理解でき、僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人を養成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣人数（年間20人）。 地域がん医療に関する研究論文発表数（年間10件）。 地域医療機関、医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体等と連携した取組実績（年間30件）。 地域医療機関との合同のセミナーの開催回数（年間40回）、参加者数（年間1030人）、参加大学院生数（年間90人）。 地域医療機関との合同のカンファレンスの開催回数（年間40回）、参加者数（年間140人）、参加大学院生数（年間30人）。 地域卒業生のがんプロ大学院入学（入学生数 年間10人）。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関へのがんプロ大学院生の派遣期間。 地域医療機関又は患者から、がんプロ大学院生に対して、高い満足度、評価を得ることができたか。 地域医療機関との合同のセミナーの内容。 大学院生を僻地・離島を含む地域医療における高度がん治療能力を備えた医療人として養成できたか。 地域医療機関との合同のカンファレンスの内容。
<p>【がん研究】 がん研究者を指導する指導者を養成し、がん医療に関する海外医療機関等との連携体制を確立して、継続的にがん研究におけるリーダーを養成できる基盤を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究、臨床試験を実施した回数（年間20回）、及び、研究や試験治療などへの大学院生の参加件数（年間20件）。 臨床研究、臨床試験を立案した件数（年間10件）、プロトコール作成、倫理委員会審査などへの大学院生の参加件数（年間10件）。 大学院生による国際学会での発表件数（年間20件）。 海外の研究機関への研修派遣件数（年間10件）。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院生の臨床研究、臨床試験の内容。 大学院生による国際学会への発表について国際的な評価を得ることができたか。 大学院生を海外の研究機関へ派遣し、国際的な評価を得ることができたか。 大学院生を英語で議論できるまでに指導できたか。

九州がんプロ養成基盤推進プランにおける実施体制（委員会・会議）について

平成24年5月21日

改正：平成27年6月18日

九州がんプロ養成基盤推進協議会承認

九州がんプロ養成基盤推進プランにおける実施体制（委員会・会議）を下記のとおり定める。なお、実施体制図については、別紙1を参照すること。

記

1. 九州がんプロ養成基盤推進協議会（養成協議会）

- ◆ 構成員：(1) 九州大学大学院医学研究院長（養成協議会長）
(2) 各大学から選出されたコーディネーター 各1名
※ 幹事コーディネーターは九州大学コーディネーターをもって充てる。
(3) その他養成協議会長が必要と認めた者
「コース担当者会議」、「eラーニング運営委員会」及び
「事業継続のための検討会議」の長
- ◆ 会議開催予定（定期開催）：毎年5月、2月
※ その他、議題により随時会議を開催する。
- ◆ 所掌：・九州がんプロ養成基盤推進プランの運営に関すること。
・九州がんプロ養成基盤推進プランの目標の設定、管理。

2. コース担当者会議

旧がんプロの合同作業部会に当たる会議。

大学院コース、インテンシブコースの実務について検討、実施する養成協議会の下部組織。（例えば、他職種合同教育や地域医療機関等との連携取組の検討、実施など。）

また、各コースの養成人数や養成者の質（養成する人材像・アウトカム）など、設定した目標の達成に向けた事業を実施する。

- ◆ 構成員：各大学院コース、インテンシブコース担当者
※ がん教育改革・研究者養成コース担当者会議（申請時の重点区分①と③のコース担当で構成）、北部及び南部・地域がん医療コース担当者会議（区分②のコース担当で構成）の3つの会議を設置する。会議の構成については、別紙2を参照。
- ◆ 会議開催予定（定期開催）：毎年8月、11月
※ その他、議題により随時会議を開催する。
- ◆ 所掌：・九州がんプロ養成基盤推進プランの目標の検討。
・九州がんプロ養成基盤推進プランの目標達成に向けた事業の実施。
・各コースに係ること。
・多職種連携教育（各コース連携教育）の検討、実施。
・地域医療機関等との連携取組の検討、実施。
- ◆ 区分②の会議には、各県の代表者、各県医師会の代表者、地域医療機関代表者などを加えて地域として検討を行う。

3. eラーニング運営委員会

- ◆ 構成員：(1) eラーニング支援室長（委員長）
(2) その他eラーニング運営委員会委員長が必要と認めた者
- ◆ 会議開催予定：未定
- ◆ 所掌：・ eラーニングシステムに関すること。

4. 事業継続のための検討委員会 ※平成27年度設置

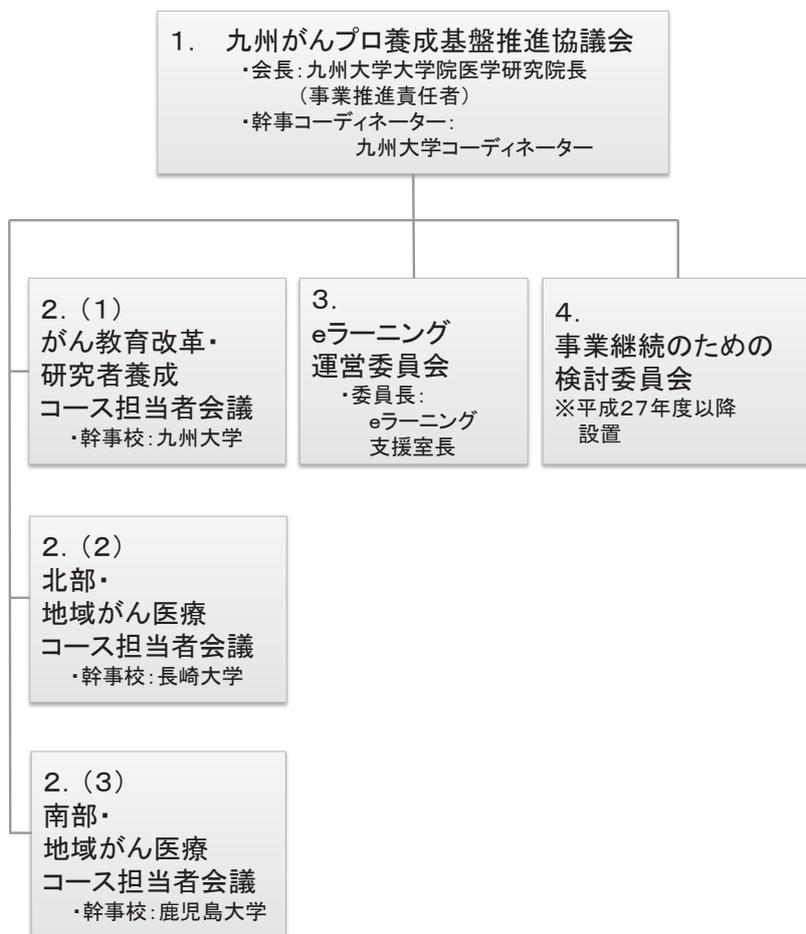
- ◆ 平成29年度以降の事業継続方法について検討を行う。
- ◆ 会議開催予定：毎年5月、8月、11月、2月（議題の有無により開催を決定する。）
 - ※ その他、議題により随時会議を開催する。
 - ※ 本実施体制は、養成協議会において、随時検討の上、見直しを図るものとする。

[別紙1]

「九州がんプロ養成基盤推進プランにおける実施体制(委員会・会議について)」

平成24年5月21日
九州がんプロ養成基盤推進協議会承認

【実施体制図】



コース担当者名簿

平成29年1月1日現在

(1) がん教育改革・研究者養成コース担当者会議（幹事校：九州大学）

（「①がん教育改革によるがん専門医療人養成に重点を置くコース」、「③がん研究者養成に重点を置くコース」）

No	重点区分	大学名	設置するコースの名称	名簿			
				氏名	所属	役職	
1	①教育	九州大学	高度先端臨床腫瘍学コース	馬場 英司	医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座	教授	
2		九州大学	医学物理士養成コース博士後期課程	有村 秀孝	医学研究院 保健学部門 医用量子線科学分野	教授	
3		九州大学	がん専門臨床検査技師コース博士後期課程	杉島 節夫	医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野	教授	
4		久留米大学	博士課程先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット ①「化学薬物療法専門医養成コース」 ②「放射線療法専門医養成コース」 ③「緩和医療専門医養成コース」	赤木 由人	医学部外科学講座	教授	
5		産業医科大学	臨床腫瘍医養成コース	興梠 征典	放射線科学	教授	
6		産業医科大学	放射線腫瘍医養成コース	興梠 征典	放射線科学	教授	
7		福岡大学	がん専門医療人指導者コース	高松 泰	医学部腫瘍・血液・感染症内科学	教授	
8		福岡県立大学	地域がん看護人材養成コース	村田 節子	看護学研究科	教授	
9		長崎大学	がん専門医師・薬剤師養成コース	芦澤 和人	大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座臨床腫瘍学	教授	
10		長崎大学	がん専門看護師養成コース	楠葉 洋子	大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座 健康推進看護学	教授	
11		熊本大学	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	馬場 祥史	熊本大学大学院生命科学研究部（臨床系）消化器外科学	講師	
12		熊本大学	医学物理士養成コース 博士前期課程	荒木不次男	熊本大学大学院生命科学研究部（保健学系）医用画像学	教授	
13		琉球大学	腫瘍疼痛制御緩和ケアプログラム	中村 清哉	医学部附属病院麻酔科	講師	
14		久留米大学	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット ①「化学薬物療法専門医養成コース（インテンシブ）」 ②「放射線療法専門医養成コース（インテンシブ）」 ③「緩和医療専門医養成コース（インテンシブ）」	赤木 由人	医学部外科学講座	教授	
15		大分大学	多職種連携教育コース（インテンシブ）	白尾 國昭	医学部腫瘍・血液内科学講座	教授	
				三股 浩光	医学部腎泌尿器外科学講座	教授	
				横山 繁生	医学部診断病理学講座	教授	
16		③研究	九州大学	高度先端がん放射線治療医師養成コース	馬場 英司	医学研究院 九州連携臨床腫瘍学講座	教授
九州大学			がん研究薬剤師コース博士課程	大戸 茂弘	薬学研究院 臨床薬学部門 薬剤学分野	教授	
九州大学	がん看護研究者養成コース博士後期課程		樽木 晶子	医学研究院 保健学部門 看護学分野	教授		
大分大学	がん研究者養成コース（インテンシブ）		濱田 文彦	医学部生体構造医学講座	教授		

(2) 北部・地域がん医療コース担当者会議（幹事校：長崎大学）

〔②地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース〕

No	重点区分	大学名	設置するコースの名称	名簿		
				氏名	所属	役職
1	②地域	久留米大学	修士課程「がん看護専門看護師教育課程」	原 頼子	看護学科	教授
2		福岡大学	地域がん医療専門医療人養成コース	高松 泰	医学部腫瘍・血液・感染症内科学	教授
3		佐賀大学	がん地域診療医師養成特別コース	小島 研介	医学部内科学講座	准教授
4		佐賀大学	がん地域医療人養成コース	小島 研介	医学部内科学講座	准教授
5		長崎大学	がん地域貢献医師・薬剤師養成コース	芦澤 和人	大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座臨床腫瘍学	教授
6		長崎大学	がん地域貢献看護師養成コース	楠葉 洋子	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	教授
7		久留米大学	修士課程「科目等履修制度」(インテンシブ)	原 頼子	看護学科	教授
8		福岡大学	がん医療専門職業人コース (インテンシブ)	高松 泰	医学部腫瘍・血液・感染症内科学	教授
9		福岡大学	がん医療専門医コース (インテンシブ)	高松 泰	医学部腫瘍・血液・感染症内科学	教授
10		佐賀大学	がん地域診療医師養成特別コース (インテンシブ)	小島 研介	医学部内科学講座	准教授
11		佐賀大学	がん地域医療人養成コース (インテンシブ)	小島 研介	医学部内科学講座	准教授

(3) 南部・地域がん医療コース担当者会議（幹事校：鹿児島大学）

〔②地域がん医療に貢献するがん専門医療人養成に重点を置くコース〕

No	重点区分	大学名	設置するコースの名称	名簿		
				氏名	所属	役職
1	②地域	熊本大学	がん看護専門看護師コース	国府 浩子	熊本大学大学院生命科学研究部（保健学系）臨床看護学	教授
2		大分大学	地域貢献がん看護専門看護師コース	寺町 芳子	医学部実践看護学講座	教授
3		大分大学	地域貢献がん専門医療人養成コース	宮崎 英士	医学部地域医療学センター	教授
4		宮崎大学	地域がん治療専門医育成コース	山本章二郎	内科学講座消化器血液学分野	講師
5		宮崎大学	地域医療に貢献するがん看護専門看護師養成コース	奥 祥子	宮崎大学医学部成人・老年看護学講座	教授
6		鹿児島大学	僻地・離島医療専門医療人養成コース	上野 真一	医歯学総合研究科	特任教授
7		琉球大学	放射線腫瘍専門医養成プログラム	戸板 孝文	医学研究科 放射線診断治療学講座	准教授
8		琉球大学	がん薬物療法専門医プログラム	増田 昌人	医学部附属病院 がんセンター	特命准教授
9		琉球大学	医学物理学プログラム	垣花 泰政	医学研究科 放射線診断治療学講座	助教
10		琉球大学	がん看護専門看護師養成プログラム	砂川 洋子	保健学科 成人・老年看護学講座成人看護学講座Ⅰ分野	教授
11		大分大学	地域がん医療専門医療人養成コース (インテンシブ)	白石 憲男	医学部地域医療学センター	教授
12		宮崎大学	地域がん総合治療医育成コース (インテンシブ)	山本章二郎	内科学講座消化器血液学分野	講師
13		宮崎大学	成人T細胞白血病専門医療人養成コース (インテンシブ)	日高 智徳	がん診療部	講師
14		鹿児島大学	がん専門薬剤師養成コース (インテンシブ)	武田 泰生	医歯学総合研究科	教授
15		鹿児島大学	消化器がん集学的治療専門医療人養成コース (インテンシブ)	上野 真一	医歯学総合研究科	特任教授
16		鹿児島大学	緩和ケア専門医療人養成コース (インテンシブ)	松下 格司	医学部・歯学部附属病院	特例准教授
17		鹿児島大学	成人T細胞白血病専門医療人養成コース (インテンシブ)	石塚 賢治	医歯学総合研究科	教授
18		琉球大学	地域がん専門薬剤師養成コース (インテンシブ)	中村 克徳	医学部附属病院 薬剤部	部長
19		琉球大学	がん看護エキスパートナース養成コース (インテンシブ)	砂川 洋子	保健学科 成人・老年看護学講座成人看護学講座Ⅰ分野	教授

eラーニング運営委員会委員名簿

平成29年1月1日現在

大学名	氏名	所属	役職
九州大学	菊川 誠	九州大学大学院医学研究院医学教育学講座	講師
九州大学	馬場 英司	九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座	教授
九州大学	山下 奈真	九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座	助教
九州大学	有村 秀孝	九州大学大学院医学研究院保健学部門医用量子線科学分野	教授
九州大学	江頭 伸昭	九州大学病院薬剤部	准教授
久留米大学	赤木 由人	医学部外科学講座	教授
産業医科大学	興梠 征典	放射線科学	教授
福岡大学	田中 俊裕	福岡大学病院腫瘍・血液・感染症内科	講師
福岡県立大学	村田 節子	看護学研究科	教授
佐賀大学	小島 研介	医学部内科学講座	准教授
佐賀大学	高崎 光浩	医学部附属病院医療情報部	准教授
長崎大学	林 秀行	大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座臨床腫瘍学	助教
長崎大学	楠葉 洋子	大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻 看護学講座 健康推進看護学	教授
熊本大学	馬場 祥史	熊本大学大学院生命科学研究部（臨床系）消化器外科	講師
熊本大学	荒木不次男	熊本大学大学院生命科学研究部医用画像学分野	教授
大分大学	大津 智	医学部附属病院腫瘍内科	助教
宮崎大学	山本章二郎	内科学講座消化器血液学分野	講師
鹿児島大学	上野 真一	医歯学総合研究科	特任教授
鹿児島大学	武田 泰生	医歯学総合研究科	教授
琉球大学	中村 克徳	医学部附属病院薬剤部	部長
琉球大学	戸板 孝文	医学研究科放射線診断治療学講座	准教授
琉球大学	垣花 泰政	医学研究科放射線診断治療学講座	助教
琉球大学	増田 昌人	医学部附属病院 がんセンター	特命准教授

事業継続のための検討委員会委員名簿

平成29年1月1日現在

大学名	氏名	所属	役職	備考
九州大学	馬場 英司	九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座	教授	・事業継続の検討委員会の長 ・がん教育改革・研究者養成 コース担当者会議の長
九州大学	菊川 誠	九州大学大学院医学研究院医学教育学講座	講師	eラーニング運営委員会の長
久留米大学	赤木 由人	医学部外科学講座	教授	コーディネーター
産業医科大学	興梠 征典	放射線科学	教授	コーディネーター
福岡大学	田中 俊裕	福岡大学病院腫瘍・血液・感染症内科	講師	
福岡県立大学	村田 節子	看護学部大学院看護学研究科	教授	コーディネーター
佐賀大学	小島 研介	医学部内科学講座血液・呼吸器・腫瘍内科	准教授	コーディネーター
長崎大学	芦澤 和人	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座臨床腫瘍学	教授	コーディネーター
熊本大学	馬場 祥史	生命科学研究部（臨床系）消化器外科学分野	講師	
大分大学	寺町 芳子	医学部実践看護学講座	教授	
宮崎大学	永井 公洋	医学部附属病院がん診療部	副部長	
鹿児島大学	上野 真一	医歯学総合研究科臨床腫瘍学講座	特任教授	コーディネーター
琉球大学	戸板 孝文	医学研究科放射線診断治療学講座	准教授	コーディネーター

文部科学省 研究拠点形成費等補助金（先進的医療イノベーション人材養成事業）

**「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」
九州がんプロ養成基盤推進プラン 実績報告書**

（平成24年度～平成28年度）

平成29（2017）年2月 発行

編集・発行：九州がんプロ養成基盤推進協議会
印刷・製本：城島印刷株式会社

九州がんプロ養成基盤推進協議会事務局
（九州大学医系学部等事務部総務課企画・広報係）
〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3丁目1番1号
TEL 092-642-6240 FAX 092-642-6246
E-mail : ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
<http://www.k-ganpro.com/>



九州がんプロ養成基盤推進協議会 事務局
(九州大学医系学部等事務部総務課企画・広報係)

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3丁目1番1号
TEL:092-642-6240 FAX:092-642-6246
E-mail: ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp
<http://www.k-ganpro.com/>